

The Philatelist Magazine

試験発行 第4号 (2014年秋号)



日本 1964 姫路城修理完成記念切手 福耳付き

世界の中でも管理の厳しい日本切手では、エラー等が出回る事は少ない。

The Philatelist Magazine 選べる三つの購読法

- 1) PDF版 ~~2,000円/年間~~ => 試験発行期間中は **0円**
- 2) 紙版 (白黒) ~~2,000円/年間 + 印刷実費~~ => 第5号迄の予約価格は 1,000円/号 (干別)
- 3) 紙版 (カラー) ~~2,000円/年間 + 印刷実費~~ => 第5号迄の予約価格は 3,000円/号 (干別)

※試験発行は第5号 (2014年12月15日発行) 迄の予定です。なお、紙版には付録を含みません。

当誌の読み方・使い方

紙版をご覧の方へ

当誌は幅広い記事を取りまとめた唯一の総合郵趣雑誌です。ページ数が多いのは、3ページの刊行趣旨と編集方針の為です。ご賛同頂けるようでしたら是非ご購入ください。

PDF版のダウンロード方法と保存方法

PDF版の定期購読を申し込まれている方には、発行ごとにダウンロード方法を電子メールでご案内します。案内に従いご自分のパソコンにPDF版を保存してください。一旦保存するとそれ以降はいつでも好きな時にPDF版をご利用（閲覧、印刷など）頂けます。

PDF版をご自分で印刷して読む方へ

当誌の購読者は、PDF版をご自分の閲覧用に印刷することができます。

3ページの刊行趣旨と編集方針の為ページ数が多いので、全てのページを印刷するよりは興味あるページのみを印刷する方法をオススメいたします。また視力の弱い方にも十分楽しんで頂ける様に、文字サイズや図版が大きくなるよう編集しています。視力の良い方は『2 in 1』（プリンターの機能で、1枚の用紙に2ページ分印刷する方法）等をご活用頂いても十分読むことが可能です。

PDF版の興味ある記事だけを印刷して読む方法

目次が4ページにありますので、興味のある記事を見つけ、印刷を行ってください。本文をざっと流し読みして、印刷してじっくり読む記事を見つけるといったやり方もあると思います。なお当誌では表紙を一ページ目としてページの割り付けを行っております（ページ番号は各ページのフッタに表示しています）ので、印刷に指定するページ番号も目次のページ番号と一致しております。

PDF版をパソコン、iPadで読む方法（オススメ）

PDF版は、Adobe Reader を用いてご覧頂くことが可能です。（右の画面）他のソフトウェアでの閲覧はオススメしておりません。

左側にある、しおりマーク（→→）を押すと目次が表示され、各タイトルをクリックすることで、主画面が読みたい記事の内容に変わります。



なお iPad, iPad miniでも快適にご覧いただけます。

※小さな画面で閲覧できる編集の研究をしばらく行ってきましたが、切手やカバーの図版をそもそも大きく見せたいので、どうやっても見にくいという結論に至りましたので、開発を中止しました。



刊行趣旨と編集方針

当雑誌は、郵趣雑誌を出したくて始めたのではなく、優れた郵趣文献を世の中にもっと出版したいから始めたというのが実情です。

では「**優れた郵趣文献（単行本）**」とは何でしょうか？

「オリジナルな研究論文」「海外情報の輸入・啓発」「切手展や収集のノウハウ」・・・。

人によってニーズが異なれば定義も異なるのかもしれませんが。

私は「一人でも多くのフィラテリストに刺激、発見そして挑戦心を持たせる本」と定義しました。

では、その実現に向けた**課題は何**でしょうか？

実は優れた内容の郵趣文献を書く事ができる人は沢山います。

しかし問題は**マーケティング**上にありました。すなわち、仲間内を越えて、その分野を収集していない人にアピールできる機会が少ない為に出版の費用対効果が見えず、実際に書く迄に至っていない事がほとんどなのです。

この課題に対する当社の試みは「**PDFで読む郵趣雑誌**」を発行する事でそれは次の様な効果が得られる為です。

1. 用紙、印刷、製本、発送、**倉庫コスト**の極小化
2. 印刷・製本・発送に要する**タイムラグ**の削減
3. 原則**カラー化**
4. **無制限のページ数**が実現する掲載記事ジャンルの拡大

この効果の恩恵をうけると、

「**ページ数の制限のない安価な郵趣雑誌**」の刊行が可能になり、それを通じて、

(1)幅広いジャンルの郵趣記事の掲載と

(2)安価であるために幅広い読者の獲得が実現できるのではないかと仮定しました。

ページ数が無限なので当雑誌の二本柱は次の通りです。

1. その時々々のフィラテリストの活動を支援する内容(ピックアップイベントや郵趣活動の記録など)
2. 寄稿記事など

寄稿記事の掲載基準は、郵趣記事としてフィラテリストに**刺激を与える**ことができるかということです。既存の郵趣雑誌で掲載を断られた収集家の少ない分野であっても歓迎いたします。

反響のあった寄稿記事を中心に、**一冊でも多くの単行本**を出版していきたいと考えていますし、ハードルを下げる為にも、**単行本の少数数出版を可能にするインフラ**を整備していきたいと考えています。

結論となりますが、当雑誌の刊行趣旨と編集方針は「**優れた郵趣文献を世の中に生み出す為の郵趣雑誌**」の立場を担える媒体になる事です。どうぞよろしく願いいたします。

無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社
代表取締役 吉田 敬

The Philatelist Magazine 試験発行 第4号 目次

郵趣界重大ニュース		P.07-09
郵趣カレンダー		P.10-19
第17回千葉切手展	宮崎 幸二	P.12
スタンプショウかごしま2014	永吉 秀夫	P.13
切手市場	高崎 真一	P.14-15
第2回ヨーロッパ切手展	ヨーロッパ切手展実行委員会	P.16
第2回競争切手展ルール勉強会	外国切手出品者の会	P.17
MALAYSIA2014		P.18-19
謎解き郵趣		P.20-29
10銭陽明門 秩父丸での発行前使用例	小坂 彰宏	P.24-26
ハワイ発プロシアン・クロズド・メール	山崎 文雄	P.27-29
寄稿記事・郵趣論文		P.30-90
英領ギアナ 初期の切手 1850-56	吉田 敬	P.31-39
世界のクラシック切手 第1回 ベニーブラックの誕生	伊藤 昭彦	P.40-47
モリコー製 卓上押印機 試作機消印	鈴木 盛雄	P.48-51
郵趣家便のススめ (第2回) 料金初日・最終日	水谷 行秀	P.52-57
戦後日本の郵便史 (3)	行徳 国宏	P.58-81
フレーム切手のマイクロ文字とメタリックマルチイメージ	内田 雄二	P.82-85
十円桜 版欠点「花びらに赤しみ」	長島 裕信	P.86
私の発見・私の報告		P.87-89
コレクションの創り方		P.90-105
「切手市場」の楽しみ方	行徳 国宏	P.91-97
競争展で減点されないタイトルリーフ	吉田 敬	P.98-101
ジュリークリティークへの参加方法	吉田 敬	P.102-105
郵趣活動の記録		P.106-161
全日本切手展2014 総括と反省	内藤 陽介	P.107-109
全日本切手展2014 受賞一覧		P.110-111
全日本切手展2014 参観記	長野 行洋	P.112-119
PHILAKOREA2014 日本人の受賞一覧		P.120-121
PHILAKOREA2014 参観記		
伊藤 文久, 菊池 達哉, 木戸 祐介, ジャン・ポルツ, 吉田敬		P.122-147
ジャパン・スタンプ オークションニアレポート	鯛 道治	P.148-161

購読料金と購読方法

当誌は新しいスタイルの郵趣雑誌ですので、発行について特に経営的な課題をクリアできるかどうか見極める為に「試験発行」を一年間行い、課題を期間中にクリアできれば「本発行」である「創刊」をしたいと考えています。（試験発行は2014/12/15発行の第5号迄行います。）

選べる三つの購読法

- 1) PDF版 2,000円/年間 => 試験発行期間中は **0円**
 - 2) 紙版（白黒） 2,000円/年間 + 印刷実費 => 第5号迄の予約価格は **1,000円/号(〒別)**
 - 3) 紙版（カラー） 2,000円/年間 + 印刷実費 => 第5号迄の予約価格は **3,000円/号(〒別)**
- ※ 紙版はホチキス（3カ所どめ）してお届けします。また、紙版には付録を含みません。

購読方法

- 1) PDF版 ホームページ（<http://tpm.stampedia.net/>）にてご登録ください。
折り返しPDF版をダウンロードできるURLをお伝えします。
4-5号については発行と共に登録された電子メールアドレス宛てにご案内いたします。
- 2) 紙版（予約購読） 4-5号の予約購読料は、白黒：2,720円。カラー：6,720円です。
予約購読を希望される方は、送金と共に送付先住所・氏名をお知らせください。
なお発送はPDF版の発行日から五営業日程後になりますので、この点ご了承ください。

PDF版・購読者紹介キャンペーン

参加賞としてヒンジー袋もれなく進呈 + 喜望峰三角切手等が当たるダブルチャンスの謝礼付きのキャンペーンを10月末日迄実施しております。

試験発行中の当誌は本年末に正規発行に踏み切るか否かを決定予定です。無料で購読キャンペーンを展開できる今のうちに多くの方に当誌を体験して頂く事が、正規発行の決断に踏み切る上でプラスだと考えましたので、ご賛同頂けます様でしたら是非ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

キャンペーンの詳細や、紹介フォーム（右上図）につきましては、ホームページ（<http://tpm.stampedia.net/>）にてご案内しております。

紹介の手順も簡単で、紹介して頂ける方のお名前とメールアドレスを記入するだけです。どうぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。

ご紹介して頂ける方のお名前と電子メールアドレスをご入力ください。*

あなたのお名前*

あなたの電子メールアドレス*



stamp club

スタンプクラブ

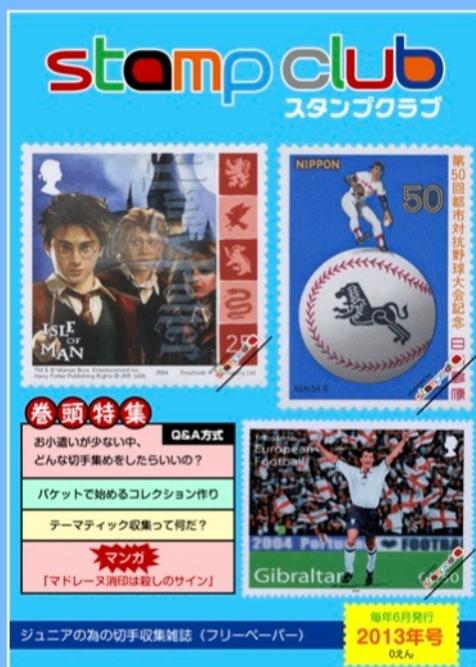
stamp club 2015 サポーター募集間もなく開始
30年後の郵趣人口確保のため、一口2,000円のご支援をいただけないでしょうか？

stamp clubは、郵趣普及活動の一環として、2013年より発行しているジュニアの為の切手収集雑誌です。当誌の最大の特徴は誌代無料のフリーペーパーということで、発行費用は全国のフィラテリスト及び収集団体の皆様から頂戴しております。

stamp club 2014は、その発行にあたり、日本全国のフィラテリスト及び切手収集団体の皆様から一口2,000円で49口98,000円のご支援を頂戴しました。厚く御礼申し上げます。

二年間の発行およびその後の活動の中で、stamp club 2015は、切手展や郵政博物館での配布に加え、図書館への配布を試験的に開始します。この為、昨年同様3万部の印刷が必要であり、是非広くご支援を賜ることができれば幸いです。

stamp club 2015（2015年4月発行予定）のサポーター募集につきましては、11月より開始予定でThe Philatelist Magazine 第5号（12月15日発行予定）にて再度詳細をご案内させていただく予定です。是非よろしくお願いたします。



stamp club
スタンプクラブ

巻頭特集
お小遣いが少ない中、
どんな切手集めをしたらいいの？
Q&A方式

「マドレーヌ消印は新しいサイン」

毎月6月発行
2013年号
028円



stamp club
スタンプクラブ

特集
切手のフリマってどんな感じ？
Q&A方式

「ハワイ宣教師切手殺人事件」

マンガ
「マドレーヌ消印は新しいサイン」

毎月4月発行
2014年号
028円

郵趣界重大ニュース

2014年6月～2014年9月

1 キッテデカの連載が終了

小学館のビックコミック増刊号で連載されていた、漫画家寺沢大介氏の作品「キッテデカ」が2014.8.17号掲載策をもって完結。連載が終了し、あわせて単行本二巻目が発行されました。

切手の製造面や使用面を事件解決のヒントに使う、過去の切手を題材とした漫画とは一線を画す漫画ただだけに、一読者として楽しみがなくなりまず残念です。また、郵趣を知らない人々に郵趣を普及させることを推進する上でもとてもよいツールだったと思いますので、この点でも残念な終了だと思えます。

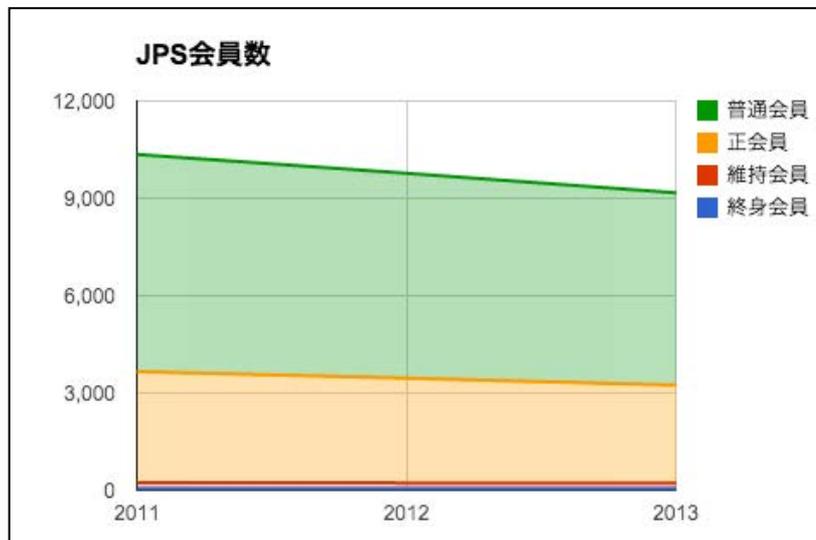


2 日本郵趣協会、会員数を9,200人と発表

公益財団法人 日本郵趣協会は毎年決算内容をホームページで情報公開しており、2013年度決算がこの夏公開されました。

その中の「正味財産増減計算書補足説明」によれば、2013年度末のJPS会員数は9,200名で、その内訳は、終身維持会員 53名、維持会員 170名、正会員 3,020名、普通会員 5,929名、ジュニア会員 28名となっています。

気になるのは会員数の推移で、2011->2012が584名の減少であったのに対して、2012->2013は603名の減少となっています。



日本郵趣協会さんに対しては色々な感情をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、私は現在の日本の郵趣を成立させている個人・団体の中で第一級の功労者であると思います。

「なくては困る」と私が思う日本郵趣協会のお役に少しでも立てたらと思い、当誌発行人の吉田は本年より維持会員になる事にしました。同様のお考えの方がおられましたら幸いです。

3 定期購読式・週刊切手収集雑誌が創刊される。

フランスの出版社アシェットの日本法人が9月10日に、「世界の切手コレクション」を創刊しました。同誌は週刊誌ですが、広く安く販売される創刊号の後の購読は基本的に定期購読式となっており、購読者を募集するため、通常一冊990円のところを創刊号は190円で販売し、テレビCMもあわせて打っています。

年間で五万円近くかかりますので、対象はジュニアではなく大人となりますが、ここから一人でも二人でも本格的に郵趣を始める方があらわれたら嬉しいと思い、当社もクラシック切手の画像貸与等のご協力をさせていただいております。



4 国際展で田沢切手に金賞が授与される

8月にソウルで開催されたPHILAKOREA2014にて、山田 祐司さんが出品された作品「Tazawa Series - Unwatermarked White Paper Series & Watermarked Old Die Series」が金賞(90)を獲得しました。

田沢切手を主題とする作品が国際切手展で金賞を獲得したのはこれが初めてとなります。

日本の通常切手は、手彫・小判・菊・田沢・震災・昭和と金賞が出たことになり、他国もうらやむハイレベルとなっています。

5 JAPEXが英断。初心者に1フレームを認める。

JAPEX2014は初心者に限り、1フレームでの出品を認める規則改正を行いました。

二大競争展であるJAPEXと全日展はこれまでも本来のフレーム数の5と異なるフレーム数による出品を認めてきました。しかし、その最小数は2もしくは3と中途半端感が否めない一方で、初心者にとっては依然として数量が多くエントリーしづらいものでした。

このため本来初心者が参加するには難しすぎるワンフレーム部門に、初心者が出品し、審査上返り討ちを食らうケースが多発し、問題となっていました。

今回のケースは、それへの対応策であり、評価される取り組みです。そして、どのような結果が出るか、またその結果を元に来年以降の運用をどのように変えていくのか注目しています。

6 ヒンジ、フィラートコーナー等の郵趣文房具、近々値上げへ。

あまり知られていないことですが、日本で流通しているヒンジやフィラートコーナー等の郵趣文房具は、輸入品も含めて欧米と比べて安価です。これはひとえに郵趣サービス社の経営努力のおかげなのですが、さすがに為替も弱くなったうえに各種コストもかさみ、11月以降は一部商品が値上がりするようです。値上がりする商品とその金額はケースバイケースですが、ヒンジを例にとると、330円=>390円のように値上がりするようです。

7 全日展2014開催：賞の区分がJAPEXと同一になる

当誌第3号の競争展特集で、国際展および国際展ルールに準拠することを宣言している二大国内展の賞区分を表によって説明しました。

この内全日本切手展が2014年より賞の区分を変えました。

右の表を見ると全日展の2013年までの区分と2014年の区分の違いが明白になります。

賞の種類が増え、上の賞ができたことで出品者にはより励みになると同時に、JAPEXと同じ賞区分になっ

たことにより、作品の評価が一目でみやすくなり、大きな改善だと思います。

獲得点数	JAPEX2013, 全日展2014	全日展2013	国際切手展
95-100	大金賞	金賞	大金賞
90-94			金賞
85-89	金賞		大金銀賞
80-84	大金銀賞	金銀賞	金銀賞
75-79	金銀賞		大銀賞
70-74	大銀賞	銀賞	銀賞
65-69	銀賞		銀銅賞
60-64	銀銅賞	銅賞	銅賞
55-59	銅賞		佳作
50-54	佳作		佳作

獲得点数と、各切手展の賞区分の関係

8 52円額面のエコー葉書、絵入り葉書が初めて販売される。

4月1日の郵便料金改正後初のエコー葉書が、7月1日に茨城県で発行されました。土浦市全国花火大会実行委員会がスポンサーで、新料額印面の発売初日となりました。

ちなみにエコー葉書の発売自体は2013年12月2日の石川県版以来の事でした。(スポンサーは、「石川県総務部人権推進室」)

なお、同じく初の絵入り葉書が、9月1日に宮城県で発売されました。

9 英領ギアナが記録的セールに

故du Pont氏の英領ギアナコレクションの競売を行った、サザビーズ(6/17, 948万ドル)と、D.Feldman(6/27, 600万ユーロ)のセールは共に大商いとなりました。

本件は「英領ギアナ 初期の切手 1850-56」に詳細をまとめましたのであわせてご覧ください。



郵趣カレンダー

2014/9/15～12/14の郵趣イベント

以下のイベントについては、ピックアップイベントとしてP.12から詳しく取り上げております。

第17回千葉切手展 / スタンプショウかごしま2014 / 切手市場
 第2回ヨーロッパ切手展 / 第2回競争切手展ルール勉強会 / MALAYSIA2014

競争切手展 (判明分すべて)

開催日	切手展名称	会場	備考
10/31-11/2	JAPEX2014	都立産業貿易センター浜松町館4,5階 (竹芝駅徒歩2分, 浜松町駅徒歩5分)	二大国内競争展 *出品締切済み
12/1-6	MALAYSIA2014	クアラランブルコンベンションセンター 1, 2号館	国際切手展とアジア国際切手展
2015/4/24-28	台北2015	台北ワールドトレードセンター展示ホール3	第30回アジア国際切手展 *国内出品申込締め切り: 2014/11/10
2015/5/13-16	LONDON2015	ロンドンビジネスデザインセンター (地下鉄 Angel駅徒歩5分)	ヨーロッパ国際切手展 *出品締切済み
2015/7/17-19	全日本切手展2015	すみだ産業会館 (錦糸町駅前)	二大国内競争展 *出品要項未発表
2015/8/14-19	Singapore2015	サンズ・エキスポ・アンド・コンベンションセンター (マリーナ・ベイ・サンズ)	国際切手展 *出品要項未発表
2015/11/20-23	Hong Kong 2015	香港コンベンション・アンド・エキシビジョンセンター・ホール5G (灣仔)	第31回アジア国際切手展 *出品要項未発表
2016/5/28-6/4	World Stamp Show New York 2016	ジェイコブ・ジャピッツ・コンベンションセンター (ニューヨーク)	国際切手展 *出品要項未発表

一般切手展

開催日	切手展名称	備考
9/19-21	第17回千葉切手展	習志野市市民プラザ大久保(京成「大久保駅」徒歩10分) 19日 12:00-21:00 20日 9:00-21:00 21日 9:00-15:00
9/26-28	航空郵趣の世界展	切手の博物館 (目白) 10:30-17:00
10/4-5	スタンプショウかごしま2014	KKR鹿児島敬天閣2階大会議場(JR鹿児島中央駅より市電電車「朝日通」電停より徒歩5分) 4日10:30-17:00 5日 9:00-15:30
10/10-11	第2回ヨーロッパ切手展	切手の博物館 (目白) 10:30-17:00
10/14-18	鉄道切手展 RAILPEX2014	切手の博物館 (目白) 10:30-17:00
10/17-19	楽しい湘南切手展2014 -国立公園80周年-	フジサワ名店ビル6階イベントホール 17日 12:00-19:00 18日 10:00-19:00 19日 10:00-17:00
10/18-19	スタンプショウはかた2014	TKPカンファレンスシティ博多(各線「博多駅」博多口より徒歩6分) *第32回全九州ジュニア切手展
10/24-26	第11回震災切手と震災郵趣展	切手の博物館 (目白) 10:30-17:00

開催日	切手展名称	備考
11/15-16	音楽切手展	切手の博物館（目白）10:30-17:00
11/20-22	第5回世界の植物切手展	切手の博物館（目白）10:30-17:00
11/28-30	第10回変わり種切手展	切手の博物館（目白）10:30-17:00

切手のフリーマーケット、即売会

開催日	曜日	名称	回	備考
10/4	土	切手市場	114	日本橋富沢町 綿商開館 9:30-17:00
10/4-5	土日	切手バザール	70	切手の博物館（目白）
11/1	土	切手市場感謝祭・秋		フクラシア浜松町（浜松町）9:30-16:30
11/15	土	切手市場	115	日本橋富沢町 綿商開館 9:30-17:00
11/8-9	土日	切手バザール	71	切手の博物館（目白）
11/21-24	金-月	秋の切手まつり	14	東京交通会館12FカトリアサロンB（有楽町）
12/6	土	切手市場	116	日本橋富沢町 綿商開館 9:30-17:00
12/6-7	土日	大阪駅前第三ビルバザール	43	大阪駅前第三ビル17階 10:00-18:00

国内のフロアオークション

開催日	主催者	回etc	事前下見日	備考
9/21	タカハシ・スタンプ・オークション	576	6/9~14	メールの部あり（9/20入札締め、下見???迄）
10/19	タカハシ・スタンプ・オークション	577		メールの部あり
11/1	JPSオークション	495	10/25	メールの部あり（11/4正午 入札締め）
11/2	ジャパンスタンプオークション	84		
11/16	タカハシ・スタンプ・オークション	578		メールの部あり
11/22	スターオークション	29		
12/6-7	ジャパンスタンプオークション	85		メールの部あり

※事前下見日については、発表されている物のみを掲載しています。

郵趣カレンダーおよびピックアップ イベントへの掲載をご希望の方向け

The Philatelist Magazine では、郵趣を活性化させるイベントを開催・運営される方を宣伝の観点からお助けします。地方郵趣会の切手展であっても、展示物に自信があるイベントを主催されていらっしゃる方、是非ピックアップイベントに掲載してみませんか。展示作品、フレーム数、出品者名等を明記の上、tpm@stampedia.net までご連絡ください。
切手展以外のイベントの宣伝もまずは電子メールでご相談ください。

第17回千葉切手展

9/19~21 @習志野市 市民プラザ大久保

千葉県郵趣連合事務局 宮崎 幸二

会場：習志野市・市民プラザ大久保（京成大久保駅 徒歩十分） 入場無料

日時：9/19(金)12:00~21:00 20(土)9:00~21:00・21(日)9:00~15:00



特別展示『軍郷習志野と房総の軍事郵便』4フレーム

切手展の開催地習志野が、明治以降陸軍の一大錬成拠点「軍郷」として重要な位置を占めていたことにちなんだ展示です。なお、会場となる「市民プラザ大久保」自体も旧騎兵旅団本部跡であり、旧習志野郵便局跡地です。

記念講演（9/20 13:30-16:00）

「習志野の鉄道連隊」（鉄道研究家 白土貞夫氏）

「軍事切手の世界」（農政ジャーナリスト 印南博之氏）

会員展示（98フレーム）*作品名、フレーム数（1フレームは記載せず）、出品者の順、敬称略

第1部 日本切手部門

「習志野の軍事施設・部隊（2）」（大塚 章）

「千葉県ゆかりの郵便（2）」（冨樫 敏郎）

「鉄道連隊の絵葉書」（白土 貞夫）

「総武本線120周年」（白土 貞夫）

「下総国(千葉県)二重丸印（3）」（渡辺 博行）

「連合はがき 1879-1922」（斎藤 環）

「沖縄あて外信便」（大井 道夫）

「日本の初期記念切手事始め（2）」（原田 昌幸）

「国立公園80周年と国定公園」（橋本 礼男）

「文化人切手 1949-52（4）」（宮崎 幸二）

「東京オリンピック（2）」（河村 正明）

「相撲絵シリーズ（3）」（浅木 福夫）

「日本の歌シリーズ」（中村 貞子）

「近代美術(抜粋)（3）」（廣嶋 宏治）

「初日カバーで巡る郵便週間切手（2）」（野村伸弥）

「珍しい自己流展示」（浅見 輝男）

「パクポート・シーポスト（2）」（鈴木 光男）

「パクポー便（3）」（水谷 勇）

「試行印アラカルト（4）」（中村 雅喜）

「小型印集（2）」（吉田 守満）

第2部 外国切手部門

「エリザベス女王II世即位50年（4）」（高階吉生）

「ヨーロッパ切手名品展(抜粋)（5）」（檜垣廣政）

「シンガポールの普通切手」（斎藤 純）

「台湾・故宮郵票（5）」（伊藤 俊治）

第3部 トピカル部門

「軍事・戦争切手アラカルト（4）」（印南 博之）

「野生動物（2）」（深谷 豊子）

「切手で巡る世界の植物、花・果物(5)」（宝田嘉久雄）

「近畿の古寺・名刹を訪ねて（3）」（中尾 英雄）

「切手アルバム 橋梁・道路・トンネル(2)」（大見國麩）

「日本の城（4）」（永原 昇）

「北米の鳥（5）」（間中 通康）

「東京オリンピック（5）」（秋元 利昭）

「切手で歩く京都」（青木 常男）

「花ことば（3）」（村井 勝彦）

「ディズニーアニメ」（相川 徳雄）

「日本の城」（林 果林）

「漫画切手」（久岡 邦嗣）

「鳥あそび」（小川 睦）

スタンプショウかごしま2014

10/4, 5 @KKR鹿児島敬天閣 2階大会議場

日本郵趣協会 鹿児島支部 支部長 永吉秀夫

鹿児島支部の切手展は南九州最大の切手展として、毎年秋の開催が恒例となりました。

本年も様々な題材の切手を展示するほか、切手収集に関する相談や切手の鑑定会を開催するほか、鹿児島東郵便局臨時出張所を開設し、切手の販売と小型印（下図）の押印を受け付けます。



使用済切手無料つかみ取り等のプレゼントをご来場特典として準備しておりますので、皆様のご来場をお待ち申し上げます。

展示予定作品（作品、出品者名、フレーム数 敬称略）

- 「近世日本の城」（吉田 敬, 3）*右図
- 「ジュゴン」（立川 賢一, 1）
- 「切手で遊ぶ百人一首」（今井 節子, 1）
- 「ふたりのヨコハマ再び」（秋本 恵子, 1）
- 「クラシック切手を描いた切手」（谷之口 勇, 2）
- 「季節のグリーティング切手」（永吉 秀夫, 1）
- 「日本普通切手1937-1952」（鶴重 仁志, 1）
- 「国連切手『国旗シリーズ』」（大原 幸人, 1）
- 「過ぎ去りし鹿児島」（川原啓一郎, 1）

切手商ブース

アオヤマスタンプ、山本誠之 ほか

STAMP SHOW KAGOSHIMA **たのしい切手の文化祭**
スタンプショウ かごしま2014

Philatelic Exhibition 2014

様々な題材の切手を展示
 近世日本の城、ジュゴン、切手で遊ぶ百人一首、ふたりのヨコハマ再び
 その他、日本をはじめ世界各国の切手を展示。

●開催イベント
 ・切手のつかみ取り
 ・鹿児島東郵便局・臨時出張所
 ・切手商・郵趣会ラウンジ
 ・切手収集相談（両日）
 ・切手の無料鑑定（5日10時～11時）

入場無料

日時：2014年10月4日（土）10:30～17:00
 2014年10月5日（日）9:00～15:30
 会場：KKR鹿児島敬天閣2階会議室
 鹿児島市城山町5-24 TEL.099(225)2505
 主催：公益財団法人日本郵趣協会九州・沖縄地方本部
 日本郵趣協会鹿児島支部
 後援：日本郵便九州支社、南日本新聞社、NHK鹿児島放送局、MBC、KTS、KKB、KYT、エフエム鹿児島、鹿児島シティエフエム

連絡先：永吉秀夫（ながよし ひでお）
 電話： 099-225-2505 メール：hmkj_nezu49@yahoo.co.jp
 ホームページ：http://homepage2.nifty.com/~h-naga/jps-kago/

2-3 国宝の城>彦根城

天守の歴史
 元和8年（1622）竣工
 昭和27年（1952）国宝に指定
 平成4年（1992）世界遺産暫定リストに掲載

2011 ふるさと・地方自治法施行60周年記念

2007 ふるさと 近畿の城と風景 80円切手
 1987 第3次国宝シリーズ 110円切手
 2013 日本の城シリーズ 80円切手

1987 第3次国宝シリーズ彦根城貼付 スウェーデン宛て重量便、発行年使用

PAR AVION 航空郵便

260円 = 国際航空便・第三地宛て基本料金（10gまで）150円 + 超過料金（10g毎）110円

切手市場

開催日：10/4, 11/15, 12/6（毎月第一土曜日 9:00～17:00）

切手市場管理人 高崎 真一

11月の開催日が第一土曜日から第三土曜日に変更になっておりますので、ご注意ください

皆様こんにちは。切手市場管理人の高崎です。秋になると各地で切手イベントが多く開催され全国切手展JAPEXで最高潮に達することができます。

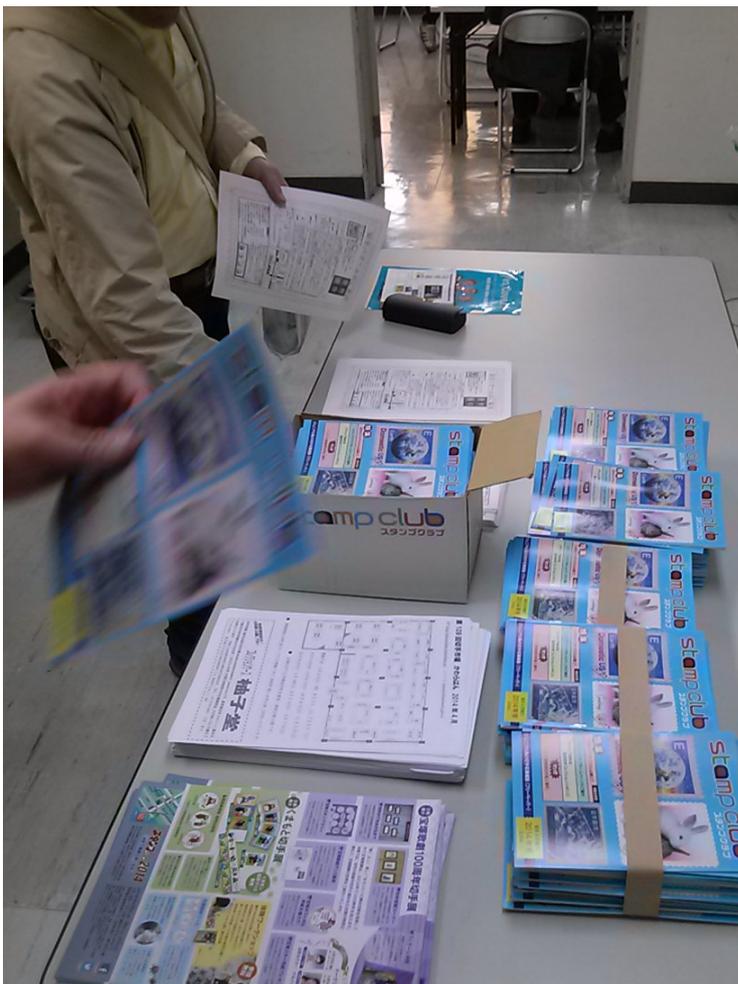
毎月開催している切手市場では予算規模の大きい全国切手展だけでなく、地方規模の切手展やバザーについては極力ブログで取り上げて切手市場会場ではビラの配布を無料で行なっています。

（下の写真）

たまたま会場で佐倉郵趣会の方とミーティングする機会に恵まれ、私の出来る範囲ですが宣伝方法について話し合う事が出来ました。

詳しくお聞きすると千葉郵趣連合の所属郵趣会が毎年持ち回りで開催している千葉の切手展で今年は習志野で開催する件でした。今年の企画展示の内容の高さが期待出来ることや記念講演が設けられていることなど千葉県内の切手展で終わらせてしまうにはあまりに惜しく、関東近辺の方を中心に1人でも興味をもってくれたらなと感じました。

嬉しいことにSTMPCLUB誌の配布を申し出て下さり(こちらには切手市場の開催予定が載っていますので本当に助かります!)見込み部数が大きかったため発行人さんを紹介することに致しました。毎月切手市場会場でお配りしているSTMPCLUBが次なる配布のパートナーを募集する役割も担っています。



Stamp Club誌とチラシの配布の様子

また10円SHOPウチダさんのように古くからの出店メンバーさんで担当する地元の切手展をより多くの方にご来場いただくビジョンを予め描いてビラ配りや掲示板の活用などで切手市場をパートナーとして捉えて下さっている方もいらっしゃり、毎年お聞きする開催結果は本当に素晴らしいものです。

静岡ショップのsumiさんも静岡切手展で毎年活躍していらっしゃいます。私も以前は販売のほうでお邪魔していましたが、sumiさんの特色である「販売」をコミュニケーションツールにして切手市場会場内で多くの方に直接来場をおすすめしていました。

切手市場会場から出店メンバーさんも来場メンバーさんも地域の切手展やイベントがあれば大いに活躍されています。関東近辺だけでも実に多くのイベントがあって展示内容も凝ったものが多いというのは良い話です。

ただ実情はというと先の佐倉郵趣会の方の話を伺うと若手がない中で高齢化したメンバーで設営を行なうのも体力的にキツイ部分があり、会場貸出のパーティーションにビニールフレームを掛けて展示フレームにする話や、メンバーの人数自体が減少してしまって持ちまわれる地域が限られてしまっている話など、それでも毎年県内から集まってその年の切手展を続けよう、成功させようという熱意をお聞きすることが出来ました。地域の切手展の開催で宣伝部門がいなくて困るという方は是非切手市場を活用して下さい。ご相談はいつでも受け付けます。

ご案内 河内 修

切手市場とは別の取り組みになりますが、切手市場の常連さんが集まる切手のフリマを、11月1日（土）に浜松町で開催することになりました。フリマの名称は「切手市場感謝祭・秋」で、JAPEX中日にあわせての開催となります。JAPEX会場からも近いビルで開催しておりますので、皆様是非お誘い合わせの上、お越し下さい。

開催日：2014年11月1日(土)

開催時刻：9:30 - 16:30

開催場所：フクラシア浜松町（JR浜松町北口徒歩1分）



フクラシア浜松町
東京都港区浜松町1-22-5 浜松町センタービル6F
JR「浜松町」駅から徒歩1分、都営大江戸線「大門」駅から徒歩2分、
東京モノレール「浜松町」駅から徒歩1分

こちらより地図にアクセスいただけます。→

港区浜松町1-22-5 浜松町センタービル6階

在日スイス大使館「日本・スイス国交樹立150周年記念事業」

第2回ヨーロッパ切手展

10/10, 11 @切手の博物館

ヨーロッパ切手展実行委員会

2013年より開始されたヨーロッパ切手展ですが、第二回目となる本年は、日本とスイスが国交を樹立して150周年になる記念の年という事で、在日スイス大使館より記念事業の認定を受け「スイス」をテーマにしたコレクション40フレームを展示いたします。

あわせて2月に発売された日本・スイス国交樹立150周年記念切手の販売や小型印の使用（右図、10/10のみ使用）、出品者による外国切手コレクション等の分譲等を予定しています。



展示予定作品（作品, 出品者名, フレーム数 敬称略）

特別企画作品

「日本とスイス 途切れることのない150年の国交」

テーマ

- 「スイス鉄道切手」 (小林 莞爾, 2)
- 「赤十字って何だろう？」 (小林 有, 2)
- 「赤十字切手の世界」 (葛井 瑞夫, 3)
- 「赤十字と捕虜の郵便」 (内藤 陽介)
- 「アニメ版・アルプスの少女ハイジ」 (吉田 敬)
- 「リヒテンシュタイン侯国とその秘宝」 (大森洋一, 3)

郵便史

- 「スイスのプレスタンプ時代」 (竹上 幸浩)
- 「ドイツインフレ期のスイス宛郵便」 (伊藤文久, 3)
- 「リヒテンシュタイン」 (大森 洋一)

伝統郵趣

- 「Switzerland from Cantons to Confederation」 (吉田, 5)
- 「Strubel 1854-1861」 (吉田 敬)
- 「Swiss Definitive Stamps 862-1907」 (小林莞爾, 5)
- 「William Tell and Tell Boy」 (小林 莞爾, 3)
- 「HELVETIA With Sword」 (小林 莞爾)
- 「風景シリーズ」 (木戸 裕介)
- 「パッケージで集めるスイス切手」 (木戸 裕介)
- 「児童福祉切手 1933-1942」 (人見 敦)

※ 展示作品やその名称および出品者はあくまで予定であり、変更・追加の可能性がありますことをご承知ください。

※ 開催直前に号外にて内容のご案内を差し上げる予定ですので、あわせてご覧下さい。

世界郵趣サミット2014のフィードバック等を11/3に開催 第2回 競争切手展ルール勉強会

外国切手出品者の会

「競争切手展ルール勉強会」は外国切手出品者の会における勉強会として、2012年6月に開催したのが始まりで、今回が二回目の開催となります。

日時：2014年11月3日（祝） 午前9時より3,4時間の予定

場所：未定（都心三区[千代田,港,中央]で会議室を借ります）

費用：2,000円（会議室費用等）

内容はスウェーデン・マルモ市で開催された「世界郵趣サミット2014」の講演内容を勉強会参加者にフィードバックすることですが、決して一方向の講演ではなく、途中途中でディベートも行い、結果として参加者が今後国際展ルールに準拠して運営される競争切手展（日本国内で準拠する事を宣言している切手展はJAPEXと全日展のみ）に自分のコレクションを出品するにあたり、疑問点を一つでも解決してもらおう事を最大の目的としています。

世界で普遍的に運用されている判例を知らずに競争切手展のルールを自分勝手に解釈しても、競争切手展で高い評価はもらえません。例えばタイトルリーフはどのように作ったら良いか、すべての出品者が分かっているとは限りません。そこで第一回勉強会では世界郵趣サミット2012で講演された「タイトルリーフ」の勉強のみを半日行いました。その結果は、二ヶ月後に開催された競争展で参加者全員が金銀賞以上を受賞するという結果につながりました。

世界郵趣サミット2014の講演テーマは「郵趣マテリアル」であり、今回の勉強会では、伝統郵趣・郵便史・テーマティックに渡り、郵趣マテリアルについての情報共有とディベートをすることが内容の大半ですが、それを通じて作品全体の改善につながるヒントも多々あると思います。

ところで冒頭に書いた通り、この勉強会は外国切手出品者の会の勉強会としてスタートしましたが、その内容自体は外国切手出品者以外の方（例えば日本部門の出品者やテーマティック出品者）にとっても有用であり、第1回勉強会の内容を伝え聞いた方から「次回開催時には是非参加させて欲しい」とのリクエストを頂いておりました。そこで外国切手出品者の会以外の方の席も若干ですが用意しておりますので、参加を検討したい方は、yoshida@kittle.com 宛てに「第2回競争切手展ルール勉強会参加申込書希望」とご連絡頂ければ、詳細資料と申込書を送付いたします。参加資格等はありませんしこれから競争展に挑戦したい方の参加も歓迎致しますが、既存会員のみで既に14名参加予定であり、募集数は若干名となりますので、参加締切は10月1日とさせて頂き、参加希望多数の場合は抽選とさせて頂きますこと、ご了承ください。

（外国切手出品者の会における本勉強会の担当者：吉田 敬）

MALAYSIA2014

12/1～6にクアラルンプールで開催！

12月にマレーシアで開催される国際展は変則的な開催の国際展です。

まずユース・テーマティック・現代郵趣の3部門のみが国際切手展として開催されます。

そして、それとは別に全部門を設けたアジア国際切手展が開催されます。

国際展としてのMALAYSIA2014への日本からの出品は以下の5作品です。

国際切手展への出品作品一覧

区分	エントリー作品	フレーム数	出品者
ユース部門	North Korea 1946-53	4	Kido, Yusuke
テーマティック部門B	The History of Artist's Portraits – The Transition of Western Art over 600 years	5	Emura, Kiyoshi
テーマティック部門B	Czeslaw Siania: The Story of His Great Work of Engraving Stamp	5	Murayama, Ryoji
テーマティック部門C	Trams – Its Development and Competitors	8	Eosawa, Yuichi
テーマティック部門C	The Blind	5	Ohsawa, Hideo

ダブルリーフを使用する傾向の作品が多いテーマティック部門の作品は、自分で持ち込む場合を除き運搬を断られる事が多く、国際展の出品資格があるにも関わらずなかなかエントリーできない人が多かったのが事実です。

そして仮にエントリーができたとしても、今度は開催国主催側に受付（＝アクセプト）をはねられることが多く涙を飲んだ話を多々耳にします。今回展示される作品には、そのような想いもこめられている事も知ると、よりしっかりと鑑賞してきたいと思います。

ちなみにマレーシアは、この夏に国際展が開催されたソウルに負けず劣らず日本から行きやすい国の一つで、それはアジアの代表的LCCのエアアジアが、東京（羽田・成田）、名古屋、大阪の4空港とクアラルンプールの間を就航していることにあります。一例として11/30の成田・クアラルンプールの往復料金は空港税および空港使用料込みで30,800円です。

エアアジアはLCCではあるもののクアラルンプールに専用ターミナルをもつ等、旅客機失踪事件を契機に経営が更に悪化しているマレーシア航空を尻目にビジネスを拡大しています。日本・マレーシア便における日系航空会社との競合でも、コンペティターのJALに比べて、羽田空港に乗り入れている点で優位に立っており、世界でも最もうまく展開できているLCCの一つです。

ここからは同時に開催されるアジア国際切手展の分の出品物の紹介です。

ちなみにアジア国際切手展は、FIP（国際郵趣連盟）ルールに従い審査が行われる競争切手展ですが、出品者に欧米は含まれずアジア・オセアニアが主体であるところが国際展との違いです。

アジア国際切手展への出品作品一覧（文献除く）

区分		エントリー作品	フレーム数	出品者
伝統部門	アジア・オセアニア	Japan Definitives, Vocational Series	8	Sudani, Nobuhiro
伝統部門	その他の地域	German States before German Empire	8	Yoshida, Takashi
郵便史部門	マレーシア	Censorship of Netherlands East Indies in Singapore and Penang from September 1939 to February 1942	5	Masuyama, Saburo
郵便史部門	アジア・オセアニア	Prompt Delivery in Japan as Nationwide Services	8	Ikeda, Kenzaburo
郵便史部門	アジア・オセアニア	Japanese Postal History of Official Compulsory Delivery for Lawsuit Documents	5	Okamoto, Tetsu
郵便史部門	アジア・オセアニア	Postal History of Postwar Express in Japan	5	Gyotoku, Kunihiro
郵便史部門	その他の地域	The United States Registry Systems, 1880-1910	8	Wada, Fumiaki
印紙部門		The Documentary Revenue Issue of Japan 1873-1875	5	Hasegawa, Jun

全8作品の内5点が日本関連で、産業図案、訴訟書類、印紙が各1作品、速達が2作品出品されます。残りはドイツ、蘭印、米国です。郵便史が5点と多いのも特徴です。

アジア展国際切手展への出品作品一覧（文献部門）

区分	エントリー作品	出品者
単行本	Accident Mail of the Koban Issues – Mr Shinjiro Akiyoshi collection	Narumi Co
単行本	Security Marking on the Japanese Post	Narumi Co
単行本	A Guidance for Philatelic Literatures	Shoda, Yukihiko
単行本	Postal History of the Japanese Military Mail 1894-1921	Tamaki, Jun-Ichi
雑誌	Stampedia Philatelic Journal	Stampedia Inc
雑誌	Stamp Club	Stampedia Inc
カタログ	Visual Japanese Stamp Catalog Vol 1, Vol 2	Japan Philatelic Society

手前味噌ながら文献でご注目頂きたいのは、当社刊行のジュニア向け切手雑誌（フリーペーパー）です。欧州の文献コンペに出品し注目された事はありますが国際展への出品は初めてになります。同誌は日本語で書かれていますので、現在国際展審査に向けて英訳を製作中です。

謎解き郵趣

昭和切手等混貼り 風景印押しカバー？

正解は「10銭陽明門 秩父丸での発行前使用例」

小坂 彰宏

米国？切手カバー？

正解は「ハワイ発プロシアン・クローズド・メール」

山崎 文雄

謎解き郵趣とは？回答への参加方法、ご自身の収集品の掲載方法

「謎解き郵趣」は読者参加型の、郵趣解説記事です。

紹介している郵趣マテリアルは、いずれも一つ前の号で、図版だけ示して、読者の方からネット経由で回答を求めた物で、今回所有者の模範解答と共に一つずつ詳しく読み解いています。

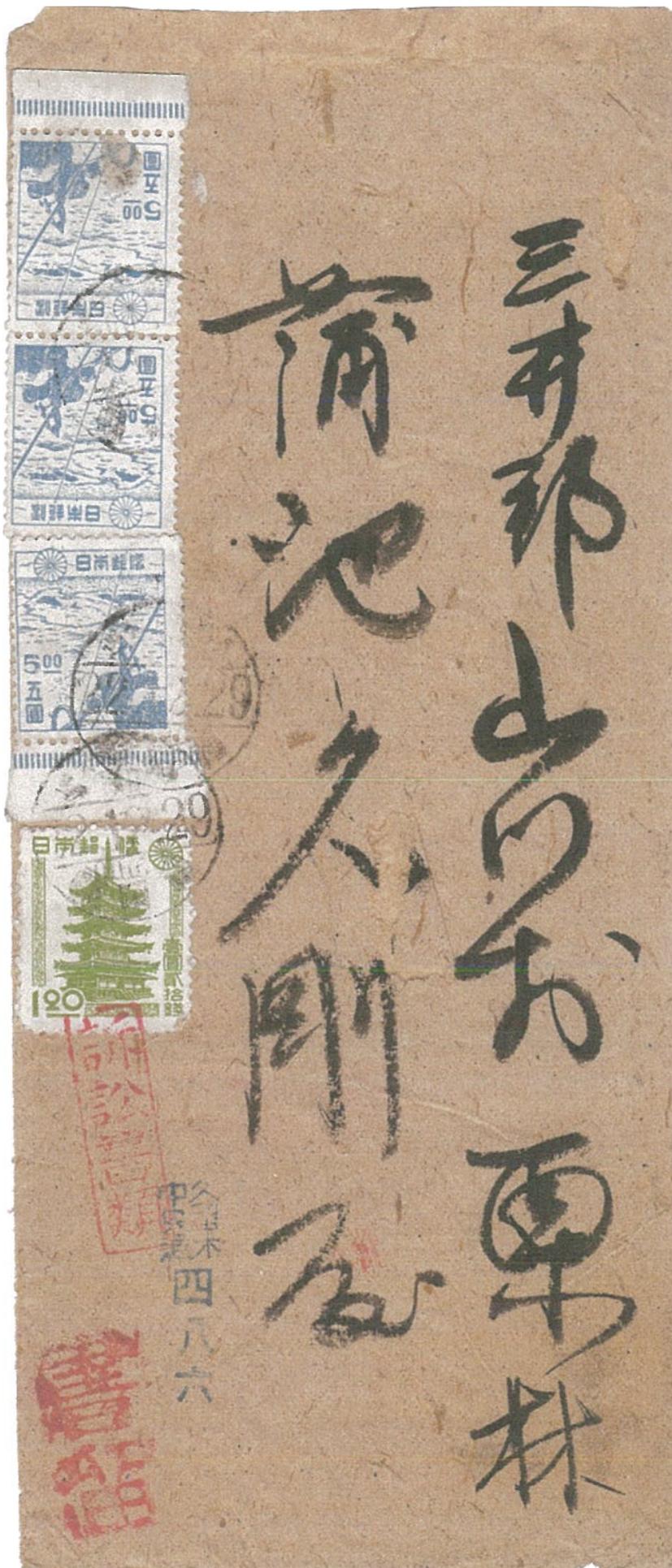
次ページから3ページにわたり、現在回答募集中の郵趣マテリアルの図版を示します。回答欄は当誌のアンケートフォームの中にありますので、ネット経由でお願いします。回答していただくと、次号にてその抜粋を所有者の模範解答と共にご紹介させていただきます。頭の体操のつもりで、ご参加ください。

なお現在、更に次の号で問題にする郵趣マテリアルを募集中です。一筋縄ではいかない皆さんのひと味変わった郵趣マテリアルの画像をtpm@stampedia.netまでお送りください。

次号「謎解き郵趣」出題その1
 北朝鮮切手??裏面と拡大図掲載
 (木戸裕介氏所蔵品)



次号「謎解き郵趣」出題その2
 消印は22.12.29、局名は久留米
 中央通？（岡藤政人氏所蔵品）



画像の支那字入高額貼価格表記
封筒沙市宛 220円送付
本物ですか、偽物ですか？

弊社の出品物として来たのです。
出所は都の「福丸の市」、簡単
ではないのですが、説得力のある
回答を導くことが出来る教材
です。ご連絡を待っています。

(出題者：鯛道治氏)



10銭陽明門 秩父丸での発行前使用例

小坂 彰宏

画像が多少不鮮明でしたが、多くの方から回答を得ることができました。（編集部）

- ・ 秩父丸の風景印、1938年10月24日。秩父丸の船名表記は、ヘボン式の“Chichibu-Maru”から、1938年2月にいったん“Titibu-Maru”になったが、“Chichibu-Maru”に戻され、1939年1月に鎌倉丸に改名された。その鎌倉丸に改名される前の“Chichibu-Maru”使用例。[伊藤 文久さん]
- ・ うーん、この辺の知識はないので・・・
どうしてここに掲載されるのか全く見当がつきません。[重山 優さん]
- ・ 船便の2倍重量便で、風景切手10銭と昭和切手10銭の異種同額面貼の使用例。
1938年10月28日なので、秩父丸は「TITIBU-MARU」の表記だったと思いますが、風景印は「CHICHIBU-MARU」なのでしょうか？カタログをみると、昭和切手10銭の発行日は、1938年11月1日ですが、消印はこれよりも早い日付ですよ。理由がわからないので、ぜひ知りたいです。[Takayuki SUZUKIさん]
- ・ 日光陽明門10銭切手の発行は1938年11月1日にも関わらず消印の日付が1938. 10. 24となっています。なぜそうなったのかはわかりません。[内田 雄二さん]
- ・ 当時、政府の方針により、英文表記にヘボン式ではなく、内閣訓令式を採用することとなった。秩父丸はCHICHIBU-MARUから内閣訓令式表記のTITIBU-MARUに変更となったが、冒頭の“TIT”は英語の俗語（スラング）で、現代日本語に訳すと『ビーチク』となることから、1航海で元のCHICHIBU-MARUに戻された。しかし、ネイティブスピーカーに『ちあいちあいぶまる』と発音されることが多かった為、再び鎌倉丸と変更された。
本例は、二度目のCHICHIBU-MARU時のアメリカ・シアトル宛の船便書状重量便の料金20銭 + 12銭 = 32銭分を貼付した料金適正使用例である。[匿名]
- ・ アメリカ宛書状重量便(2倍)
秩父丸風景印ですが、内閣訓令式により、TITIBU-MARUとなり、また元のCHICHIBU-MARUに戻った風景印じゃないでしょうか？翌年にはKAMAKURA-MARUに変わっているので、TITIBU-MARUの風景印はあるのでしょうか？御教示いただければ幸いです。[山本さん]
- ・ 一次昭和10銭発行は昭和13年11月1日だが、船内風景印は10月24日。発行日に発売するために積み込んで、船内局で誤って事前に販売した（あるいは貼付の風景切手を最後に10銭の在庫を切らしてやむなく事前販売に踏み切ったとか）ということでしょうか？
因みに秩父丸は間も無く鎌倉丸と解明しますが、今回の謎解きに当たりウィキペディアを見たら、欧文櫛型印で収集家にも身近な内閣訓令式ローマ字が意外な文脈で登場する以下の下りが面白かったです。（以下引用）「1939年（昭和14年）1月18日に、「秩父丸」は「鎌倉丸」と改名している。改名の背景には、1937年の内閣訓令第3号によるローマ字公式表記の変更にあった。従来のヘボン式では“Chichibu-Maru”の表記であったのが、訓令式では“Titibu-Maru”になるところ、乳首を意味する英語の俗語“Tit”と通じることが問題となった。1938年2月にいったんは訓令式に船名表記が変更された後、特例としてヘボン式表記に戻すことが逓信省から認められたが、

最終的に船名変更を余儀なくされた。改名に伴い、秩父神社の神霊と替わって、鎌倉宮の神霊が船橋内に奉安された。」 [中野 健司さん]

- ・ 画像が良くわからず、秩父丸風景印であること、名古屋城10銭と昭和切手日光陽明門10銭の異種同額面貼りくらいしかわかりません。料金は、1938年?と読めますので20g20銭、20g毎12銭で32銭で適正のはずです。 [長田 伊玖雄さん]
- ・ 秩父丸差し出しのカバーですね。ローマ字の船名表記が問題となって、風景印を変えたとか。。最近近畿大で同じことがあり、名称を変えるとかの記事がありました。近畿地方とかどうなるんでしょうか。 [城取 重行さん]
- ・ 陽明門発行前の10月24日の日付であるのはなぜ? [安井 浩司さん]

以下、所有者の小坂さんのコメントです。

国際郵便の移動交換局

秩父丸はサンフランシスコ航路（香港、上海～サンフランシスコ・ロサンゼルス間）の就航船で、その船内郵便局は横浜～北米間の航海中のみ開局していました。

陸上にある静止局ではないため、秩父丸船内郵便局の位置がポイントになります。1938（昭和13）年10月24日は秩父丸の第53次航海で、横浜港を出帆し、北米へ向かった日でした。この日、船内郵便局は船客が差し出すものの他、エージェン트가持ち込むもの等で業務は終日多忙であったと思われます。加えて横浜郵便局が秩父丸便締切り時刻後に引き受けた、区分、閉囊前の郵便物も多数持ち込まれたことでしょう。



新切手のフライング使用

北米航路の船内郵便局は横浜郵便局が所管していましたので、切手、備品等の供給は横浜郵便局から受けていました。その中に11月1日発売の新切手もあったに相違ありません。在庫切れとなった昭和自紙10銭切手の代わりにやむなく新切手を使用したと考えられます。業務輻輳によって昭和自紙10銭と第1次昭和10銭切手がカバー上で、初めて出会ったケースだと思います。

CHICHIBUとTITIBU

CHICHIBUを欧米人は「チャイチャイブ」と発音していたようです。ちなみにHIKAWAは「ハイカワ」でした。船名表記を内閣訓令式にしたことで起こった騒動は有名で、中野健司さんがコメントされている通りです。

ただ、何をもって変更したとするかについては日本郵船社報、船体への表記、そして郵便印によるものがありますので、留意しなければなりません。特に郵便印についてはTITIBU表記の開始後にもCHICHIBU表記が使用されている例が存在しています。

TITIBU表記の欧文櫛型印使用データ 一覧

日付	航海	TITIBU	CHICHIBU	備考・出典
1937/11/16	46		○	東京あて・小坂
1938/1/10	47	○		児玉本「乃木2銭」
1938/1/23	47	○		JAPANESE PHILATELY 2008/12
1938/2/24	48	○		ジャパン・エクアドルあて航空便
1938/2/24	48	○		米貿易会社あて・小坂
1938/3/20	48	○		ジャパン・米あて郵趣家便
1938/3/24	48	○		日本切手名鑑「郵便史」
1938/5/7	49	○		郵趣家便・荻原氏
1938/7/23	51	○		東京あて・荻原氏、小坂
1938/7/24	51		○	郵趣家便(サンタバ-バラ着印)・小坂
1938/8/5	51	○		日フィラ・郵趣家便
1938/8/11	51	○		けしいん・大島氏(オンピース)
1938/8/16	51	○		小包送票・小坂
1938/9/12	52	○		東京あて・木原氏
1938/11/6	53		○	東京あて・小坂

TITIBU表記の欧文櫛型印は1937(昭和12)年12月29日(第47次航海、横浜出帆日)から1938年10月10日(第52次航海、横浜帰着日)まで使用されたと考えられます。

なお風景印は日中戦争下で使用自粛が進んだ時代でしたが、外国航路の船内郵便局ではむしろ積極的に外国人へ利用を勧めたようです。

ただしTITIBU表記の風景印は確認されていませんし、CHICHIBU表記の風景印もTITIBU表記を欧文櫛型印として使用していた間の使用例は極めて少ないと感じます。

ハワイ発プロシアン・クローズド・メール

山崎 文雄

謎解きエンタメとしては少々難しい課題であったかも知れませんが、下記のようなかなり郵便史に詳しい方々からの回答を得ることができました。（編集部）

- ・ハワイのホノルルから、プロイセンのベルリン宛の書状のようだが、年代が読めない。左上の切手は、ハワイ王国の5セント切手で、1866年発行なので、1866年以降なのは確かだろうだが…。右上の切手は、アメリカのワシントン24セント？

カバーから読めるのは、ハワイ・ホノルル(10/19)→サンフランシスコ(11/12)→ニューヨーク(12/1)→アーヘン(12/18)→ベルリン。

ハワイのホノルルで、5セント（左上のハワイ王国の5セント切手）、サンフランシスコで24セント（右上のワシントン24セント）、更にニューヨークで支払い（7 Paidと見えるので、7セント？）と読めるのは、一体、どういう仕組みなのでしょう。[伊藤 文久さん]

- ・ハワイの切手が貼られているものの、アメリカの郵政を通さないと手紙を運送出来なかったので、アメリカ郵政の日付印を押し、アメリカ大陸を横断してドイツまで運ばれたカバーでしょうか。青い四角の印はドイツの国境通過印ではないかと思えます。[重山 優さん]

- ・ハワイ差出。ハワイ王国切手貼付。ハワイ王国は海外への郵便について条約に参加していないので、米国経由米国切手貼付し海外送付でしょうか？[田村 邦彦さん]

- ・本例は、ハワイ・カメハメハ王5セント切手とアメリカのワシントン24セント切手が貼られたベルリン宛の書状である。

カメハメハ王5セント切手の発行が1866年であることから、ワシントン24セント切手は切手再使用防止の為にグリル付の切手かもしれない。

5セントはアメリカ宛料金のはずであるが10月19日のアメリカ・ホノルル局のPOSTAGEPAID印が押されていることから、アメリカ以遠は、現金で支払われたものと推測される。



ホノルル局の印に基づき、サンフランシスコ局では11月12日にアメリカ国内から宛先のベルリンまでの料金24セント切手を貼付して無声印と日付印で抹消している。

その後12月1日ニューヨークでPAID中継印で料金完納を確認した後大西洋を横断し、12月18日のAACHENで中継印が押された後宛先に着いた。

以上から、ハワイ-アメリカ間はハワイ切手で貼付し、アメリカ以遠は現金納付の上、アメリカ局で相当する切手を貼り宛先まで逡送した、布哇-亜米利加のミックストフランキングカバーではないだろうか。[匿名さん]

上記の回答の中では最も匿名さんからの回答が的を得ている回答であろう。かなり当時のアメリカ郵便史およびハワイの郵便史に詳しくないと解けないマテリアルであるといえます。その意味では大いに感心した次第であります。

このカバーは所謂プロシアン・クローズド・メール (Prussian Closed Mail) である。プロシアン・クローズド・メールとの指摘がなかったのは少々残念。ハワイから送付されたプロシアン・クローズド・メールは何通か知られていますが、ハワイ切手を貼付して送付されたものは、現在、2通が知られており、本件はその1通である。稀少性が高いマテリアルと言える。

ここで、このプロシアン・クローズド・メールについて、説明をしておきましょう。

当時プロシアはドイツ・オーストリア郵便連合 (German Austria Postal Union) に加盟しており、そのメンバーはプロシア以外にも、オーストリア、ババリア、サクソニー、ウイルテンベルグ (Wurttemberg)、メクレンブルグ-シュベリン (Mecklenburg-Schwerin)、メクレンブルグ-スレリッツ (Mecklenburg-Strelitz)、オルデンプルグ、ブレーメン、ルクセンブルグ、ブランズウィック、リューベックおよびハンブルグがあった。

これらの宛先に手紙を送付する場合、ハワイはアメリカ本国を通じて手紙を送付するしかないのであるが、アメリカ本国とこのドイツ・オーストリア郵便連合加盟国との間で郵便を送付する手続きとして交換局のニューヨーク局を介して郵便物の送付が1861年から行なわれたが、その郵便料金は前払いで28セント、後払いで30セント (collect paid) であった。

ニューヨークまで運ばれた郵便物はニューヨーク・プロシア間は所謂封印された郵袋に入れられ運ばれることになっていた事からプロシアン・クローズド・メールの名前が生まれたのである。この封印された郵袋はニューヨークを経て、大英帝国 (Great Britain) やベルギーに運ばれた。ベルギーではオステンド (Ostend) を経由し、ヴェルヴィエル (Verviers) に鉄道便で運ばれ、プロシアの郵便代理人がその郵袋を受け取った。その代理人はヴェルヴィエルからプロシアの国境の町アーチェン (Aachen) まで鉄道で運び、角型の押印を各郵便物に押印をしたのである。

郵便料金の前払い制度については、1852年アメリカとドイツ・オーストリア郵便連合との間で30セントと取り決めた。後に、大英帝国はイギリスとベルギー間でバルク (bulk) メール取り扱い料金を引き下げたため、1861年このクローズド・メールも半オンスの重量の基本郵便物において28セントに引き下げたのである。しかしこれは前払いの郵便物での取り扱いのみであり、後払いのCollect料金は30セントのままであった。この料金は1867年12月31日まで続いた。1868年1月1日には北ドイツ郵便連合が発足し、この制度は廃止された。

以上がプロシアン・クローズド・メールでの概略である。郵便史については、あまり詳しい状況ではないのであるが、研究が進んでくるといろいろな文献を取り出して調べたくなるのが必然的であり、文献も収集には欠かせなくなる。さて、本題に入りましょう。

本件は1866年10月19日にハワイから差し出されたSingle rate letterでプロシア・ベルリン宛のカバーである。料金はハワイからアメリカ本土までが5セント、アメリカよりプロシア宛料金が28セント料金ですが、完全に料金を支払っている状態（Prepaid）で取り扱われている。アメリカにおける料金はホノルル局で支払われ、中継局のサンフランシスコ局でアメリカ切手を貼付したものである。

アメリカ切手の24セント切手は1861年発行のものである。アメリカよりプロシア宛の料金は前述の通り28セントであったが、その記しがアメリカ切手の左側に赤鉛筆で28cのmanuscript（手書き）がなされており、（サンフランシスコ局日付印左側）この記しは正しい料金を示しており、4セントが不足していることになるが、4セント切手が脱落しているか、4セント分を現金で支払ったのかのいずれかであるが、他のサンフランシスコ局の日付印が見られないため、後者の使用例だと思われる。

この書状は1866年10月19日にホノルル港を出帆した「ベルニス（Bernice）」に載せられ、同年11月10日にサンフランシスコ港に到着、11月12日にサンフランシスコ港よりニューヨークに運ばれた。ニューヨークのExchange Office Integral “7” Paid 12月4日（12月1日に見えますが、4日の日付であります）の日付印が押印されている。このニューヨーク局の押印に7cとあるのは、プロシアに割り当てられた料金の7セントを意味している。ニューヨークよりClosed Mail Bagによりボストンに送達され、12月5日に英国のクナード蒸気汽船（Cunard Steam Ship）”Africa”によりアイルランドのクイーンタウン（Queentown）に向け出帆、12月15日に到着した。その後は通常のルートを通り、プロシア・アーチェンには12月18日に到着している。

このPrussian Closed Mailはハワイをオリジン（出発便）としているものは6通が報告されているが、その6通の内前述の通り2通のみがハワイ切手とアメリカ切手とのコンビネーション・カバーとして報告されているのみである。

他の1通は有名なWilliam H. Gross Collectionにあり、5セント切手はハワイ5セント（スコット#21）の単片とアメリカ切手10セント（1861年発行）の3枚貼りのコンビネーション・カバーである。30セントの内訳は28セントがアメリカ・プロシア間の料金で2セントがCaptain Fee（船長の取り分）である。使用は1年前の1865年10月7日のホノルル差し立て便である。いずれも稀少な使用例としてフレッド・グレゴリー著（Fred Gregory）の「Hawaiian Foreign Mail to 1870」の文献に掲載されておりますので、関心のある方は是非ご購入をお勧めしたい。

この文献に関しては、昨年のオーストラリア・メルボルン展および今年の韓国展（右写真）の両FIP国際展において、文献部門で大金賞を受賞されており、価値ある文献となっております。購入先としては、アメリカのPhilatelic Foundationで購入できますので、アクセスしてみてください。



寄稿記事・郵趣論文

英領ギアナ初期の切手 1850-56

吉田 敬

世界のクラシック切手第1回
ペニーブラックの誕生

伊藤 昭彦

モリコー製 卓上押印機 試作機消印

鈴木 盛雄

郵趣家便のススメ第2回
料金初日・最終日

水谷 行秀

戦後の郵便史 (3)

行徳 国宏

フレーム切手のマイクロ文字とメタリックマルチイメージ
内田 雄二

十円桜 版欠点 「花びらに赤しみ」

長島 裕信

私の発見・私の報告

あなたの郵趣論文、啓発記事を掲載してみませんか？

フルカラー、ページ数制限なしの The Philatelist Magazine で記事を書いてみませんか？
オリジナル研究記事とともに啓発記事やまとめ記事も歓迎です。

郵趣の範疇であると編集部で判断すれば日本・外国を問いません。伝統郵趣、郵便史、テーマティック、トピカル、カタログコレクション、研究史、文献など広く記事を求めています。既存の紙雑誌で掲載に難色を示された分野であってもぜひご相談ください。単行本化を前提とした 連載執筆も歓迎です。問合せ先: tpm@stampedia.net

英領ギアナ 初期の切手 1850-56

吉田 敬

はじめに

2014年6月17日に米サザビーズのオークションで売り立てられた「英領ギアナ1セント使用済」は、手数料込みの落札金額が948万ドルと高価だったため、米国はもとより日本でもテレビニュースになるほどの話題となりました。

(図1)

認知度が充分でない物事は、“No News, Bad News”（報道されて損はない）と筆者は考えていますので、冷やかな目で見ている人がいるかもしれませんが、郵趣にこれだけのお金が動く事を世の中に明らかにする事ができ、プラスがあると考えています。

その一方で、国内の郵趣雑誌の報道を見た時に「10億円の切手、すごい！（+妬み）」以上に深掘りできているメディアがほとんどなく、一フィラテリストとして残念に感じました。郵趣の面白さを分かっているはずの郵趣雑誌が、一般メディア同様に金額の尺だけで記事を作り完結してよいのだろうか、そんなに郵趣というのは薄っぺらい趣味だったのだろうか、と考えさせられたからです。

私が唯一満足できた記事は「たんぶるぼすと Vol.38 No.7」で発行人の山崎好是さんが執筆された「英領ギアナ1セント、34年ぶりで競売に」という記事(図2)でした。

所有者の移り変わり取引金額を分かる範囲で一覧にした上で、切手展での展示の様子についても情報を付記しており、参考文献も明示しており、読み物としても十分楽しむ事ができました。

たんぶるぼすとは別として英領ギアナの記事の金額に注目が集まってしまう背景には、郵趣雑誌編集者の大半にとって、英領ギアナ切手のイメージと知識は1セント切手以外にほとんどない事があるのではないかと思います。

しかし、同国初期の切手の中には、世界的に有名な切手が多いのもまた事実です。そこで一番切手から四番切手にいたる迄の英領ギアナのクラシックを次ページ以降解説し、十億円の1セント切手以外にも沢山ある面白味を紹介したいと思います。

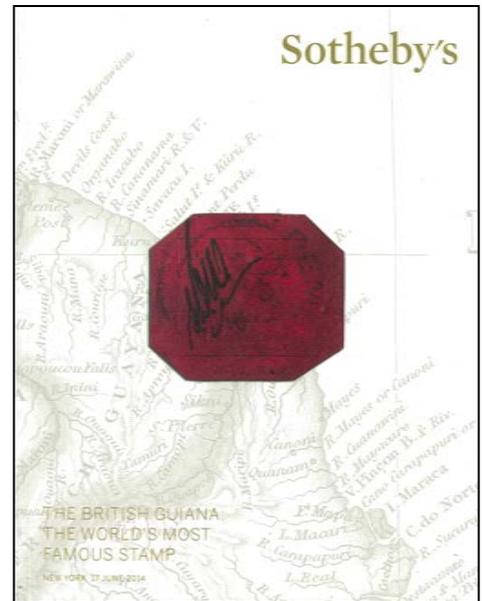


図1 Sotheby's 今回のカタログ



図2 たんぶるぼすと

一番切手（コットンリールズ）

1850.7.1に三種類を発行、1851年に一種類を追加。

1814年に英領植民地ギアナとなった、南米大陸のBerbice, Demerara, Essequibo（バービス、デメララ、エセキボ）の一带では、砂糖農園経営が行われていました。

これら海岸沿いの都市を結ぶ原始的な内国郵便に加えて、首都ジョージタウンやバービス経由で英本国に向かう船により外国郵便を差し出すことができたため、植民地の幹部は近代郵便の知識を持っており、1850年になると改善を検討し始めました。

そして現地の「ロイヤル・ガゼット新聞」6月15日発行号に、デメララの郵便副長官Dalton（ダルトン）が次の四点を発表しました。

- (1) 書状取扱業務を毎日行う。
- (2) 料金支払に前納の切手を導入する。
- (3) 郵便料金は三地帯の距離制とする。（近距離4c, 中距離8c, 長距離12c）
- (4) 新サービスは7月1日より実施し同日に三種類の切手を発行する。

ところが新サービス開始日を決めるにあたり、切手製造・納品のやり取りを英本国と行う期間を検討していなかったため、半月後の切手発行にはとても間に合わない事が自明となります。

このため、一番切手の製造は「ロイヤル・ガゼット新聞」を印刷している地元の印刷会社 Messrs, Baum and Dallas of the Gazette に依頼することとなりました。

同社は82mmの真鍮線4本をねじ曲げて作成した円の内側に沿い植民地名の活字を埋め込み作成した1シート4枚の版を共通に使用し、3種類の切手を製造しました。（4 centsは黄色い用紙に、8 centsは緑の用紙に、12 centsは青の用紙に）ちなみに、切手の外枠の円が真鍮線を曲げて作成されたため、線を閉じる部分に空白ができ、これにより各切手は、4つのタイプに分類することができます。（図3）

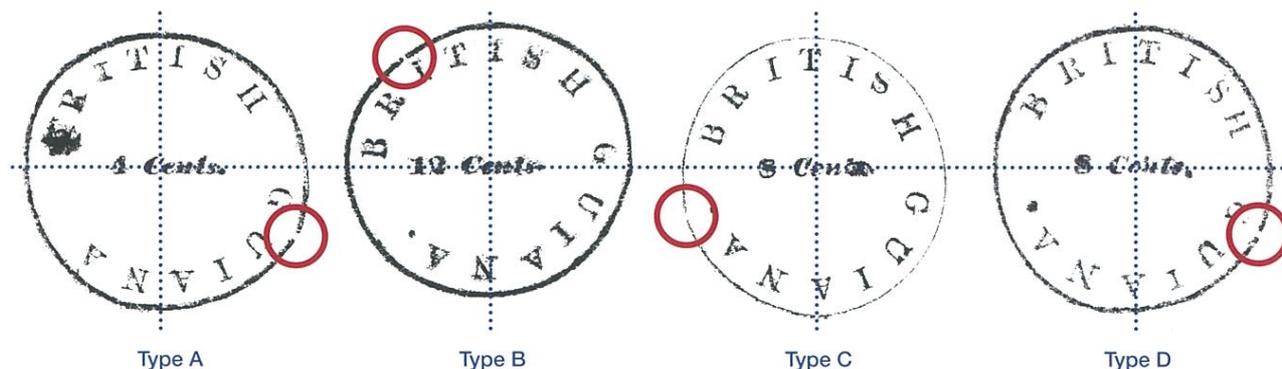


図3 4つのタイプ

このようにして「糸巻き (Cotton Reels)」に貼られたラベルに似たデザインのたいへん粗末な切手が納品されてきたわけですが「このような粗末な切手では他の印刷会社でも簡単に作れてしまう」と考えたダルトン副長官は、切手の販売にあたり、事前に一枚一枚に、郵便事業に携わる職員5人いずれかのサインをペンもしくは鉛筆で入れて販売する事にしました。(図4)

その後1851年に首都ジョージタウンで、“The Georgetown Penny Post”という名称の市内便特別サービスが始まり、桜色の紙に印刷された2セント切手が発行されましたが、四種類の中では発行期間も一番短いためカタログ評価は最も高くなっています。



図4 一番切手三種と1851年に追加発行された1種
4セント (黄色) ・ 8セント (緑)
12セント (青) ・ 2セント (桜色)

* 下段の二枚はD.Feldmanカタログより転載

二番切手 (Waterlow)

一番切手の解説の最後の部分で、1851年から首都ジョージタウンの市内特別郵便料金が設定された事を記載しましたが、ほぼ同時期に距離制を廃止する郵便料金改正が行われ、全国均一料金が1851年4月から実施されています。(書状4セント、印刷物1セント)

この後紹介する二番切手から四番切手までは、すべてこの料金体系に沿った切手です。従って単に「英領ギアナの1セント切手」といった場合、該当する切手が何種類も存在する事を忘れてはなりません。図5は二番切手の二種ですが、左の切手もまた「英領ギアナの1セント切手」です。

ちなみに二番切手は、英本国ロンドンのWaterlow社製の切手です。不正利用防止の観点から非常に薄い紙に印刷されており、この為大半の使用済みはうまく水はがしできなかったためか、他の切手だったらありえないほど悪い状態のものが多いです。

製造面では原板を2タイプに区分できるはずなのですが、残念ながら今のところ、著者は十分理解できていません。

使用面では印刷物用の1セント切手は横4枚ストリップの使用済みが何点か残っており、書状用に適応使用もされていたことがわかります。



図5 二番切手2種 1セント(赤)、4セント(青)

三番切手 (Waterlow Lithographs)

1852年に発行された英Waterlow社製の切手は、あまりに薄い用紙に印刷されていた為、取扱に不便をきたしました。この為、普通の用紙を使用した新しいデザインの切手が改めて同社に発注され、1853年に納品されました。(図6)

この三番切手のシリーズ名称は Waterlow Lithographs なのですが、二番切手も石版印刷なのに、どうしてこの名称で呼ばれているのか現時点では筆者は究明できておりません。

ところでこの切手は1860年迄継続して使用された為、初期の切手の中では最も入手しやすく、特に書状用額面である4セントは、使用済みであれば十万円程度のカタログ値です。とはいえ状態のよい使用済みはカタログ値をはるかにこえる金額で取引されていますし、存在数の少ない未使用についてはなおさらです。

なお長期間に渡り発行された為、リタッチがあったり、また31枚もの未使用大型ブロックがあったりと、製造面研究やリコンストラクションをするにはわくわくさせられる切手です。



図6 三番切手2種 1セント (赤)、4セント (青)

* 左の一枚はD.Feldmanカタログより転載

四番切手・暫定切手 (Provisionals)

英仏に代表される植民地の切手の中には、本国で印刷した切手の納品が現地の在庫枯渇に間に合わない為に発行される暫定切手が散見されます。

前ページにて説明した通り、1853年から1860年にかけて、英領ギアナでは、三番切手が使われていたわけですが、1856年に切手が枯渇する事態が発生し、現地郵政は暫定切手の発行を計画せざるを得なくなりました。そしてその暫定切手の製造は、あの粗末な一番切手 Cotton-Reelsの製造実績をもつ Official Gazette社（旧社名： Messrs Baum and Dallas of the Gazette）に発注されました。

同社では発行している新聞の貨物到着ニュース欄の挿し絵に使用している帆船の図柄をもとに、その周囲に植民地名等を活字で配列した切手の原図を作成し、Cotton-Reels 同様、1シート4枚の印刷板を作り、赤紫（図7）、ピンク（図8）と青（図9）の用紙に印刷して、4セント切手を製造しました。（*図8,9はD.Feldmanのカタログより転載）

しかし案の定、こうして納品されてきた切手も、Cotton-Reelsに比べればましなもの、依然として簡単に偽物が作れそうな粗悪な切手であり、4名の郵便事業職員いずれかのサインを入れて販売せざるを得ませんでした。



図7



图8



图9

十億円する1セント切手だけでない英領ギアナ クラシック

以上一番切手に始まり、暫定切手である四番切手までを、今回のサザビーズのオークションカタログを参考にして、まとめてみました。

世界の郵趣界では有名な英領ギアナ初期の切手ですが、これまで日本では1セントを除けば、ほとんど紹介される事がなかったのではないかと思います。

もっとも図版の質量が悪い欠点はあるものの、Scottカタログは営業ギアナ初期の切手にそれなりの紙幅を割いていますし、サザビーズのオークションカタログを入手すれば（もしくはホームページでダウンロードすれば）より詳細な初期切手の情報を豊富な図版と共に得る事ができますので、ご存知の方も、もちろんいらっしゃることでしょう。

ところで筆者はゼネラルコレクターです。スイスやドイツ、日本等いくつかの国は専門収集も楽しんでいますが、英領ギアナには特段の専門知識を持っていたわけではありません。

そんな私のところに全日本切手展2014実行委員会より、日・カリブ交流年を記念して「カリブ切手展」を開催したいので、カリブ共同体加盟各国の切手を展示してくれないかという依頼が本年早々来しました。

不勉強なエリアではあるものの、英領切手を初めて勉強する契機になると思い、この出品依頼を受諾した筆者は、半年程掛けて整理済みの一種一枚コレクションの吟味と、重品として保管している切手に製造面上のバラエティがないかを調査していました。

きちんと収集すると大抵のものはおもしろくなるもので、6月頃にはすっかりその面白さにはまり、いくつかの切手やカバーを追加調達した上でカリブ切手展に「カリブ共同体 加盟各国・地域 初期の切手」という3フレーム作品を展示しました。（図10）

この展示をPDF化し、本号の付録として第4号と同時にダウンロードできるようにしました。ご関心のある方は是非ご利用下さい。

本稿で取り上げた、1850年から1856年に掛けて英領ギアナで発行された切手も4リーフ程ですが、そのPDFの中でご覧いただけます。

カリブ共同体 加盟各国・地域 初期の切手

カリブ共同体の設立について：
1973年7月、バルバドス、ガイアナ、ジャマイカ及びトリニダード・トバゴは、経済統合、外交政策の調整、保健医療・教育等に関する機能的協力の促進を目的として、カリブ共同体（以後、「カリコム」と省略。）を設立するためのチャガラムス条約に署名し、右設立条約が同年8月1日に発効して、カリコムが発足した。

カリコムの設立は宗主国の英国による西インド連邦の失敗（1958年から1962年迄）を教訓にしている。すなわち主権は構成国が持ち、経済面での成果を第一義と考え、1968年から開始された域内貿易の自由化等を目的としたカリブ自由貿易連盟（CARIFTA）の発展に主眼をおいている。



カリコム加盟国等の、フィラテリーの側面：
カリコムに加盟・準加盟する各国および地域は英国の経済的な影響を受けてきた国が大半である（設立から22年後の1995年に加盟したスリナムが唯一の例外で旧蘭領）。このため郵便にも英国の影響が強く見られる。英国切手が海外使用された地域でもあり、そのカバーや使用済は、世界的に人気がある。

これにくわえて、英国切手の導入前にスタンプを押した切手を発行した地域（バミューダ）や郵務会社が独自切手を発行した地域（レディマタロード切手）や変わった形態の切手を発行した地域（ガイアナの前身：英領ギアナ）など、郵趣的にも有名な切手の多い地域である。

展示プラン：
まずカリコム加盟国等を「設立時の四ヶ国」と「リーワード諸島で一度郵便統合された国々」及び「その他」の3グループに分け、各1フレームを割り当てた。

「設立時の四ヶ国」は域内強国であり、最も古くから郵便が使用されている。

「リーワード諸島で一度郵便統合された国々」は、1890年に行われた郵便統合に参加した国と地域である。この統合は失敗したが、英国主導の同地域連合の試みとしては最初の取り組みであった事は注目に値する。

「その他」も含めて3つのグループそれぞれの展示においては、該当する国等の一番切手を展示すると共に、切手の発行主体名称が変わる場合はそれぞれ一番切手の展示も行った。なるべく未使用で一枚一枚の展示を行った他、1850年前後のクラシック切手については製造面を使用済単片も用いて展示した。これに加えてスペースの許す限り使用済の展示も行った。

1.カリブ共同体設立時の四ヶ国		
1.1.バルバドス	P.2	
1.2.ガイアナ	P.5	
1.3.トリニダード・トバゴ	P.9	
1.4.ジャマイカ	P.15	
2.リーワード諸島で一度郵便統合された国々		
2.1.アンチグア	P.17	
2.2.ドミニカ	P.20	
2.3.セントクリストファー・ネビス	P.23	
2.4.セントビンセント	P.25	
2.5.セントジョンズ	P.28	
2.6.セントピエール	P.29	
2.7.セントパウル	P.31	
3.その他の国と地域		
3.1.バハマ	P.33	
3.2.グレナダ	P.34	
3.3.セント・ビンセント・アンド・グレナダ	P.35	
3.4.セントルシア	P.37	
3.5.バリス	P.38	
3.6.英領バミューダ	P.40	
3.7.英領タークス・カイコス	P.42	
3.8.英領ケイマン諸島	P.45	
3.9.ハイチ	P.46	
3.10.スリナム	P.48	

図10 タイトルリーフ

* 本作品は本号付録として、第4号の発行期間中、PDFをダウンロードして頂く事ができます。ご関心のある方はご利用下さい。

オークションで英領ギアナ切手は誰が買った？

最後に2014年6月17日のサザビーズのセール、および同月27日のD.Feldmanのセールで、競売に掛かった英領ギアナの切手、全132ロット（元はすべてJohn E. du Pont のグランプリコレクション）は誰が買ったのかについて考察をまとめてみました。

まず主催者発表で伝えられているスイスのD.Feldmanの顧客へのメール（右図）によると「6.27のセールは131ロットがすべて不落札にならずに、Estimate値（最低値の様なもの）の五倍で落札されたセール」なのだそうです。（総額600万ユーロ）

デイビッドも相当興奮していましたが、これは相当に異常な事態です。

実は筆者も数点落札したいアイテムがあり、3時間程ライブオークションに臨んだのですが、一つも落とす事ができませんでした。

それ以上に異様に感じたのは、場の札の強さです。

一人テレフォンビッドとおぼしき強い札が入るのですが、それが入るや否やそれをはねのける強い札が場からあがっていることがマイク越しにも分かる程、フロアの札がノンリミットに感じました。国内オークションでも時々ノンリミットの強い札が入る事がありますが、このオークションのノンリミットというのは、@4,000万円程度の話なので、桁違いでした。

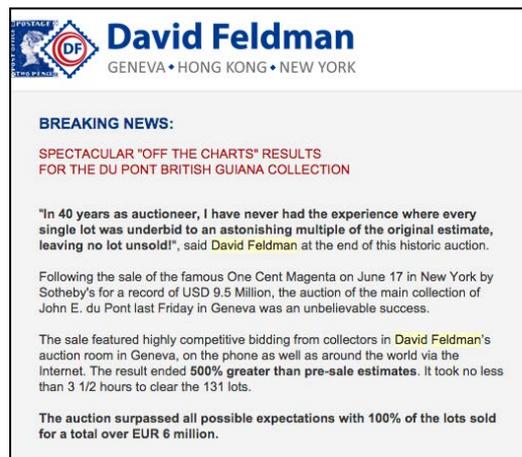
ところで、サザビーズの1セント切手を購入した人に関する情報を発信している日本国内の情報元はいまのところ次の二件だけと思われます。

- ・香港在住者がテレフォンビッドで買った（ジャパNSTAMP ブログ）
- ・（収集用ではなく）投機品として購入された（郵趣8月号）

ただ、私はD.Feldmanのセールの全131ロットを一人で全部落としたフロアの人が、中東のコレクターだという情報をその場に居たエージェントより聞きました。前述の通りこの郵趣家の札の強さは尋常ではありませんでしたので、私は同一人物がサザビーズのセールを香港のエージェント経由で購入したのではないかと、いう仮説をもっています。これなら鯛さんの情報とも齟齬がありません。1セントが手に入ったから残りのデュポンコレクションを全て買う事にした、という可能性もあるのではないかと、あくまで仮説の域をでませんが、推測するのはたのしいものです。

いずれにせよD.Feldmanで購入されたロットはコレクション用だと思われますし、1セントがなくてもかなり高い評価を受けるコレクションですから、近い将来の切手展にそれが展示されるのであれば、そこに1セントがあるかどうかを皆注目する事でしょう。

ちなみに後日談ですが、スイスのD.Feldmanにはその後英領ギアナ クラシックの所有者からプライベートセールの相談が多数来ているそうです。今が売り時？



世界のクラシック切手 第1回 ペニーブラックの誕生

伊藤 昭彦

The Philatelist Magazine のアンケートで毎回複数の強いご要望が入るのが「外国切手に関する記事」の掲載です。そこで今月より毎号一本以上のクラシック切手の啓発記事を掲載する事にしました。次号以降の掲載は順不同ですが、初回はやはりペニーブラックで行きたいと思います。

1. 近代郵便制度の創設

(1) ロバート・ウォーラスの活動

大英帝国の庶民院（＝下院）議員ロバート・ウォーラスは、重さにして6%、通数で36%の有料郵便（図1）が、大半を占める無料郵便物の送達費用を負担している為に郵便を庶民が手軽に利用できない現実をとらえ、1833年8月に郵便制度改革の必要性を庶民院で初めて取り上げました。

また郵便制度改革策にも着手し、郵便料金の基礎計算を用紙の枚数制から重量制に改める事や、基本重量を4オンスまでとし書状料金を50マイルまで3ペンスとする事、日曜日の送達も行う事などを骨子とした改革案を提案しました。*1オンスは28.35グラム

彼の改革は根本的な解決には結びつきませんでした。当時の郵便が抱えていた問題を国民に知らしめた功績は大きいものです。

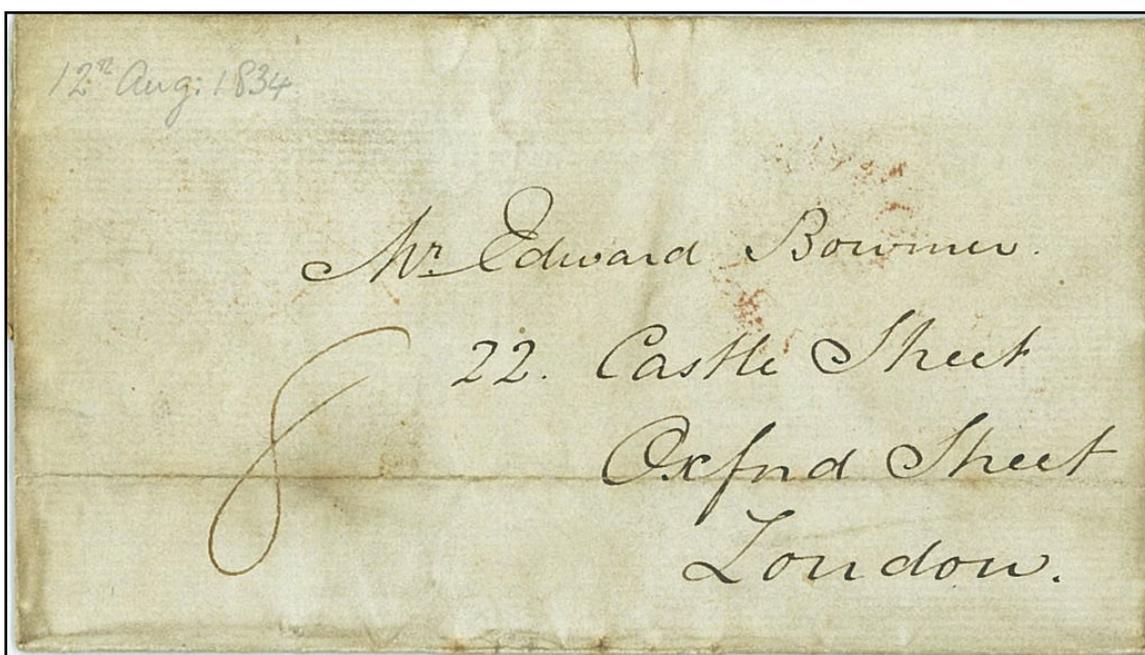


図1 郵便制度改革前の有料郵便 1834.8.12 ロンドン宛て書状 受取人より8ペンス徴収

(2) ローランド・ヒルの郵便改革

ヒルはウォーラスと異なり在野にあって郵便改革の必要性を訴えました。

彼は1837年に「郵便制度の改革その重要性和実行可能性」と題するパンフレットを発行しました。このパンフレットでは郵便料金の大幅値下げ（基本料金1ペニー）による需要の拡大、全国均一料金の導入、重量別郵便料金制度の導入、郵便料金の前払い制度の採用を提唱しています。

郵便料金の前払い制度では、郵便局での前払い、切手付き封筒・郵便書簡による前払い、前払いの証である小片を封筒に貼るの3案を示しています。

(3) 全国均一のペニーポスト誕生

全国均一料金の導入

ロパート・ウォーラスやローランド・ヒルの活動により1839年8月に法案が議会を通過し、1839年12月5日から郵便料金は全国均一となり、従来の距離及び手紙の枚数で料金が決定する方法から重量制になりました。

基本料金（1/2オンスまで）は4ペンスでした。この料金は1840年1月9日まで続きました。

1840年1月10日には料金が値下げされ、右の表の通り1/2オンスまでの基本料金は1ペニー（図2）となりました。ただし切手の発行は1840年5月1日まで待たねばなりません。

1840.1.10からの国内均一料金

1/2オンス未満	1ペニー
1オンス未満	2ペンス
2オンス未満	4ペンス
3オンス未満	6ペンス
4オンス未満	8ペンス
5オンス未満	10ペンス

*以降1オンス増す毎に2ペンス加算、最高16オンス（453.6グラム）まで

郵便料金前納制度の導入

郵便料金は全国均一料金制度が導入される以前は、基本的には受取人払いでした。高額な料金が払いきれない庶民が家族に自分の安否を知らせる為に、予め印を定めておき、異常が無い場合は受け取りを拒否したのも高額郵便料金の時代のことでした。

郵便料金が全国均一となると郵便料金は原則として前払いとなりました。ただし基本料金が4ペ

ニーポストの期間（1839.12.5～1840.1.9）は、前払いも受取人払いも料金は同じでしたが、1840年1月10日以降は受取人払いの場合、前払いの2倍の料金が徴収されるようになりました。

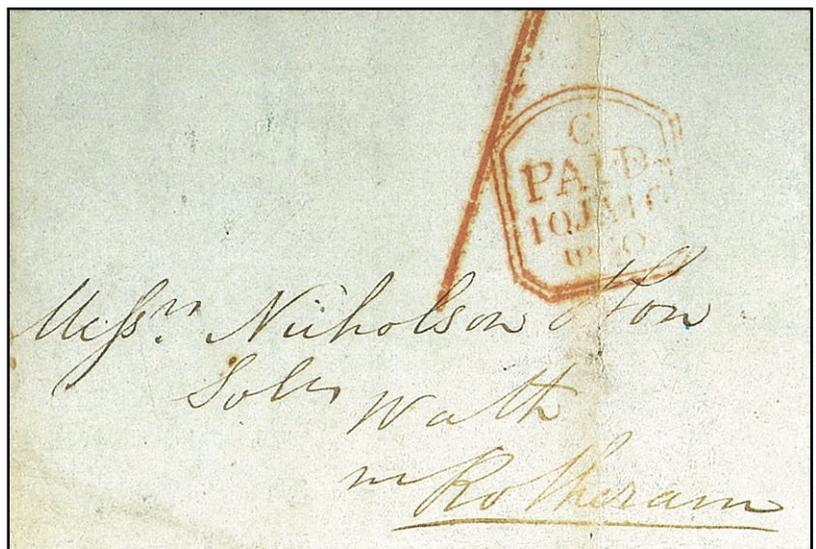


図2 1ペニー料金 初日使用例 1840.1.10

(Postal Reform & The Penny Black, Douglas N Muir, 1990 (以降Postal Reform誌と記す) より転載)

2. 切手のアイデアコンテスト

1839年8月に、ペニーポストと呼ばれる全国均一郵便料金のための法律が公布されましたが、大蔵省では具体的な郵便料金の前納方法について決定していたわけではなく、ローランド・ヒルのアイデアをほぼそのまま原案としました。具体的な方法については、当時合理的でフェアであるとされていた一般公募で募ることとし、8月23日に公募の告示がありました。

このコンテストには海外からの応募も含め、2,600件もの応募がありました。しかしながら、大半はステーションナリーのアイデアで、切手のアイデアと見なされるものは49点にすぎませんでした。

当初は最優秀作品に200ポンド、次席に100ポンドの賞金が予定されていましたが、最優秀に該当する作品は無く、以下の4作品が次席となり、それぞれ100ポンドを獲得しました。

- ・ ジェームズ・ボガディスとフランシス・コフィンの共同作品
- ・ チャールズ・フェントン・ホワイトティングの作品 (図3)
- ・ ヘンリー・コールの作品
- ・ ベンジャミン・シェパードンの作品



図3 (Postal Reform誌より転載)

選外の作品にもペニーブラックの参考となるアイデアがいくつもありました。ペニーブラックはこれらのアイデアの集合体と理解して良いと思います。アイデアの一例は以下の通りです。

- ・ 異なった額面のラベル作成
- ・ すかし入り用紙の使用
- ・ ラベルに日付印を押印 (図4)
- ・ 人物像の採用

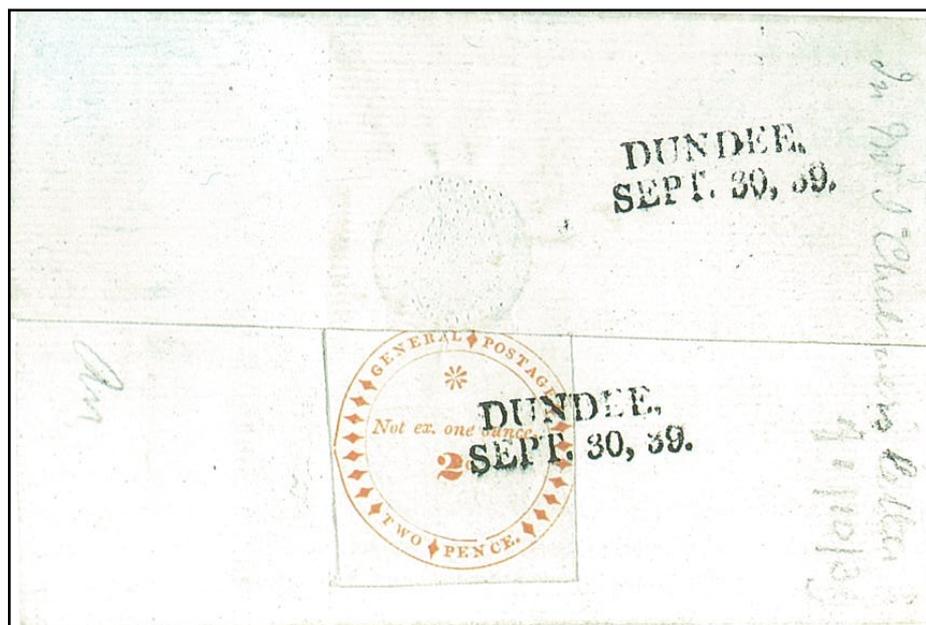


図4 日付印のアイデアも含まれる、ジェームズ・シャルマーズによる応募作品 (Postal Reform誌より転載)

3.ペニーブラックの誕生

コンテストでそのまま採用出来るアイデアが出なかったために、大蔵省ではアイデアコンテストの提案を参考に、前納の方法を考案することとなりました。

(1) 図案

アイデアコンテストには、有名な人物像を図案とすれば偽物が出た場合に判断しやすいとの考えがあり、ビクトリア女王をモチーフにした作品も応募されています。即位後間もない若い女王が図案に選ばれたのも当然の事と思われます。

図案はビクトリア女王が、ロンドン旧市街のシティーにあるギルドホールを訪問した記念メダル（図5）の中に彫刻されている女王の像が図案となりました。このメダルの彫刻は王立造幣局のウィリアム・ワイオンで、非常に芸術性の高いものです。



図5 (Postal Reform誌より転載)

(2) 印刷方式と原版

偽造防止の観点からローランド・ヒルは、彫刻凹版を採用する事とし、1839年12月16日に、当時最高技術水準を有していたパーキンス・ベーコン・ベッチ社へ原版の彫刻の発注を行いました。

切手のモチーフはピクトリア女王横顔ときまり、背景となる機械彫刻模様がきまった段階で、原板彫刻の準備が始まりました。彫刻はチャールズ・ヒースと息子のフレデリック・ヒースが行いました。

最初の原版（図6）は、1840年の1月に作成されましたが、彫りが浅く不採用になりました。



図6 (Postal Reform誌より転載)

次の版は2～3月に彫刻され、大蔵省は3月20日にこの版による実用版の作成を許可しました。原板からロール転写法と呼ばれる方式により転写された印刷版（＝実用版）は、横12×縦20の240面構成のシート（図7）でした。

また240の各面には、チェック・レターが入れられ、マージン部分には版番号と使用に際しての注意書き「価格はラベル1枚1ペニー、横一列で1シリング、1シート1ポンド。ラベルは宛名の上、手紙の右上に貼ること。裏を湿す時は、セメントがなくならないように注意しなさい。」が彫られました。

最終的に版は全部で11版作られました。詳細は後述しますが、いくつかの版には面白いストーリーがあります。たとえば、最初の版（1a版）は、焼入れせずに使用したため1週間ほどで摩耗してしまいました。そこで1a版には修復作業が施され、焼き入れ作業も行われました。こうして再度使用された印刷版により製造された切手を、1b版と呼び、1a版とは区別しています。

また11版はペニーブラックの改色切手（ペニーレッド）用に準備されましたが、ペニーレッド発行予定日以前に、ペニーブラックの在庫が底をつきかけたため、2日間だけ応急印制に使用されました。このため11版のペニーブラックは最も希少で、高価です。



図7 Proof Sheet (Postal Reform誌より転載)

(3) 印刷と発行

1840年4月16日からペニーブラックの印刷が開始されました。

印刷総数は、283,992シート、68,158,080枚です。

刷り上がったシートがロンドン中央郵便局に最初に搬入されたのは4月27日で、その後各地に配布されました。

切手の発売は1840年5月1日、使用が可能になったのは5月6日からでした。(図8)



図8 FDC 1840.5.6 (Postal Reform誌より転載)

ロンドン管内で初日に売られた

ペニーブラックは60万枚で、郵便利用者に好評を得たようです。

4. ペニーブラックの基礎知識

(1) 刷色

色は漆黒 (INTENSE BLACK)、黒 (BLACK)、灰黒 (GREY BLACK) の3種類です。一般的には初期印刷に漆黒が多く、版の摩耗が進んだ後期印刷では灰黒が多くなります。

(2) 用紙

小型の王冠透かし入り厚手無地紙が使用されました。

また1b版、7版、8版、9版、10版には、試験的に薄紙に印刷された切手が存在します。

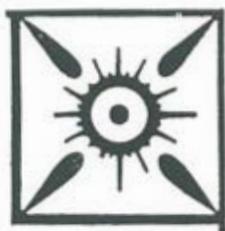
実は上記以外の版にも薄紙が存在しますが、これは前者の様な意図的な薄紙試用ではありませんでした。当時のイギリスでは紙の製造技術は発展途上であり、製造された紙の厚さが一定ではなく、厚い用紙もあれば薄い用紙もありました。最終的な納品物の重量はロットである一定の範囲の重さにとどめる必要があったため、厚い紙が多く重量が越えてしまいそうな場合に、熟練工が意図的に薄い用紙を使用し最終的な納品物の重量を一定の範囲に収めました。このような切手が時々見つかります。

(3) 印刷版 (実用版)

前述しましたように、印刷版は11版まで使用されました。各版の登録 (register) と破棄の年月日および特徴は、下記の一覧の通りです。

版	登録年月日	破棄年月日	版の特徴
1a	1840.04.15.		10 o'clock Ray Flaw (CL,RL,SL,TK,TL以外)
1b	1840.04.27.	1841.12.11.	リエントリー、ガイドライン多数あり
2	1840.04.22.	1841.11.19.	7 o'clock Ray Flaw, 7and 10 o'clock Ray Flaw
3	1840.05.09.	1840.10.	Ray Flaw, Re-entryなし : ベースライン細い。
4	1840.05.19.	1841.01.09.	多数切手にインクのシミ (汚れ) がある。
5	1840.6.1,11.	1841.11.	左側のフレームラインが細い。
6	1840.06.17.	1841.01.09.	3, 4, 5版の特徴を併せ持つが顕著ではない
7	1840.07.08.	1841.01.09.	AAからGLにのO Flaw(2nd Stage)あり。
8	1840.07.31.	1841.09.08.	AA~ OJに2nd Stageの、その他1st StageのO Flaw
9	1840.11.09.	1843.10.07.	版を補修する前は全てO Flaw (2nd Stage)あり
10	1840.12.08.	1843.02.21.	BE,BF,BH,BJ,BK,KBを除きO Flawあり
11	1841.01.27.	1842.01.15.	7 o'clock Ray Flaw (GE, GF以外の全てにあり) : square J, broad and short E

*1b, 2, 5, 8, 9, 10, 11版は、1841.2.10発行のペニーレッドの印刷にも使われましたので廃棄年月日が他の版と比べて遅れています。



Ray Flaw(7 o'clock) O Flaw (1st Stage) O Flaw (2nd Stage) O Flaw (3rd Stage)

(4) 版式別の実際

版の識別は上記の版の特徴に加えて、チェックレターの位置の特定により行われます。チェックレターは手作業により1文字1文字、活字を版にハンマーで打ち付けて入れられました。よって文字の位置はすべて異なりますので版式別の決め手となるわけです。

しかし、消印のかかりかたにより特徴が見えなくなり版の識別が出来ないものもあります。この場合の評価は低くなります。

(5) 消印

消印は有名なマルタ十字印が一般的です。色は赤と黒が一般的ですが、茶色、ピンク、青、マゼンタ、紫、黄色等も使われました。(図9)



図9 ピンク(左)と青(右)のマルタ十字印

またマンチェスターやプリマス等の地方で作成されたマルタ十字印(図10)、切手発行以前のペニーポスト印、日付印(図11)も例外的に使用されました。またマルタ十字印の後に使用された番号印(1844年から使用)も見られます。

赤と黒のマルタ十字印以外はいずれも少ない存在です。しかし赤のマルタ十字印は1841年2月に使用が禁止となった為に、赤のマルタ十字印が押印された10版は稀少、11版は大珍品となります。



図10 Manchesterで使用されたFish Tailの特徴のあるマルタ十字印

図11 Paid at Edinburgh

(6) 市場価格

ペニーブラックは1970年代に市場価格が大幅上昇した後は、30年近く安定した価格を維持していました。その間、円高が進んだため日本の収集家にとっては価格が下落し続けたのですが、その後、それまでの停滞を一気に取り戻す異常な高騰を見ました。

ペニーブラックも単片のVF状態で、2~3倍となり希少性の高いものほど価格は上がりました。英国初期の切手は状態による価格差が大きいので、参考程度でしかありませんが以下に現在の市場価格を示します。(編集部注 1ポンド=170円前後 [2014.9.7])

1. 使用済単片(マージンが広く、崩れのない押印。消印は最もありふれたものの価格)
200ポンド(1版b、2版、6版)~3,000ポンド(11版)
2. 未使用単片(印刷がフレッシュで、裏糊がラージパートオリジナルガムの価格)
3,000ポンド~
3. 使用済田型ブロック(崩れのないきちとした押印で、マージンの広い田型の価格)
5,000ポンド~
4. 未使用ブロック(印刷がフレッシュで、裏糊がラージパートオリジナルガムの価格)
25,000ポンド~

モリコー製 卓上押印機 試作機消印

鈴木 盛雄

押印機のメーカーというと、ユニバーサルや、インターナショナルと言った米国企業に加え、東芝、日本電気、日立が有名です。このような大企業と競い、郵政省に押印機を納入しているメーカーに「株式会社モリコー」（東京都目黒区、旧 森幸製作所）という企業があります。

同社は前身の会社、森幸電気製作所を大正13年に創立して以来一貫して逓信省・郵政省に関わるビジネスを展開してきました。押印機の納入も何度か行っており、新しいところでは1984年から試用されたM6型機や、1988年から試用されたG3型機があります。

両試用機はいずれも実用化されずに終わりましたが、1954年に同社が開発した卓上押印機（図1）は、設置に場所を取らない小型サイズで、中小規模の集配局への押印機の配備を進めたい郵政省の希望に沿うものでした。そして、1955年3月26日に4局への試験配備が行われた上で、1955年末～1957年にかけて202台が全国の郵便局に配備されました。

ところで、M6型機、G3型機、そして試験期間中の同社卓上押印機で使用された消印の特徴の一つに、丸い文字フォントとセリフ付きの数字があげられます。この特徴は収集家にとってもわかりやすかったのですが、1956年以降に試験配備4局含む各局に配布された証示部印影や年月日活字、時間帯や年賀表示部分等は、従来の押印機で使用されていた消印と同一規格のものであったので、後半は混合印がかなりあります。

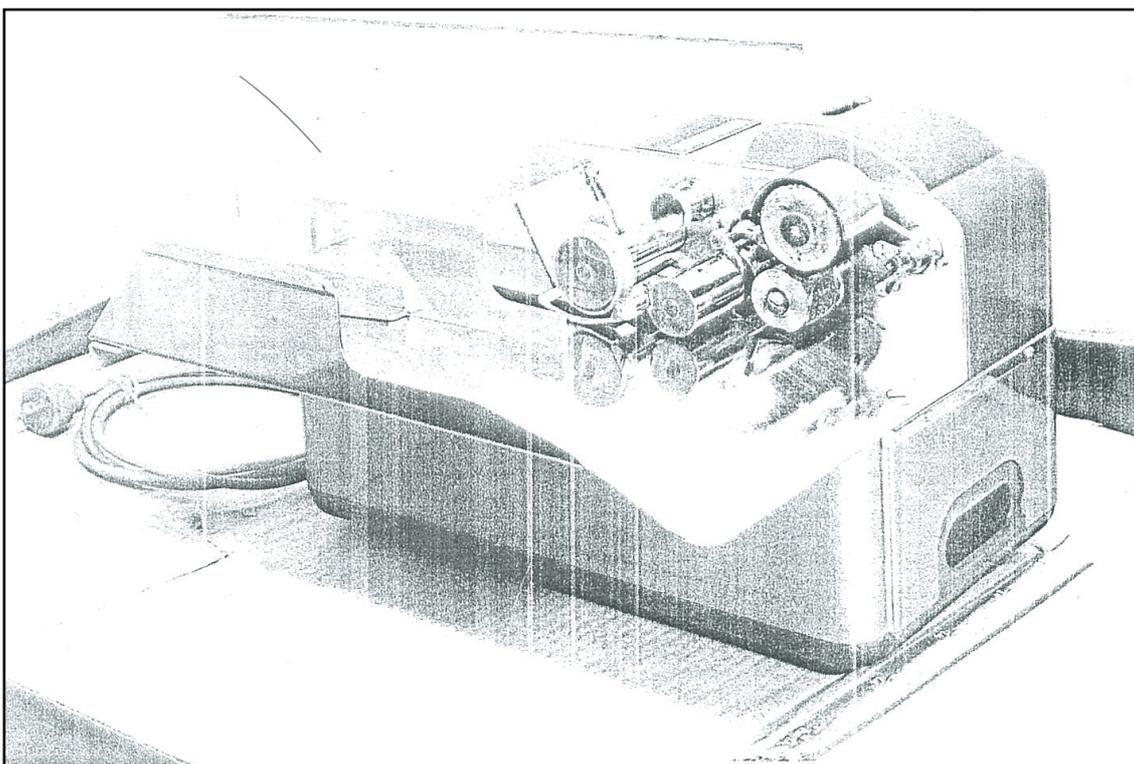


図1 モリコー製 卓上押印機

表1 モリコー製卓上押印機 試作機消印の一覧



図2 昭和
51.7.3

郵便局名	局名表示	局種	使用開始日	備考
国立	東京・国立	特定集配局	30.3.26	最初期 30.6.9
	国立	普通集配局	32.11.16	昭和60年代まで使用 (図2)
清瀬	東京・清瀬	特定集配局	30.3.26	最初期 30.5.6 (図3)
	清瀬	普通集配局	41.11.1	未発見
白子	三重・白子	特定集配局	30.3.26	非常に少ない
	白子	普通集配局	32.11.5	非常に少ない
古知野	愛知・古知野	特定集配局	30.3.26	カバー未発見
江南	愛知・江南	特定集配局	30.6.1	非常に少ない
	江南	普通集配局	33.4.1	少ない

なお試験配備4局（2ヶ月強で局名改称した後の「愛知・江南」含む）に配備された特徴ある証示部は、試験期間終了後も継続してそのまま使用され、国立局については昭和末期の使用例もあると聞いています。

従って同卓上押印機により押印された消印の内、証示部印影に特徴のあるものは表1の通りとなります。

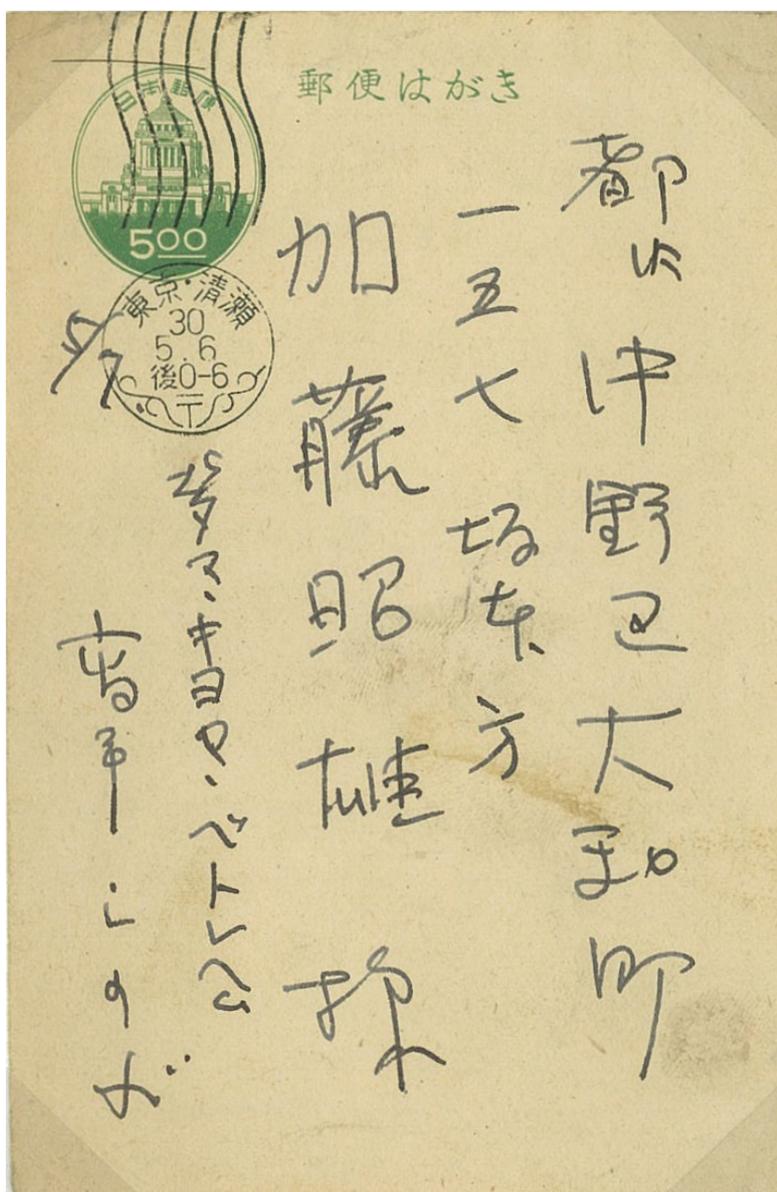


図3 最初期使用例 昭和30.5.6

著者がこの機械印に初めて会ったのは、キリスト教の10年前ボックスを漁っていた頃でした。JOCSでいつで切手の整理をしていたおじさん（私と変わらない年でしょうか）からよく買っていました。おじさんとは同年代？のせいか良く話もしましたし、結構おまけもくれました。

私の当時のお目当ては日立型機械印で、このボックスには必ず何枚か入っていました。日立型機械印の特徴である「セリフ付きの数字」に注目して整理をしていました。そうしたら特徴のある丸い数字が押された4円貝切手が見つかりました。「日立型機械印だ！」と一目で思いました。

しかし肝心の局名は「国立」でした。でも日立型機械印は国立では使われていないはず……。でも数字にはセリフまでついていました。この印のことは当時何も分からないし、文献を見ても載っていませんでした。そのまま20年くらい放っておきつつも、オークションで似たような印影が目につけば買うようにしていました。（10円縦ペアーに江南の機械印等）

こうして集まったコレクションを先輩のMさんに見せると、「折角これだけ集めたのだから資料をあげるからまとめなさい」と言われて高崎真一さんと郵趣研究に記事を執筆することになりました。もちろん一宮のMWさんとか現行消印のスペシャリストの助けを借りてです。もっとも本音を言うとローマ字入り以降が自分の守備範囲だと考えていたので、余り集めたくない分野だったのですが。

ちなみに消印の難易度については前ページの表にも書きましたが、台切手別で考えると、卓上押印機はそもそも葉書用に開発された機械なので、葉書や葉書額面の切手、たとえば5円（オシドリ・おながどり）、7円（新旧金魚）10円鹿あたりが主体かと思います。それ以外での狙い目は1円旧前島（加貼用）があげられます。また、昭和30年代はまだ年賀消印が省略されていなかったため、年賀はがきも集めやすいと思います。

ただし速達、書留などの特殊料金の使用例は滅多になく、封書額面の10円壁画や桜も、ありそうで全く出てこないもの一つです。（図4）



図4 国立 昭和37.1.18 *数字にセリフ無し

図版はありませんが、8円カモシカ・10円仏（はがきに加納貼り？）や7円発光に、国立局の印が満月に押されたものも見たことがありますし、後期ではテッポウユリ20円通常切手（1982年発行）に国立局の印が押されたものも有るそうです。凄い！白子と江南の2局には選挙印もあります。

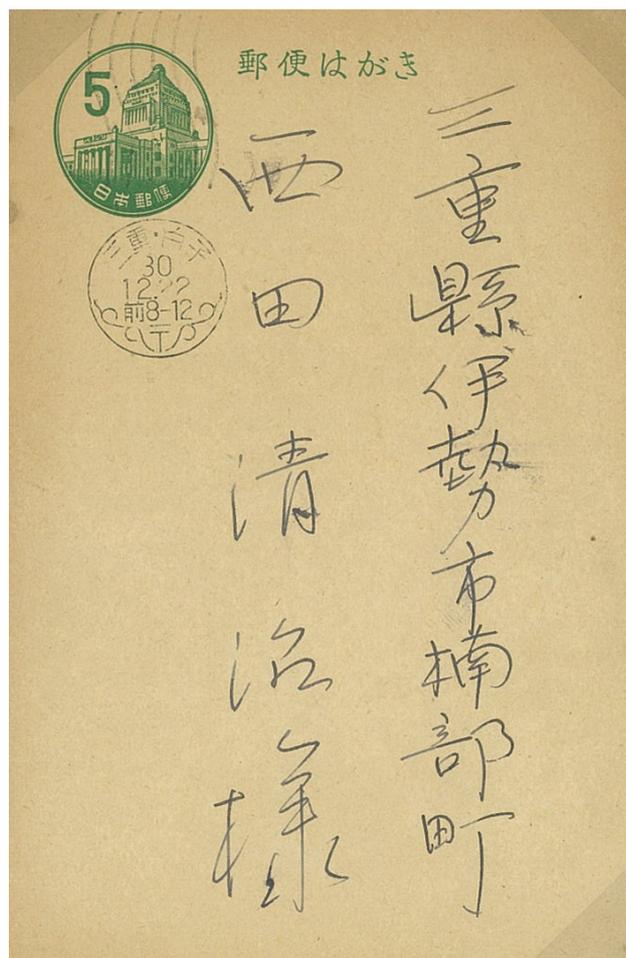
なお使用局別では2ヶ月強で局名が改称された古知野局の印はこの消印の一番の難関です。

いまだに局名だけ載った使用済みが一点見つかったりしています。

ちなみに古知野郵便局が、このモリコー製 卓上押印機の試験導入以前に機械印を導入した記録はありません。

最後になりますが、マルコフィリーの観点での消印の使用期間の追求はまだ始まったばかりです。最初期のデータは今のところ、東京・清瀬30.5.9（図3，2ページ前）と東京・国立30.6.8が追求できているだけです。この二例にしても卓上押印機の配備日が3月26日ですので、もう少し前の使用が出てきてもよい気がします。

今後データを蓄積していきたいと思いますので、お持ちの方は是非「私の報告・私の発表」宛に報告をお願いいたします。



三重・白子 昭和30.12.22 と愛知・江南 昭和31.1.22 の使用例

昭和31年の年号活字だけが、モリコー製活字でなく通常機械印で使用されているのと同じ

* なお本文中に対応する説明は特にありません

郵趣家便のススメ (第2回)

料金初日・最終日

水谷 行秀

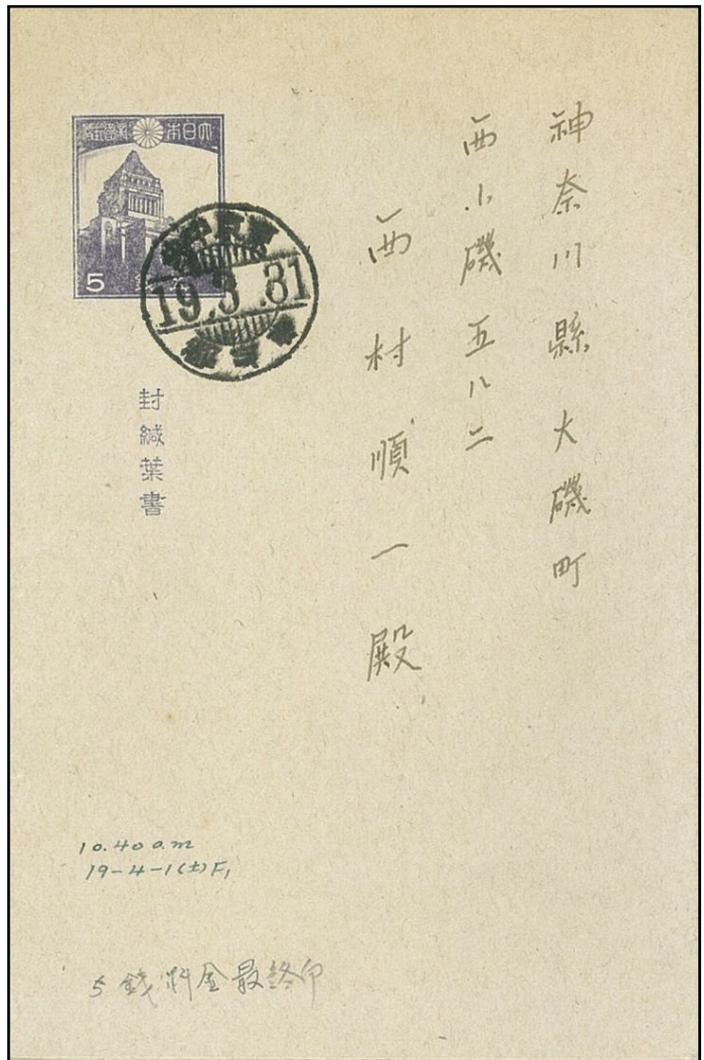
新切手初日のカバーであれば戦前からそれなりに郵趣家が作ってきたが、料金改正に伴う初日や最終日のカバーはしばらく意識されなかったようだ。また、料金改正と同時または先だって新料金用の切手やはがきが発売された例は数える程しかない。

戦前のそれらを列举してみると、下記の通り。

- ・ 明治32年4月1日 (はがき1銭→1銭5厘、封書2銭→3銭) 菊切手5厘、1銭、3銭、
旧楠公はがき、同往復はがき、緑・議事堂封緘はがき
- ・ 昭和12年4月1日 (はがき1銭5厘→2銭、封書3銭→4銭)
- ・ 昭和17年4月1日 (はがき2銭据え置き、封書4銭→5銭) 5銭目打あり封緘はがき
- ・ 昭和19年4月1日 (はがき2銭→3銭、封書5銭→7銭) なし
- ・ 昭和20年4月1日 (はがき3銭→5銭、封書7銭→10銭) 大型楠公はがき (3月31日)

明治32年の時の最終日・初日便は存在しているが、これまでに見たものは全て一般信で郵趣家便は作られなかったと思う。私見では昭和12年4月1日改正の際のものが最も古いものである。この6月3日締め切られたジャパン・スタンプ商会のメールオークションにひっそりと出品されていた (lot 5452)。これは楠公はがきの発行初日使用も兼ねているもの。

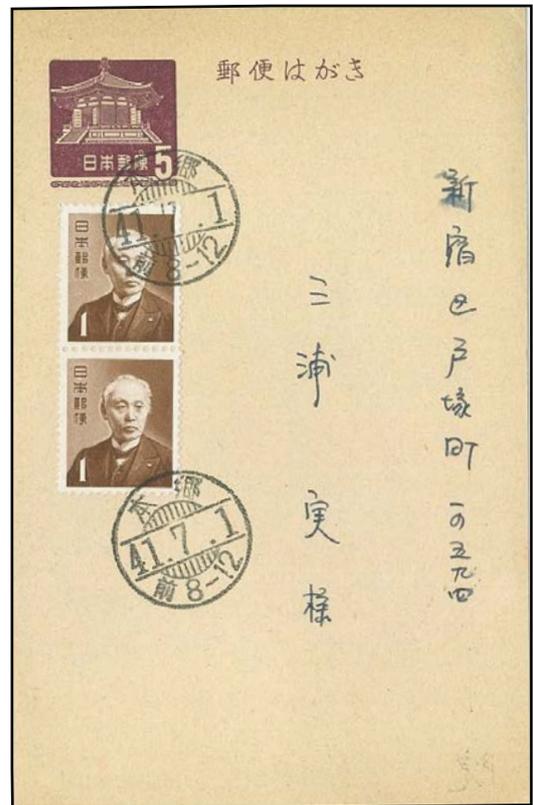
筆者の手元にあるもので一番古いものは昭和19年4月1日の改訂の際の料金最終日に差し出しされた5銭の封緘はがき (右図)。戦争中なのによくぞこんなものを残してくれたと思える好例。



戦後に入っても昭和30年代までは、料金改正に伴う郵趣家便はそれほど作られなかったようだ。

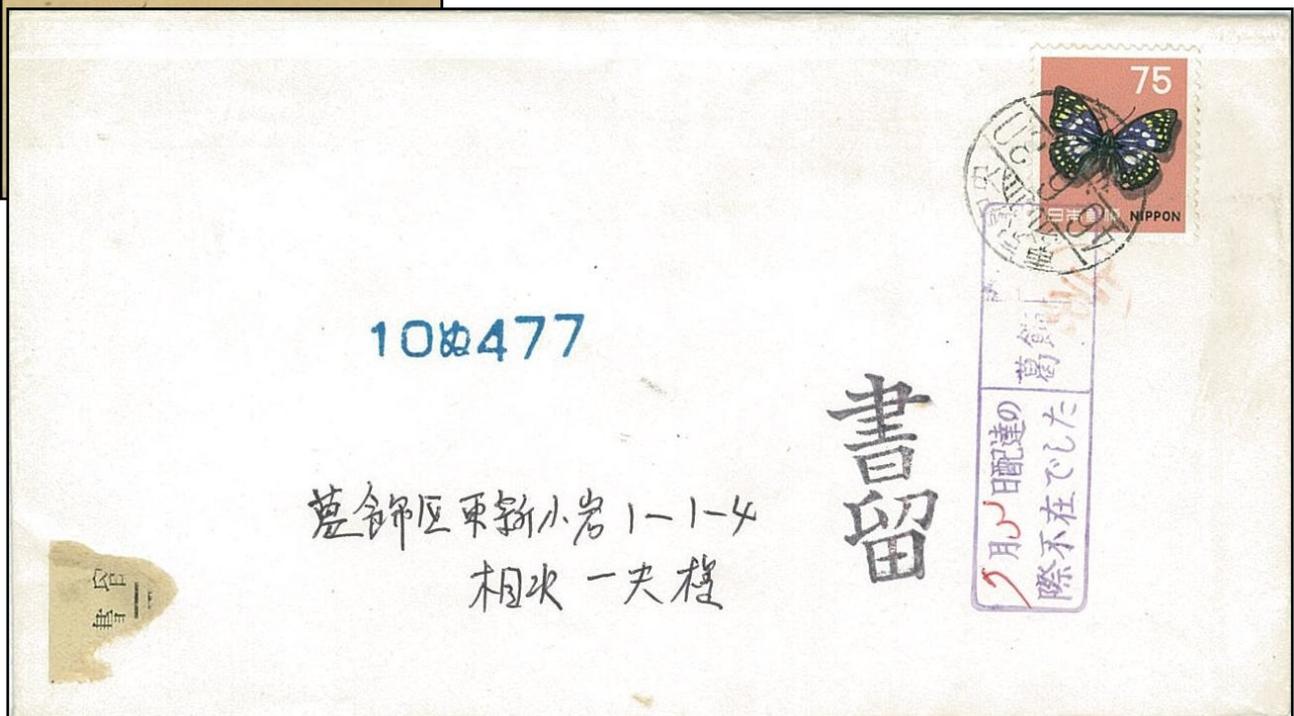
手持ちで出て来るのは昭和40年代から。それでも昭和41年7月1日のものは2通のみ。

1通は前回紹介した簡易書留。もう1通が右図のはがきとなる。裏面が真っ白なので郵趣家便と判断した。



昭和46年の特殊料金などの改正からそれなりに見かけるようになる。

下図は値上げ前の最終日。封書15円+書留60円の合計75円。左図は第3種便の初日便。12円のカブトムシは少々遅れ7月15日の発行なので、3円4枚でも止むなし。

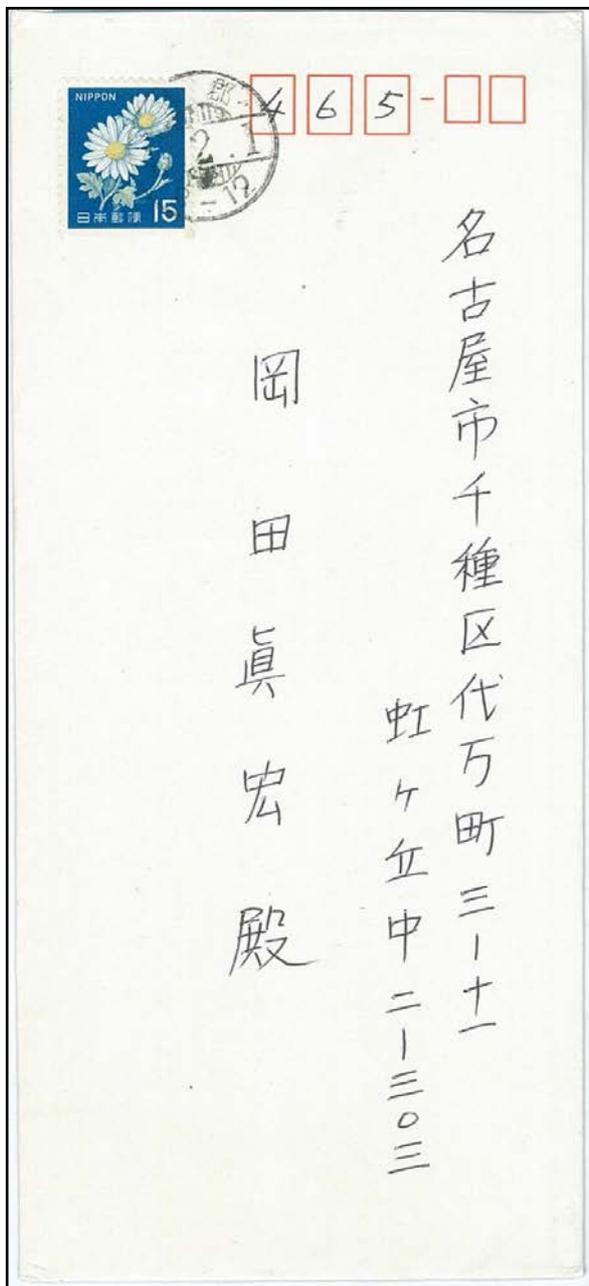
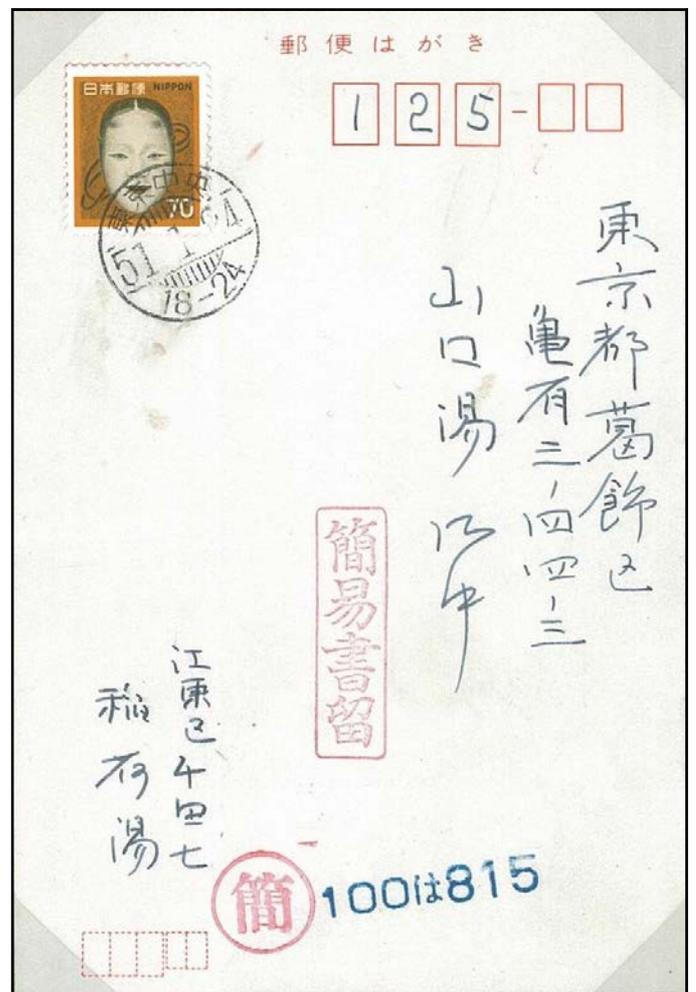
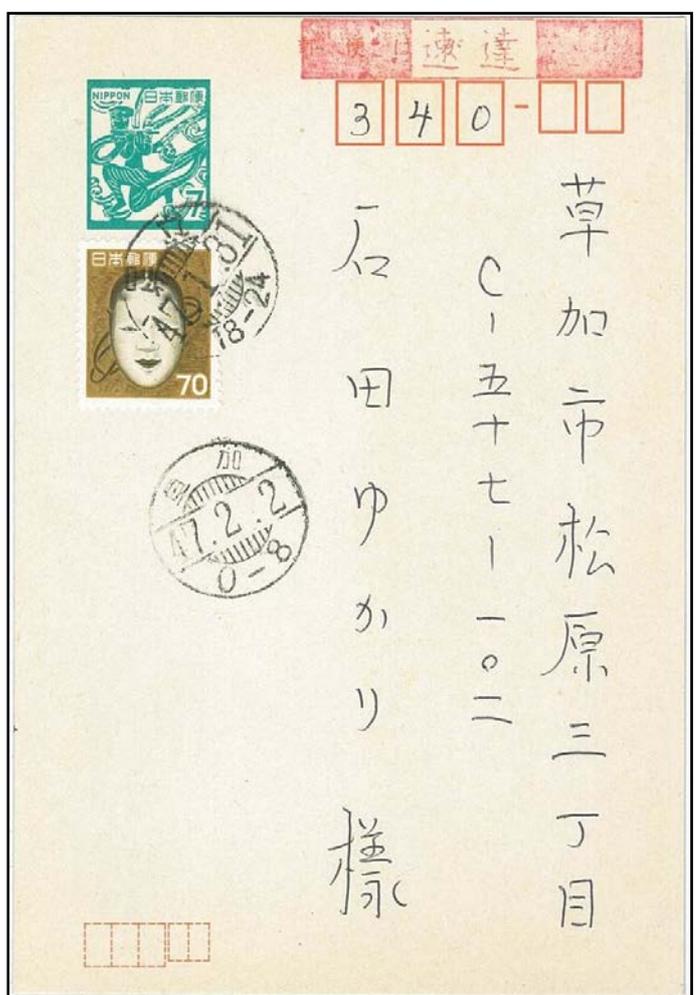


昭和47年2月1日改正絡みでは、右図が速達はがき。いわゆる7か月料金の最終日。

右下図は普通の時期でも少ない私製はがきの簡易書留。

左下図はサドル便。

旧料金15円を切手帳切抜き貼りで料金改正初日第1便にて集荷されたもの。



右図は初日使用の速達便。

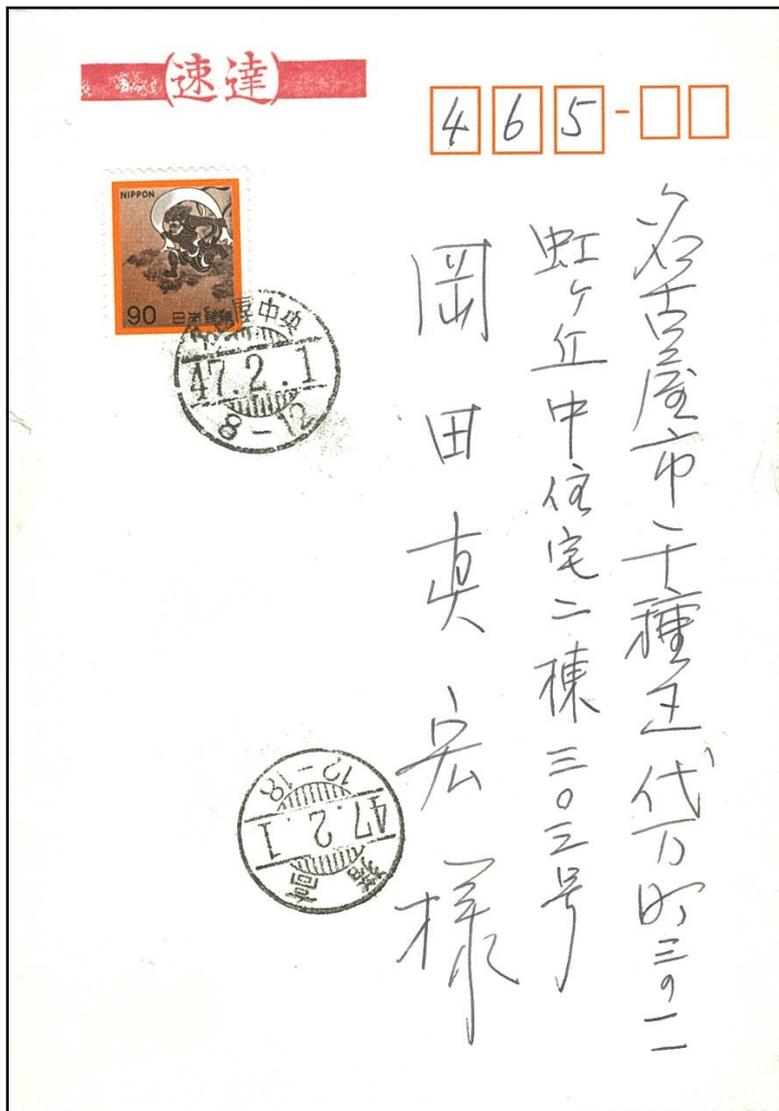
基本20円+速達料金70円。

定形重量速達のサドル便という解釈も出来るが、それを示す証拠は何もないので、ここでは初日としておく。もしサドル便なら価値は2ランクくらいアップするのだが。。。

下図は初日の書留便。

基本20円+書留料金100円。

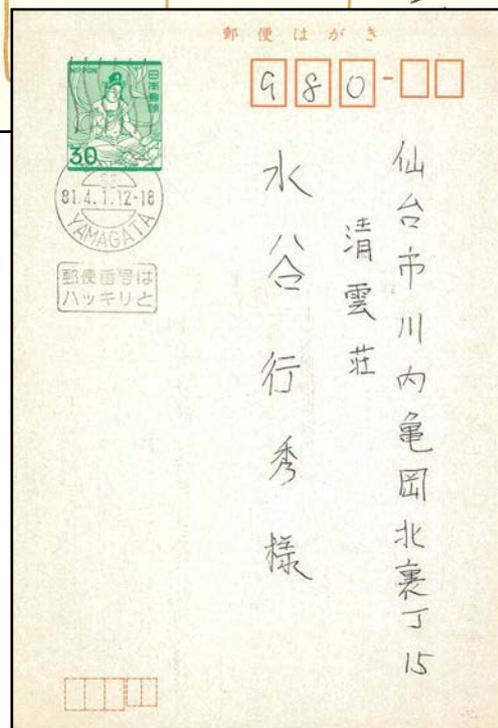
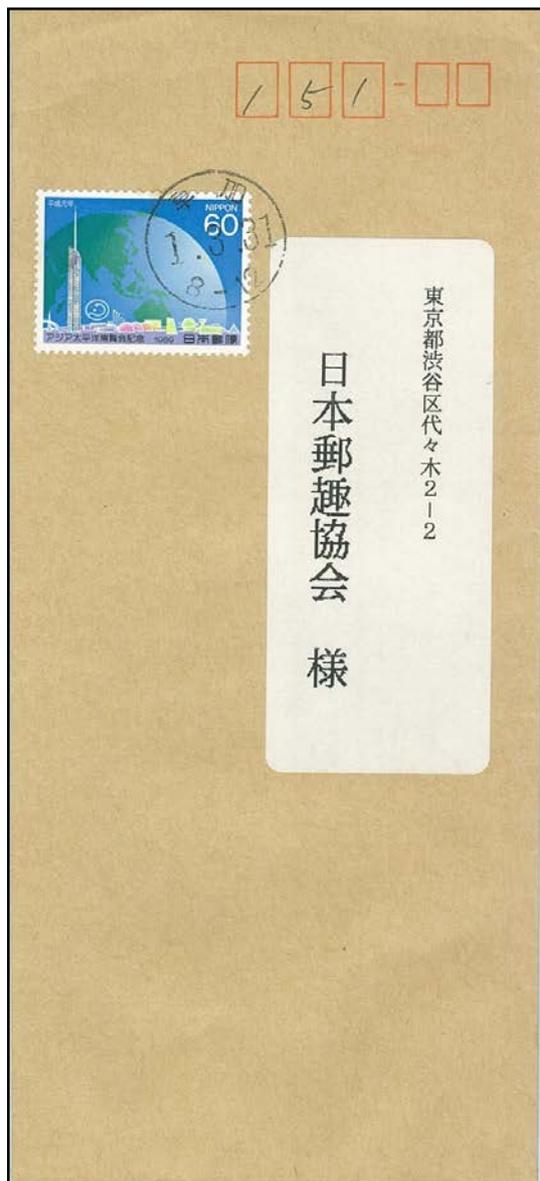
こちらはサドル便の可能性はない。何故なら速達と異なり書留ではポスト投函が出来ず窓口差出であったため、サドル便はあり得ない。



昭和51年1月25日には封書料金が20円から50円に上がる。右図はそのサドル便。
消印がこの頃にはほぼ姿を消した戦後統一型というのがポイント。渋谷では活字を損傷したの
だろうか、この一時期古い活字を引っ張り出して使用したことが知られている。

右下図は筆者宛で恐縮である。当時所属していた大学の切手研の後輩からの連絡。2ヵ月と10日しかない30円料金のはがきというのもいい。

左下図は平成に入り4月1日から消費税転嫁のため62円となる前日に差し出された最終便。貼付切手は3月15日発行のアジア太平洋博の記念切手で単独使用は16日間と短いもの。



最後に入手したばかりの珍しい外信便でのカバーを紹介しよう。

一連のカバーが出品されたジャパン・スタンプのオークションでの落札品が下図である。
これは航空増料金最終日となる日にアメリカ宛てに差し出されたものである。

実はこのカバーはその料金最終日というだけではなく、貼付切手がキジ航空59円白紙というものである。

この切手はアメリカを含む第3地帯宛の航空書状用の増料金として昭和26年10月に出現したが、11月末を以って統合料金となったのでお役ごめんとなってしまった。

1-2ヶ月しか適正期間がない上に従来の粗白紙のものが残っていたため、この適正使用はそれなりに少ない。

この切手には更にポイントがある。それは粗白紙と白紙の区別が難しいことだ。

「何となく白紙っぽい。」とは言えても「100%白紙だ。」とはなかなか断言出来ないと思う。

事実私が所有するキジ航空59円切手で1951年10月以降の消印があるものを区別しようと試みたが、未だに判断が付き兼ねるものが複数ある。カバーに貼られた状態では尚更であろう。

しかし、その中で100%区別が出来るものがある。それは銘版付きの切手である。粗白紙のものは旧庁銘、白紙のものは新庁銘となっている。このカバー作成者がそこまで意識して作られたのか分からないが、お陰で白紙と断言出来るカバーが無事残された。



戦後日本の郵便史（3）

行徳 国宏

第3章 昭和24年の郵便事業経営問題と郵便諸制度の創設

第1節 昭和24年度の郵便事業経営問題

1 郵便事業独立採算制の問題

24年度は、郵便事業に関して大きな2つの改正があった。一つは独立採算制の採用で、もう一つは逓信省の二省分離の問題であった。

郵便事業は財政的に苦境にあり、事業収入が予想に反して思わしくなく、23年7月10日に郵便料金改正（値上げ）を行ったばかりであったが、赤字が続いた。

10カ月後の24年5月1日に郵便料金が再び値上げされた。書状料金は5円から8円に、葉書料金は2円に据置かれたものの、特殊料金では書留料金が20円から30円、速達は15円から20円、配達証明、内容証明や特別送達料金は各々30から45円に値上げされた。特殊料金を実額で見れば大きな値上げとなった。

「経営の合理化、郵便業務取扱の簡素化、物件費の節約、集配運送施設の機械化等の策が取られた。その総支出の半分以上を占める人件費の節約が注目された。23年から実態調査が進められ、新能率による合理化定員数が出された。」（注3）「郵政事業この1年間を顧みて」『郵政』第1巻第5号、24年12月号、20～32ページ）

第2章第1節に22～23年度の郵便事業収入支出額を掲載したが、23年度の収入支出額を一見すればお分かりのように、総郵便事業収入75.77億円に対して総郵便事業費118.29億円であり、欠損額が42.52億円であった。

表1 昭和24～25年度郵便事業種入試種額（単位；百万円）

科目/年度	昭和24年	昭和25年
総郵便事業収入	14,708	17,296
純郵便事業収入	14,708	17,418
電通繰入	0	122
総郵便事業費	15,766	18,301
郵便事業直接費	14,901	16,930
総経費分担額	865	1,371
差引欠損額	1,058	883

「会計報告」を受けていた連合軍CCSは、総事業支出に占める郵便事業直接費（人件費）の割合が62%と過半額を超えることに対して、定員数にメスを入れることになった。

後述する25年度の事業経営問題のこともあるので、24～25年度までの郵便事業収入支出額（総額）を示しておきたい。」

（『郵政事業経営の史的考察、郵政会計』郵便事業資料編第1分冊、昭和32年、26～32ページ）

表2 戦後の赤字補填額推移
(単位；百万円)

年度	一般会計から繰入	公債借入額
21年	1,530	1,762
22年	4,613	6,809
23年	7,858	12,996
24年	412	—
25年	1,283	—
26年	2284	—

さらに、戦後の赤字補填額が発表されているので、年度別額を引用した。(出所：全逓信労働組合編「郵便遅配の原因と問題点」中の「戦後の赤字補填額」52ページ)

26年11月郵便料金値上げとともに、27年度から「独立採算」制が取られた。

2 二省分離の問題

当初は逓信省設置法を一部改正する一省二総局案を検討していたが、23年7月22日にマーカッサー書簡が出されると、最終的にはマ書簡の趣旨に基づいて所管する業務を郵政関係と電気通信関係との両部門に分離することになった。

マ書簡による二省分離に関する指示は

「(抄) 鉄道、煙草の専売など政府事業による公共企業体とは異なり、能率増進のために逓信省の完全な再編成を実施することが望ましいと信ずる。その為には政府の郵便事業を他の業務から切り離して逓信省に代って内閣の内部に二つの機関を設置することが考えられる。」

とあり、政府のマ書簡に対する基本態度は、

「○鉄道、専売はパブリック・コーポレーションの形をとる。

○逓信事業は公共事業体とならず、二つの機関として内閣に属するものとされる。公務員として従来の労働組合運動はできず、従って団体交渉権もない。」だった。(以下、『郵政事業経営の史的考察』郵政会計、郵便事業資料編第1分冊、42～43ページ)

そして、郵政省発足と同時に直面した最大の課題は行政整理の問題であった。

行政機関職員定員法案が5月31日法律第126号をもって国会を通過成立した。郵政省は電話・電信部門を郵政事業から切り離すことになった。

同法により郵政事業の新定員は6月1日に260,655人と定められ、9月30日までにその過員18,556人を整理することになった。被整理者の救済策として「郵政省職員退職者就職斡旋委員会」が設置され救済にあたることになった。各郵政局別の整理人員は表3の通りであった(整理総数1,000人以上の地方郵政局のみを引用し、その他に長野、札幌、金沢及び松山郵政局の合計を表示した、筆者)

表3 郵政局別行政整理人数

地方別	整理総数	内希望退職	その他
本省	187	145	42
東京	3,371	1,785	1,586
名古屋	2,160	1,556	604
大阪	2,463	1,433	1,030
広島	1,373	577	796
熊本	3,155	1,921	1,234
仙台	2,149	1,637	512
その他	3,698	2,398	1,326
合計	18,556	11,426	7,130

こうして、定員法によって定められた総定員数であるが、24年度以降36年までの郵政事業年度別総定員数が発表されている。総定員数のうち、郵政業務関係定員とそれ以外の電気、貯金、保険などの定員数合計を27年度分まで一覧表にしてみた（同、30～34ページ）。

表4 郵政事業年度別予算定員内訳推移（単位：人）

	24年	25年	26年	27年	28年
総定員	267,503	260,655	259,874	245,917	252,178
郵便業務	76,304	75,484	75,984	73,687	73,687
郵便以外	191,199	185,169	183,890	172,230	178,491
対前年度増減	▲32,215	▲6,848	▲784	▲13,957	6,261

「郵便以外」は電気、貯金、保険、管理、建設、貯蔵品、医療施設、他業務を合計した定員数。

また36年までの年度別予算定員内訳一覧表中、特記したい定員数の増減は以下の通りである。

- ・ 24年6月1日 行政機関職員定員法が制定。第1次行政整理で32,215人減となったときの総定員数を示す。うち、全郵政局の整理員数は表3の通り。
- ・ 27年1月1日 同第2次行政整理で13,378人減となった。
- ・ 28年8月1日 軍人恩給の復活、電通集金要員定員化などで5,548人増となった。
- ・ 29年6月17日 第3次行政整理で66,655人減となったが、電話関係の拡張等による増員があって、結果は2,927人減となった。（以下略）

引受郵便物数は24年度30億通、25年度35.23億通、26年度39.28億通、27年度39.02億通、28年度42.92億通と漸増したが、総定員数はむしろ減員されていた。

3 郵便物取扱い数の動向

23年7月10日と24年5月1日の郵便料金値上げは、取扱い郵便物の動向に影響を与えた。

そして23年度の最低5%増を見込んでいた24年度予定収入にも影響を及ぼした。

前年度に比べて増加しているものは、第2種、第3種、第4種及び普通小包であった。特に第4種の増加が著しかった。逆に、第1種、普通速達、書留の取扱い通数が減少している。これは、24年5月1日の郵便料金値上げが大きかったことを示している。

表5 4月～7月の郵便物数比較（単位：千通）

	23年度	24年度	増減	割合
第1種	271,202	218,656	▽52,545	▽19.4
第2種	305,092	310,127	5,033	16.6
第3種	92,267	132,030	10,923	9.0
第4種	40,897	71,184	30,287	74.1
普通速達	25,261	18,655	▽6,606	▽26.1
書留速達	2,935	1,835	▽1,101	▽37.5
書留	22,068	19,011	▽3,057	▽13.9
書留保険付（小包）	7,842	6,793	▽1,048	▽13.4
普通	2,705	4,503	1,797	66.4

（出所：青木亮「最近の郵便の動き」（通信協会雑誌24年7、8月号、9～10ページ）

4 増収対策—記念切手の発行

23年に引き続き増収のため、記念切手の多種発行が続けられた。24年発行の記念切手の売捌状況（単位:万）を表6に掲載する。
注記；総収入額、純収入各欄は省略。

出所：郵政事業経営の史的考察（郵便関係第1分冊）中央郵政研究所、昭和32年60～61ページ。

5 郵便サービスの向上改善策

5.1 郵便物送達施設の整備

郵便事故は依然として多く、郵便送達速度が戦前の水準にはまだほど遠かった。24年中に実施されることになった郵便サービス向上改善の内容及び郵便事業の増収策として施行された項目を時系列的に取り上げる（以下「通信文化新報」より）。

まず、郵政当局が郵便物の迅速な送達サービスを図るために採った種々の施策事例を述べてみる。

(1) 主要駅ポスト増設、郵便送達時間の短縮

「停車場にポストを置いてこれに入れられた郵便物を直ちに鉄道郵便車で送達し速達化を図る取扱制度は、戦中、戦後は一時休止せられていたが、長野、名古屋、金沢、大阪、広島、札幌の六逋信局で24年2月15日から復活した。逋信省はさらに旅行者の利便を図るため急行列車停車駅その他主要駅のホームにポストを増設させ、郵便規則第46条による収集を行うことになった。収集を行うのは鉄郵駐在員又は受渡局逋送員である。東京、松山、熊本、仙台の四逋信局でも準備が整い次第この取扱いを復活する予定である。」（24年3月19日付）

24年10月15日、主要停車場ホームに郵便差出箱150個を増置して郵便車と直結を計った。

「24年度逋信サービスの復興目標の一つとして閣議了解ののち経済安定本部が発表した東京から主要都市への郵便所要時間と短縮できた時間（前年度と比較しての）は、札幌まで65時間・8時間、仙台まで41時間・8時間、名古屋まで41時間・4時間、大阪まで41時間・4時間、熊本まで65時間・4時間及び東京都区相互間は6時間乃至26時間で、1時間乃至12時間短縮」となっている（24年6月22日付）。

表6

昭和24年度特殊切手売捌状況

名称	額面	発行数	売捌数
第4回国体水上	5円	300	295
雪滑	5円	300	285
日本貿易博	5円	500	450
岡山博覧会	10円	50	35
松山博覧会	10円	50	35
高松博覧会	10円	50	27
長野博覧会	10円	50	25
国土緑化	5円	300	283
こどもの日	5円	300	285
犬山博覧会	5円	200	162
電気通信展	20円	15	14
气象台75年	8円	300	265
逋政省設置	8円	300	266
広島平和博	8円	200	174
長崎文化都市	8円	200	172
第4回国体水泳	8円	300	263
ボーイスカウト	8円	300	266
新聞週間	8円	300	283
万国郵便連合	2円	300	264
	8円	300	273
	14円	100	94
	24円	100	93
同組合せ	10円	100	82
緯度観測50年	8円	300	262
第4国体増刷4種	8円	800	722
郵便週間	8円	200	172
吉野熊野国立	2円	500	482
	5円	500	482
	10円	100	93
	16円	100	93
	40円	20	15
富士箱根国立	2円	500	485
	8円	500	485
	14円	500	485
	24円	500	485
	55円	20	11
別府観光	2円	500	250
	5円	500	260
文化野口	8円	3,000	300

(2) 六大都市間の速達郵便を特急列車で送達

「国鉄では24年9月15日から東京大阪間に特急「へいわ号」（下り:11列車、上り:12列車）を運転し、六大都市相互間の速達郵便物を「へいわ号」に託送することになった。各駅で搭載する郵便物は次の宛先のものである。

・ 下り 11列車

東京駅、横浜駅；名古屋、京都、大阪、神戸宛

名古屋駅；京都、大阪、神戸宛（神戸以西は搭載しない）

・ 上り 12列車

大阪駅、京都駅＝名古屋、横浜、東京宛

名古屋駅＝横浜、東京宛（横浜以東は搭載しない）」

(3) 東京駅構内に鉄郵の分局舎設置

「東京駅構内に東京鉄道郵便局の分局局舎を二階建てで新設し、さらに現在の五番ホームに地下道を設け、局舎との連絡を図ることになった。完成は25年4月頃になる模様である。」

(4) 青函航達始まる

「青函連絡船による郵便車航達は9月15日の国鉄ダイヤ改正によって実施。下り第1便は東京15日午前8時30分発の連結郵便車で、上りは旭川15日午後1時13分発連結郵便車で、それぞれ真夜中に航達される。このダイヤ改正によって東京札幌間の郵便通達は従来の35時間程度であったものが28時間程度に短縮される。

・ 下り 101列車

上野発8時30分－青森着23時40分－函館着5時10分－札幌着12時27分－旭川着15時25分

・ 上り 102列車

旭川発13時13分－札幌着16時06分－函館着22時47分－青森着4時30分－東京着21時00分」

（(2)～(4)は24年9月10日付け同新報）

(5) 集配施設の整備

郵便物輸送施設の整備が進められ、新式鉄道郵便車6両が発注され12月上旬に稼働予定。

本年度初頭より集配能率化のためにスクータ試用を実用化する。

小包配達用三輪車300両の配備を取り運び中。

郵便物運送事故の防止措置として封鉛の使用を普通局全部に拡大した。

通信日付印の形式を改正した。（別途説明する）

出所：「郵政事業、この1年を顧みて」（『郵政』第1巻第5号 24年12月月号 20～32ページ）

5.2 郵便サービス、各種郵便制度の新設等

以下は24年中に実施された郵便サービス、各種郵便制度の新設を時系列的に述べてゆく。

24年1月15日 郵便局における郵便窓口取扱時間

郵便局の平日及び日曜日と休日における取扱い時間を以下のように定めて、郵便サービスを実施することになった（通信公報第380号）。

郵便局種別	平日	日曜日及び休日
普通局	午前8時～午後8時	午前8時～午前12時
集配特定局	午前8時～午後6時	午前8時～午前12時
無集配特定局	午前8時30分～午後5時	取扱わない

24年2月16日 「都内速達郵便制度」の開始

「都内速達郵便制度」について最初の発表は、荻原海一氏の「占領下における速達郵便」（『全日本郵趣』1990年2月10日号、8～16ページ）であった。

「当局はその効果を測定しやすいよう各郵政局別に特別の証示印を作成した。東京通信局の場合、速の文字を楕円形で囲った印を使用した。」

この発表により、「速」の文字を楕円形で囲った印が収集紙上に初めて発表された。

「しかし、何時から使用開始し、何時まで使用されたかについての根拠資料がはっきりしなかった。現物を所蔵する会員収集家が現物を持寄り開示したことにより、この種の速達郵便の存在が公開される形になった。」

（『いずみ』誌第81号と第82号（森賀節行氏編集、平成9(1997)年6月と7月号）

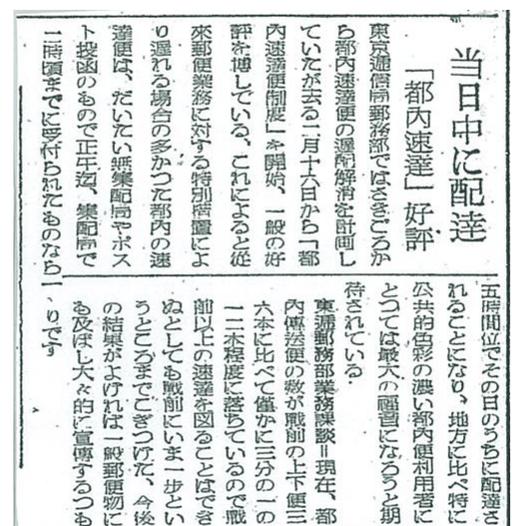
今回、筆者が平成24年になり発見した、都内速達郵便制度について記載された「通信文化新報 昭和24年3月2日付け」を紹介する。これでようやく全容が明確になった。（右下図：以下引用）

「当日中に配達〔都内速達〕好評

東京通信局郵務部では、さきごろから都内速達便の遅配解消を計画していたが、去る2月16日から〔都内速達便制度〕を開始、一般の好評を博している。

これによると、従来郵便業務に対する特別措置により遅れる場合の多かった都内の速達便は、だいたい無集配局やポスト投函のもので正午迄、集配局で2時頃までに受けられたものなら5時間位でその日のうちに配達されることになり、地方に比べ特に公共的色彩の濃い都内利用者にとっては細大の福音となると期待されている。

東通郵務部業務課談＝現在、都内伝送便の数が戦前の上下便36本に比べて僅かに三分の一の12本程度に落ちているので、戦前以上の速達を計ることはできぬとしても戦前にいま一步というところまでこぎつけた。今後の結果がよければ、一般郵便にも及ぼし、大々的に宣伝するつもりです。」



なお、この都内速達郵便制度が何時まで使用されたかについて、筆者は次の様に考えている。

24年8月1日に、東京大阪間において取扱い開始されていた「特別速達郵便」が、地方八大都市間において取り扱われるよう拡大された。

このとき、「特別速達郵便」が東京都区内にも取扱い拡大になったので、主題の「都内速達郵便」はもはや取扱いの必要がなくなり、廃止されることになった。

図26は24年5月2日引受けの都内杉並区荻窪宛である。最初は4月28日に差し出されたが検閲にまわされ、5月2日に改めて引き受けられている。

24年5月1日 通信教育郵便取扱い開始

教育の民主化と機会均等に資する目的で、文部省と都道府県教育委員会の認可設定を受けて、通信による教育（「通信教育」という。）を行う学校又は法人とその受講者との間に通信による教育を行うため、通信教育郵便の取扱いを開始することになった。

その郵便物は第4種郵便の中に低料金（100gまで3円）で設定された。この郵便物の表面には学校法人又は「文部省認定通信教育」の文字を表示することになった。受講者に送付するものは教材、学習報告書用紙、質問書用紙、添削した学習報告書等であった。

図27は新潟大学教育学部通信教育支部差出しで、「通信教育」の青色ゴム印が押されている（新潟26,7.28。）。

24年6月1日 「郵便切手類及び印紙売捌所」法の制定

一定の手数料を支払って郵便切手類及び印紙を売捌く人を選び売捌き業務を委託する制度が法律で制定され、24年6月1日から施行された。



図26

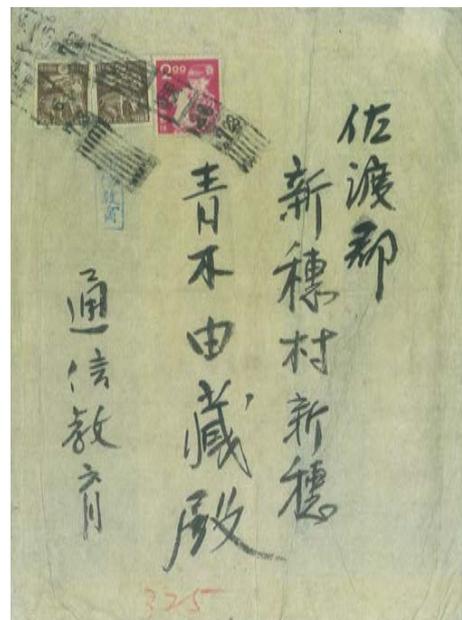


図27

24年7月15日 簡易郵便局の創設

(この項は注8、注9及び25年7月15日付け郵政省令第7号を出典とした)

第5回特別国会を通過した簡易郵便局法は6月15日公布、7月15日より施行された。

郵便業務のサービスを受けることが困難な地方において、簡便な郵便窓口業務を普及させて利用者の不便を救済するため、簡易郵便局制度は、郵政大臣が郵便窓口業務を地方公共団体又は農協協同組合、漁業協同組合若しくは消費生活協同組合に対して契約によって郵便業務を委託させ、これら受託者が簡易郵便局を開設して委託業務を一般の郵便局と同じように取扱わせるものであった。

委託業務の範囲は、郵便、郵便貯金、郵便為替、簡易生命保険及び郵便年金であった。24年度中の設置は当初は300局であったが、その後地方からの要望も相当あったので、郵便局ではさらに185局を追加設置することになった。公共団体と3協同組合別各郵便局別開設局数は485局となった。その内訳は以下の通り(24年10月12日と25年8月2日付け通信文化新報を組み合わせた)

表7 各郵政局別簡易郵便局の開設

郵政局名	当初設定	追加	合計	公共団体	3協同組合
東京郵政局管内	35	0	35	14	21
名古屋郵政局管内	35	25	60	22	38
大阪郵政局管内	30	0	30	19	11
松山郵政局管内	25	20	45	12	33
仙台郵政局管内	35	30	65	39	26
長野郵政局管内	20	10	30	21	9
金沢郵政局管内	20	20	40	28	12
広島郵政局管内	40	30	70	45	25
熊本郵政局管内	40	40	80	39	41
札幌郵政局管内	20	10	30	7	23
合計	300	185	485	246	239

簡易郵便局制定の背景を探る中で次の記事を発見した。

「24年度予算において、定員法に基づいて前年度予算定員は約18,600人の減員となっており、更に定員法による定員と前年度予算とを比較すると約24,000人の減員となっている。現在の無集配特定郵便局を維持するにしても事業の採算を考慮しなければならなかった。窓口業務量の多いと予想される地域にあっては、原則として無集配特定局を以てしてきた。

しかし、特定局制度は新しい社会情勢に即して創始当時のものとは内容が著しく改変し、定員、経費、局舎、備品等すべて直轄化され、普通局と実質的には異なるものがなくなった。

従って、特定局の増設には予算的に相当の制約が伴う。

簡易郵便局の制度はこの様な制約を離れて、政府直轄の機関としてではなく政府以外の一定の団体と契約して或範囲の窓口サービスを行わせようとするものである。

25年度の簡易郵便局設置計画数は全部で500局であるが、そのうち第1次分は148局がこのほど決定した。各郵政局別決定数は、長野13局、名古屋25局、広島14局、松山10局、熊本30局、仙台37局及び札幌郵政局19局である。」（24年10月12日付け通信文化新報）

図28には書留番号票に簡易郵便局の表示がされているもので、29年11月1日秋田幡野局引受の書留便である。

消印同好会東京グループが編集発行した『全国簡易郵便局一覧表』（昭和51年刊）があるので、簡易郵便局名を調べたい方は参考にされたい。

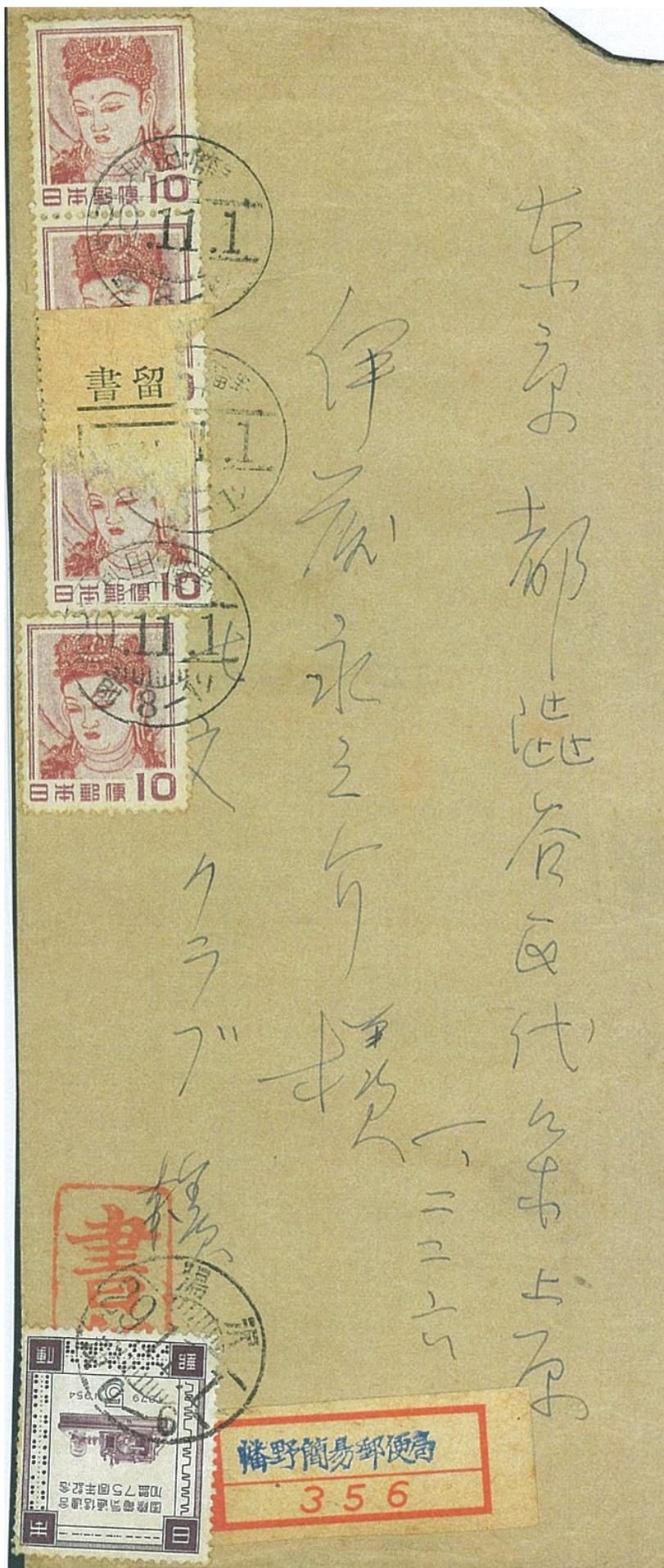


図28

24年8月 暑中見舞いの勸奨

増収策が種々計られたが、最も効果を上げたのは暑中見舞いの勸奨であった。

24年8月中に約2,500万通、5千万円の収益を上げた。季節の行事を郵便事業に取り入れた新しい試みとなった。こうした体験は年賀郵便の取扱いに生かされることになった。

24年8月1日 「特別速達郵便」の八大都市への取扱いの拡大

東京大阪間を夜行列車で輸送されていた特別速達郵便は、その後輸送方法の改善が進んでいたことに加え、経済活動が活発化してきた地方都市でこの取扱い方が強く要望されるようになり、8月1日から三大都市と地方の六大都市相互間にもこの制度を拡充し、郵便のサービス改善を図り速達郵便をより正確迅速に送達することになった。

その取扱い地域は、▽京浜地区（東京都区、横浜市、川崎市）、京阪神地区（大阪市、京都市、神戸市）及び名古屋地区（名古屋市）相互間と、右三地区と札幌市、仙台市、広島市、松山市、福岡市、熊本市の間、▽金沢市と京浜地区及び京阪神地区の間、及び▽長野市と京浜地区及び京阪神地区の間であった（24年8月3日付け通信文化新報）。

図29は「東京・主要都市間郵便到達日数図」のコピーである（24年3月15日付け通信文化新報）

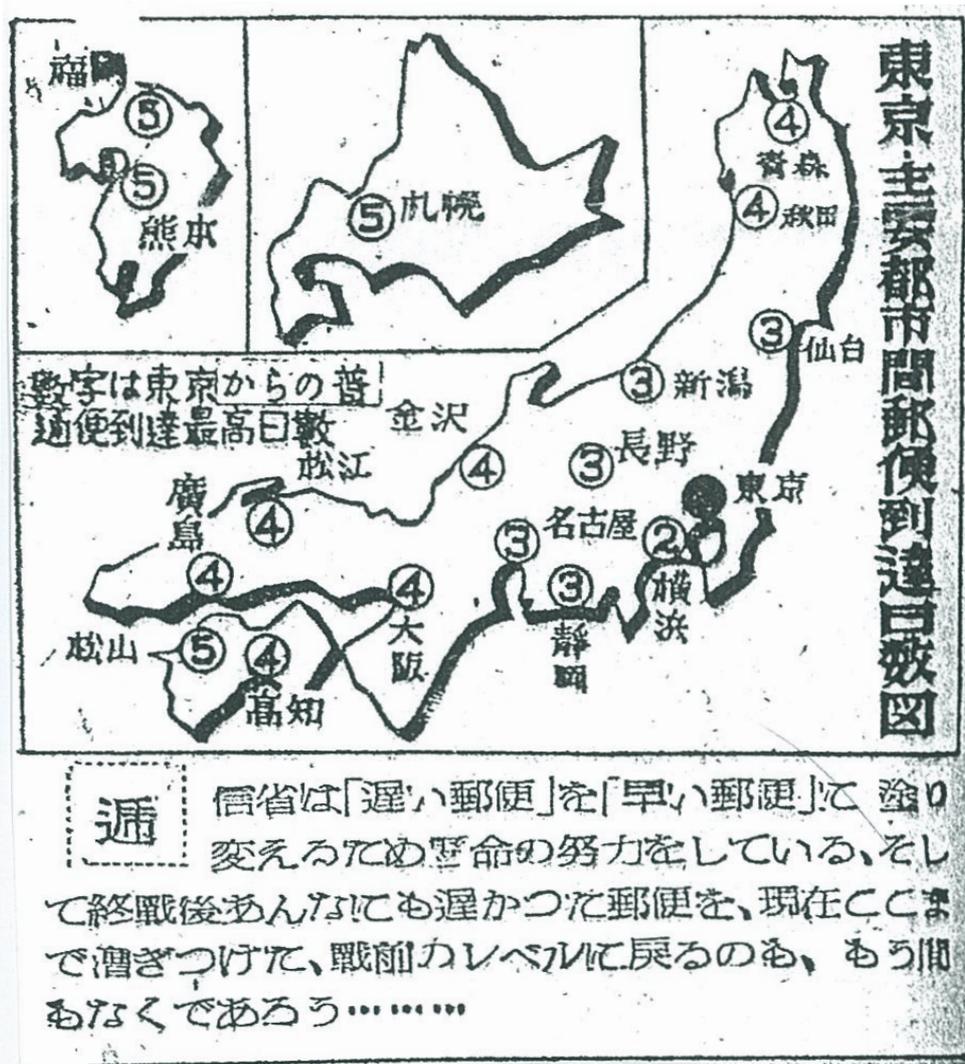


図29

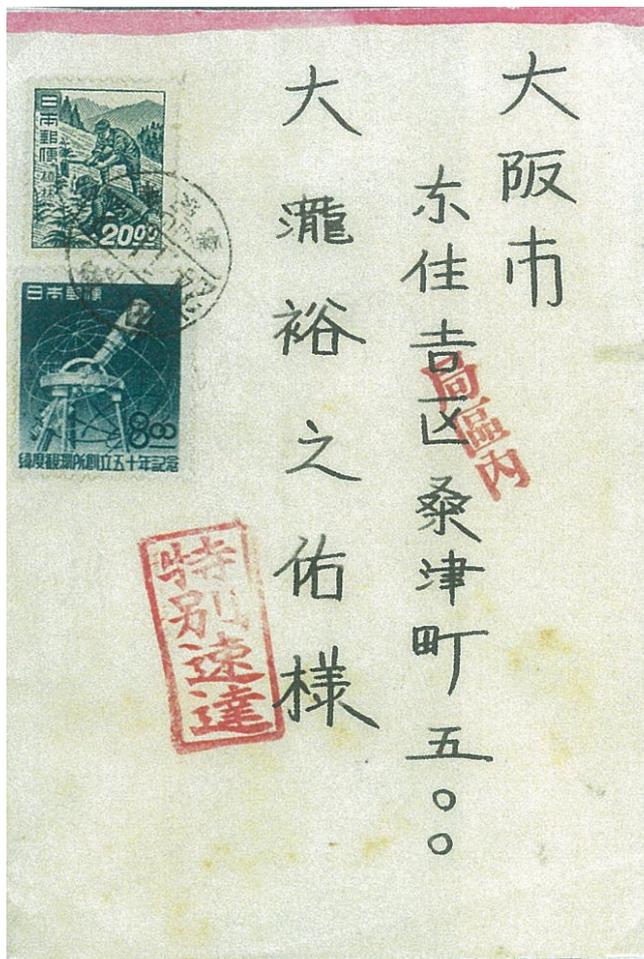
「8月1日に開始したばかりの全国主要都市間の特別速達郵便は、滑り出し好調で16日までに東京と各地相互間に取り扱われた状況は次の通り」（表8）であった（24年8月24日付け通信文化新報）。

表8 主要都市間の特別速達郵便取扱い通数

区間	普通	書留
東京—大阪	8,089	1,018
東京—名古屋	2,891	290
東京—京都	1,961	216
東京—神戸	1,675	196
東京—広島	701	57
東京—松山	207	30
東京—福岡	1,249	101
東京—熊本	391	62
東京—金沢	687	68
東京—長野	457	36
東京—仙台	1,515	132
東京—札幌	1,885	129
京浜市内	54,417	5,421
合計	76,125	7,756

図30（右上図）は当初の東京大阪間の特別速達郵便である（神田 24,11,2）。

図31（右下図）は八大都市への取扱が拡大したときのもので、東京から長野市宛特別速達郵便である（京橋26.1.6.）。



24年8月20日 広告業務取扱いの開始

民間広告主（企業、団体）から広告を受け、郵便物への自動押印機の刻印を広告の媒体として使用して広告料による事業収入を図ることにした。

そこで、自動押印機の局名部と刻印部を上下転倒して、局名部を上、広告部を郵便葉書の料額面の下になるよう配置した。そして従来使用していた自動押印機のインク「黒色肉じゅう」をそのまま通常の機械日付印として残し、広告印は新たに「トビ色肉じゅう」印に改め、25年3月1日から使用することにした。

「自動押印機（正式には『広告入機械日付印』）に広告を使用するようになったのは、25年3月11日に”広告業務を始めました／郵政省”の標語部からで、続いて3月14日～19日の”神戸競輪”が使用された。その後27年5月末に使用中止になるまでの2年3ヶ月の間に約1,000余種類の広告印が全国で使用された。」（鈴木輝彦著『広告印々影集』平成16年9月、第2版「発刊にあたって」と巻末の「参考資料」より）

24年8月20日 本邦琉球諸島間の郵便料金が内国郵便料金と同額

「本邦と琉球諸島（口之島を含む北緯30度以南の南西諸島）との間に発着する通常郵便物の料金は、郵便物差出国において定める同種の内国郵便料金が適用されることになった。ただし、航空取扱いについては、外国郵便料金規定の別表2の第1地帯宛航空郵便物の増料金を徴収する」ことになった。

24年10月1日 通信日付印の形式改正

23年度の郵便法、郵便規則の改正で実施できなかったことの一つが、通信日付印の改正であった。

戦中、通信日付印の時刻を都度更植するに人手不足から時刻欄に3星や県名を入れて引受時刻の表示を省略していたが、郵便物の迅速な送達のため引受時刻を明確にする必要から、従来の3星と県名入り部分に引受時刻を入れることにした。

1. 通信日付印に表示する文字は左書きとする。
2. 従来の都道府県名表示欄に下記4種の時刻活字を計画していた。
前0-8, 前8-12, 後0-6, 後6-12
しかし、当初次の5種類を使用するよう計画しすでに相当数調製済みであるので、当分の間は、「前0-8, 前8-12, 後0-4, 後4-8, 後8-12」を使用することにする。
3. 欧文日付印は従前の国名NIPPONをJAPANに改める。
4. 年賀特別郵便に使用する日付印が復活し、その図案は適宜変更される。
5. 自動押印機の日付印の波部の大きさは36ミリメートルとなった。

24年9月30日付け郵政広報第87号に掲載の郵政省告示第177号に日付印の形式が発表されているのでコピー掲載する（図32, 次ページ）。

郵政公報

昭和二十四年九月三十日(金曜日)

第八十七号

告示

郵政通告第百七十七號

郵便規則(昭和二十二年運輸省令第百三十四号)第三條の通信日附印の形式は、別に告示するもの及び試験のために使用するもの外、次のとおりとする。但し、局長は、年月日及び時刻は、通信日附印を使用する局及び日時により、標語及び図案は、必要に應じ変更するものとする。

この告示は、昭和二十四年十月一日から施行する。

なお、当分の間は、従来の形式による通信日附印を使用することがある。

昭和二十四年九月三十日 郵政大臣 小澤佐重 著

一、 径は二十四ミリメートルとする

時刻(以下同じ)

年月日(以下同じ)

二、 局名

三、 局名

四、 局名

五、 局名

六、 局名

七、 局名

八、 局名

九、 局名

郵政公報第八十七号 昭和二十四年九月三十日

三三三三

十、

 径は二十四ミリメートルとする

局名

十一、

 径は二十四ミリメートルとする

局名

 径は二十四ミリメートルとする

年月日

十三、

 径は二十四ミリメートルとする

年月日

時刻

標語

未納は先づ迷惑

十四、

 径は二十四ミリメートルとする

局名

時刻

年月日

図案

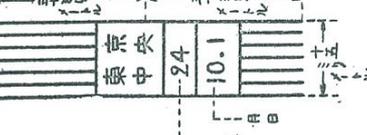
十五、

 径は二十四ミリメートルとする

局名

年月日

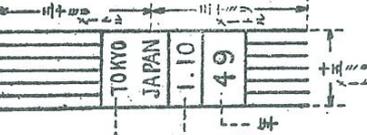
十六、

 径は二十四ミリメートルとする

局名

年月日

十七、

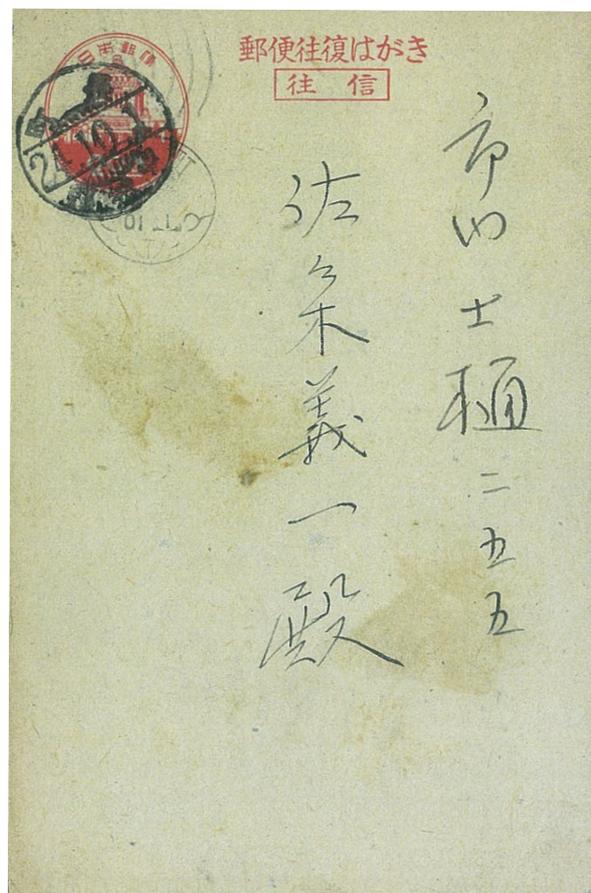
 径は二十四ミリメートルとする

局名

年月日

図32

図33（右上図）は24年10月1日引受の葉書で、櫛型印は従前通りの局名右書き、C欄県名入りのままになっているが、機械印は局名左書きになっている。10～12月には全国の大半の局では従前の日付印を使用していた。



24年11月 『郵便友の会』の組織

郵便を通じて広く国外にまで平和的、文化的交流、知識の交換を計ろうとする画期的な試みであった。直接的な増収効果はなかったかもしれないが、24年度の「郵便週間」の設定は、文化政策、文化運動としての意味があった。

24年11月1日 切手趣味週間切手の発行

「郵便友の会」の活用を通じて切手趣味の普及を計ることになった。本年度から郵便週間が始められ、記念切手の売上げ増収を計ることになった。

記念切手売上げによる増収対策としては、前年12月1日に「郵便切手普及部」が開設されている。



図34（右中図）は24年11月1日発行の切手趣味週間切手（広重の「月に雁」）を3枚貼付して差し出された収集家相互間の外国郵便である。

24年11月3日 文化切手の発行

24年10月6日に開かれた第2回郵政審議会の詰問第1号の文化切手の郵政省案で、

1. 文化切手は大体3ヶ月おきに年4回発行、1回に3～4名とし、文化切手候補者18氏の中から選ぶ、
2. 発行日はなるべくその文化貢献者に因みの深い日、例えば誕生日、忌日、その業績に関係の深い日を選ぶ、
3. 学術、文化、芸術の各界候補者を一方に偏りすることのないように案配する、ことが決められた。



図35（右下図）は文化切手2番目の夏目漱石（25年4月10日発行）3枚貼のドイツ宛船便書状で、神戸中央局の特印（25年4月28日「植えて育てよ吾等の国土緑化」）が使用されている。

24年12月1日 お年玉付き年賀葉書の発行

郵政審議会が新しく設けられ、文化切手の発行及びお年玉付き郵便葉書の発売に関する諮問事項を審議し、その専門的具体的問題を専門委員会を設けて調査審議した。

(1)お年玉付き年賀葉書の発行

11月19日に「お年玉付き郵便葉書の発売に関する法律（第224号）が公布され、12月1日から発売された。

この法律によって「お年玉として金品を贈るくじびき番号付き年賀葉書」が発行されることになった。金品の単価は2万円を超えないこと、その総価額はお年玉付き郵便葉書の発行総額の百分の五に相当する額を超えないこととされた。

年賀特別郵便物の引受期間は12月15日から12月21日まで（後で28日まで）となり、年賀特別郵便物の表面見易いところに「年賀」と朱記していたものを適当な箇数ごとに一束とし、これに「年賀郵便」と記載した付箋をつけて、郵便局の窓口の他、郵便差出箱にも差し入れることができた。

年賀郵便物の取扱いを勧奨するため、年賀特別郵便物の引受消印には梅花の図入り刻印を準備し使用した。地方郵政局に対して従来の黒色肉じゅうからトビ色肉じゅうに切り替えるべく、インクを12月中に交付し、使用開始時期は追って通知することとされた。

お年玉付き年賀葉書の発売に関する法律第234号

1. お年玉付き郵便葉書の発行数

2円通常葉書 3,000万枚, 寄付金1円付き葉書 15,000万枚

2. くじびきの期間：25年1月20日

3. 5.お年玉の種類及び当せん数

特等 ミシン18本

1等 純毛洋服地360本, 2等学童用グローブ 1,440本, 3等学童用こうもりがさ 3,600本, 4等葉書入れ（手箱型） 7,200本, 5等便箋封筒組合せ 54,000本, 6等記念切手 3,600,000本

(2)お年玉付き年賀葉書発売の理由

「年賀状の差出も増加する気運にありましたので、昨年末から年賀特別郵便の取扱いを再開致しました。ところが、その利用数は約7千万通にすぎず、またその収入源は郵便の総収入額のわずか2%を占めるにすぎない、近来赤字に悩みつづめる郵便事業の収入額増加をはかるため年賀状の差出を積極的に勧奨いたすべく、お年玉付き郵便葉書等の発売に関する法律の制定を諦観することにした。」（「郵政事業経営の史的考察」中央郵政研究所研究部編集、昭和32年11月、136ページ）

当初は及び腰であったが、事業経営の安定化＝収入増のもと、年賀葉書の売捌きに力を入れることになった。料額2円の年賀葉書3,000万枚と寄付金1円を加えた売価3円の年賀葉書15,000万枚が発行された。前者の葉書に比べて1円高い年賀葉書の方は売れ行きが悪く、売り切るのに相当の苦労があった。

総数	69,811千通	100%
特別取扱	25,982千通	37%
非特別取扱	43,829千通	63%
普通通常郵便物数	2,004,243千通	

普通通常郵便物数に対する
年賀郵便物の割合3.5%であった

参考までに、昭和24年(23年度)の年賀郵便取扱通数は以下の通りであった。

年賀葉書の引受に消印するインクの色は黒色と定められたが、事前にトビ色インクの交付を受けていた一部の局ではトビ色インクを使用したところがあった。

図36にその例を示す。

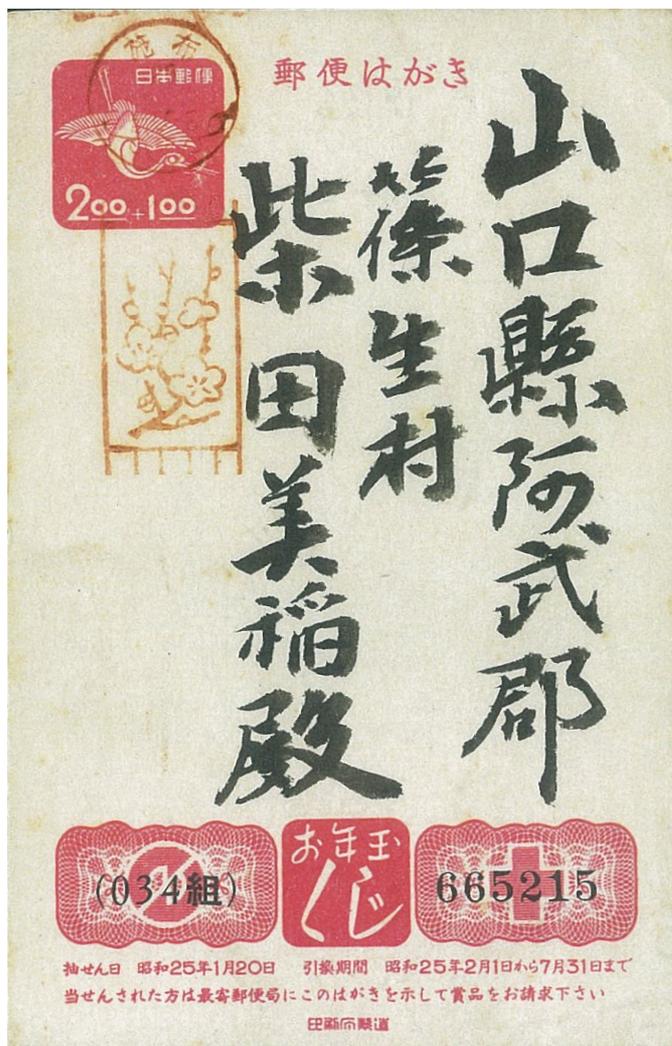


図36

なお、くじ付き年賀葉書の考案は、一般民間人の林正浩氏によるものであった。

「終戦後、うちひしがれた状態の中で、通信が途絶えていました。年賀状が復活すればお互いの消息がわかるのにと考えたのが最初の発想です。それにクジのお年玉をつけ、さらに寄付金を加えれば夢もあり、社会福祉のためにもなると考えたのです。」（「林氏談、昭和62年サンデー毎日誌より」とある文献から「」付きで引用した。）

くじ付き年賀葉書の原案については、谷垣 恒彦氏「お年玉付年賀葉書の原案」（『官葉研究』通巻第4号、関西愛郵クラブ発行、昭和31年1月号3～4ページ）に発表され、試作品4種が図版を開示して解説されている。試作品4種のうち第4種目の試作品が手元にあるので（図37）、その説明を同誌から引用する。なお、図37は年賀葉書の試作品であり、現在何枚存在しているかわからないが、非常に珍しい。

概要

- ・刷色仕切り線一赤色、文字黒色
- ・従来の案にあった太斜線が除かれた。
- ・右側の二本の太罫線の間も「年賀郵便（くじ附）ホ六五八七五番」と変えられた。
- ・上部に「郵便葉書」の表題も入れられた。
- ・印面枠内に「200」と入り、その下の横細長二重枠線内に「くじ100」と付加金を表示した。

右下欄

「この年賀郵便は（くじ付）になって居ります。普通郵便葉書の料金二円の他にくじ券1円が加算されます。おめでたい初春の皆様の御家庭へ何卒幸運のお年玉が届きます様祈ります。郵政省」

下中央欄

「景品引換期日 昭和二十五年二月十五日まで」等

左下欄

「景品 特等五万円, 一等洋傘, 二等シャツ, 三等タオル, 四等ハンカチ, 五等筆バコ, 六等記念切手」
 「当籤の方はこの葉書と印鑑とを持って近くの郵便局で景品を御受取り下さい。」

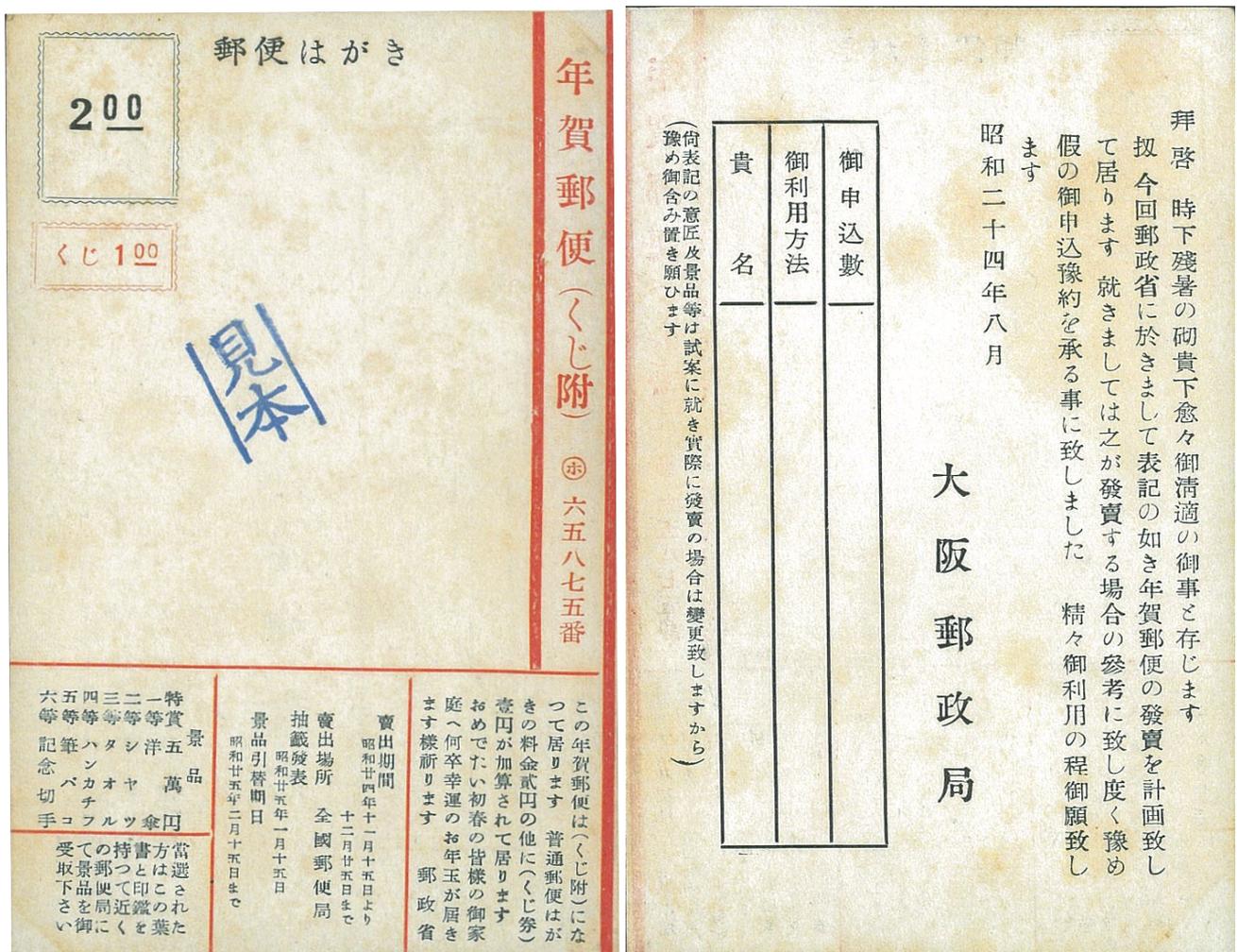


図37

第4章 昭和25年の郵便事業経営問題と郵便諸制度の創設

第1節 昭和25年度の郵便事業経営の問題

1 再建復興期の鉄道郵便

昭和22年度も国鉄が大々的に車両整備運動を行い、郵便車という名前を取り戻した。

郵政省側が行った車両の整備は、22年度に中央線の半車5輛をアメリカ式に改造、24年12月にはマユ三六6輛を新造し、東京鹿児島間に使用、2輛を改造して大阪青森間を走らせている。主要幹線はおおむね整備されたが支線はまだ不備状態にある。

固定サービスは23年12月25日に総司令部の覚書に接し、実施は24年3月31日からとなった。これよりさき、完全固定サービスの前提として各鉄郵局の所掌区域の変更が23年8月16日に行われた。

結束強化は21年から毎年励行し、24年9月15日から青函航送も実施され、東京旭川間で約半日短縮された。

25年5月31日現在の現有鉄道車両は全車112輛、半車322輛、三分の一車197輛、合計631輛である。鉄郵局分室数は14局、28分室、鉄郵従業員数は約5000名である。

2 新たな増収対策

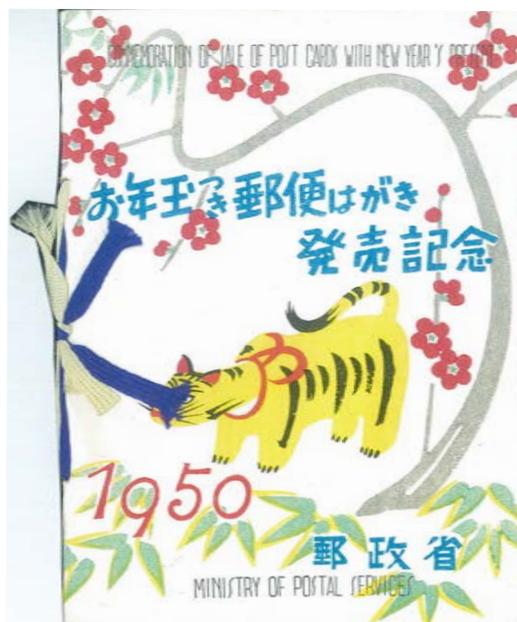
(1) 年賀切手保存用タトウの発売

記念特殊切手の増刷による増収対策も、在庫切手をかかえ、売上げ増も期待しにくくなってきた。

当局としては、事業の特徴を活用した新しい増収策を考究していた。その一つが初めて発行された25年お年玉賞品用小型シートを保存する台紙（タトウ）の販売であった。

並製と特製の2種類を発行したが、売れ行き不振であった。とりわけ、特殊タトウは50円で小型シート額面の5倍の高価であった。図38（右図）は特製（木版）の方である。和綴じ紐の色が白と青である。

タトウには一般販売の2種類の他に非売品として局内周知用みほんとお年玉当選番号の抽選会場で配布したものの4種類がある。（行徳『年賀切手を集める』19～20ページ）



(2) 年賀葉書の委託印刷

26年用年賀葉書の発行前に「年賀郵便葉書の大口需要者の利便を計り、低廉な料金で葉書裏面に通信文及び広告等を印刷して年賀葉書の発行日に現品の引渡しができるよう年賀郵便葉書の委託印刷を始めた。」

印刷料金

取扱い数量は1口5千枚単位とし倍数をもって取り扱う

申込受付期間は8月1日から9月末日まで。

版式はオフセット印刷（都合により凸版印刷とすることもある）、刷色は赤・黒・緑の3度刷以内とする。（出所：25年8月22日付け東京郵政局報第124号）

区別	1度刷	2度刷	3度刷
3口まで（1.5万枚）	13銭	18銭	23銭
4口以上（2万枚）	11銭	16銭	21銭
20口以上（10万枚）	9銭	14銭	19銭

第2節 郵便サービスと郵便諸制度の実施

25年2月1日 お年玉賞品の引き換え状況

（事例1）昭和25年のお年玉賞品の引換え期限は7月31日をもって終了するが、各局の手を尽くしての引換勸奨にもかかわらず、引換状況はすこぶる不振で、特等のマシン2台は未交付であるのみならず、1等以下の各賞品も多数未交付となるおそれがある…」（25年7月7日付け仙台郵政局報第59号より）

（事例2）6等賞品の小型シート切手の引換枚数は少なかった。当時、熊本郵便局勤務であった林相之氏に引換え状況をお聞きしたことがあった。

「小型シートは初めてのお年玉賞品であったにもかかわらず、引換えられたのは少なかった。5等賞品の便箋封筒組合せセットはたくさん残り、郵袋に100個投込んで郵政局内のボイラー室の物置に1年くらい保存し、あとは各種のイベントや郵便友の会その他現業のPR用として配布した。小型シートは100シート入りのものを荒縄で縛って郵袋に入れて本省に返送した。」（平成3年9月付け私信より）。図39が25年小型シートである。

「7月末日の交換期限までに引換えられたのは89万8000枚で、印刷数400万枚の22.4%であった。」（内藤氏『年賀切手』27～28ページ）



図39

ところでお年玉葉書のくじ番号が当選していた場合、お年玉賞品との引換えにはくじ番号部を切り取ることになった。この当選番号の切り取り方法はその後引き継がれた。

図40は賞品引換え後に番号部を切取った使用例である。切取ったところに鉛筆で「6トウセン」と書いているので、6等賞品切手シートと引換えたことがわかる収集家ならではの付記がされている（品川 25.4.19.）。

年賀切手に関しては以下の文献がある。
年賀切手（内藤陽介, 日本郵趣出版, 2008年）

『切手』誌（全日本郵便切手普及協会）
年賀切手を集める（行徳国宏, 2011年）

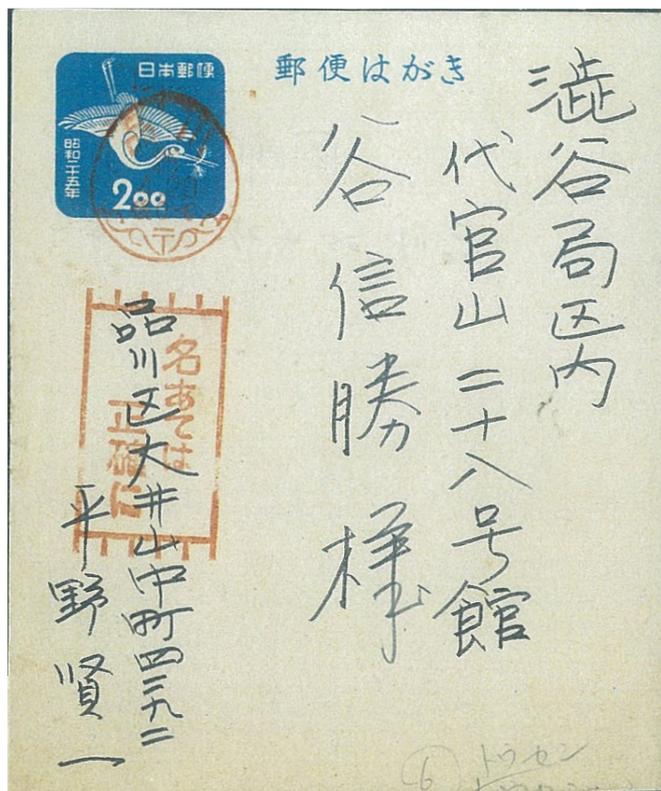


図40

25年3月1日 自動押印機用とび色肉じゅうの使用開始
自動押印機に使用する肉じゅうには黒色インクを使用していた。

各郵政局には24年12月中にとび色インクが交付され、使用時期は追って通知することとされていた。3月1日、自動押印用とび色肉じゅうを使用開始することになった（仙台郵政局報第18号）。

25年5月1日 公職選挙無料郵便の取扱い
選挙無料郵便規則等が公職選挙無料郵便規則にまとめられた（郵政省令第4号）。

衆議院議員、参議院議員、都道府県知事又は都道府県の教育委員会の委員の候補者に対して、一定数量の選挙無料郵便葉書が充てられることになった。

この通常葉書には自動押印機によるとび色肉じゅうを使用することになった。

図41は衆議院議員の地方区候補者が立候補した際に差し出されたものである（長野25,5,4）。

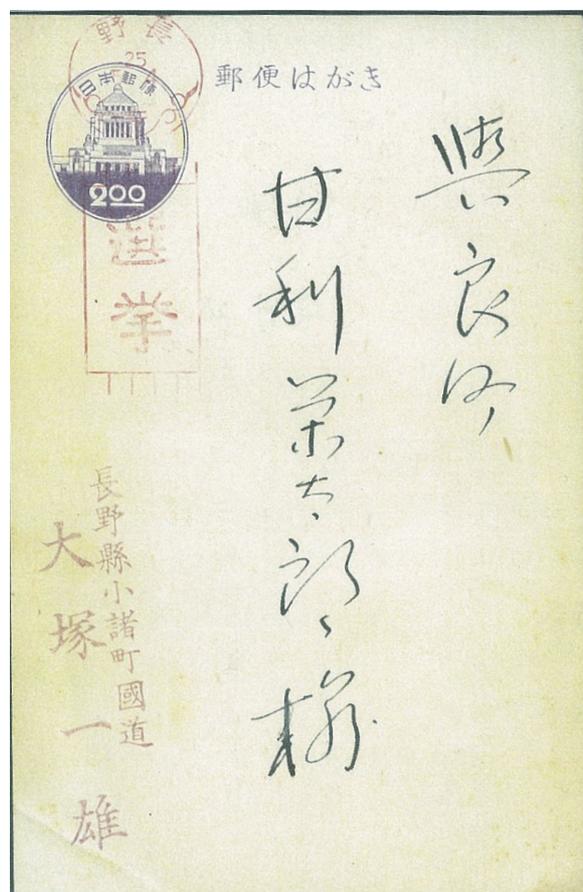


図41

25年6月15日 凶案入り暑中見舞葉書の発売

「前年度特に勸奨したわけではなかったが、暑中見舞の葉書が予想以上に差し出されたことを契機に、郵便葉書の増収新策と捉え、官製の暑中見舞を初めて発行した。

最初、国民に普及するのに時間がかかり、郵便局はこの葉書の消化には相当苦勞したが、裏面の凶案を一流の画家に描かせる等、また局を挙げての販売など努力の結果、発売後1週間位で売り切れるほど普及した。」（『日専』戦後編2010-11、547ページ）

6月15日に5人の画家による凶案を採用し、5種各1千万枚を発行した。

この暑中見舞葉書はその後定期・長期発行のステーションナリーとして毎年7月1日（若干発行日は異なる）発行され、また発行枚数も漸次増刷された。

25年7月 警察予備隊の設置

25年8月10日の警察予備隊令によって設置された。郵政省告示第431号で予備隊内分室局が設置された。取扱い事務は郵便、為替貯金であった。

警察予備隊設置後、隊員の利便を計るため局の窓口機関設置の要望が強かったため、窓口機関設置方針が定められた（27年6月20日付け部施第630号「警察予備隊設置に伴う窓口機関について」）。

27年11月8日付け郵政省告示第574号で、予備隊内分室局は保安隊内分室に改称された。

図42は設置間もない9月に北海道の国家警察予備隊宛に差し出された書留郵便である（八日市場/千葉25.9.18）。



図42

25年9月1日 料金前納用機械による印影による料金の前納

「パリ締結の万国郵便条約第50号の規定に基づき、料金前納用機械による印影により外国宛郵便物の料金を前納する方法を採用することになった。」

「料金前納の方法は、郵便局に設置する料金前納用機械によってのみ行われ、郵便物1個につき1枚の料金票によらなければならない。料金票には別に日付印を押さない、この料金票によって外国宛郵便物を差し出すことが出来る郵便局は、東京中央郵便局とする。この告示は昭和25年9月1日からとする。」（25年8月30日付け郵政広報号外第11号）

図43は東京中央局引受の西ドイツ宛航空書状（料金125円）である（TOKYO OCT. 4.1952）。

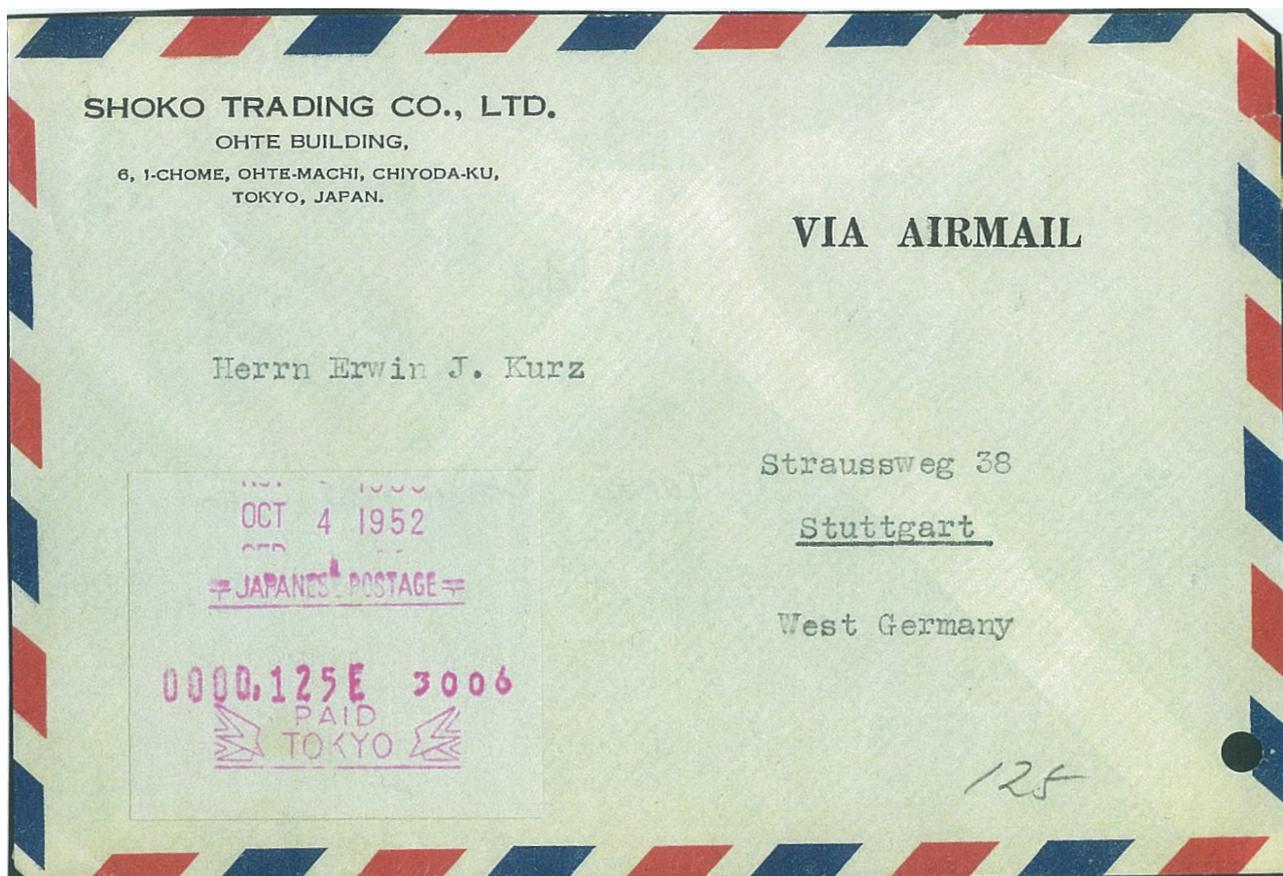


図43

25年9月4日 地方展覧会記念切手の全国売捌き

23年4月20日発行の「東京明るい通信展記念小型シート切手」以降、24年5月11日発行の「伸びゆく電気通信展記念小型シート切手」までの各種展覧会・博覧会切手まで14種は当初地元発売局を限定して売捌いていたが、25年9月4日から全国売捌きに代えて在庫処理を図ることにした。

25年10月5日 観光地百選切手の発行

1. 趣旨

今般、毎日新聞社でGHQ関係部局及び内閣各省、国有鉄道後援の下に「新日本観光祭を最大タイトルとして各種事業を展開する計画であるが、根本趣旨は観光事業を遊樂的な考え方から転じて観光資源の活用により国家の生産機能たらしめようとするもので、郵政省としては、左の諸点に鑑み、積極的に後援せんとするものである。

(1) 選定される観光地は甚だ権威あるもので、日本の代表的景勝地として内外に宣伝するから観光切手の候補地を求めるのが最適である。

(2) 切手発行計画により投票があおられ、観光切手の売れ行きに反映するから増収となる。

(3) 投票計画によりはがきの増収になる。

4. 後援の具体的方法

新日本観光地百選については、東京中央郵便局に新日本観光地選定会計投票部を設置し、得票計算事務を援助する。

切手発行については観光地10票につき発行する。枚数は1種類300万枚、風景日付印は選定観光地所在局100局に2ヶずつ備える。

収入の見積り

観光地百選60,000千円（葉書3千万枚）

観光切手24,000千円（切手合計3千万円となるが、2割は普通切手分野に食込むものとして計算）
計84,000千円

支出の見積り

百選選定費3,000千円（毎日新聞社へ）

毎日新聞社との連絡打合せ費30千円

投票葉書集計費2,080千円（人件費）

出所「25年1月（郵業）観光賃百選に対する後援について」他

種目別観光地名と得票順位
(1位のみ得票数を引用、単位千票)

種目別	一位	同得票数	二位	三位
山岳	蔵王山	2,331	達磨山	霧島山
平原	日本平	860	那須高原	小倉平屋平
温泉	箱根	1,087	白浜	別府
瀑布	赤目四十八滝	708	袋田滝	白糸の滝
海岸	和歌浦友ヶ島	1,406	三陸フィヨルド	九十九島
河川	宇治川	984	日本ライン	長良川
都邑	長崎	951	秩父	尾道
湖沼	菅沼丸沼	650	富士五湖	浜名湖
溪谷	昇仙峡	1,184	瀨峡	高千穂峡
建造物	錦帯橋	1,238	耕三寺	熊本城

図44は「観光地百選は／郷土の誇り」という観光地百選をPRしたトビ色標語印が押印された葉書である（京都中央25.9.22.）。

25年11月15日 集配特定局における外国郵便事務取扱い範囲の拡大

「外国郵便利用者に便宜を供与するため、集配特定局における外国郵便事務取扱いの範囲を集配普通局と同種とした。

1. 商品見本、小型包装物、小包
2. 定期刊行物
3. 料金別納郵便物及び料金後納郵便物
4. 書留

の引受。」（25年10月25日付け名古屋郵政局報第193号）

これによって外国郵便物の取扱い拡大を図ることになった。

25年12月1日 年賀郵便物取扱いの拡大等

郵便規則及び通信日付印の形式の一部が改正された。

(1) 郵便規則

年賀特別郵便物として新たに「封かんした書状」を差出せることになった。

(2) 通信日付印の形式の改正

年賀特別郵便物の引受消印に自動押印機による通信日付印の形式として、波形を上部に日付を下部にしたものが追加された（告示第383号）。

(3) 引受

自動押印機によるものは、旧型ハブを使用し、右告示による通信日付印の形式によるとともに、その肉じゅうは黒色のものを使用する。

（25年11月24日付け郵政公報第381号）

以上で、昭和24、25年の解説を終わる。

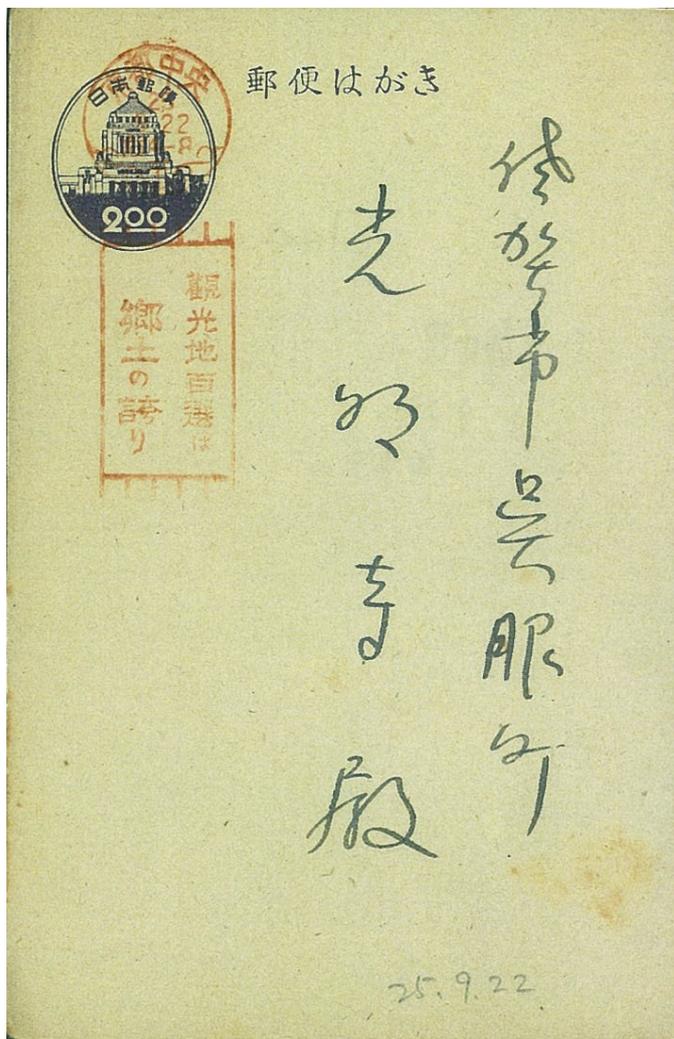


図44

新発見！

フレーム切手のマイクロ文字とメタリックマルチイメージ

内田雄二

最近のフレーム切手の発売は記念特殊切手以上に乱発となっています。

そんな中でフレーム切手の偽造防止のためかと思われる発見をしました。それは、マイクロ文字とメタリックマルチイメージが印刷されていることです。

現在発売中のフレーム切手にはすべて入っています。文字の大きさは縦横とも約0.2mmです。偽造防止のためマイクロ文字が紙幣に入っていることはご存知の方も多いと思います。その小さな文字が切手にも入っていましたのでご紹介いたします。

1. マイクロ文字

(1) 50円グリーン

切手の左上に「日本郵便」の文字があります、その下部にアンダーラインのように入っています。

「JAPAN POST」と入っているもの（下図左）と「JAPANPOSTSERVICECo.Ltd」（右）の2種が存在します。前者が少なく小生のコレクションでは2点しか確認していません。



(2) 80円ブルー（右図）

切手の左上に「JAPANPOSTSERVICECo.Ltd」と入っています。「JAPAN POST」は確認できていません。



(3) 80円シルバー

切手下と右サイドにあるシルバー枠下地の中に入っています。

「JAPANPOST」と入っているもの（下図左）と「JAPANPOSTSERVICECo.Ltd」（右）のいずれかの文字が連なっています。なお、後者の方が枠下地がより太い事も分かりました。

「JAPANPOST」は、この切手でも少なく全体の約2割程しかありません。



(4) 80円フラワー

「JAPAN POST」と入っているものと「JAPANPOSTSERVICECo.Ltd」の2種類存在します。

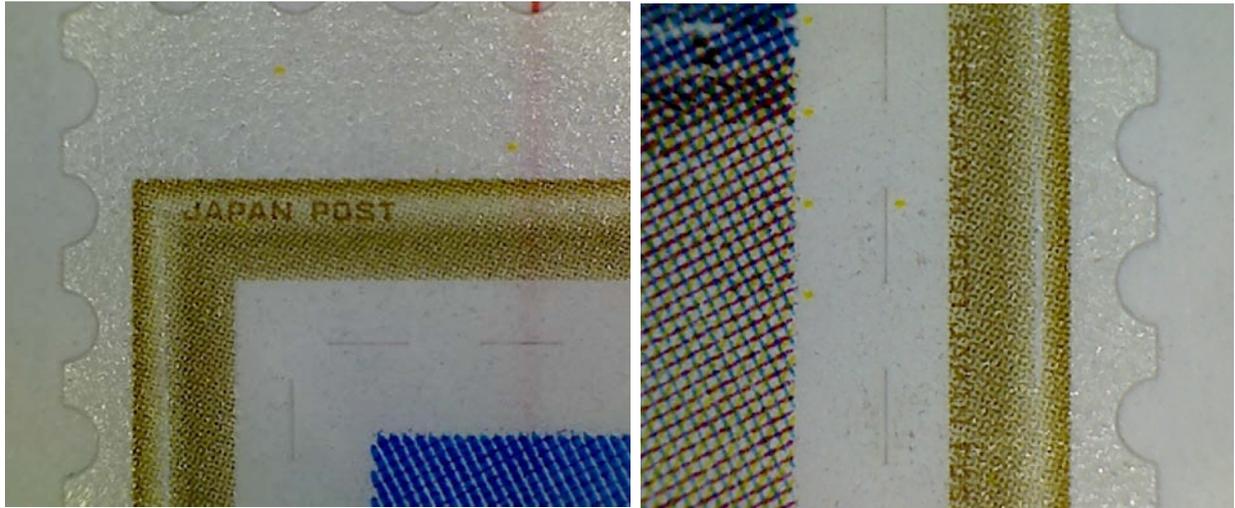
80円シルバー同様、後者の方が枠下地が太い特徴があります。確認した存在数はほぼ同数です。

そしてこれらのマイクロ文字は、フレーム枠黄色の切手においては右上（下図の左上）と左上（下図の右上）に入り、フレーム枠水色の切手（下図、下二点）においては右下に入っています。



(5) 5 2円・8 2円額縁

こちらは共通で、切手左上と右側茶色の枠の中に「JAPAN POST」と入っています。



(6) 8 2円花

共通の場所で右上に「JAPAN POST」と入っています。

グリーンとブルーの2種（下図の上2点）とパープルとピンクの2種（下図の下2点）、それぞれのグループで文字の場所が少し違ってきます。



(7) 82円グラデーション

小型（左図），大型（下図の左），特大サイズ（下図の右）それぞれの切手上部に「日本郵便」の文字があり、その下部にアンダーラインのように「JAPAN POST」と入っています。



2. メタリックマルチイメージ

2014年4月1日の料金改訂後に発行された52円と82円のフレーム切手（単片で10種類に分類可能）にはすべて下部（但しオリジナルデザイン専用の特大フレームにおいては「左右」）にメタリックマルチイメージ「JP〒」が入っています。（右図）



まとめ

マイクロ文字が入っているフレーム切手で一番古いのは、通信販売用のフラワー枠とシルバー枠の切手で、2006年9月1日受け付け開始でした。こんな前から入っていたのですね。

「JAPAN POST」と「JAPANPOSTSERVICECo.Ltd」の2種類存在することの理由については現状不明です、今後調査してみたいと思っています。

十円桜 版欠点 「花びらに赤しみ」

長島 裕信

昭和36年（1961年）に発行された10円通常切手「ソメイヨシノ」の定常変種のなかで、「花びらに赤しみ」は日専に掲載されるほど有名な変種で、カタログ枝番「374vb.」が与えられており、あわせて注意書きに「(374vb.)はタイプII、櫛型系以外の目打の原乾版定常変種。」「II版に存在する」「20番」等と記されています。

ただ、この記述は、本来板グラビア版の分類だったはずのタイプIIを輪転グラビア版の分類に使うなど、わかりにくいところがあり、なかなか腑に落ちませんでした。



右の切手の囲んだ部分に定常変種が見える。

左の切手は比較用。

ところが先日、係数番号の連続した同切手57シートを入手する機会があり、20番切手を調べていく中で、計数番号が偶数のシート（左図）には必ず「花びらに赤しみ」が出現し、奇数のシートには必ず出現しないことを確認しました。

100面シートを上下に2つつなぐ印刷版の上下の区別は、カラーマークが入り始めた時代に遡り調べると計数番号に特徴が表れ、上の版に奇数の、下の版に偶数のそれが入ることがわかりました。

従ってその結果より類推すると「花びらに赤しみ」の出現は、印刷版の下の方の版のみという結論になりました。皆様のご意見をお願いします。

新コーナー

私の発見・私の報告

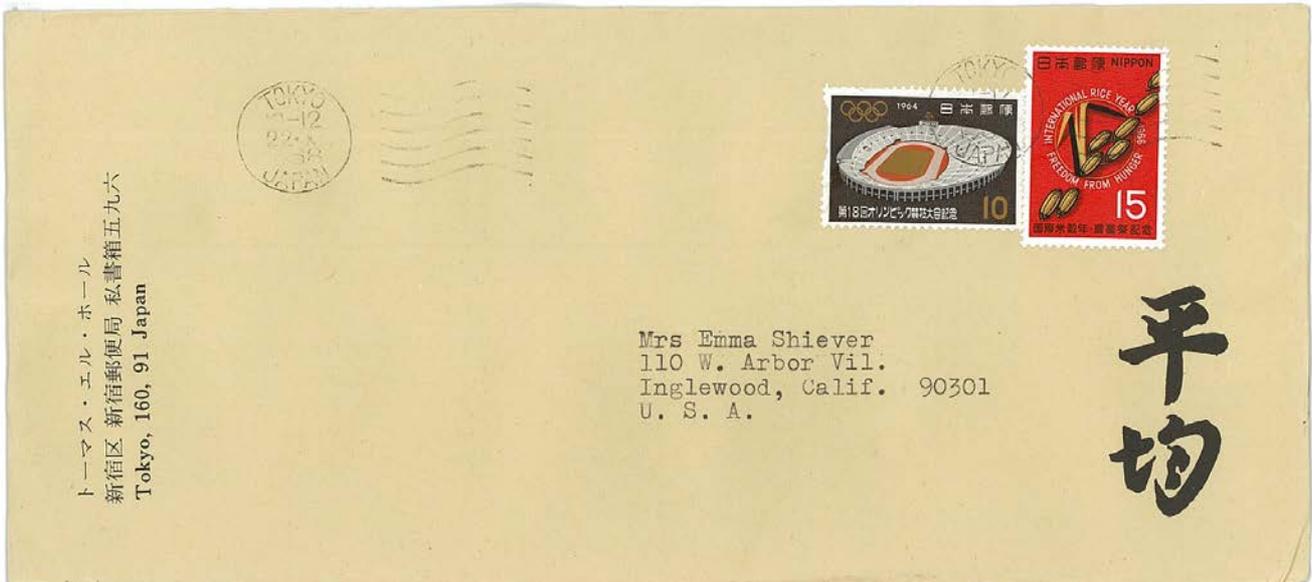
読者アンケートで「昔の郵趣雑誌にあった消印のデータ更新や、使用済み切手の日付更新コーナーを作って欲しい」というご意見を多数頂きましたので、第3号よりコーナーにしました。

上記事例に限らず「新発見を報告したいが寄稿記事を書くのはちょっと・・・」というようなマテリアルをお持ちの方は是非お気軽に tpm@stampedia.net 迄ご連絡ください。（編集部）

欧文機械印 戦後六本波 TOKYO 最後期使用例の更新

報告者：黒崎 卓

単片で1968年10月19日、カバーで1968年10月12日とされている、東京中央局の同印の最後期使用例を更新する10月22日のカバーを発見しましたので報告します。なお差出人・貼付切手・消印のすべてが同一のカバーをもう一通所有しています。



1968.10.22 25円貼り米カリフォルニア宛て船便印刷物（下図は消印証示部の拡大図）

公式には、この消印は1968年10月20日をもって使用停止になったので10月19日が理論上の最終日なのですが、大量の消印には、古い機械を持ち出して利用したというのが一つの解釈。理論上の最終日といっても実際には機械がしまわれていなくて、しばらくは使われていたというのがもう一つの解釈となるでしょうか。



編集部コメント：これまで信じられていた定説「TOKYOの欧文機械印押印機は、1968.10.20に国際交換業務が東京中央から東京国際に移管される前日に使用終了となり撤去された」を覆す発見で、今号の報告で一番の驚きです！（吉田 敬）

欧文機械印 六本波 (NIPPON) TOKYO 最初期使用例の更新

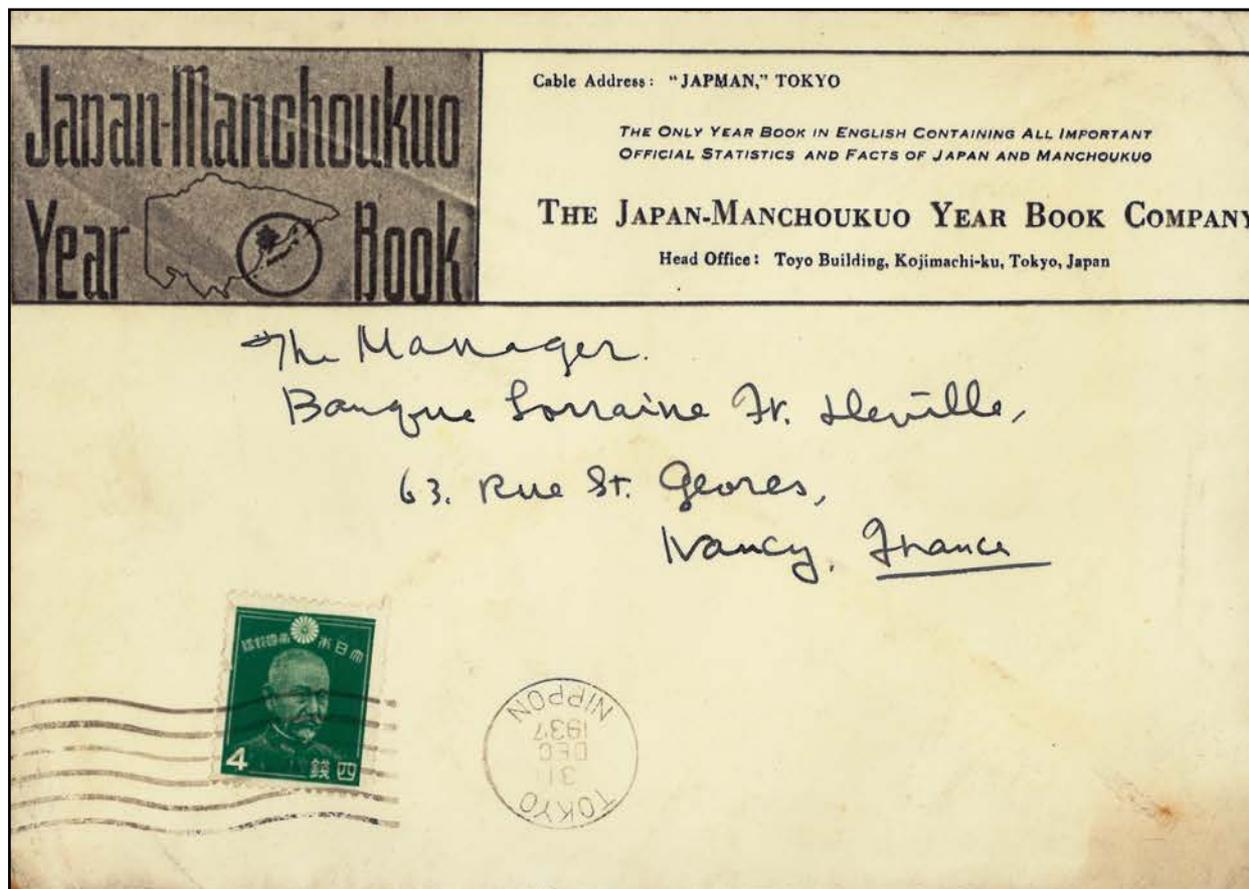
報告者：行徳 国宏

The Philatelist Magazine 第3号で、1938年1月7日と報告されていた、東京中央局の同印の最初期使用例を更新する1937年12月23日の単片を入手しましたので報告します。台切手は、田沢・昭和白紙5厘切手です。

報告者：比嘉 霜人

(同) 1937年12月31日の使用例(カバー)を入手しましたので報告します。東郷4銭切手の貼られている表面だけでなく、裏面にも同じ印が誤って押されています。

編集部コメント：東京中央郵便局の欧文機械印の局名表示をヘボン式から内閣訓令式に変更するにあたっての最初期・最後期の情報は、TOKYOの最後期使用例の内、1937.12.20を超える鮮明な消印が見つかっていないため、まだ不明な点が多いです。今回のお二方の発見で、また一つ重要なヒントが見つかりました。(吉田 敬)

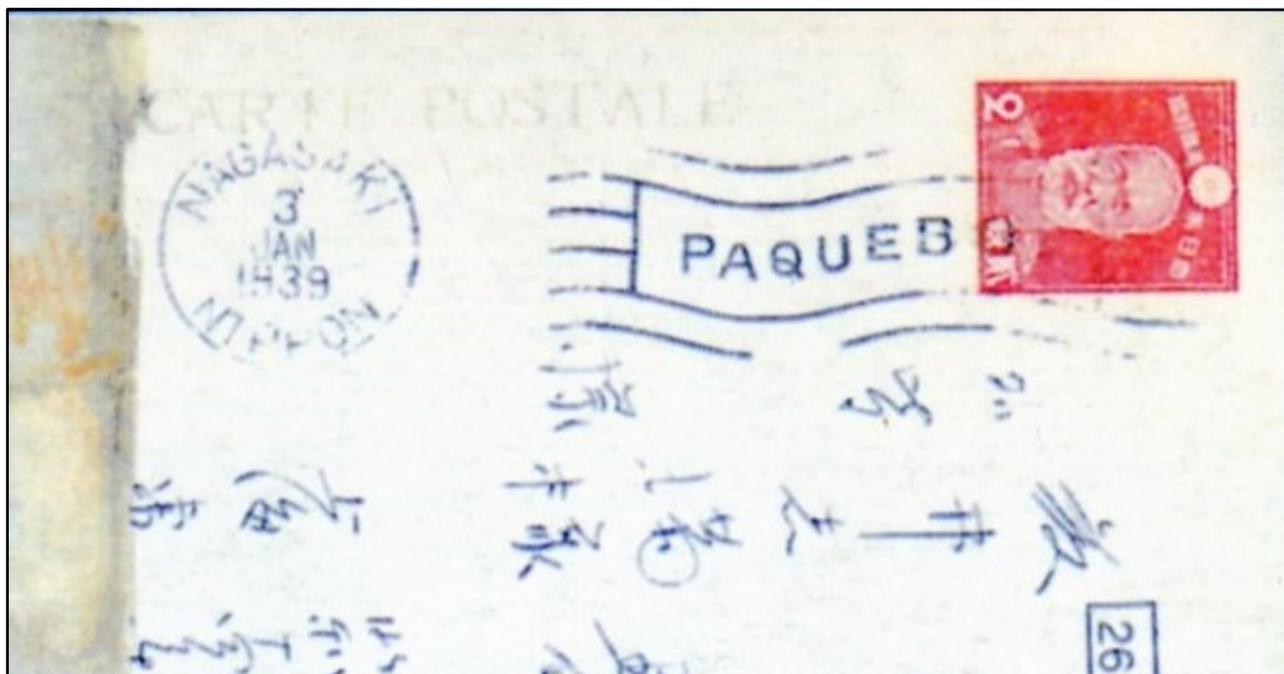


欧文機械印 六本波 (NIPPON) NAGASAKI PAQUEBOT波 最後期使用例の更新

報告者：匿名

吉田コレクションで1937年1月1日と報告されていた、長崎局の同印の最後期使用例を大幅に更新する1939年1月3日の使用例を、私の手持ちのアイテムではないのですが「スタンプコレクター」誌（2000年7月号）に掲載されたオークションにて発見しましたので報告します。

（ちなみにオークション誌の記述では「絵葉（上海・バンド附近写真）、帳・乃木2銭、兵庫宛、昭和14の年賀状」とあります。最低値は4万、落札値は5万円。）



欧文櫛型印 戦前タイプ KOBE2 最初期使用例の更新

報告者：鶴重仁志

日本郵便印ハンドブック 2008（日本郵趣協会）で、1918年4月18日と報告されていた、「KOBE 2」と表示される欧文櫛型印の最初期使用例を更新する1918年3月27日を入手しましたので報告します。台切手は旧大正毛紙10銭で、スタンプの材質はゴム、色は紫です。



コレクションの創り方

The Philatelist Magazine 第3号のオンラインアンケートで、最も大きな反響を頂いた記事は「切手展向けリーフの作り方」でした。そして、この結果は編集者にとりたいへん意外でした。フリーコメントを見ていくと、リーフ作りの記事といえば今まではソフトウェアの解説書のような内容しかなかったのに比べて「考え方」や「概念」など根本にあるものを示した上で「コレクションの創り方」を示していることに、読者の支持があることがわかりました。そこで今後は「コレクションの創り方」をコーナー化することにしました。

「コレクションの創り方」は必ずしもリーフ作成だけにとどまりません。収集対象の取捨選択や、マテリアルの研究方法・情報交換方法、切手の整理・処分等多岐にわたります。今回もリーフ作りの話は一本にして、残り二つは、知識をもとにしたフリマの活用法と、審査員との対話の活用法についてまとめてみました。次号以降も様々な記事を掲載して行きたいと思いますので、ご期待ください。

お金をかけなくてもこんなに楽しめる郵趣

「切手市場」の楽しみ方

行徳 国宏

JAPEX直前スペシャルその1

競争展で減点されないタイトルリーフ

吉田 敬

JAPEX直前スペシャルその2

ジュリークリティークへの参加方法

吉田 敬

お金をかけなくてもこんなに楽しめる郵趣 「切手市場」の楽しみ方

行徳 国宏

本誌に「戦後日本の郵便史」を連載されている行徳さんは「切手市場」（管理人：高崎真一氏）のヘビーユーザーです。そんな行徳さんがどんな所に目をつけて、切手市場を探索されているのかご寄稿頂きました。

郵便史の側面から楽しんでいただける記事になっていますが、あわせてこれらのマテリアルが一枚50～100円程度のマテリアルの山から発掘されたものであり、お金をかけなくても郵趣を楽しむ方法を是非知って頂きたいと思います。

「切手市場」の楽しみ方

毎月第1土曜日に、収集家とプロの業者とが集まって開催されている「切手市場」を私は、

(1) 会報原稿に使えるマテリアル (2) 郵便史のネタになるマテリアル (3) 収集品、を手に入れる場所として利用している。

先月は (1) と (2) に使えるもので、横型封筒の第5種郵便エンタィアを数通手に入れることができた。これら横型形式の封筒は昭和36年6月1日施行の郵便法・郵便規則の一部改正に関連するので、この機会に横型封筒が使用されることになった背景などに触れてみたい。

封筒の横型化と第5種郵便

昭和36年6月1日の郵便法・郵便規則の一部改正

昭和36年6月1日、郵便法・郵便規則の一部が改正された。

基本料金である第1種と第2種郵便料金は従来通りの料金であったが、第3種、第5種及び特殊郵便料金が改正された。

この料金改正に合わせてソメイヨシノ図案切手10円（4月1日発行）を皮切りに、新しい図案の切手が発行された。第3次動植物国宝切手（図案変更）の発行である。

この改正で、第5種郵便（第1種から第4種までに該当しないもの）は「100gごと8円」から「50gごと10円」に改正された。金額で言えば、僅か2円の値上げであったが、重量を計算に入れた実質額は2倍増となった。

またこの郵便法・規則の一部改正で、縦型に使用する郵便物を横に倒して（横型）使用する郵便物に対する規則説明が加えられることになった。

「無料郵便物にはその表面の左上部（横に長いものにあつては、右上部）に〔通信事務〕と記載すること」（郵便規則第10条）

「第3種郵便では〔差出人の業務を示す広告〕に掲げる事項の記載は表面の下部三分の一（横に長いものにあつては、左側部三分の一）によってしなければならないこと」（同第30条第2項）、また「郵便はがきの表面に通信文を記載できる部分は下部二分の一（横に長く使用するものにあつては、左側部二分の一）とする」（同第14条第1項第5号）とゴチック表記の部分が加えられることになった。規則の条文に「横型使用」が加えられるようになったのは、郵便物に新しい利用傾向が出てきたからである。

封筒の横型化

戦後、横型封筒が郵便物として使用されるようになったのはいつ頃からだろうか。

昭和30年代にはいと、企業の業務拡大に伴い、電算機やタイプライターなどの事務機器がますます利用されるようになり、ジム処理の機械化、能率化と、それに即した文書類の横書き化が普及発達してきた。それに合わせるように、横型にした封筒が調整・利用されるようになってきた。

郵政省の言葉を借りるならば、「郵便規則で定められた規格の封筒を横に倒して、その長い辺にそってあて名を横書きするものが増えてきた。」

郵便規則では、「封筒の大きさは縦13cm以上、横7.2cm以上、及び料金納付（別納及び後納）の表示位置は表面左上部で変えることはできない」とされた（郵便規則第7条）。そして「郵便物の表面の上部・下部については、郵便物に記載されているあて名の頭部（文字自体の頭部）を上部とみることとした」（34年6月5日付け等強郵政局報第1013号に通達の局業一第5072号）。

封筒や葉書の規格を時代の要請するところから従わせるため、34年11月27日郵務局長から各郵政局長にあてて「封筒の規格等について」と題する通達（郵業第435条）が出された。

郵政省では、従来の縦長封筒を「正規の封筒」と呼び、横に（倒して）長くした「正規の封筒」は「便宜扱いの封筒」として区別し、「便宜扱いの封筒」が郵便規則に縦及び横として規定されている寸法に適合しているものであれば、便宜認めることとした。

「第3種から第5種までの郵便物にはその表面の〔下部三分の一以内の部分〕に広告を掲載することが出来ることになっている（規則第30条第1項後段）が便宜扱いの封筒に広告を掲載する場合には、その左側部三分の一以内にしなければならないとした」（注1）。

「封筒の規格等についての通達は…便宜の方法によって周知するとともに、銀行、デパート、会社その他ので平常郵便物利用の多い向きに対しては、特にその内容を十分徹底させるよう配慮すること。なお、さしむき35年3月末までの間は、この通達に触れるものが差し出されても…便宜そのまま取り扱ってさしつかえない」とした（34年12月15日付け同局報第1068号に掲載の局業一第11601号「例規」）。

大量の封筒を使用する会社や役所が横型封筒を調製する場合「縦型封筒（正規の封筒）の三分の一以内の部分」と定めた「差出人の業務を示す広告」や差出人の住所社名の表示位置は、左横に倒した横型封筒（便宜扱いの封筒）では「封筒右下三分の一以内」になるよう郵政局から指導なり、お願いなりがあったのではないだろうか。実際、昭和31～34年頃に使用された横型封筒をいくつも手に入れたり見てきたが横型封筒に印刷した差出人の住所、社名の位置は「封筒右下三分の一以内」に収められていることがわかる（図1）

会社や役所が差し出す郵便の種類のうち最も多い第1種と第5種郵便使用に横型封筒（便宜扱いの封筒）がその郵便規則の縦と横の寸法に適合するように調製されたものについては、昭和35年頃からそのまま使用しても差し支えないことになった。

36年6月1日施行の郵便法・郵便規則の改正前に、第1種と第5種郵便用の横型封筒の取り扱いに関して局内周知がされたため、改正郵便規則には改めて加えられなかった。

他方、横型に使用するその他の郵便物に対しては、局の現場職員にはその取扱い方に誤解が生じないようにさせるため、かっこを付けて周知させることになったのであろう。

かくして36年6月1日施行の郵便法・郵便規則の一部改正で、上述のような横型封筒に対する規則が付記されることになった。横型封筒が使用されるようになった背景を述べた。



図1 豊島 36.4.3

横型封筒の第5種郵便使用

前段が長くなったが、横型封筒使用の第5種郵便物を、縦型封筒使用の第5種郵便物と合わせて開示する。まず36年6月1日改正前の使用例から。

図1（前ページ）は6月1日より2ヶ月前使用の料金後納郵便。速達のため引受局と配達局の消印とがあり、使用時期が確認できる。横型封筒の左側で、縦型速達ゴム印の裏面の糊しろ部が一部カットされているし、窓付き封筒の中に請求書が残されているので、第5種郵便であることがわかる。第5種料金8円+速達25円であった、

図2は5月17日引受の第5種8円料金のもので、封筒上部にホチキス跡があり、仕切書も同封されている第5種郵便である。その他、5月末日の取扱いに近い日付の第5種郵便を探してみたが見つからなかった。以下は6月1日以降で、6月中に引き受けられた第5種郵便を引受日順に開示してみよう。

図3は料金改正2日目のもの、残っていた10円観音菩薩像切手が引き続き使用されていたことがわかる。



図2 下谷 36.5.17

図3 神田 36.6.2

次シリーズのソメイヨシノ10円切手が第5種郵便使用切手として使用されることになるのは実質6月1日からとなる。たくさんのエンタィアの束の中で、ようやくソメイヨシノ図案切手貼を見つけた。横型窓付き封筒で、同封されている計算書の一部が見えていた。図4は4日目の使用であった。

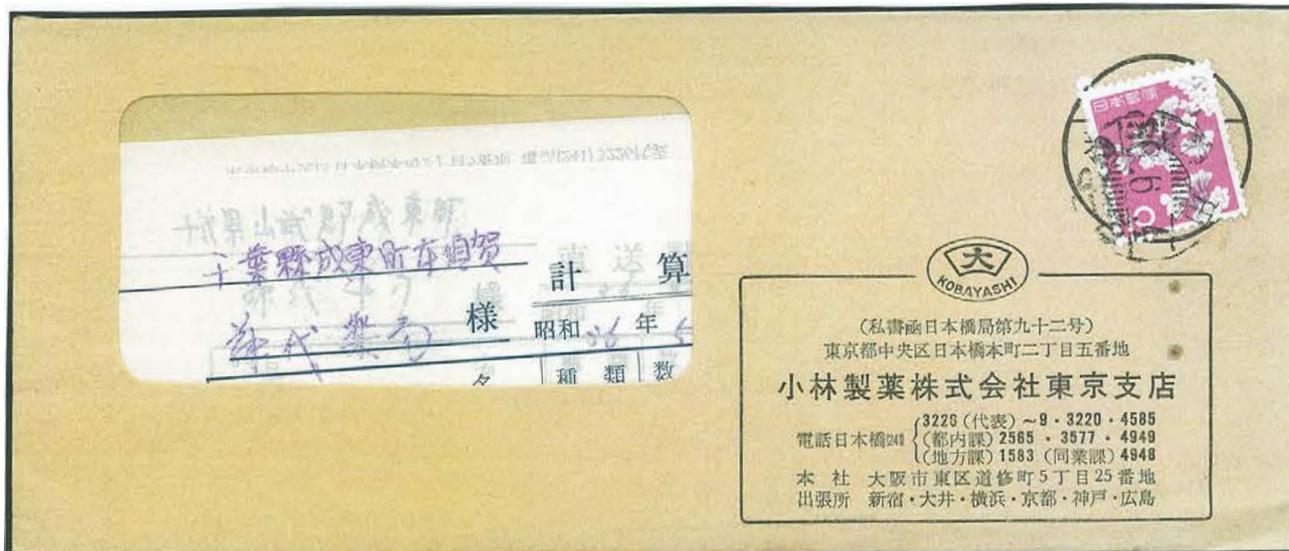


図4 神田 36.6.4

図5は料金後納扱いの、横型窓付き封筒使用の速達郵便で、左側裏の糊代部が一部カットされた第5種郵便である。



図5 福岡中央 36.6.6

重なって見つかったのは8円切手と2円切手を組合せ使用したものであった(図6)。8円から10円に値上げされた際の第5種郵便の差額分を2円切手が補っている。「請求書在中」のゴム印が押されている。これらの切手の組合せ使用はこれ1通しか見つからなかった。

36年6月中使用の第5種郵便で図版に使用したもの以外で、横型封筒使用のものは何通か店に残っていた。どれも会社差出しの第5種郵便物であった。請求書や仕切り書などが同封されていて、当時会社等では業務用に第5種郵便を盛んに使用していたことがわかる。

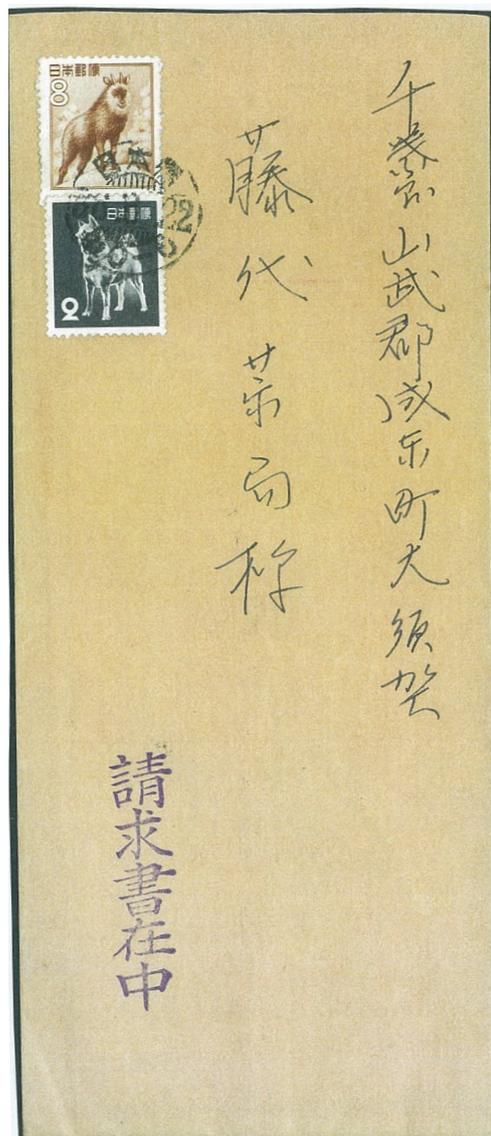


図6 日本橋 36.6.22

図7は観音菩薩像切手4枚貼の速達郵便である。会社の封筒を使用しているが個人差出しである。封筒上部裏の糊代部が一部カットされており、表面には写真在中と表記されている。一番上の切手の左側が一部裂けるいるものの、切手そのものは損傷していないことがわかったので買った。

薄い紙片の端にスティック糊を付けて切手と封筒の間に滑り込ませ、切手の裏面に糊を付け上から押さえつけた。これならリーフに貼っても全く目立たない。個人の原稿用に、また作品にも十分使える。図版から補修部が見えますか？

郵便制度史・郵便種別史を志向しながら郵便エンタィアを集めているので、封筒が多少破れていたり、切手に傷があるものであっても、コレクションに使えるものなら喜んで購入している。何しろコイン1枚ほどで買ったもので、売るつもりもないから、気にする必要は全くない。

何通もあった同時期のエンタィアの束の中から横型封筒を選んだ理由をご理解いただただけであらうか。

横型封筒を選んだ理由の他に、もう一つ郵便規則を付記できる第5種郵便がある。主題の郵便物が手に入ったら加えてみたいと思ってミニオークションで見つけて買っていたものを示す。

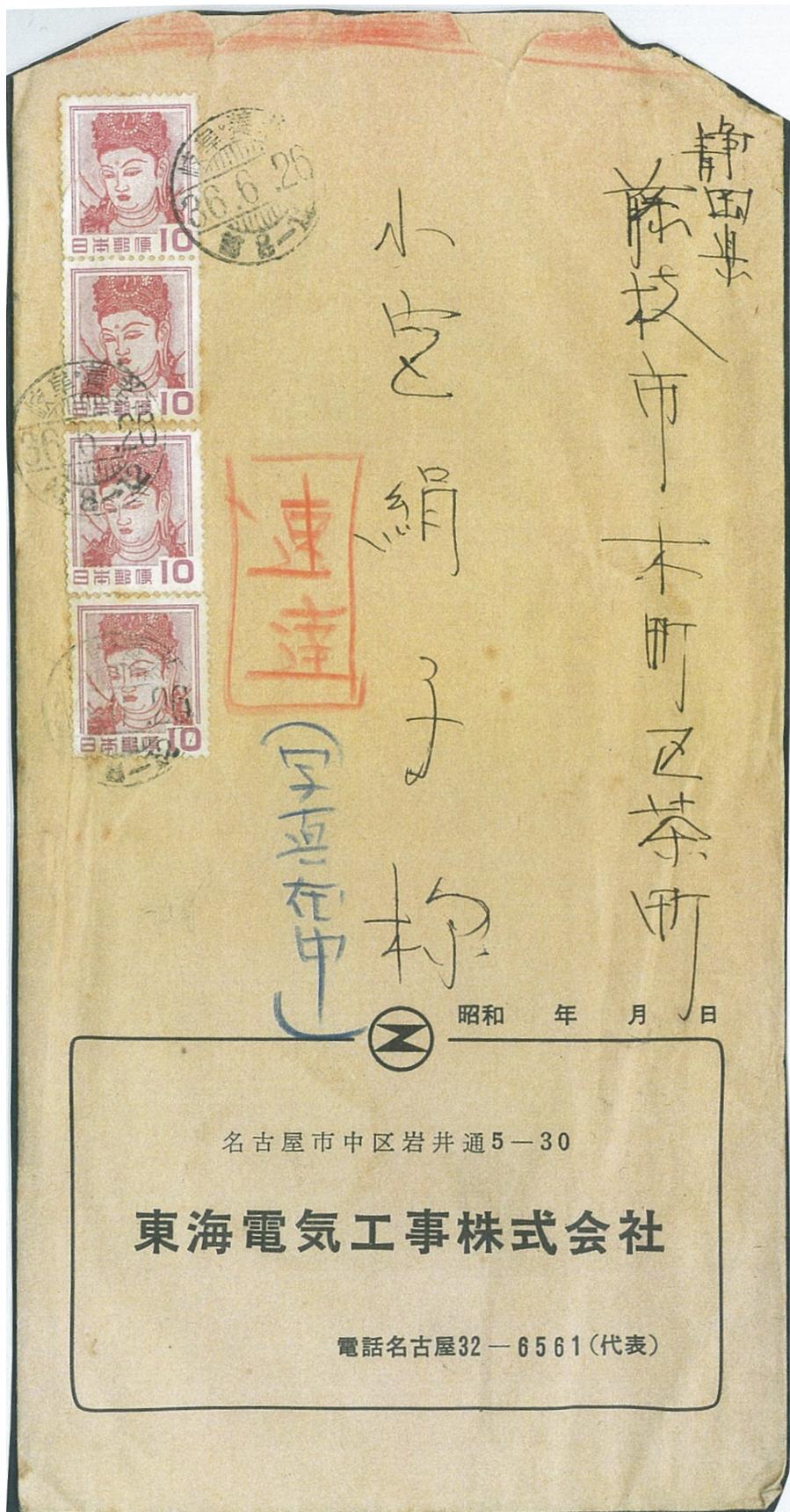


図7 岐阜養老 36.6.25

不足料金徴収特例期間中の第5種郵便

36年6月1日改正の郵便規則には従前と同じように料金不足の郵便物に対して特例期間があった。

料金不足の郵便物に対する規則で「6月1日以降郵便差出箱から取り集めた郵便物のうち料金不足のもので、6月末日までに配達局に到着したのものについては、その配達局において便宜郵便法第51条の規定にかかわらず、不足料金だけを徴収する」というものである。

料金改正後の第1種書状と第2種葉書なら何とか手に入るが、これまで中々入手できなかった、料金不足の第5種郵便で6月末までの特例期間中に使用されたものがようやく見つかった。

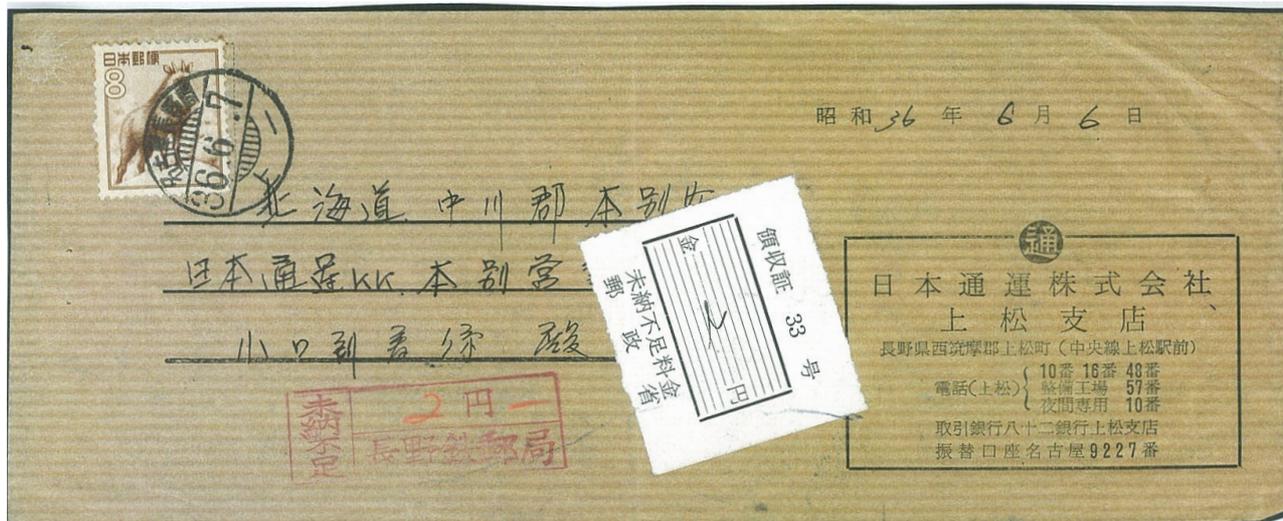


図8 名古屋辰野間 36.6.7/上一

図8は改正料金10円のところ、旧料金8円のまま鉄道郵便差出箱に投函され、鉄道郵便車内で料金不足であることが判明したため、「未納不足」のゴム印を押し、不足額2円を書き入れて配達局に送付した。配達局では「不足料金徴収の特例」に従って不足料金2円を徴収した領収証が貼付・残されている横型封筒の第5種便である。本文の最後に追加開示した。やっと晴れ舞台が見つかった。

私にとって「切手市場」は“お宝”の発掘場であり「趣味と（ささやかな）実益」を楽しむ場である。

注1：「封筒の規格等、どう変えるか—横書きをめぐるの解説—『ぼすとまん』（昭和35年3月号、10-11ページ）
「封筒や葉書の差出しに多くなった規定違反」（35年2月1日付け東京中郵 ニュース）にも同様の発表がある。

競争展で減点されないタイトルリーフ

吉田 敬

本記事の狙い

JAPEXや全日展の審査委員長総評を読むと毎年の様に「タイトルリーフをしっかりと作」るように書いてあります。しかし「郵趣」や「全日本郵趣」でタイトルリーフの作り方の記事は最近特集されていないように思います。とすると提出締切が半月後（10/4）に迫ったJAPEXの総評では再び「タイトルリーフをしっかりと作るようにしてください」と書かれてしまうのでしょうか。

この状態は審査する側にとっても出品する側にとってもフラストレーションのたまるものだと思います。JAPEX直前スペシャルとしてタイトルリーフの作り方についてまとめる事にしました。

とは言うものの「タイトルリーフ」は、その人のコレクションのありようの論理的・普遍的な解説であり、一通りの作り方を理解するのに、ヨーロッパでは二泊三日の泊まり込みセミナーを開催する程です。（2012年4月にスウェーデン、マルモ市で開催された第2回世界郵趣サミット）

かくも複雑な創作を促成栽培でJAPEXに間に合わせる為、細かい点を省き、まずは外形を整える事を目標にまとめてみました。なおサンプルに伝統郵趣を取り上げていますが郵便史にも応用可能と思います。（「テーマチック」は著者は未経験ですので参考にならない事ご容赦下さい）

事例を知るのが一番

普遍的なタイトルリーフの作り方を説明する前に、筆者が国内外の競争展に三度出品してきたドイツ切手コレクションのタイトルリーフの遷移をご覧頂きながら、改善の経緯を解説しようと思います。

2010年4月 全日本切手展2010 金銀賞（図1）

競争展に初めて出品した時のタイトルリーフです。今から考えるとよくこんなタイトルリーフを恥ずかしげもなく出したものだと思える作りですが、当時は何も知りませんでした。

「本コレクションについて」の部分は比較的まともに書けています。

しかしよくよく思い出してみたら、我流で作ったタイトルリーフをため息をついて見ていた国際展出品経験者が「これコピペするとまとまると思いますよ。」と送ってくれた文章でした。

2011年7月 Philanippon2011 大金銀賞（図2）

その後もタイトルリーフについて深く考える事もなく臨んだ国際展は、全日展のタイトルリーフを単に英訳しただけで終わりました。タイトルフォントを目立たせる事だけは気付いた様です。

German States before German Empire

German States とは

17世紀前半の三十年戦争によりドイツは数百の君主国の連邦体となった。諸侯は徐々にまとまるが、域内で最初に切手が発行された1849年11月1日(BAYERNの1Kr切手)時点で、まだ数十の諸侯に分かれており、以後各国が独自に切手の発行を開始した。これらの切手発行国の総称が German States である。

上記の概念に加えて、1890年に英国との間で締結されたヘルゴランド＝ザンジバル条約によりドイツ帝国が獲得する HELGOLAND にて1867年以降発行されていた英領ヘルゴランド島の切手もドイツでは伝統的に German States の切手の範疇で扱っている。

本コレクションについて

本コレクションは、上に掲げた1849年からドイツ帝国の一番切手発行日の1872年1月1日までの German States の全体像を概観しようとするカタログコレクションである。

Michel カタログの分類に基づき、普通切手と公用切手、不足料切手のメインナンバー401種のうち397種を全て未使用切手で揃えた。さらに、使用面でも Bremen 以外の全ての States についてカバーを展示した。

このうち、未使用切手については Michel カタログ以外の分類も参考にし、版違いやシエードを示したほか、幾つかの額面では未使用マルチプルを挿入して、変化を持たせた。

コレクションの構成

本展示では未使用切手を各発行主体のドイツ語アルファベット順に配列した。

カバーはこれとは別にフレームの最下段20リーフにまとめ、揃えて展示している。

P2	BADEN	P40	MECKLENBURG-STRELITZ
P6	BAYERN	P41	NORDDEUTSCHER BUND
P11	BERGEDORF	P50	ELSASS und LOTHRINGEN
P12	BRAUNSCHWEIG	P51	OLDENBURG
P18	BREMEN	P59	PREUSSEN
P21	HAMBURG		
P26	HANNOVER		
P35	HELGOLAND		
P36	LÜBECK		
P39	MECKLENBURG-SCHWERIN		

図1 全日展2010

German States before German Empire

What is German States ?

The Thirty Years' War in 17th century split Germany into many small states and the number is more than hundreds.

Bayern was the first to issue the stamp among those states and the date was 1st of November 1849. Germany was still divided more than ten at that time. The other states also started the issue of stamps since then. What we call German States is such stamps.

In addition to this concept, Michel catalogue recognizes the stamps of Helgoland island, Thurn&Taxis and North German Confederation as the stamps of German States.

About this exhibit

This exhibit shows all the stamps issued in German States from 1849 until 1st of January 1872, when the day German Empire issued their first stamps.

According to Michel, 405 kinds of definitives, official stamps and postage dues were issued while then at German States. This exhibit shows all these stamps in mint/unused condition, sometimes with the variety of plate, shades and in multiple condition.

Regarding used stamps, I exhibit one cover per almost all the series of each states.

Table of Contents

P1	title leaf	P37-40	Mecklenburg-Schwerin
P2-8	Baden	P41	Mecklenburg-Strelitz
P9-15	Bayern	P42-44	Oldenburg
P16	Bergedorf	P45-50	Preußen
P17-21	Braunschweig	P51-56	Sachsen
P22-23	Bremen	P57-60	Schleswig-Holstein und Lauenburg
P24-26	Hamburg	P61-68	Thurn und Taxis
P27-32	Hannover	P69-73	Württemberg
P33	Helgoland	P74-80	Norddeutscher bund
P34-36	Lübeck		

図2 Philanippon2011

2013年5月 Australia2013 大金銀賞 (図3)

図1、2と比べると全く別物になったタイトルリーフ。同一人物の作成とは思えない程変わった最大のポイントは、2012年4月にスウェーデン、マルモ市で開催された第2回世界郵趣サミットに参加し、2泊3日でタイトルリーフの勉強会に参加した事にあります。

結果としてこの切手展での評価はPhilanipponとあまり変わらなかったのですが、それはどちらかというと自分の作品に対するPhilanipponの審査が甘かった為と考えており、今後どのように作品を改善して行けば良いかが見えた切手展への参加となり有意義でした。

タイトルリーフの要素 (筆者の場合)

タイトルリーフの構成要素に話を戻すと、図3は次の七つの要素により構成されています。そして現在筆者の作る作品は、伝統郵趣、郵便史の別や、日本、外国の区分を問わず、また国内での展示だろうが海外での展示だろうが、原則としてこの七つの要素でタイトルリーフを構成しています。

ただ筆者は国際展での実績豊富なフィラテリストではありません。従ってこのタイトルリーフの作りが完璧だとは全く思っておりませんし、国際展では毎回全く違った構成の素晴らしいタイトルリーフを発見します。ですので、この構成はあくまでタイトルリーフの作成について全くイメージが湧かずJAPEXを前に参考文献がないという方向けの促成栽培用途とお考えください。

1. タイトル

目立つフォントで表示。ただし場所を取りすぎない様に注意してください。

2. この展示の目的 (Object)

形式的な文でよいので「このコレクションは〇〇 (xxxx-yyyy年) の伝統郵趣コレクションである」の様に伝統郵趣なのか郵便史なのか、またテーマは何切手なのか?を明確にします。

3. 概説/展示の背景/展示物の一般的説明

誤解されやすい項目で切手発行背景や社会情勢を書くにとどまる人が多い(図3で筆者もその過ちを犯している)のですが、それを書いても評価されないばかりか長いと減点されることもあります。

より記載すべき内容は客観的な展示テーマの郵趣上の重要性で、国内展においては既に国際展で金賞が出ている伝統・日本の「手彫、小判、菊、田沢、震災、昭和、戦前記念」以外の範囲、伝統・外国では国際展で大金賞が度々出ているシリーズ以外の切手、またすべての郵便史において、きちんと説明が記載されていない限り、いくら出品者が「自分のコレクションは珍しいのに」と愚痴ってもその重要性は伝わらないと考えた方がよいと思います。ちなみに重要性が伝わらないのは、審査員の責任ではなく出品者が説明できていない事が責任となります。

4. この展示の構成 (Plan)

タイトルリーフで最も重要な部分と筆者は考えています。色々な展開方法があり、国際展ではこの部分のライティングのうまい作品があれば、そのフレーズをコピーしているくらいです。

5. 参考文献 (Literature) 、オリジナル研究

クラシック等ではこの部分に名著が欠けていると郵趣知識がないと見なされる事もあります。自分が一番詳しいのであれば、自分が執筆した雑誌記事や単行本、WEBについて書くべき。

6. 注目のマテリアル (Remarkable items)

JAPEXでは審査員は時間を書けて見てくれるのでこの点がポイントになる事は少ないと思われませんが、一作品5分程度しか審査にかけられない国際展ではこの点はポイントになります。

7. ページ割り

場所を取らず、しかし分かりやすくするため、筆者は枠に入れて表示する様にしています。

よいタイトルリーフを作れるようになるには、大量のタイトルリーフを見るのがよいトレーニングになると思います。PHILAKOREA2014出品作品の大半のタイトルリーフは下記サイトにてダウンロードできますので、お勧めします。

http://www.philakorea.com/core/board/list.asp?bi_num=6&ca_num=&find_sort=&find_name=&find_title=&find_content=&find_text=&adm_page=®ion=&page=3

German States before German Empire

The object of this exhibit is to show the basic collection of German States stamps, enhanced by some discreet elements of postal history such as covers or printed matter items, meant to illustrate the stamps more profoundly, as it would result from the listing found in any major stamp catalogue.

What are the German States?
The Thirty Years' War which took place in the 17th century left the territory of what is now known as Germany divided into numerous small states. Of them, Bayern was the first to issue postage stamps on the 1st of November, 1849. At that time, Germany still didn't exist as a unified political entity, and its territory was divided into more than ten different independent states.

After Bayern's First issue, all of the other states in German territory have started issuing stamps, and these stamps represent what is generically called "German States" in philately, although some States entrusted the administration of their postal services to a postal-union type of company run by the princely family of Thurn & Taxis.

In addition to these stamps, the Michel catalogue also lists the stamps issued by the Norddeutscher Bund respectively, as German States stamps.

The plan
This exhibit shows all of the stamps issued by the German States from 1849 until the 1st of January 1872, when the German Empire issued its first stamps. According to the Michel catalogue, there are 399 stamps (Main number) issued by the German States in the period mentioned above.

There were seventeen issuing authorities which produced the stamps of the German States, and thus the exhibit is divided into seventeen sections in a chronological order according to the date of issue of the first stamp in each of those sections.

Furthermore, the exhibit shows all of those stamps in unused condition, occasionally presenting plate flows or varieties, distinct shades or multiples as well. As far as the stamps in used condition are concerned, one cover of almost every series is included.

I use German instead of English only when I show the shade varieties of stamps listed at the Michel catalogue.

Literature
Altdeutsche Staaten Spezialkatalog (Thomas Henke), *Auslandsbriefe der Altdeutschen Staaten Band I* (Erivan Haub, 2011), *Bayern Farbtafeln der ungezähnten Kreuzerausgaben Nr.1-21* (Peter Sem) etc.

Remarkable Items are shown in red rectangles.

P2-16	Bayern
P17-26	Sachsen
P27-36	Preußen
P37-44	Schleswig-Holstein
P45-52	Hannover
P53-64	Baden
P65-74	Württemberg
P75-80	Braunschweig
P81-86	Oldenburg
P87-96	Thurn und Taxis
P97-100	Bremen
P101-105	Mecklenburg-Schwerin
P106-112	Hamburg
P113-116	Lübeck
P117-119	Bergedorf
P120-122	Mecklenburg-Strelitz
P123-128	Norddeutscher Bund

図3 Australia 2013 ※別作品だが、著者のスイスクラシックの日本語タイトルリーフを本誌号外 (2014/7/25発行) のP.66に掲載しているのでよろしければご覧下さい。

ジュリークリティークへの参加方法

吉田 敬

ジュリークリティークの意義

The Philatelist Magazine 第3号の記事「どの切手展に出品すべきか？」で紹介した「ジュリークリティーク（審査員との対話）」は、競争切手展に参加する魅力の中でも大きい物の一つで、日本郵趣協会の発行する「郵趣」誌2014年1月号で理事長の福井和雄氏が巻頭で述べておられましたが「（審査員との）対話に参加しない人の気が知れない」という認識をされる出品者すらあらわれてきています。

一方で実際のジュリークリティークに臨んでみると、審査員との対話に必ず参加する人がいる一方で、何度出品しても頑に対話に参加しない出品者もいることに気付かされます。

2フレーム以上の自由展示ができる大規模非競争切手展は国内には存在しません。従ってそのようなコレクションをお持ちの方が大規模な展覧会に展示したい場合は、やむをえず競争切手展の場を使うしか方法がありません。このような場合にはそもそも賞へのインセンティブはないはずですからジュリークリティークは出る必要はありません。しかしその場合を除けばより高いポイントを獲得するためにジュリークリティークは万難を排して出席すべきものです。

何故か？

それは競争切手展は審査競技だからです。

競争切手展は、陸上競技のタイムの様に客観的な優劣を競う物ではなく、フィギュアスケートの得点の様に審査員がつけたポイントを競う競技です。ですから審査員がどのように作品を見て、どのようなポイントをつけたかについて考えを聞かなければ、欠点に気づかないからです。

審査の元になる規則はもちろん存在し、日本の二大競争展であるJAPEXと全日本切手展は両方とも国際郵趣連盟が定めた国際切手展ルールに準拠する事を宣言しています。

しかし、法律を少しでもかじった事がある方なら分かると思いますが、ルール＝「法」の解釈にあたり、判例を知らずに条文を独自に解釈したつもりでも見当違いになることは多々あります。ですからルールを運用して採点をしている審査員がどのように考えているかについて知る事は、出品作品の改善に欠かせない情報なのです。

では、JAPEXのジュリークリティークはどのように運営されているか、ご紹介しましょう。

JAPEXのジュリークリティークの実際

筆者は2010年春に全日展に初出品しましたが、JAPEXへの初出品は2011年秋でした。

全日展はジュリークリティークを提供できていない競争切手展ですので、筆者の国内展ジュリークリティーク初体験はJAPEX2011でした。

JAPEXはジュリークリティークを「審査員との対話」という名称で呼んでいます。そして大抵の場合、切手展開催期間の末日の開場一時間前からの数時間に実施しています。

全審査員と全出品者が一緒に対話するのでは時間がかかって仕方ないので、大抵の場合は、部門ごとに分かれて行動します。（これは国際展でも同様です）

つまり、「伝統・日本」「伝統・外国」「郵便史・日本」「郵便史・外国」「テーマティック」等に分かれて、同部門の審査員と出品者が一緒に行動します。またワンフレーム部門への出品者は上記グループに分類され、一緒に行動していました。

それぞれのグループでは、対話を希望する出品者の作品の前に行き、対話を開始します。

順不同で行いますがもし用事がないのであれば、なるべく自分の番を遅くにし他の出品者の対話を一緒に聞いて回ると、他人の作品のどこが評価され逆にどこが要改善なのかも一緒に勉強する事ができるのでお勧めです。

対話は大抵の場合、審査員から切り出してくれます。出品作品のどこが良くどこが悪いかについてどんどんポイントをあげてくれます。もちろん出品者は質疑応答を行ってよく、疑問を持ったら聞く事が大事です。対話時間は5分前後ですが、参加者の人数や審査員のその後の用事の具合によって変わります。私は審査員から切り出されない限りはずっと話をするようにし、少しでもヒントを得ようとしています。

ちなみに審査員との対話への参加は全ての競争出品者に与えられた追加料金不要の権利ですが、日本郵趣協会への事前申込が必要で、事前申込してもらえない参加葉書もしくは参加証がないと、そもそも開場前の会場に入場すらできませんのでご注意ください。

審査員との対話を有意義にする方法

国際競争展でも稀に審査結果について審査員と口論する出品者を見る事がありますが、端から見ていて格好いいものではありません。成長期にスポーツを究めていない人の中には審判とのやり取りに慣れていない人もいるのかもしれませんが、何のプラスにもなりませんし、ボランティアで審判＝審査員をしてくれている人にリスペクトの念を持たなければ、競争競技に参加するスタートラインには立てないと思います。

もちろん人間のやる事ですから審査に誤審がないとは言いませんが、私はそれも含めて競技だと思っています。一度発表された審査結果が変わる事もないわけですから、無駄な事に力を使うのではなく、誤審を引き起こした原因が自分側にないか、その原因を少しでも取り除くにはどうすれば良いかを探り出す様な態度で臨めば、どんどん作品から欠点を取り除く事ができるのにもったいないと思います。

それでは私の考えるジュリークリティークを有意義な物にする工夫について述べたいと思います。

1. メモは必須

そんなの当たり前だと思う人も多いでしょうが、私は初めてのジュリークリティークが Philanippon2011で、全くの手ぶらで参加してしまいました。お忘れなき様に。

2. 出品部門の枝点について理解しておく

競争点ルールを完全に知っているならともかく全く知らない場合も、自分の出品部門の枝点をまずは知っておきましょう。それさえ分かればポイントをブレイクして審査員と対話することができるようになります。(表1)

	テーマティック以外の全部門	テーマティック部門
主題、構成と展開	30点	35点
郵趣知識と研究	35点	30点
状態と稀少性	30点	30点
展示技術	5点	5点

表1 枝点

3. 作品制作中に感じたリーフ作りの疑問は予め質問として作っておく。

「分からない」事を具体的に説明できるか既に分かっているのなら簡単です。それをすべて審査員に聞いてしまいましょう。なるべく短い質問にすると審査員も答えやすく、満足のいく回答が得られると思います。それができないということは「何が分かってないのか自分で分かってない」状態だということです。ちなみに国際展に参加するが英語が苦手だという様な場合は、予め英文を印刷して最初に審査員に渡しちゃうという手もあります。

4. 審査員の発言に疑問が湧いたら、なるべく冷静にルールの解釈として質問する

国際展ですら審査員の発言に「えっ？」と思う事は結構あります。国内展ではなおさらです。しかしそのような場合に感情的になっても何も得る物はありません。まずはそれが誤審なのか、自分の理解の間違いなのかを明確にすべきで、その為には規則の解釈や、競争展に関するセミナーにおける事例を元にして話をするとよいのではないかと思います。

5. 評価の良い作品を紹介してもらう。

自分の出品物と類似する作品や、参考にするとよい作品を審査員に紹介してくれる様に依頼するのはよい勉強になると思います。この時に大事なのは珍しい物があって良い作品ということではなく、タイトルリーフの書き方やフレーム全体の構成、マテリアルに対する説明の書き方や版欠点の表示方法、カバーの郵便料金の説明方法など、プレゼンテーション面や展開を中心とした点でのお勧めを示してもらうことです。

6. 自分の類推力を磨く。

コレクション作りだけでなく仕事についても言える事ですが、指摘された点やヒントがすべて自分のケースにあてはまることばかりではないでしょう。

そのような時に「それは自分の作品には該当しないから」と拒絶するのではなく、一点でもいいから自分の作品に応用できる点はないかと類推する思考をすることが大事です。

審査員も人間です。色々アドバイスしたにも関わらず、「違う」と拒絶されてばかりでは、教えてやろうという気が失せてしまうと思いますので、結果として出品者は損をすることになってしまいうでしょう。

7. 素直に聞いて、まずはやってみる。

国際展で大金賞を獲ったある郵趣家は、大企業の子会社の社長を務めた後に収集を本格化させたコレクターでした。その彼の評判を聞く時に審査員が口を揃えて言うのは「あの人は（自分たち審査員より社会的地位も高いのに）審査員との対話で指摘された点を毎回素直に聞いて、次の出品にはすべて直してのぞんできているから、その結果が出ている」でした。

これまでの点を読めば分かる通り、審査員との対話を生かすも殺すもこの点に尽きる様な気がします。まずは素直に聞いてみる。そして言われた事をやってみる。これこそが次の切手展でよりよい賞を取る為のコツなのです。

どうしても審査員との対話に出席できない時の裏技

以上まとめてきましたが、「審査員との対話」の意義が伝わりましたでしょうか。

この有意義な「審査員との対話」も、三日目朝に会場に居る事ができない人はその恩恵を受ける事が原則としてできません。このような場合は、自分の作品の改善のヒントを審査評という用紙以外からは得られないのでしょうか。

もしあなたが二日目の午後までは会場に居る事ができるのであれば、一つの方法としては審査員に直接、声を掛けるという手はあると思います。審査員は基本的に出品者の作品をよりよくしたいと考えていますので、審査結果の発表後で用事がない限りは、余程失礼な頼み方をしない限りは事情さえ理解してくれば、熱心な出品者に対して好意で多少の時間は割いてくれると思います。

またJAPEX以外の競争切手展で審査員をしている人を見つけて、疑似クリティークをお願いするのも一つの方法です。

なお審査経験のない人のアドバイスは必ずしもダメではないのですが参考にならない事が大半というのが私の経験上の感想です。よほどの確だと言われているごくわずかなパーセンテージの人を除くとアドバイスを求める事をお勧めしません。

郵趣活動の記録

競争展レポート

全日本切手展2014 総括と反省

内藤 陽介 (インタビュー)

全日本切手展2014 受賞一覧

編集部

全日本切手展2014 参観記

長野 行洋

PHILAKOREA2014 日本人の受賞一覧

編集部

PHILAKOREA2014 参観記

伊藤 文久, 菊池 達哉, 木戸 裕介, ジャン・ボルツ, 吉田 敬

セールの記録

ジャパン・スタンプオークショニアレポート

ジャパンスタンプ商会 鯛 道治

当コーナーでアピールしたい郵趣団体の皆様へ

郵趣イベントのレポートや郵趣団体の活動をアピールしたい方は下記へご相談ください。

オークショニアからのレポートや各種セールレポートも歓迎致します。

問合せ先: tpm@stampedia.net

内藤陽介 全日展実行委員長にインタビュー

全日展2014 総括と反省

編集部（以下「**編**」）「全日展2014、大成功と言っていいですよね？おつかれさまでした。」

内藤（以下「**内**」）「ありがとうございます。天候にも恵まれ三日間の会期でのべ3,500人のご来場を頂く事ができ、また運営上も特段の不手際もなく終了する事ができほっとしております。」

編「今は皆さん賞賛されていると思いますが、開催前は心配の声絶えなかった様な気がします。作品が集まらないのではないか？集客できないのではないか？運営できないのではないか？これらを覆した要因はなんでしょうか？」

内「まず第一の要因は、素晴らしい作品をご出品くださった出品者の方の質・量にあると考えています。62作品202フレームというのは近年まれに見る数字です」

編「日本郵趣協会さんが運営されているJAPEXの去年の競争展出品が108作品ですから、それにはかないませんが、素晴らしい数字だと思います。」

内「出品物と同様に切手展の質を決定する大事な要素は、切手の入手機会の提供にあると考えています。この点では日本中から18店が参集した水準は売り手にも買い手にも満足のいく物だったと思います。実際、出店された店舗さんの満足度は高かったです。」

編「全日展の枠から離れますが、二日目に近くでフリマを開催した切手市場管理人の高崎真一さんが、毎年夏枯れする8月の切手市場が、活況だったと言っていましたよ。」

内「そうなんです。会場がわずか一駅しか離れていない切手市場さんとは互いに他を宣伝するコラボをしまして、これはすごく効いたと考えています。来年も是非同様の取組をしたいですね。」



内藤陽介さん

出品物と切手商がここまで集まった理由

編「実はフィラテリストマガジンでは、全日展参観者の悲観的数値として、『のべ1,000人』という数字を予想していました。」

内「実際には有料入場券の販売枚数だけで千枚を越えましたし、のべ3,500人のご入場がありましたから今となっては嬉しい誤算ですけど、悲観的に考えていた時期もあって、その頃はそういった数字が頭をよぎったこともありました。」

編「作品も当初は100フレーム位しか集まらないのではないか？と噂されてましたが。。」

内「そうなんです。危機感は半端なかったですよ。」

編「ふたを開けてみたら、作品は質・量ともに国内でも屈指のレベルですし、入場者数も大幅に上ぶれました。勝因は何ですか？」

内「はい。出品物は、出品ジャンルのバランスも非常に良く、予想以上に集まりました。また切手商も全国からお集りいただくことができました。これは、ひとえに色々な方々が周囲に声をか

けてくださったおかげだと思っています。本当にありがたいことだと感謝しております。日本のフィラテリストや切手ディーラーの皆様の『全日展をなくしてはいけない』という強い意志が働いたと実感しています。皆さんのこういった意思が本当に嬉しいです。」

編「当誌の号外はどれくらいお役に立てましたかね？」

内「あれは最後の集客の追い込みに大きく寄与したと確信しています。単に全日展の宣伝になっただけでなく、切手展の参観方法の新しい潮流になりました。来年も是非お願いします。」

切詰運営で赤字は出なかったが課題は山積み

編「来年7月の開催予定も告知されていましたし、来年に向けて運営は順調ですか。」

内「いやあ。その話になると途端に暗転してしまいますね。（笑）競争展の開催に欠かせないのは、審査員とお金なのですが、後者がとにかくきついですね。」

編「そうなんですか？全日展さんは結構ローコスト経営を追求されていて成功されている様にお見受けしましたが。」

内「はい。以前に比べて競争展の運営の必要経費を絞ると共に切手商ブースも拡充しました。しかしそれでも100万円近い赤字が出てしまうため、寄付金を募りようやくトントンというところなんです。しかし初年度こそ皆さんご祝儀で寄付金を出してくださいましたが来年以降も出してくださるとは限りません。」

編「私どもがそれ以上に課題だと考えているのは全日本切手展実行委員会のスタッフの中で内藤さんが筆頭だとは思いますが、全ての労働をボランティアで活動されるのは、継続性の点で大きな課題なのではないかと考えています。どうでしょう？」

内「ご指摘の通りです。実行委員長として私が費やした時間は500時間を優に越えますが、一円ももらってはいません。それは、副委員長として主として切手商や設営業者との折衝にあたってくれた山崎好是さんもそうですし（さすがに、山崎さんの場合、発送などで会社のスタッフを使った分に関しては、経費の実費をお支払いしていますが）、連合の理事の井上和幸さん、当日のマネジメントを仕切ってくれた鈴木康嗣さんも同様です。このほかにも、程度の差はあれ、運営に関わっていただいた方の多くは、交通費すら自前という状況です。私が実行委員長をやる間はいいのかもしれませんが、これでは優秀な人材に実行委員長を引き継いでもらう事をお願いするのは難しいのではないかと思います。」

編「500時間はすごいですね！JAPEX実行委員長はそこまでかからないと思いますけどその差は初年度だからですか？」

内「初年度だからという事もありますが、全日本切手展実行委員会には事務局組織や職員がいないため、本来組織のトップがすべきでない仕事も全部やっていることに原因があると思います。プレスリリース原稿の作成はもちろん、搬入・搬出時に会場の駐車場へ車を入れる際のIDカードの申請や控室のお茶菓子の買い出しまで僕がやっていますので。」

編「なるほど。一人優秀な職員が入るだけで、実行委員長の労務は大幅に減らせそうですね。それをしない限り、他の方には頼めないでしょうね。」

内「そうなんです。だからお金の面の課題が一番大きいですね。来年に向けてよりよくしたい最大の課題です。」

ジュニア対策

編「当社はジュニア向けの郵趣雑誌 stamp club も発行しているので、切手展のジュニア振興策にはいつも着目しているのですが、参観者におけるお子さんの数は少なかったですし、作品も正直寂しかったと思っています。この辺りはいかがでしょうか。」

内「周辺の教育委員会にチケットを配布する等すればもう少し違ったのですが、優先順位が低く、今回はそこまで手が回りませんでした。正直どうすればいいかジュニアについては見えていません。」

編「日本で行われているここ数十年のジュニア向け郵趣振興策を見る限り、むかしながらの子供向け郵趣振興をやっても、フィラテリストがうまれる結果は全く出ていないと思います。ですから切手教室にせよ切手展にせよ、結果を見ずにルーチンワークのように繰り返す事はやめた方がよいというのが当社代表の吉田の意見です。」

内「耳の痛い話です。でも背伸びした子の知的欲求を刺激できる様な趣味でないと、他の趣味には勝てないでしょうし、その為にはまず大人の収集家がきちんとしなければならないですね。」

全日展2015は7/17-19に東京・錦糸町で開催

編「今年全日展最終日のサプライズは、審査委員長講評で、正田幸弘氏の口から、来年の全日展開催についての力強い言葉があったことです。」

内「はい。ちょっとフライングではあるんですけどね。(笑)」

でも、すみだ産業会館事務局に、2015年7月17日から19日にかけての三日間の予約を入れてきたのは事実です。」

編「この会場ほど、事前の評判が悪くて、切手展開催後の評判が手のひら返しでよい会場も珍しいですよ。(笑)」

内「そうですね。(笑) 私は墨田区民ですし錦糸町駅は最寄駅なので身近なのですが、大半のフィラテリストにとっては錦糸町は全く知らない土地だったからなんですね。でも会場のすみだ産業会館は丸井の入っているビルで、飲食店も豊富。皆さんから来年もここでやってくれと言われてます。」

編「今年大成功の企画展について来年のお考えをお聞かせください。」

内「はい。今年についてはとにかく大使が来てくれて良かったと思います。来年についても色々と考えておりますが、日本との国交関係であるメジャーな国と調整中です。ダメになる事も多々ありますが、うまく行けばインパクトのあるものができますので、外国関連は引き続き追って行きたいと思います。それに加えて国内関連の企画展を考えて行きたいと思います。」

編「今年全日展が終わって確信しましたが、これから暫くの間、全日展は黄金期を迎えると思いますね。」

内「ありがとうございます。共催の通信文化協会や日本郵趣連合とも協業し、財政基盤を安定して運営して参りたいと思います。」

全日本切手展2014受賞一覧

全日展2014の出品作品（文献以外）の審査結果一覧は下記の通りです。

部門	作品名	F	出品者	都道府県	賞
伝統・日本	手彫桜・鳥切手カバー	5	手嶋 康	東京都	G(85)
	新小判切手	3	長野 行洋	東京都	V(77)
	田沢旧大正毛紙切手	5	丹羽 昭夫	東京都	G(87)
	支那加刷 菊・田沢10銭	3	柳川 英幸	静岡県	V(75)
	第1次新昭和切手	3	濱谷 彰彦	東京都	S(68)
	第2・3次新昭和切手	5	遠藤 浩二	福島県	LS(73)
	第3次新昭和切手	4	和田 輝洋	東京都	LS(73)
	第一次国立公園1936-1941	4	宇佐見比呂志	愛知県	S(68)
	手彫封皮	5	石川 勝己	東京都	G+SP(89)
	フィリピン日本占領切手1942-1945	5	鏑木 顕	東京都	G(85)
	手彫証券印紙	3	浅野 周夫	秋田県	S(67)
	手彫証券印紙	4	山崎 好是	東京都	G(86)
	手彫証券印紙	5	長谷川 純	愛知県	G(85)
伝統・外国	ルーマニア・フェルディナンド I 世ミディアムヘッド1920-1927	5	板橋 祐己	神奈川県	G(86)
	The Rotary Press Printings of The Fourth Bureau Issue 1923-38	5	田村 邦彦	島根県	G(85)
	アルゼンチン San Martin シリーズ 1923 / 24	4	佐藤 浩一	神奈川県	G+SP(87)
	Hawaii 1864-1899	3	山田 廉一	東京都	V(76)
	ルーマニア 麦の耳	5	寺本 尚史	和歌山県	G(88)
	Switzerland from Cantons to Confederation	5	吉田 敬	東京都	LG+SP(93)
	英国1d 1840-1851	3	長濱 哲比古	兵庫県	V(75)
郵便史・日本	別仕立・別配達と配達証明	5	安藤 源成	岡山県	LV(84)
	訴訟書類の郵便史1873-1947	5	岡本 哲	岡山県	G+SP(86)
	日本の軍事郵便(昭和編)	5	森下 幹夫	埼玉県	LS(73)
	小判はがきde東京の便号	3	近辻 喜一	東京都	B(59)
	小判1銭葉書の使用例	3	村上 信和	岡山県	SB(63)
	越後国の初期消印(不統一印・記番印)	5	村山 廣祐	新潟県	LV(83)
	山形県初期郵便印(羽前・羽後国、不統一～二重丸)	5	富樫 敏郎	千葉県	V(78)
	東海道・山陽本線(東京門司線)の鉄郵印	5	青木 章博	三重県	S(65)
	青島守備軍管内の郵便印	3	加藤 秀夫	静岡県	LV(82)
	料金別納印・料金収納印	3	山田 克興	東京都	SB(62)
	欧文機械印	5	吉田 敬	東京都	LV(83)
	朝鮮消の一端	4	高村 昌雄	愛媛県	B(58)
	郵便史・外国	U. S. Return Receipt Requested, 1866~	5	和田 文明	福岡県
MANCHURIA1895-1951		3	伊藤 純英	長崎県	LS(73)
ドイツインフレ期スイス宛郵便1922-1923		3	伊藤 文久	東京都	LS(74)
テーマティック	ヒトラーとナチス・ドイツの興亡	5	北村 定従	石川県	V(76)
	不滅の交響曲「第九」の誕生から現代まで	5	加賀谷 長之	秋田県	LS(74)
	芸術家たちの肖像史～西洋美術600年の軌跡～	5	江村 清	神奈川県	G(85)
	自転車物語	5	板原 研三	高知県	SB(64)
オープン	萬國郵便聯合(UPU)	4	田口 徹	東京都	B(59)
	切手で見る故宮文物	3	北島 文子	佐賀県	B(57)
ユース	相撲の歴史	5	須谷 伸宏	大阪府	V(77)
	動物たち	1	石本 勇晴(小3)	東京都	SB(64)
	世界ののりもの	1	上原 海斗(小3)	東京都	SB(62)
	小倉百人一首と源氏物語	1	宮本 唯愛(小6)	兵庫県	S+SP(72)
	キャラクターがいっぱい	1	津田 珠野(小6)	兵庫県	SB(62)
	韓国航空郵便史1947-58	3	木戸 裕介	埼玉県	G(89)
ワンフレーム	シベリア経由の中国局媒介送	1	石代 博之	愛知県	V(79)
	弓(アーチェリー)	1	石井 孝秋	東京都	S(65)
	藤原鎌足5円	1	池田 健三郎	東京都	LV(84)
	明治時代の記念切手	1	木下 朋英	東京都	SB(60)
	日琉混貼郵便	1	瀧川 忠	北海道	SB(63)
	絶海の孤島の郵便史～無人島開拓による企業統治-沖縄・大東島の事例～	1	石澤 司	沖縄県	LV(84)
	点字郵便	1	大沢 秀雄	茨城県	LV(81)
	釧路国根室国の丸一型郵便印	1	長野 行洋	東京都	SB(64)
	篆書体 不統一印	1	山崎 好是	東京都	V(79)
	美濃国丸一印「郡名入り黒野」の局名消印の変遷	1	高木 康之	兵庫県	S(68)
	洋画家・藤田嗣治と「秋田の行事」	1	加賀谷 長之	秋田県	LS(73)
	UNZEN	1	伊藤 純英	長崎県	V(76)
	リパティエって誰?	1	川辺 勝	愛知県	LV(83)
	グレース・ケリー -ハリウッド映画スターからモナコ公妃へ-	1	村山 良二	千葉県	S(69)
	現代郵趣	郵便局と郵便事業統合により変わる支店分室などの日付印	3	伊祁 恵琳	徳島県

文献の審査結果一覧は下記の通りです。

部門	作品名	出品者	都道府県	賞
単行本・カタログ	郵便局へ行こう！	今村 公一	佐賀県	B(58)
	全日本切手展 全記録	小藤田 紘	北海道	LS(73)
	最近の情報発信10周年記念	長田 伊玖雄	静岡県	LV(80)
	千葉県の記念日付印集2012	橋浦 芳朗	千葉県	B(55)
	金井宏之コレクション「日本手彫切手」	(財)切手文化博物館	兵庫県	G(87)
	てつゆう＝梶原ノート＝	株式会社 鳴美	東京都	LV(81)
定期刊行物	フィラ関西	藤田 卯三郎	兵庫県	LS(71)
	Stampedia Philatelic Journal	無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社	東京都	G(85)
	Stamp Club	無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社	東京都	LS(73)
	ザ・フィラテリスト・マガジン	無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社	東京都	LV(80)

ワンフレームクラス・ベストコレクション二点の全容をご覧いただけます。

全日本切手展2014で展示されたワンフレーム作品の内、観る者を唸らせたベテラン2名によるベストコレクションを出品者のご好意により、バーチャル切手展サービス「スタンペディアエキシビション」で、全ページカラー公開できることになりました。(9月16日夕方より)

両作品とも「ワンフレームでなければ展開できない主題でなければならない」というワンフレームクラスの難しい出品要件を見事に満たしていますので、どうぞご参考になさってください。

「藤原鎌足5円」(東京・池田健三郎)

「絶海の孤島の郵便史～無人島開拓による企業統治～沖縄・大東諸島の事例～」(沖縄・石澤司)

藤原鎌足 5円 1939-48

Japanese High-value Definitive Issue "Fujiwara-no-Kamatari 5 yen"



わが国の普通切手に5円という高額面が登場したのは1908(明治41)年であり、神皇皇后を描く切手は、実に書状基本料金(3銭)の167倍相当であった。1937(昭和12)年以降になると、近代的な切手図案を採用している欧米列強に倣い、わが国にも所謂新鋭切手人種を極く新たな普通切手シリーズを創出し、最高額面の5円・10円の図案のうち、前者を藤原鎌足と定め1939(昭和14)年5月21日に発行された。その別刷しは総務と加賀利勝雄との合作で、旧版郵政印刷製版課課長の五藤金吉が担当、技巧を凝らした見事な出来栄で、わが国の初刷人物切手の傑作の一つと評せられる。

昭和切手の時代においては5円という額面は、書状基本料金(4銭)の125倍であり、現在の郵便水準に置き換えれば「1万円切手」以上に相当するものであった。したがって、その用途は収入印紙に近く、もっぱら企業等の大口電報料金や大口郵便料金、私書兼用切手等の支払い用であったことから、郵便局内で書状に貼付されるまま消印で打消されるという「局内使用」が一般的で、内地はもとより外地の各郵便局においても広く乱取・使用されている。他方一般の郵便物への直接貼付を想定したものでなかったため、まわって種にみられる郵便物自体への貼付例は、高額の外国債(航空便や重慶便)などが盛んに知られるのみである。

その後、大東亜戦争の戦況悪化に伴う物資不足を反映した郵便切手の簡素化により、鎌足5円切手は、重厚なその裏面に印刷方式が簡便から平版へと改められ(第3次刷切手)、表示が行われないうえに、郵政はさらにかつてなく、戦況悪化のため切手替えられた在留で終戦直前(1945年8月)に出現した。粗製濫造とならざるを得なかったため、この切手は製造上のバリエーションが豊富である。これについては、先行研究(新井元一・大村公作氏等)を踏まえつつ独自の研究成果に基づき丁寧な整理のポジション結果も提示している。

その後、日本の「鎌足5円切手」の使用は、戦後の連合軍の占領政策により「軍国主義や侵略政策、神道に関連する図案である」として、1947(昭和22)年6月29日をもって発売禁止となった後、使用禁止措置がとられる1947(昭和22)年8月31日まで継続した。

プラン

I 第1次昭和5円切手……………p.2-8
II 第3次昭和5円切手……………p.9-15
III 台湾地方切手5円 兼加刷(不発行)および「中露民間 台湾切手加刷」……………p.16

参考文献:『日本切手名鑑 第7巻 1940』、『日本切手専門カタログ 戦前編』、『昭和切手発行資料集』ほか

絶海の孤島の郵便史

～無人島開拓による企業統治～沖縄・大東諸島の事例～

島開拓で羽を採集事業による巨万の富を得た八丈島出身の五里平右衛門は、明治33年1月、南大東島に初上陸して以来、巨額の私財を投じて南・北大東島の開拓を行った。

明治43年、合名会社五里商会を設立し、北大東島では製糖振振、南大東島では製糖業を行った。労働者には八丈島出身者を始め、沖縄本島、宮古・八重山群島からもやってきて、作業に従事した。しかしながら、沖縄本島との交通は、五里商会の経営上、必要に応じて帆船を寄港させるだけで、定期的な航路ではなかった。

この状況に配慮して、五里商会は住民からの郵便物を事務所まで預かり、便船が来航する都度に取りまとめて船長に託し、取引先の大阪共立物産会社を経由して郵便局に発送していた。本土からの郵便は、宛名を「大阪市西区落港三条通大船平吉交付沖縄県島尻郡南大東村何某」と書き、送達も大阪共立物産会社が引き受けていたというのが、この五里商会時代の書状やはがきは現在まで発見されていない。

このコレクションは、現在まで確認されている絶海の孤島からなる大東諸島の郵便について、「南・北大東島」及び「沖大東島(ラサ島)」の2章に分け、時系列で昭和47年5月の沖縄の本土復帰前までについて整理したものである。

序章 大東諸島の概要等……………2リーフ
第1章 南・北大東島……………3～12リーフ
第2章 沖大東島(ラサ島)……………13～16リーフ

郵便事業主体の変遷(米国施政権編入まで)



注: 本作品中、施政権が日本の場合は元号標記、米国の場合は西暦標記としている。

全日本切手展2014 参観記

長野 行洋

ていば一くが閉館、郵政博物館が押上スカイツリー・そらまち8階で再オープンの今年。盛夏の8/1~3にJR錦糸町駅前丸井8階・すみだ産業館で、初めて全日本切手展が開催された。地方の方にはなじみが薄い東京下町であったが、東京駅・品川駅からのアクセスの良さと駅前からの至近距離がおおむね好評。7Fが丸井レストラン街だった事も喜ばれた。

今年は、企画展示が盛り沢山。「カリブ切手展」では、英領ギアナの数千万円クラスの珍品他、普段目にはできないクラシックで眼福。駐ジャマイカ・ハイチ大使ご来場の華やかなオープニングセレモニー。

「記念切手120年」には明治銀婚未・済シート、大正銀婚未裁断シート、特殊料金郵便の切り口で分類された戦前記念切手カバー集。何より郵政博物館特別出品の戦前記念切手の原版・原版刷には開いた口が。

「機械印100年」は、清水勝利氏の定評の大河コレクションはじめ、小代式の珍品に唾然。会期前に訪問した郵政博物館の3実機を思い浮かべながら。



駐ジャマイカ・ハイチ大使を迎えてのテープカット (8/1)

「富士山の絵封筒」(松島忠義氏)も同一テーマ3フレにびっくり。展示中一部脱落が残念。

今回の招待出品、50代半ばで国際展大金賞3回受賞チャンピオンクラス入りの千葉晋一氏の「手彫切手」14フレーム。プライベート展などで断片的には拝見させて頂いていたが、今回国際展作品と同様に見せるレイアウト調整のご努力幾ばくか。こだわりのシートと布告他の周辺アイテムの数々。上手に料理は千葉シェフならではの腕自慢、見応え食べ応え。

会場・主催が新しくなった全日展、当初出品申込の出足が鈍く心配されたが、口こみ勧誘も功を奏して、ベテラン・新しい人含め思った以上の申込で一安心、結果を見ると例年なみ、いや例年以上のハイレベルで一安心二安心。

今年より国際展を意識して、厳格に点数制。大金・大金銀・大銀を新設。従来、賞が配分気味だったが、完全なる絶対評価を遵守。金賞量産。金賞取っても、来年も出品して頂きたいもの。例によって、敬称略にて失礼。

伝統郵趣・日本関連

「手彫桜・鳥切手カバー」(東京・手嶋康)

金賞は毎度ながら、1603通から選抜の80通。竜に比べサブコレクションなので未発見5通除き40種の内36種のカバーにとどまっているとは恐れ入る。和紙4銭3枚2銭1銭貼イ壺番白抜記番1875(明治8)年最初期外国郵便・和紙6銭リ1枚貼り3倍重量便高知記番イツ壺号消・鳥12銭口カバーが目を惹く。最低点85点の金賞にご不満のようだが、タイトルリーフ無含め点数・賞を超越した存在。来年以降はチャンピオンクラスでのサイドコレクションご披露お願い致します。

「新小判切手」(東京・長野行洋)

金銀賞、他に小判の出品なく7年前の作品を最少限リーフ作り変えただけのものぐさ作品。今回菊全体の出品もなく、全国切手展では日本の各分野1点は出品して欲しい。来年以降はあなた、宜しくお願ひしますよ。

春秋連続出品「田沢旧大正毛紙切手」(東京・丹羽昭夫)

金賞、定評の実力作品がついに、ようやく金賞。形の異なるマテリアル・カバーを一段一列の中できれいに見せる工夫が進化。旧毛1銭5厘貼英・仏3ヶ国貼コンビネーションカバーが素敵。

支那字入の鉄人ベテラン作品「支那加刷菊・田沢10銭」(静岡・柳川英幸)

金銀賞、まず国内封書書留・外信書状料金と魅力溢れる10銭料金に合わせた切り口が斬新。しかも字入単一額面での3フレ、あくなき執念に脱帽。

昭和切手がなく淋しいが、難しい戦後新昭和が3作品。

永遠のゼネラリスト「第1次新昭和切手」(東京・濱谷彰彦)

銀賞。新昭和切手シリーズの特徴を最大限生かして、未使用で製造面分類、その後グローバルスタンダード、使用例カバーで構成。

「第2・3次新昭和切手」(福島・遠藤浩二)

大銀賞、30銭多宝塔でのほぼ1フレと難しい当時の外信カバーが白眉。

そして昭和のレジェンド作品「第3次昭和切手」(東京・和田輝洋)

大銀賞は、ご自身のコンセプトを素材に語り合わせることが全ての作品。時代とはいえ、とんでもないエラーが当たり前が目白押し。10円23枚貼カバーは、迫力が。

「第一次国立公園(1936-1941)」(愛知・宇佐美比呂志)

銀賞、未が無く評価今ひとつも使用例を単片・カバーで気に入ったものを楽しんでいるのが判る作品。自作のリーフがやや小型で、窮屈な印象を与えるのは残念。

伝統郵趣：外国

数年前にこれまでの全日展・外国で最高最強と書いた記憶が。今年はそれもあっさり更新。7作品が全て金銀賞以上。

「ルーマニア・フェルデフィナンドⅠ世ミディアムヘッド1920-1927」(神奈川・板橋佑己)

金賞、若武者が遂に金に登り詰め。大ブロックを上手に多用。対角一部欠けの大ブロックシートもどきも、欠点目立たせず展示上手。

「The Rotary Printings of The Fourth Bureau Issue 1923-38」(島根・田村邦彦)

金賞、4cダイプルーフはじめ高額までしっかり。ロール式輪転印刷で湾曲防止に裏糊に凹凸をつけて防止とは初耳でびっくり。

「アルゼンチン San martin シリーズ 1923/24」(神奈川・佐藤浩一)

金・日本郵便文化振興機構賞は、大御所の新テーマ。20世紀ながら、いやゆえに製造面では当たり前の未でなく、切手帳未裁断シート・穿孔シートやダイプルーフ・プレートプルーフしかもブロックなど、作品としての主張のお手本を具現化。

「Hawaii 1864-1899」(東京・山田廉一)

金銀賞、U/新小判のオーソリティー十年前にお仕事で米国短期赴任時にスタートとか。目打付もクラシックの香り。ブロックを上手く生かし、立派に3フレ作品。

「ルーマニア麦の耳」(和歌山・寺本尚史)

金賞もマテリアル更に充実。スマートなリーフ構成。

「Switzerland from Cantons to Confederation」(東京・吉田敬)

大金・通信文化協会賞(グランプリ)。

初お目見えの時より、あきらかに各シリーズ・リーフごとのマテリアル一層充実でびっくり。30数年前の学生貧乏旅行時のベルン郵便博物館の展示でもこんなには鳩は飛んでいなかったし、他の切手も同様。日本国内でこれら珍品がこれでもかと思われる幸せを享受。

「英国1d 1840-1851」(兵庫・長濱哲比古)

金銀賞。ブラックペニーの初日カバー・レッドペニー11版の単片と目の保養。日本の竜切手同様、展示会で世界最初の切手があるとないとでは大違い。

郵便史：日本

「別仕立・別配達と配達証明」(岡山・安藤源成)

大金銀賞。大ベテランの飽くなきコレクター魂、作品づくりの執念に脱帽。備前・天城局からの公用別仕立便と旧小判5銭・4銭・1銭黒貼2倍重量別仕立便が目を惹いた。

「訴訟書類の郵便史」(岡山・岡本哲)

金・切手文化博物館賞。国際展にも積極的に参戦、お仕事からのライフワークを昇華されてついに金賞まで。テキストの分量・中身が進歩。昭和時代のマテリアルが以外に難しいのでは。一部のみのカバーの座布団、全部に施した方が落ち着くのでは。

「日本の軍事郵便(昭和編)」(埼玉・森下幹夫)

大銀賞、ライフワーク・テーマの中から、今回は満州事変の有料郵便にはじまり戦後のシベリア抑留まで、厳選した材料で判りやすく。

「小判はがきde東京の便号」(東京・近辻喜一)

銅賞、時期による便数の変化を膨大なはがきより、実物展示の労作。

「小判1銭はがきの使用例」(岡山・村上信和)

銀銅賞、日本ゼネラルでご出品常連。切手同様、はがきも小判がお好きのよう。切手加貼も多く楽しめたが、越後柏崎のN1/Kや新潟鏡字ボタなど目玉も小じっかり。

「越後国初期消印(不統一印・記番印)」(新潟・村山廣祐)

大金銀賞。以前よりさらにマテリアルが増え迫力。ご本人確信犯の新潟欧文印のリーフで点数マイナス金賞ならず。ここは出品タイトルと合わせた正攻法でお願いしたかった。

「山形県初期郵便印(羽前・羽後国、不統一～二重丸)」(千葉・富樫敏郎)

金銀賞。目の覚める不統一印カバー何通か印象的。堂々の金銀賞。

「東海道・山陽本線(東京門司間)の鉄郵印」(三重・青木章博)

銀賞、従来の全国を範囲にした作品に比べ、テーマが絞られすっきりした作品に。展示フレーム途中で割れてしまったが逆に明治大正期と昭和期に分かれ当作品にとってはよかったかも。

「青島守備軍管内の郵便印」(静岡・加藤秀夫)

大金銀賞。このところ連続ご出品で材料ますます充実。何とんでも、青島済南間鉄郵印消しの青島軍事切手が白眉。

「料金別納印、料金収納印 昭和19年4月～21年7月」(東京・山田克興)

銀銅賞。戦時下の時期に絞ったことにより、多くのバラエティ・変化が楽しめる佳作。

「欧文機械印」(東京・吉田敬)

大金銀賞、局・タイプごとの最初期・最後期使用にさらなるのこだわり。どのアイテムも珍しいのが判るが作品としての見せ方が難しく、ご本人も悩まれているのでは。

「朝鮮消の一端」(愛媛・高村昌雄)

銅賞。郵便史マルコフィリー(郵便印郵趣)としては、まずエンタ・次にカットや満月印でないと評価は望めないが、ご本人百もご承知。リーフへの整理実に楽しげにされたのでは。意図してタイトル名をつけたのであればご本人のエスプリ度、相当なもの。

郵便史：外国

「MANCURIA 1895-1951」(長崎・伊藤純英)

大銀賞。はじめテーマへの出品も、どう見ても郵便史作品で鞍替え。お仕事で中国駐在されてからのここ数年での収集・作品づくりは大したもの。これからの充実が大変。

「U.S.ReturnReceipt Requested,1866～」(福岡・和田文明)

大銀賞。ここ何回か拝見も、タイトルリーフの日本語説明ありがたい。

「ドイツインフレ期スイス宛郵便1922-1923」(東京・伊藤文久)

大銀賞、インフレ本命のドイツ、向先国別での作品づくりは大河コレクションの一環。

テーマティク

「ヒトラーとナチス・ドイツの興亡」(石川・北村定従)

金銀賞。連続ご出品で内容改善、テキスト分量最適も、マテリアルの重ね貼り目立ち残念。

「不滅の交響曲「第九」の誕生から現代まで」(秋田・加賀谷長之)

大銀賞。ストーリーの流れも自然、シューベルトのプルーフ・エッセイで作品に重みが。

「芸術家たちの肖像史～西洋美術600年の軌跡」(神奈川・江村清)

金賞、会場でご本人の著書講演もされたが、見た印象1段3リーフの変則の上に、各リーフマテリアルぎちぎち貼りすぎでは。

「自転車物語」(高知・板原研三)

銀銅賞、自転車に関する知識が豊富なのが各リーフより読み取れるが、マテリアルに対し、こじつけ過ぎるきらいも。

「萬國郵便聯合(UPU)」(東京・田口徹)

銅賞。テーマと周年切手が入り交りやや中途半端に。小生見逃したが、U小判5銭粗い目打のパリッとした未使用田型があったとU新小判専門家。

オープン

「切手でみる故宮文物」(佐賀・北島文子)

銅賞、タイトルリーフがないのと5連刷の斜め貼りが残念。

「相撲の歴史」(大阪・須谷伸宏)

金銀賞。会場で郵趣品以外の割合が高すぎるのではとの声もあったが、それだけ材料豊富な証拠。国際的な相撲人気で海外進出楽しみ。

ユース

「動物たち」(東京・石本勇晴(小三))銀銅賞、「世界ののりもの」(東京・上原海斗(小三))銀銅賞、「小倉百人一首と源氏物語」(兵庫・宮本唯愛(小六))銀・スタンプクラブ賞「キャラクターがいっぱい」(兵庫・津田珠野(小六))銀銅賞。

いずれも、自筆手書きのリーフでほほえましい。中学に入っても継続を祈るばかり。

「韓国航空郵便史 1947-58」(埼玉・木戸裕介(21歳))

金賞。すでに大人を凌駕しているホープ。難しい戦後黎明期の骨太コレクションで、これからさらなる材料入手が難しいのではと余計な心配するほど。毎回述べるが、余りのハイペースで、燃え尽き症候群にならないで欲しい。

ワンフレーム

「シベリア経由の中国局媒介通送」(愛知・石代博之)

金銀賞、毎度ながら斬新な切り口で、難しいテーマを料理。

「弓(アーチェリー)」(東京・石井孝秋)

銀賞、判りやすいストーリー展開で、一般の参観者に好評だったのでは。

「藤原鎌足5円」(東京・池田健三郎)

大金銀賞、これ1種に絞ったサブコレクションとのこと。フルシート4種・滅多に見ない高額カバーで大迫力。ただ昭和切手コレクターにはとんでもなくお邪魔虫では。

「明治時代の記念切手」(東京・期の下朋英)

銀銅賞、日清ガッター耳付大ブロックなど素材は十分、構成の見直して数ランクアップ。

「日琉混貼郵便」(北海道・瀧川忠)

銀銅賞。40数年を経てこれらのコンビネーションカバーにも価値十分。

「絶海の孤島の郵便史～無人島開拓による企業統治～沖縄・大東諸島の事例～」(沖縄・石澤司)
大金銀賞、琉球キングが最後に挑む難しいテーマ。1アイテム追加するのに、どれだけ苦勞するかは門外漢でも。

「点字郵便」(茨城・大沢秀雄)

大金銀賞。伝統郵趣でなくテーマより特化した作品。さらにマテリアル充実で高位受賞。

「釧路国根室国の丸一型郵便印」(東京・長野行洋)

銀銅賞。某氏より二重丸印かと思ったとイヤミを言われたが、丸一印でも2ヶ国で16リーフが精一杯。

「隷書体 不統一印」(東京・山崎好是)

金銀賞。老後、安い不統一印を収集テーマに考える身には羨ましい作品。タイトルリーフない確信犯で、金銀賞に留まるが、目の保養。

「美濃国丸一印「郡名入り黒野」の局名消印の変遷」(兵庫・高木康之)

銀賞。丸一印を集めていると、気になって入手したいが中々入手できない局名変遷の数々。ワンフレーム作品に仕上げ、お見事。

「洋画家・藤田嗣治と「秋田の行事」」(秋田・加賀谷長之)

大銀賞、藤田と秋田との切り口が新鮮。

「UNZEN」(長崎・伊藤純英)

金銀賞。地元の難しい局の変遷を明治期より終戦まで、欧文印も含め、時間をかけたことが判る佳作。

「リバティーって誰？」(愛知・川辺勝)

大金銀賞。タイトルだけではどんな作品か想像もつかなかったが、豊富な知識で組み立てたストーリーでにやりとさせる心にくさ。

現代郵趣

「郵便局と郵便事業統合により変わる支店分室などの日付印」(徳島・伊ネ恵琳)

佳作。国際展でも設置されたクラスも、出品者も作品づくりに困惑か。当作品も記録としては大切だが、リーフ上アンシンメトリーで空白多く、困惑(出品受付・返却時)も。

全出品者に、感謝。来年も7月に同会場で全日展開催予定。今度はあなたの作品を拝見させて下さい。その前に11月、浜松町のJAPEX2014が楽しみ。

(JPS三鷹支部報「フィラスリーホークス」と併載)

PHILAKOREA2014のまとめ

2014年8月7日から12日にかけてソウルで開催された同切手展の受賞記録（抜粋）

グランプリ選考結果

グランプリ・ド・ヌール (Grand Prix D'Honneur)

Siam Classic:The First Issue (Chirakiti, Prakob, Thailand)

※同候補

Dominion of Canada:The Small Queens, 1870-1897 (The Brigham Collection, Canada)

Panama:The First Issue as a State of Colombia & their Foereunners (Castro-Harrigan, Alvaro, Costa Rica)

グランプリ・インターナショナル (Grand Prix International)

Geneva Postal Services 1840-1862 (Voruz, Jean, Switzerland)

※同候補

Japanese Post in Korea and Foreign Postal Activities 1876-1909 (Inoue, Kazuyuki, Japan)

Fascinated in Feathers - How birds inspire people (Laege, Damian, Germany)

グランプリ・ナショナル (Grand Prix National)

Korea: The Daehan Empire Stamps 1884-1905 (Han, Cheol Kyu, Korea)

日本人の出品作品の受賞結果

伝統郵趣部門

区分	エントリー作品	フレーム数	出品者	賞
韓国	The Democratic People's Republic of Korea (D.P.R.K. / North Korea) : The First Decade	8	Maeda, Taizo	G(90)
アジア・オセアニア	Japan 1871-1876 Hand-Engraved Stamps	8	Sobue, Yoshinobu	LG+SP(96)
アジア・オセアニア	Japan Definitives: Koban 1883-1892	8	Inoue, Kazuyuki	G+SP(92)
アジア・オセアニア	Japan Chrysanthemum Series	8	Nakagawa, Yukihiko	LG(95)
アジア・オセアニア	Tazawa Series - Unwatermarked White Paper Series & Watermarked Old Die Series	8	Yamada, Yuji	G(90)
アジア・オセアニア	Japan: General Nogi 2 Sen Issue with Various Cancellation (1937-1947)	5	Kodama, Hiroaki	LS(78)
アジア・オセアニア	Private Printing Period in Victoria	8	Nagai, Masayasu	G+SP(93)
アジア・オセアニア	Australia - Kangaroo and Map Design Postage Stamps	8	Nagashima, Hironobu	LV+SP(88)
ヨーロッパ	Switzerland from Cantons to Confederation	5	Yoshida, Takashi	LV(87)

祖父江さんが三度目の大金賞、中川さんが二度目の大金賞を獲得しました。

これに加えて新たに金賞を獲得した作品が続出。前田さんの北朝鮮、井上さんの小判（U・新）、山田さんの田沢と各テーマとも、初の国際展 金賞になります。おめでとうございます。

その一方、外国切手作品はふるわず、永井さんのヴィクトリア、長島さんのオーストラリア、吉田のスイスと点が伸びませんでした。

郵便史部門

区分	エントリー作品	フレーム数	出品者	
アジア・オセアニア	Japanese Post in Korea and Foreign Postal Activities 1876-1909	8	Inoue, Kazuyuki	LG+SP(97)
アジア・オセアニア	Early Cancellations of Okayama Prefecture (Bizen, Biccyu and Mimasaka Provinces)	8	Ando, Gensei	LV(86)
アジア・オセアニア	The Japanese Couriers 1601-1873	8	Yamazaki, Yoshiyuki	G(90)
アジア・オセアニア	Prompt Delivery in Japan from Pre-adhesive Period to 1937	8	Ikeda, Kenzaburo	G+SP(91)
アジア・オセアニア	US Postal Agency in Shanghai 1802-1922	5	Ohba, Mitsuhiro	V(83)
ヨーロッパ	Hungarian Inflation 1945-1946	8	Ito, Fumihisa	LV(89)
アメリカ	The US Avis de Reception 1886-1970	5	Wada, Fumiaki	LS(77)

井上さんの朝鮮が三度目の大金賞を獲得し遂にグランプリインターナショナルの候補になった他、池田さんの速達が金賞を獲得しました。国際展に出品し始めて8年目にしての目標到達です。また伊藤さんのハンガリーインフレは賞こそ大金銀賞と変わりませんが、スコアが89点にまで伸びあと1点で金賞というところまで迫りました。次回以降の国際展で注目したい作品です。

その他の部門

出品部門	区分	エントリー作品	フレーム数	出品者	
ステーションナリー部門		Hawaiian Postal Stationery	8	Yamazaki, Fumio	G(91)
テーマティック部門	B	L v Beethoven - His Life in a Historical Context and His Legacy	8	Onuma, Yukio	LG(95)
テーマティック部門	B	A History of Hong Kong	8	Naito, Yosuke	G+SP(92)
ユース部門	C	Ryukyus 1948-58	5	Kido, Yusuke	LV(86)

大沼さんのベートーベンが二度目の大金賞を獲得した事に加えて、内藤さんが香港で92ポイントの金賞に到達。日本人二人目のテーマティック大金賞に向けて良い位置につけました。琉球を出したユースの木戸君は、大金銀賞と世界でも通用するところを見せつけました。

文献部門

出品部門	区分	エントリー作品	出品者	
文献部門	単行本	Japanese Postal History of Official Compulsory Delivery for Lawsuit Documents	Ikeda, Kenzaburo	LS(77)
文献部門	単行本	Postal Stationery in Southeast Asia under Japanese Occupation	Tsuchiya, Masayoshi	V(80)
文献部門	単行本	Accident Mail of the Koban Issues	Narumi Co	LS(78)
文献部門	雑誌	Stampedia Philatelic Journal	Yoshida, Takashi	V(83)
文献部門	カタログ	Visual Japanese Stamp Catalog Vol 1, Vol 2	Japan Philatelic Society Foundation	LS(78)
文献部門	カタログ	Security Marking on the Japanese Post	Narumi Co	V(82)

PHILAKOREA2014 参観記

2014年8月7日～12日@韓国ソウル市 COEX (コエックス)

隣国で6日間に渡り開催された国際展には日本を始めとして世界中から郵趣家が集合しました。そこで特定の方に通して参観記を書いて頂くのではなく、複数の参観者に日程を分けて参観記のご執筆を依頼しました。以下、日付順にご紹介いたします。

開催前 (8月5日, 6日) 「コミッショナーのお手伝いをして」

木戸 裕介

私はこの夏、8月7日から12日の会期で韓国・ソウルCOEXで開催されたFIP国際展に、日本代表コミッショナーの井上和幸さんと同行させていただきました。自身は人生で初めての国際展参観&出品でした。2011年のPhilanippon2011当時はフィラテリストでしたが、大学1年最初の夏休み直前だった為、勉強に、陸上競技に忙しく、参観することができなかったのです。

出品作品は、昨年のJAPEXユースクラスで金賞を受賞し、国際展資格を獲得した「琉球1948-58」と題する琉球切手の伝統郵趣作品(5フレーム)で、作品を英訳&マテリアルの入れ替えを行って展示してきました。直前の日程で全日本切手展が開催されたこともあり(言い訳)、展示作品が完成したのは羽田空港に向かう高速バスの車中という突貫工事で、2度とこんなことがないようにゆとりを持って作品をつくらうと思いました。(笑)

さて、展示の結果はさておき、旅程は8月5日(火曜日)の午後、羽田を発ち、8月7日から12日までの切手展会期にフルで参加、翌13日の便で帰国するという長旅でした。出発日当日に羽田空港13時半集合で集まったのは、コミッショナーの井上さん夫妻、審査員として同行した設楽光弘さん、出品者として同行した伊藤文久さん、前田泰三さん、鳴美の山崎好是さん、吉田敬さん、自分の計8人でした。

16時20分発の全日空金浦行の便に搭乗し、金浦に到着したのは18時45分頃。タラップを降りてバスでターミナルへ向かう道中、飛行機から降りた瞬間、ムワツとした熱気が異国に来た実感を与えてくれました。自身の海外旅行は10年振り、10年振りの韓国・ソウルでした。思えば10年前のソウル旅行は、切手収集を始めて間もない頃で、韓国切手を集めたきっかけになったものでした。10年ぶりのソウルの空は黄色く霞んでいましたが、SEOUL GIMPOの看板を見たときはかなり感動しました。なにしろ自身の収集している国ですし、東京中央のカバーよりソウル中央のカバーのほうが手持ちが多いですから。



図1 金浦空港到着後の皆さん スーツケースが大量です。



図2 オフィシャルホテルの横断幕

金浦到着後は、PHILAKOREAから派遣された日本語のできるスタッフが到着ロビーで待機していました。当初の連絡では22時までオフィシャルホテルで作品の受付が行われるはずでしたが、なぜか明日の朝イチに変更。とりあえず各々の宿のある江南地区に移動することになりました。(図1)

江南までは大量の荷物の関係で高速バスで移動することになりました。ソウル市内へは30キロ程の道のりですが、渋滞によって1時間半もかかるとのこと！ソウルの渋滞はひどいので覚悟していましたが、45分ほどであっさり到着。オフィシャルホテルやCOEXの周辺にはPHILAKOREAの開催を宣伝する横断幕や幟がありました。(図2)



図3 初日の夕食。焼き肉は撮り損ないました。

夕食は9時半と遅くなりましたが、同宿の吉田さんと前田さんと3人で宿の前にあった焼肉店「黒豚家」に行き、サムギ

ヨブサルや冷麺などを注文。入国後初の韓国料理を堪能しました。(図3)

翌日は朝イチでCOEX切手展会場前に設けられたビンルームで日本からの出品物を預けます。日本勢は会場に一番乗りで、韓国人スタッフよりも到着が早かったです。するとどこからともなく机らしきものとパイプイスが運ばれ、作品の受付が始まりました。(図4、図5)日本勢の作品受付が終わり、ふと後ろを振り返ると各国のコミッショナーからなる長蛇の列が！日本は一番乗りで朝10時半ごろに受付を済ませました。



図4 会場前のビンルーム。日本勢が一番乗り。



図5 作品の受付風景

さて、切手展の開場は明日の朝なので、時間的に余裕があります。吉田さんと鳴美の山崎さんと3人で、ひとまず江南を抜け出し、明洞にあるソウル中央郵便局と会賢の切手商街に出かけることにしました。

ソウル中央郵便局前には、韓国近代郵便制度の創始者である洪英植の銅像が立っていました。（図6、図7）意外にも、英語の通じるスタッフがあまりおらず、コミュニケーションを取るのに苦労しました。郵便局には郵政博物館も併設されていましたが、翌日からPHILAKOREAへのブース出店準備のため閉館とのこと。引き上げて徒歩で切手商街へ移動しました。



図6 ソウル中央郵便局 規模は大きくない

ソウルの中心部、明洞駅から隣駅の会賢駅には地下街が広がっており、絨毯やらメガネやら食堂やらあらゆるお店が軒を連ねています。そのなかに切手商が十数件あり、韓国切手カタログ片手に切手商を歩き回り、古い韓国カバーを探し回りました。日本語が通じるお店も何件かありました。このなかで買い物ができたのは3件ほど。60年代～80年代の新しい韓国切手カバーを十数通程度買い求めました。中でもソウル郵票社という切手商での買い物が一番収穫が大きかったです。翌日のPHILAKOREA出店のための荷造りをしていましたが、店員さんは優しく作業の合間にカバーを出してきてくれました。



図7 洪英植の銅像

翌日切手展の会場で店員さんに再会しましたが、ブースホルダーの中でも最大規模のお店でびっくりしました。ここの切手商では会期最終日まで参観の合間に何度も買いました。

会期中はひたすら作品参観とブースでの買い物に明け暮れました。やはり韓国切手のカバーは日本では手に入りにくいので、あらゆる時代のもを安いカバーを中心に買いまくりました。しかし

ながら、やはり絶対的な郵便物の残存量が少ないのか、カバーを扱うお店も少なく、70年代のカバーでも1通あたりの底値が300円～500円くらいに設定されていました。

会期中の展示の様子やジュリークリティークに関しては他の記事を参考にさせていただくとして、会期終了後の作品返却についても書きたいと思います。

最終日、閉場時間後に、コミッショナーは Jury Room にて作品返却という予定になっていました。カラのスーツケースを運び入れ、マテリアルの脱落等リーフをチェックしてスーツケースにしまっていきます。この作業は搬入時と同様、多くの日本人出品者が協力してくれていました。他国の様子を見るとコミッショナー一人で作業しているような国もありました。その他コミッショナーは、カタログ、パルマレス等の冊子や賞状を受け取る作業等もあり、確認に受け取りに大忙しでした。(図8)



図8 作品の返却風景

その後はオフィシャルホテルでパルマレスです。もちろん初めての経験です。先輩収集家の皆さんが国際展の表彰台に登壇している姿には鳥肌が立ちました。(図9、図10) 今回の自身の結果は大金銀賞でしたので、自分もいつかは登壇できるようなフィラテリストを目指したいと思います！

今回の国際展は、切手に関するあらゆる面で自身の大きな糧となりました。コミッショナーと同行できたことはとても大きく、初参加ながら国際展の運営に関わる仕事の流れを経験できたことは非常に勉強になりました。フィラテリーに対するモチベーションが上がったことは言うまでもありません。この経験を、今後の郵趣生活に活かしていきたいと思います。ソウルでお世話になりました皆様、ありがとうございました！



図9 パルマレスの様子。金賞では日本人4人が一度に登壇した。
左から3人目 前田さん、5人目 井上さん、続いて永井さん、池田さん。



図10 コミッショナーの井上さんと

開催初日、2日目（8月7日、8日） 「PHILAKOREA2014 で、みてあそぶ」

菊池 達哉

ソウルから直行便が飛ぶ日本の都市は沢山あります。その一つである新潟空港のある新潟県にお住まいの菊池さんは、4年前の2010年に田沢切手と越後の国の郵便史の収集を再開した復活組コレクターです。まだ切手展に出品した事はありませんが、Philanippon2011以来で参観した国際展の感想をまとめていただきました。

7日12時前にインチョン（仁川）空港到着。

PHILAKOREA2014 の会場であるソウル市江南のCOEXへ直行のリムジンで移動しました。海岸部を埋め立てて建設された空港から広大な干潟に掛けられた長い橋梁を高速で市街地に向かうわけですが、仁川といえば小判切手上的の◎印で馴染みも深い仁川港！車窓から海岸線や漁船を眺めながら、旧仁川港がどのあたりにあったのか、勝手な想像を楽しんでいました。

出品作品一覧の情報はweb上で事前に確認できず、「全日本郵趣602号」に掲載された日本からの出品作品の紹介の他には情報が皆無の状態でした。会場にいけばBulletin（下図）が入手できるだろうという期待は裏切られ、足掛け3日間の滞在期間中、遂に公式の情報を入手する機会はありませんでした。

今回の凡その意図としては、Korea classic、China classic、国際展レベルの郵便史作品、国際展で見直す日本のトップレベル作品、のあたりを考えておりましたが、初見となる作品・名品ばかりの筈であり、実物を鑑賞して「これがそれか」で楽しめれば十分と考えて、入場無料の会場歩きを始めました。

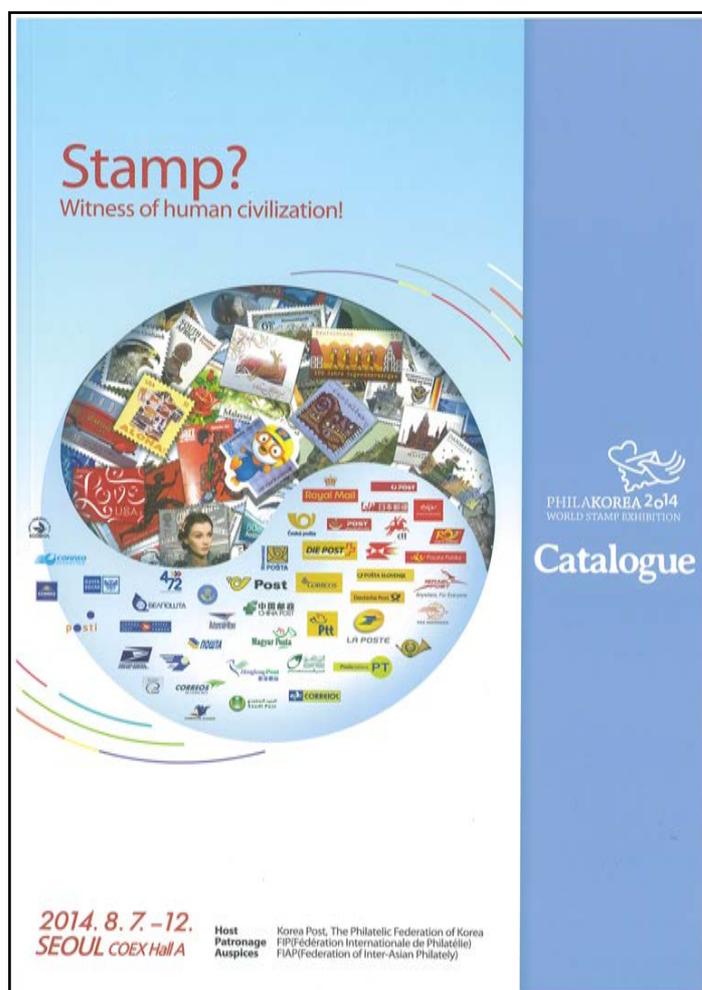




写真1 「Korea: The Daehan Empire Stamps (1884-1905)」 (Han, Cheol Kyu) より

写真1は、1884（開国493明治17）年、李朝時代の旧韓国1番切手の目打ちバラエティーまで揃えた作品です。左リーフは発行された5文と10文の二額面、右リーフは政変によって未発行に終わった25、50、100文の三額面。小判切手との製造面の異同などは、これまで随分研究されているのでしょね。

二枚のリーフの間に、金王均の「三日天下」甲申政変が介在しています。「日本がアジアのイギリスになるならば、われわれは朝鮮をアジアのフランスにしなければならない」と訴え、福沢諭吉の指導も受け、しかし果たせず11年間の日本亡命の後に上海で非業の死を遂げ、後世の日本人からは、ご都合主義の解釈も受けたこの人物を感じながら、滞在中は何度か立ち戻って見入っておりました。

音に聴く5文10文の使用済みはこちらの作品に含まれておらず、切手展の企画である“Philatelic Rarities”のコーナーにも展示がありませんでした。「JPS韓国切手図鑑1984-85」には「五文と十文の真正の使用済みは合わせて17枚が知られている。」とありますが、事情に詳しい方に伺うと、これまでその真贋について何度も議論が重ねられてきたようです。郵趣史として大変興味深いところで、韓国の何処かで保管されている筈ですから、議論の経過、現在の検証の結果という形ででも、参考展示していただけると嬉しかったと思います。

評価の如何を問わず、歴史の事実を公にすることは、大切なことと思います。

中国関係では、解放区は1作品に留まっていたましたが、鑑賞の機会が得られて幸いでした。私のレベルでは「これが実物か」といった実感がやっとです。全貌を歴史の総論として理解していればもっと楽しめるのにと悔やまれました。今回御出品の作品は、比較的後年の「華中抗日根拠地時代（1942～）」を中心とした作品だったようです。中国解放区をそれと認識して鑑賞したこと自体が初めてで、遙か昔の中学生時代、全日展で水原さんの作品の前を素通りしていたことを思い出して、妙な気持ちになりました。

フィンランドの郵便史の作品を興味深く鑑賞しました。一番切手は帝政ロシア支配下の大公国であった1856年。先立つ45年に使用が開始されていた切手つき封筒の使用例（写真2）を初めて目にしました。

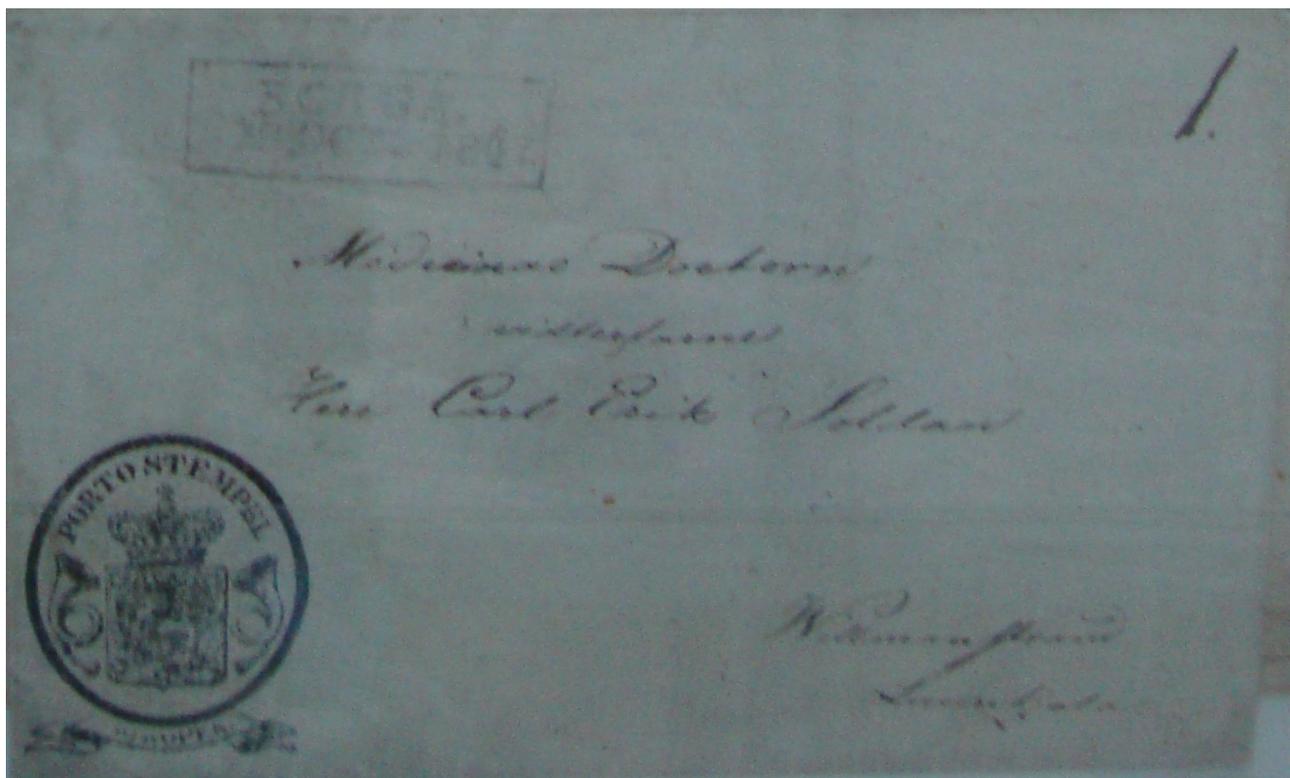


写真2 「Winning the independence」 (Tuori, Jussi) より

フィンランドは独立以前に、スウェーデンやロシアの支配を繰り返し受け、また独立後もナチスドイツの侵攻をうけた歴史があり、郵便史作品でありながらテーマチック作品のようなドラマ性が感じられました。

次ページの写真3、4は、別のスウェーデンの郵便史作品。スウェーデンからロシアの大公国であったフィンランドを経由してロシアに至ったカバーです。

日本では徳川十一代将軍家齊の時代1816年12月にバルト海の最深部を海岸沿いにサンクトペテルスブルグに運ばれたカバー。寒そ～。

目の前に実在することが、不思議な気持ちになるカバーでした。

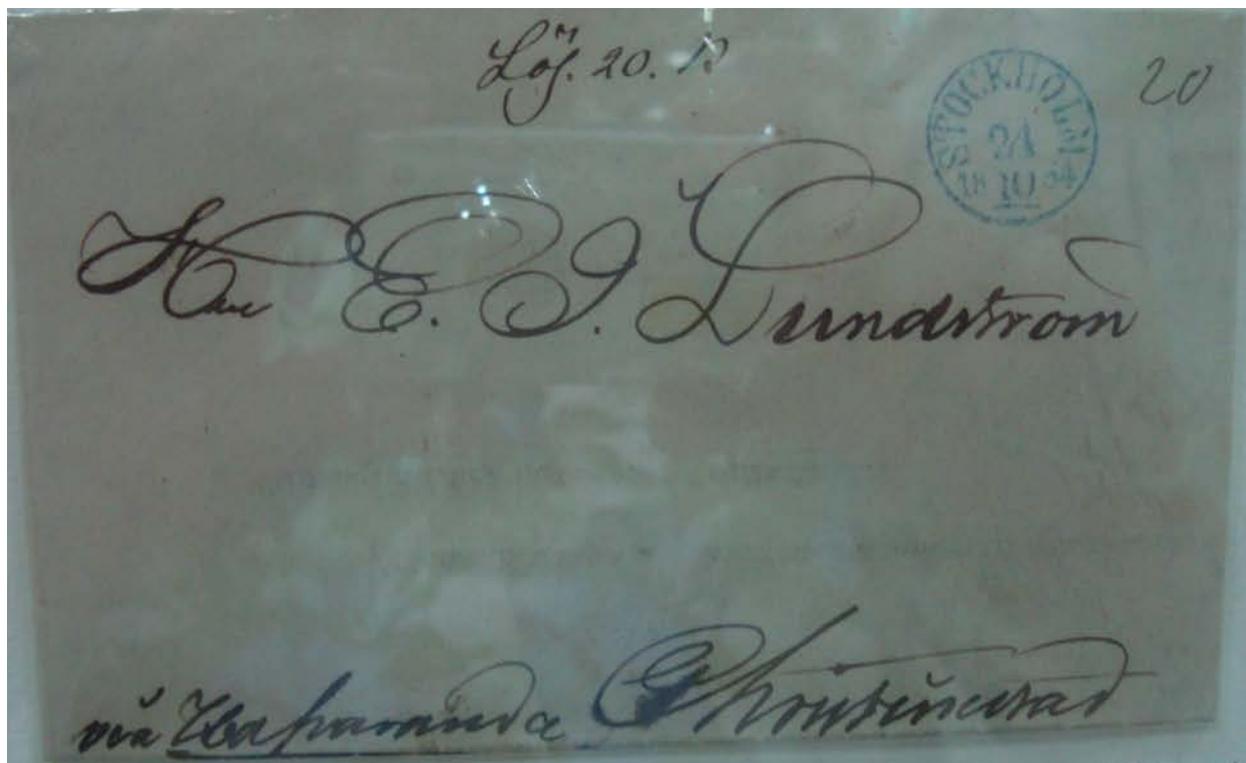
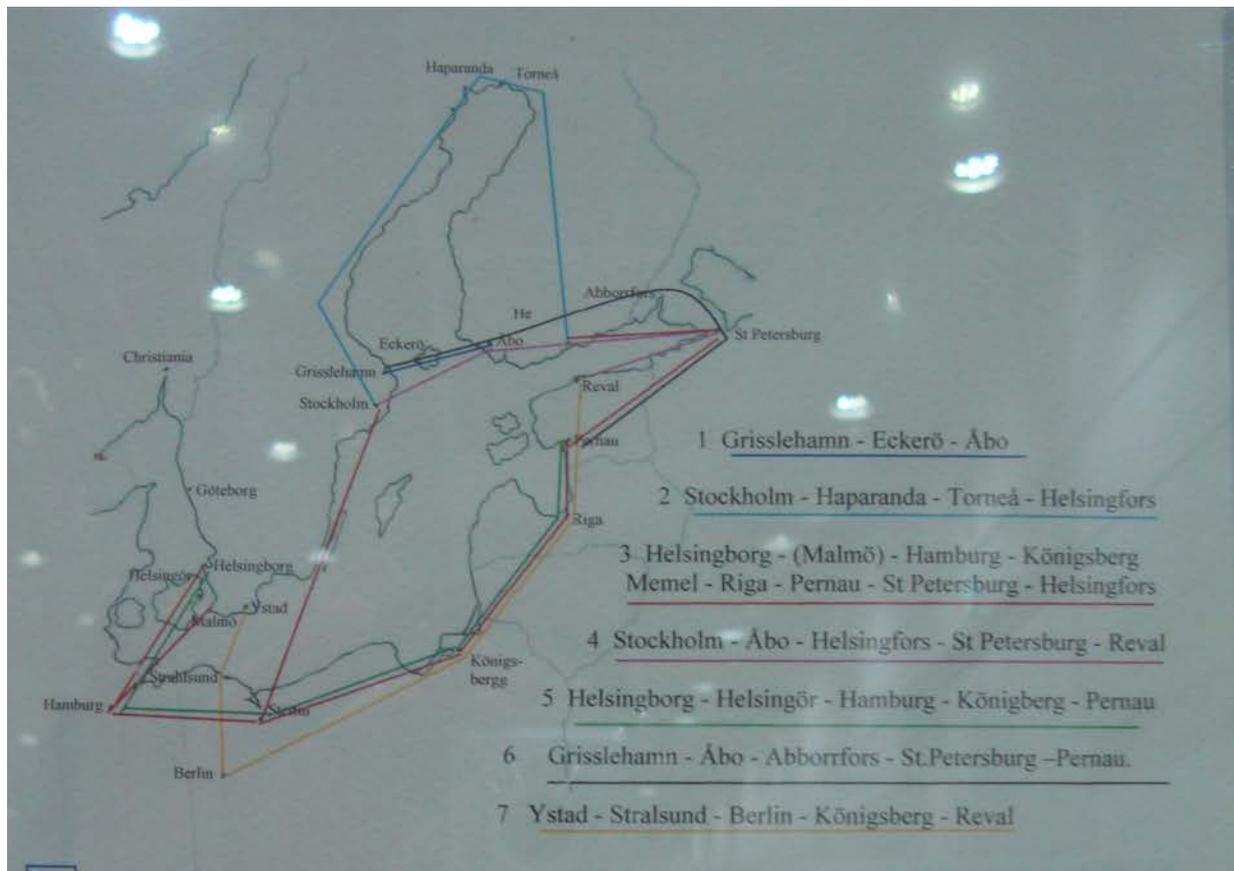


写真3 (上) 写真4 (下) とも 「Swedish Stampless Mail to Foreign Countries [from the middle of the 18th century to UPU]」 (Nilsson, Gunnar) より

写真5、6は、別の作品で露西亜軍バルチック艦隊がマダカスカル停泊中に、海軍兵士から家族にあてられたカバーです。対馬沖で、この兵士はどんな運命をたどったのでしょうか。

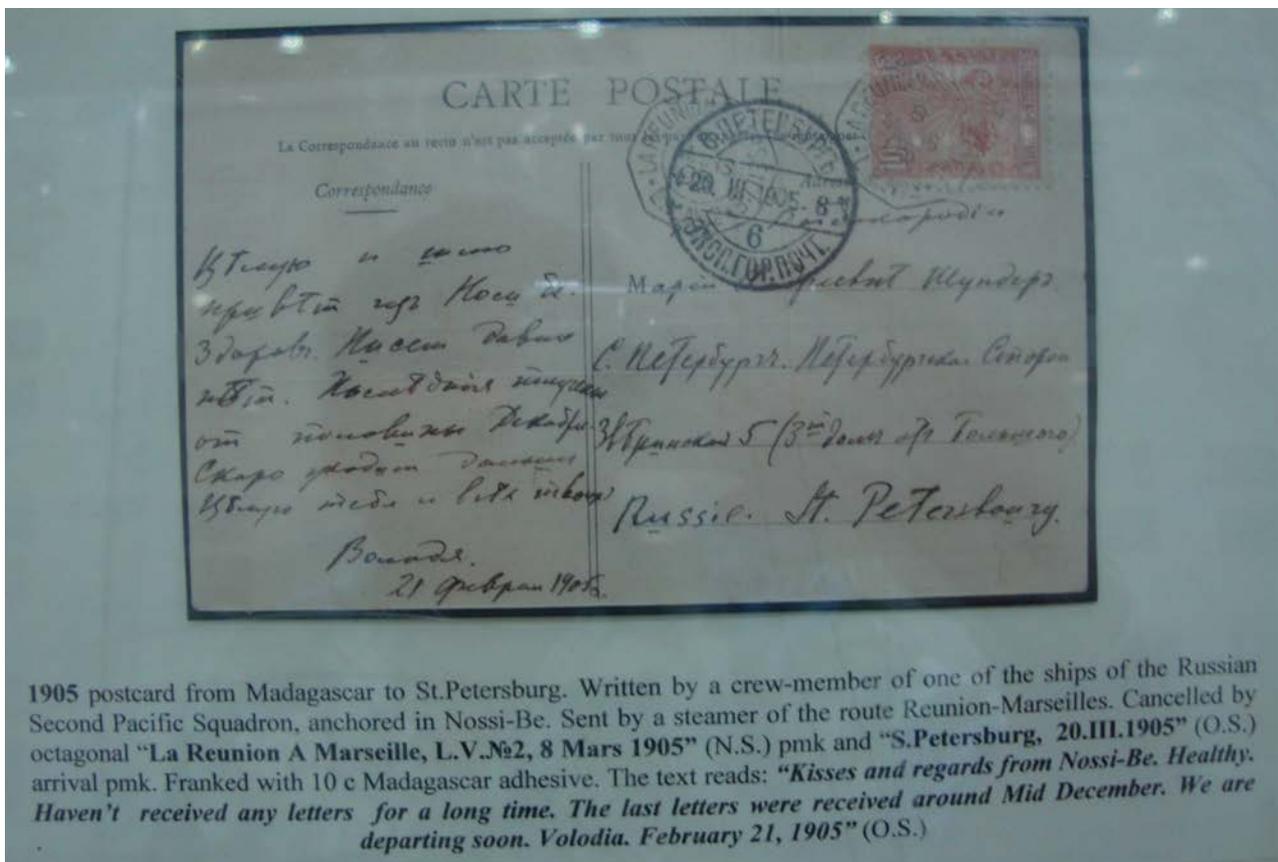
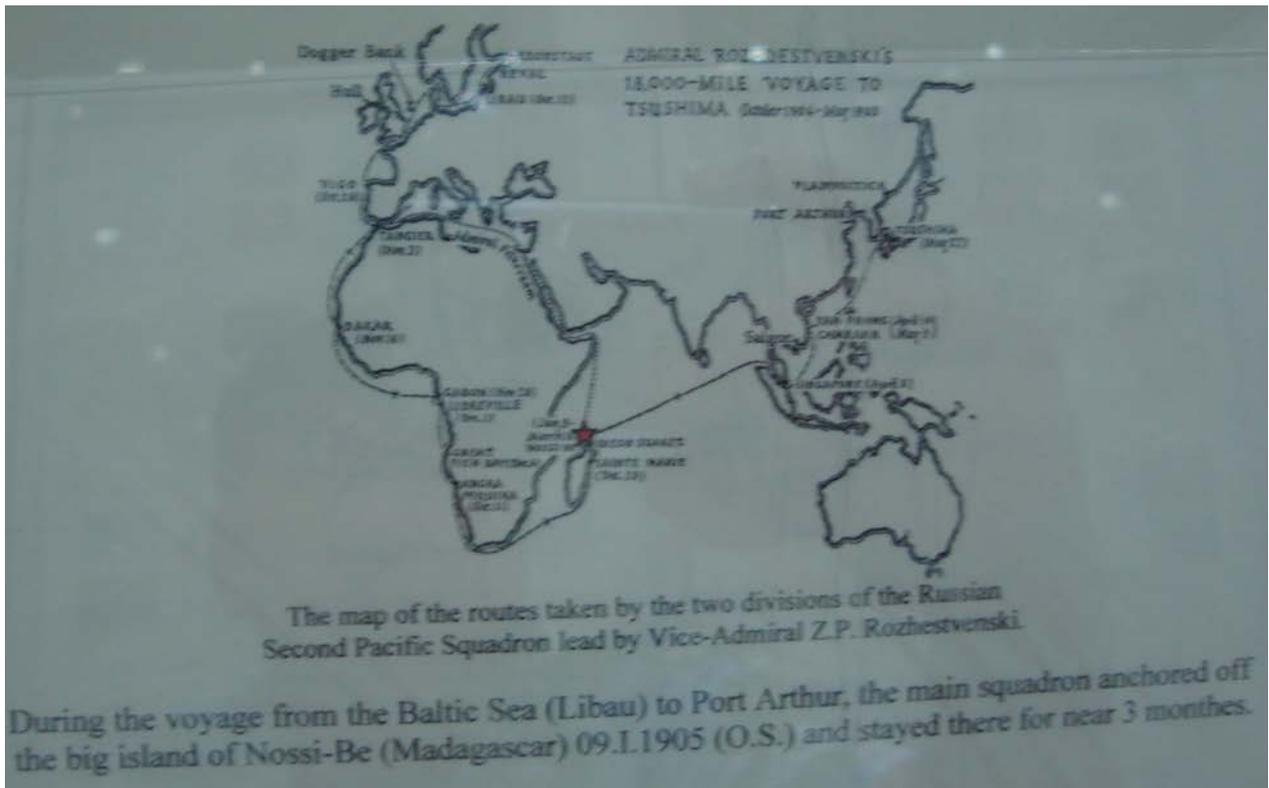


写真5（上）、写真6（下）とも「The Postal Correspondence of the Russian Navy Personnel [1901-1918]」（Berdicevskiy, Vladimir）より

東清鉄道からロシアに送られたカバーを網羅した作品 “Russian Post at Chinese Eastern Railway” では、この鉄道が中国内の三区間と沿海州の1区間に分られることを知りました。1900（光緒26明治33）年に、東清鉄道の線路のひきはがしから始まった「義和団の乱」の痕跡が何処かにないか、作品を追いましたが1903年頃以降のカバーが中心のようでした。

Court of Honor に展示されていた郵便史作品 “POSTAL HISTORY OF BOCCA DI CATTARO : 1809-1875”。「Boccaって何処？Cattaroって何処？カタロニア？スペインなの？」で見始めたフロントページでしたが、私のような参観者を見越していたように、平易な英文で解説が記されていました。“Bocca di Cattaro is a bay located in part of Adriatic sea belonging to Montenegro, south of Dubrovaik, on the other side of Adriatic town of Bari in Italy.”

「総論が大切」等と偉そうに言うつもりはありません。こうしたtownレベルの郵便史が国際展でトップレベルになり得る事自体が一つの発見でした。

日本国内の競争展でも盛んな「郷土の郵便史」のコレクションづくり。安藤原成さんが国際展へのチャレンジを継続され、今回から8フレームの御出品になりました。

さて、国際展にチャレンジできる為には、どんな質が求められるのでしょうか。聞くところでは、一つの鍵は「龍カバー」の有無のようです。「第1フレームしか見ない審査員もいますから。」というお話です。それだけではないとしても、龍がないと、かなり割り引かれるのでしょうかね？確かに「明治4、5年に、あなたの郷土では郵便史が無かったのですか？」という意地悪な質問は誰にでも簡単にできそうです。しかし、そうは言ってもね～（嘆）

日本からの「伝統」への出品では、国際展で大金銀賞が最高だった（筈の）田沢切手で、山田祐司さんが金賞にbreak throughされました。トップコレクターの御一人に「山田さんの切手帳のコレクションは素晴らしい。」と直接伺ったことがあります。そのとおりでJAPEX2013に続いて楽しませていただきました。大白4銭支那ペーンの使用例の隣に張られている10銭田型もきつと切手帳だったのでしょね。他のitemでは8銭旧毛支那ブロック貼の使用例に、ちょっと体が動かなくなる感じでした。

今回3日間でブースでの買い物は0。初日の空港で3万円から換金した30数万ウオンは、最終日の空港レストランで食した冷麺9000ウオンの支払いで調度使い終わりました。

今回の「フィンランド」にしても「東清鉄道」にしても、日本国内ではなかなかお目にかかれない作品かと思われ。Phillanippon2011で知った楽しさも、少なくとも7年後までお預けです。今回は最も近い海外で、大変いい思いをさせていただきました。

9日、18時45分仁川空港発。

「『切手展鑑賞』という独立した趣味もあるかな。」と感じた三日間でした。

開催3日目（8月9日） 「エキスパート・チームについて」

伊藤 文久

国際切手展は色々な人々が関わっていて、大勢の方が訪れます。

ブースやイベントコーナーは賑わいを見せますが、展示コーナーは基本的に静かです。作品を参観する人と、審査をしている審査員だけのイメージでしょうか。解説する人に、グループでついたりとか、たまにテレビカメラとかが入って賑わうこともあります。基本的に静かです。

しかし、写真1のような場面に遭遇することがあります。何も知らない人が見たら、何か事件でもあったのかと、びっくりするのかもしれませんが。日本の二大国内切手展、全日展やJAPEXでも見かけない光景なのですから、ベテラン収集家でも、戸惑うかもしれません。しかし、国際切手展では、必ず行われる光景です。



写真1 切手展運営委員会がエキスパート・チームの要請に基づき、
該当マテリアルを展示フレームから取り外しているところ

これはいったい何をしているのでしょうか？種明かしをする前に背景を説明しましょう。

高額で希少な郵趣マテリアルには、贋物が作られることが多々あります。ちょっとした費用をかけることで高額で売れるのですから止めるのは難しいでしょう。贋物についてまとめた文献を見たことがあるのですが、本当に精巧な芸術的なものもあります。そして、国際切手展では、高額なマテリアル、希少なマテリアルが多数展示されるので、贋物が混じる可能性が高いのです。

ところで真贋の調査を審査員が見ているのではないかと思われる方もいらっしゃるでしょうが、審査員が1作品の審査にかかる時間は数分程度です。しかも日本の二大国内切手展、全日展やJAPEXであれば、高額・希少なマテリアルの多くは日本関連のもので、審査員も日本関連の知識

を持ち合わせているでしょうが、幅広い分野からの出品があり、全てをカバーする知識を持ち合わせている審査員もいない国際切手展では真贋のチェックを審査員が行う事は適当ではありません。仮に知識を持っている分野の出品があったとしても、それだけチェックしてはアンフェアというものです。

つまり審査にかけられる時間が、1作品あたり数分のみであり、また幅広い範囲からの出品がある中、審査員に贋物を探し出したり、判定する責を負わせるのは、現実的ではないのです。

そのため、審査を行う審査員とは別に、エキスパート・チームが置かれています。

エキスパート・チームは、展示マテリアルの質を保つという重要な任務を担っています。

エキスパート・チームが実際にどのようにして、贋物かどうかのチェックが必要だと目をつけるのかは知らないのですが、GREX("General Regulations of the fip for EXhibitions",FIP展に関する一般規則)には、エキスパート・チーム(グループ)の職務が定められていて、出品の1%以上とチャンピオンクラスの全作品を調査するもの、と書いてあります。また模造または贋造がある可能性があるとして審査チームから報告を受けた場合は検査を行うともあります。ですので、審査員が審査の時に気になったマテリアルがあれば、エキスパート・チームに報告されるのでしょう。

エキスパート・チームは、贋物かどうかを確認するために、該当マテリアルを直接調べる特権という義務を負います。調べたいマテリアルの取り出しを、切手展運営委員会に要請します。そして、切手展運営委員会は、エキスパート・チームの要請に基づき、該当マテリアルを展示フレームから取り外します。その該当マテリアルを取り出している場面が、冒頭の写真1の光景です。該当マテリアル取出しにはその出品者のコミッショナーが立ち会います。贋物であることを疑われているのでコミッショナーの心は穏やかではありません。

PHILAKOREA 2014では、日本からは多くの出品があったにも関わらず、疑われたのが1つもなく、日本コミッショナーはホッとしていました。

エキスパート・チームの要請で、取り出された所は、切手展運営委員会が一時的に持ち出したことを示す貼り紙がなされます(写真2)。

エキスパート・チームが贋物を疑って調査するために持ち出したとかは一切書かれてないので、事情を知らない参観者が貼り紙を見ると戸惑うことでしょう。



写真2 3リーフが取り外された展示作品
This Sheet is temporarily removed by
The Organizing Committee.と表示される

これは贋物を疑ったエキスパート・チームが調べるために取り出したもので、調査が終われば戻されます。調査結果はコミッショナー経由で出品者に伝えられ、また、パルマレス（審査員団報告書）に報告されます。今年の韓国国際切手展PHILAKOREA 2014では、60アイテムを調べた結果、「展示禁止」4アイテム「要鑑定書」31アイテム「指摘なし」25アイテムとなったと報告されています。

「要鑑定書」というのは、次回の展示で、該当マテリアルを展示する場合は、鑑定書をつけないといけないという意味です。全てのマテリアルを、贋物であるかどうかを調べるには、エキスパート・チームは万能でないですし、時間や設備も限られていて難しいので、次回から鑑定書をつけるようにというのが現実的でしょう。

そして、次回の展示で鑑定書をつけないで展示するとどうなるかというと、賞のランクを下げられてしまいます。今年の韓国国際切手展PHILAKOREA 2014ではなかったのですが、昨年のタイ国際切手展THAILAND 2013で、鑑定書がなかったために5点減点で賞が下げられた作品があったと、パルマレスに報告されていました。本物であるという判断ができなければ、鑑定書は発行されないで、結果的に展示から贋物を除外することができます。

「要鑑定書」と指摘された作品を別の国際展に出品する場合、出品者は自国のコミッショナーに「要鑑定書」となったマテリアルを含むかどうか、含む場合は鑑定書に関する情報を伝えておくとい良いでしょう。

PHILAKOREA 2014
JULY 28 - AUGUST 02, 2014

JP11/DE/2313/23074/1 cover

Request to the Expert Group

REGISTRATION FORM

(A) Important Notes (please read before filling):

- All columns and boxes should be fully and accurately completed.
- The Registration Form is meant to register one philatelic item only.
- If there are more than one item in an exhibit sheet that are seeking opinion, please use a second Registration Form for the second item, etc.
- A set of stamps on an exhibit sheet that are seeking the same opinion may be grouped under one Registration Form.

(B) Registration Information

From Team #	Team Leader	Exhibit Class	Exhibit #
	PETER MCCANN	TRAD EUROPE 2C	2313
Name of Exhibitor	Country of Exhibitor	Frame #	Sheet #
TAKASHI YOSHIDA	JAPAN	23074	1 cover
Title of Exhibit German States before German Empire			
Nature of Opinion(s) Sought: consultation not tied to cover			

(C) Expert Group's Action

Was the item taken out of the frame? Yes No Photocopy Photographed/scanned

Was the commissioner present? Yes No

Opinion of Group

<input type="checkbox"/> Forged	<input type="checkbox"/> Not as described	<input type="checkbox"/> Stamp(s) is missing	<input type="checkbox"/> Cancellation is forged
<input type="checkbox"/> Genuine	<input type="checkbox"/> Claimed/temporal	<input type="checkbox"/> Stamp(s) has been added	<input type="checkbox"/> Cancellation is redress
<input type="checkbox"/> Repaired	<input type="checkbox"/> Stamp does not belong	<input type="checkbox"/> Cancellation has been improved	

Remarks & Recommendation:

<input type="checkbox"/> No action required (NA)	<input type="checkbox"/> Downgraded two levels	<input type="checkbox"/> No action required but to improve in description
<input type="checkbox"/> Has to be certified (CR)	<input type="checkbox"/> Downgraded one level	
<input type="checkbox"/> Not to be shown again (DNE)	<input type="checkbox"/> Exhibit disqualified	

Others:

Date: 29/7/11 Signature (Expert Group Team Leader): *[Signature]*

(D) Acknowledge the receipt of 2 sets of this Registration Form duly signed by the Expert Group Team Leader, complete with the illustrations. (One set is to forward to the national federation and the second set to the exhibitor concerned.)

Stamp: *[Signature]*
Date: _____

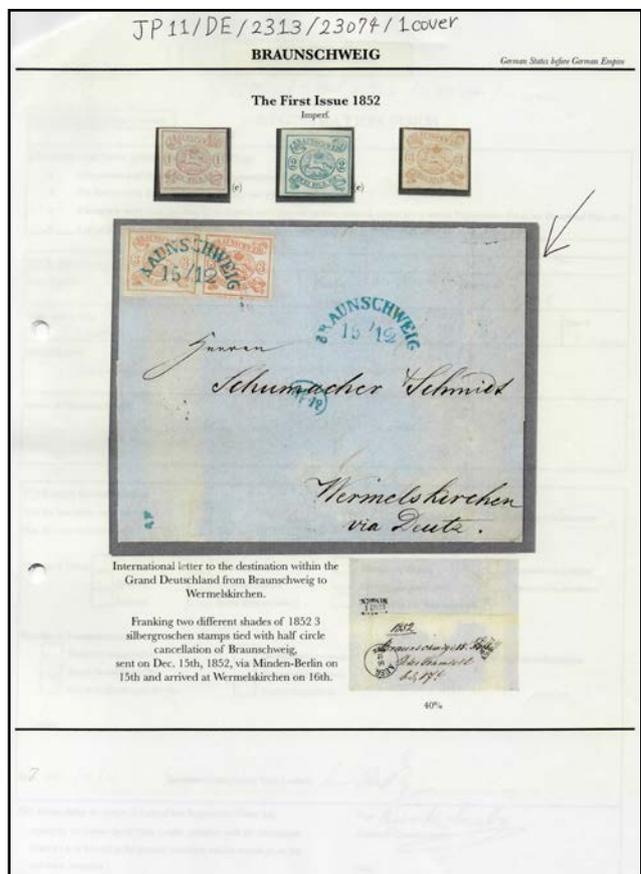


図1 エキスパート・チームの審査により「要鑑定書」の指摘を受けたカバーの報告書（吉田敬氏）

ちなみに私はインフレカバーを収集していますが、インフレ時期の未使用切手は一般的に安価である一方、使用済やカバーは高価で贋物が出現しやすい要素があります。幸いカバーだと、情報が豊富なので、比較的贋物を作り難くあったとしても見破りやすいのですが、もちろん皆無ではないので注意しています。使用済単片だと情報が切手のみになり難しくなります。私がカバーに絞って収集しているのは、こういった側面も否定できません。もちろん、インフレ時期の郵便史はカバーが面白いのがカバーで集めている大きな理由ですではありませんが。

エキスパート・チームに目をつけられやすい材料に、消印がタイしていないカバーがあります。消印が切手とカバーの両方にかかっていないカバーのことで、切手を剥がして、別の切手を貼ることが簡単なためです。

実例として、筆者の友人でPHILANIPPON2011に国際展初参加した吉田敬さんの場合、出品した作品「German States before German Empire」は80リーフの作品でしたが、この中から3点のタイしていないカバーについて「要鑑定書」の指摘がなされました。(図1)

結果的にそれらのカバーはすべて真正の物で鑑定書も取得できた(図2)のですが、同作品をオーストラリア2013に出品するにあたり、日本コミッショナー経由で主催者側から「要鑑定書材料」を作品に含む場合については、切手展の二ヶ月前に鑑定書の写しを提出するよう求められたのだそうです。

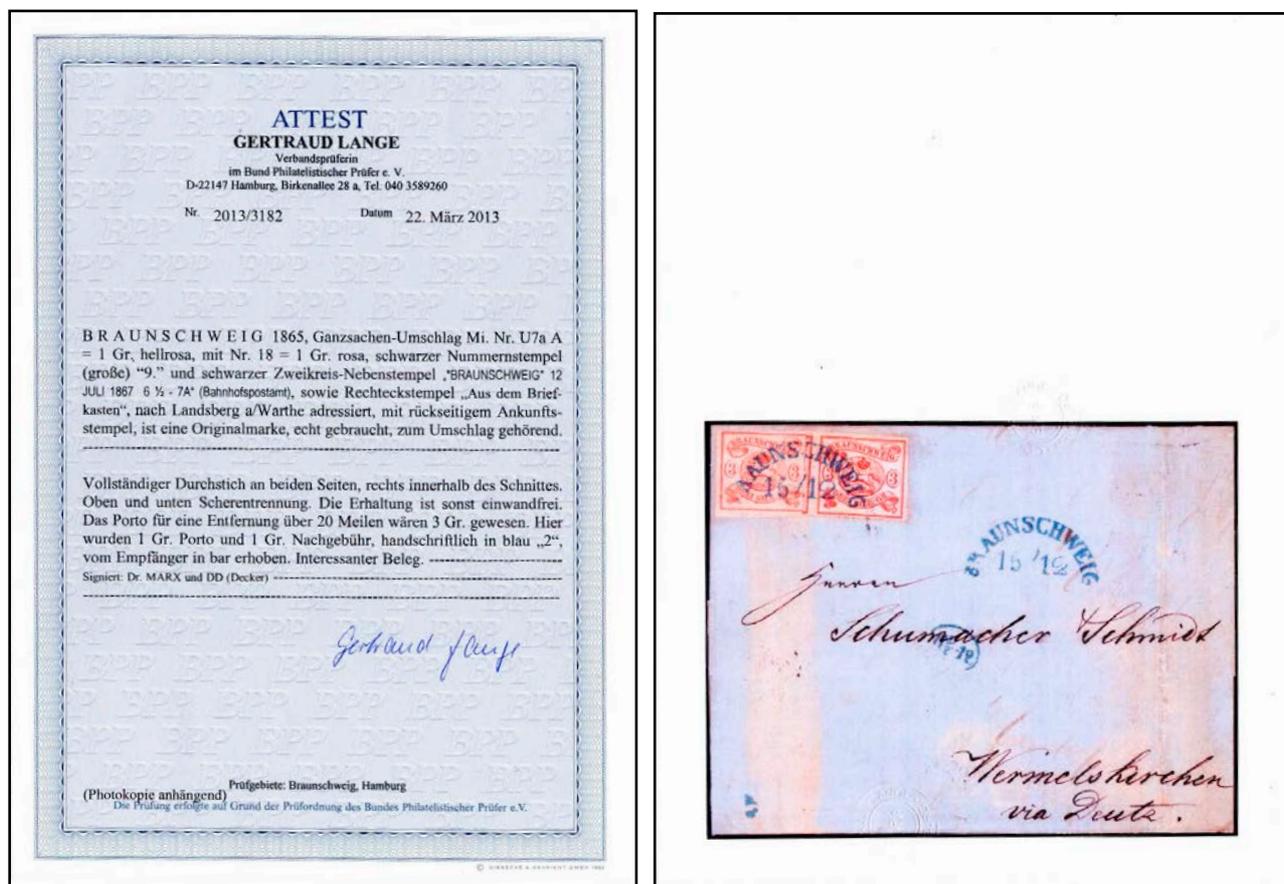


図2 エキスパート・チームから「要鑑定書」の指摘をうけた為新たに取得した鑑定書(吉田敬氏)

このように消印がタイしていないカバーは狙われますので、展示作品から外すか鑑定書を取った方が良いでしょう。指摘されてから鑑定書を取れば良いという考え方もあるかもしれませんが、コミッショナーに手間をかけたり、国際郵趣連盟(FIP)のデータベースに記録されたりするので、やめた方が良いでしょう。

図3はエキスパート・チームのことも意識して展示作品から外しているカバーの例です。一応、消印がカバーにかかっていますが、きちんとかかっていません。これでは切手を貼り替えたのではないかと疑われても仕方がないものです。

特に珍しくない使用例ならともかく、このハト図案の切手は1日しか使用できなかったこともあり、1枚貼ったカバーは4通しか確認されていないという希少なもののなので、鑑定書なしではちょっと展示しづらいものです。

3枚貼の確認2通、更に4枚貼の確認1通というより珍しいカバーがあるので、国際切手展で展示せず、鑑定書も取っていませんでした。しかし、作品の展開を変えると、希少なカバーですから、出番があり、その時は鑑定書を取ることを検討するでしょう。



図3 「要鑑定書」の指摘をうけても仕方がないカバーの例

参考URL

- ・ PHILAKOREA 2014のホームページに公開されているGREX(FIP展に関する一般規則)
<http://www.philakorea.com/eng/irex/grex.asp>
- ・ エキスパート・チームの職務(同上:第46条)
<http://www.philakorea.com/eng/irex/grex.asp#num46>
- ・ 日本語版GREX(日本国際切手展2011事務局による訳)
http://yushu.or.jp/info/international/pdf/j_grex.pdf

*日本郵趣協会ホームページより。2011年当時のものであり変わる可能性があります。

開催5日目 (8月11日)

「ジュリークリティークに参加して」

吉田 敬

自分の作品を出品する国際切手展に参加する目的の内最大の物は、審査員からのアドバイスを受ける機会（ジュリークリティーク）に参加することです。そのやり取りについてご紹介します。

今回私が出品した2C部門（伝統郵趣・ヨーロッパ）は、ほとんどの出品者がクリティークに来ておらず、私以外はギリシャ（2-303）を出したおじいさんだけでした。この方は1st Seriesでないシリーズを出品したにも関わらず金賞を獲得されていましたが（日本で言えば小判切手[U,新]に相当）アーカイブやマルチプル、使用例含めて、このシリーズのほとんどのrarityを展示しているらしく、それでも大金賞に到達しない点が不満の様でした。

曰く「いくつかの専門コレクションを買ってそこから作った」「私の持っているもの以外にはないアーカイブが多数含まれている（Die Proof, UPU specimen）」「時期がクラシックじゃない（1886-1901）から、だめなのかなあ」

確かによく集まったコレクションで、若干プレゼンが汚い（詰め込み過ぎ）点もありましたが、そもそもこのシリーズは今の国際展ではまだ Importanceが伸びないんだろうなと感じました。

筆者の出品物と受賞結果と審査員

筆者は今回の切手展に「Switzerland from Cantons to Confederation」という作品を出品しました。ところが全く同様の主題の作品を出品する人が他に二名（コロンビアとイスラエル）いて、その二名が世界的に著名なコレクターであったために、切手展の開催前より苦戦を予想していました。実際の結果はLV(87)と伸び悩み、悪い予想が的中してしまいました。

とはいえ審査競技である競争切手展において、審査の運不運は付きものですし、長くやっていたら逆に得をする事もあると筆者は考えています。ですから競技の上では「審査員は絶対」という前提で競技をすべきであり、結果が出た以上は淡々と人の意見を聞き、参考にすべきところは参考にするべきだと考えています。

ところで今回クリティークでお会いした、2C部門の審査員は以下の方々でした。

Aranaz Fernando, Spain（Fと略す）

Yigal Nathaniel, Israel（Nと略す）

Jussi Murtosaari, Finland as Apprentice Jury（Jと略す）

以下、各審査員の発言は記号で表します。ちなみにFは審査員の中の Vice Jury President です。あとNと吉田は友人で、家に泊まったこともある間柄です。

実際のジュリークリティーク

今回のやり取りは一点に集約されていました。

F 「他の二作品に比べて、キーマテリアル（ペア、ブロック、4+バイセクトカバー等）がないので、その点を比較して、rarity点を低くした」との事。

実はrarity点は、今回よりもはるかにマテリアルの劣る Thailand2013 の26点から下がってしまうという逆サプライズでしたので、他の二作品の影響を受けたのか？と思ひ疑問に思っていた点を聞いてみました。

よ 「相対的な評価ではなく絶対的な評価を作品毎に行うのではないのですか？」と聞くと、

N 「The other two big collections affect a lot on your point.」との話。影響大の様です。

また僕の作品の中で珍しいとして一点展示しているもの（Zurichの過渡期の一枚貼りカバー）が他者の作品の中で一リーフに二点展示されている事により、

F 「あなたの作品はブランクスペースが多い作品だ」として見たとのことでした。

よ 「いやいや。単貼り珍しいですよ。それに値段は高いかもしれませんが、似たような単貼り二通も展示したら無意味なduplication になってしまうのではないのでしょうか？」

F 「（それには答えずに）それから、最終フレームもブランクスペースが多いよね。」

よ 「このページに一枚だけ展示されている、RAYON1 のStoneMの未使用はユニーク（世界に一つしかない）なんです。。。 （右下リーフ）」

F 「それにしてもブランクが多いなあ」と取り合ってもらえませんでした。

横で聞いていたNが、後でフォローしてくれました。

N 「いくつかのマテリアルがユニークですごいのは分かる。

でもまず最初に審査員リーダーは、ペアやブロックや4+bisectがないという点から出発してしまっている。

だから説明を聞けば分かるユニークなマテリアルのところの評価まで今回は行かなかった。それは他の二作品があった為だ」との事でした。

ただこの委員長のFさんは偉い人だとは思いますが、いくつか疑問を感じる発言もさ



れていました。その最たる物はダブルリーフの推奨で、LGを獲得したゼムストポの作品のところに連れていかれ「ほら。この作品は沢山ダブルリーフを使っているだろ。こういう風な展示をした方がいいんだ。」とさんざんダブルリーフの喧伝をされました。

僕は決してダブルリーフ否定派ではないのですが、無用なダブルリーフは使わないに越した事がないと思っています。それは伝統郵趣においてはなおさらです。実はこの話の途中にその反論をしようとしたのですが、Nが僕の袖を引っ張って目配せで「やめとけ！」と合図を送ってきたのでその場では反論しませんでした。あとでNと話したところ、伝統郵趣においてやはり無用なダブルリーフはないに越した事がないと自分は考えており、あの点はリーダーとは別意見だとのことで安堵した次第です。

アプレntィス参加のJからはリコンストラクションに対してお褒めの言葉を頂き、同時に

J 「トップクラスのマテリアル（ペアとバイセクトカバー）はないけれど、チューリッヒは決して悪くない」との言葉をもらいました。ただ、

N 「ジュネーブの弱さが目立つ」との事でした。



4ラッペンのペアを買え！
と言われました(現存7点)

この点はここまで rarity が低くなるとは思いませんでしたが、僕も気にしていた通りでした。幸い今回のソウル展にジュネーブの郵便史を出品してグランプリ・インターナショナルを獲得したスイスのジャン・ボルツ氏は3年ほど前に知り合った友人ですので、彼の作品を改めて全リーフ勉強するところから、ジュネーブの強化を始めたいと思いました。

最後の方は友人のNから、

N 「スイスクラシックコレクターの中でダントツに若いんだからゆっくり8フレームにしていけば次はゴールド取れるよ。急ぐな。シンガポールには出すなよ」
と慰められる始末でやはり持つべき物は友人だと思いました。彼とは合計一時間半一緒にいて、最後の方は手彫を集めようよ！と彼の収集範囲をススメられてしまいました。

他に順番前後しますがこんなやり取りをしました。

よ 「スタンプレスカバーの点数は今回半分以下に減らしたのですが、どうでしょうか？」

F 「他の二人はスタンプレスカバーを一点も展示していない。スイスのスタンプレスは珍しくないから、それを1フレーム目に展示するのは必ずしもプラスにならない。なるべく少なくしたほうが得策ではないだろうか？」

N 「今回の他の二者のスイス作品には（あなたの作品よりも）作りが汚かったり、郵便史要素が強すぎる点があった。また詰め込み過ぎでレイアウトが汚くなっているし重複が多いという課題もあった。ただ両作品とも珍しいマテリアルが際立っているので評価されている。」

よ 「最終リーフに次のシリーズをエピローグとしてもってくるのはどう思う？」

N 「その試みは8フレームを完全に作れる様になってから取り組んだ方がいい。」と、どうやらこの試みはまだFIP審査員の中でも先端的な一種遊びの様なものとしてとらえられている気がしました。

ジュリークリティーク後に立てる次の戦略

ジュリークリティークで審査員に言われたことを感情的にならずに一旦全て受け入れた上で分析すると、今後どのような戦略で収集を進め、競争展に参加したらよいか見えてきます。そして分析の中で最も大事なものは枝点（右の表）です。

枝点を改めて見返すと「Strubel含む5フレーム（1843-1862）」から「Strubelを含まない5フレーム（1843-1854）」に前が厚くなるように期間を短縮したのに、treatment点が増えずrarity点が下がるというさんざんな結果になってしまったなあと思います。

しかしKnowledgeの魅せ方やリーフ作りの改善については非常によくなったとのお話を頂きましたので、決して後ろ向きな結果ばかりではなく、将来の8フレーム化に向けて、今取っている戦略が間違いでは無い事を確認できたのは良かったと思います。

	韓国	全日	タイ	豪(独)
Treatment	26/30	28/30	16/20	15/20
Importance	---	---	10/10	9/10
Knowledge	32/35	33/35	30/35	31/35
Rarity	25/30	28/30	26/30	18/20
Condition	---	---	---	9/10
Presentation	4/5	4/5	3/5	4/5
合計	87	93	85	86

筆者のスイスクラシックの枝点 (Break Point)
*豪展のみ、German States作品の枝展

国際的珍品がないと金賞が難しいかどうか明確な回答は得られませんでした。同一主題で出品するビッグ・コレクターがいると明らかに不利な影響を受ける事が今回分かりました。彼らが展示をしない時期（今から5年後位）まで出品を我慢するのが最大の戦略です。（我慢できるかな?）

その上で、

- 1) 8フレーム化し、
 - 2) 比較的強いチューリッヒの、6RPのリコンストラクションを完成させ、
 - 3) 珍しい物も含めて、1リーフ2通を徹底させてblankが多いと言わせない
- というのがすべての出発点になります。

買えと言われた4ラッペンのペアを始めとする、様々な国際的な珍品は値段も超高いですから、入手するかどうかはその後で考えれば良いと思っています。

願わくば、二人のビッグ・コレクターのコレクションが安く売り出されますように！（アーメン）

最終日（8月12日）

「グランプリ・インターナショナルの受賞」

ジャン ボルツ（Jean Voruz）

今回の切手展でグランプリ・インターナショナルを受賞されたボルツさん（スイス、ローザンヌ市在住）は、スイス切手を収集している発行人の吉田と同じ郵趣会に所属する友人でしたので、作品の冒頭3ページの掲載を許可して頂いた上で、受賞の感想をお送り頂きました。

Dear Takashi,

（中略）

My feeling when I heard I was the winner ? Well I first thought of the two other competitors of which collections were at top level. I had a look on them again a few hours before.

Then I felt very happy to see that a European collection could be so acknowledged in Asia. Bookmakers gave indeed more chances to the Japanese collection!

I finally thought of the 10 years of work on my collection awarded by these 3 minutes of cheerful congratulations. Needless to say that I felt this prize as an incentive to keep going with Postal history.

Is that ok ?

Thank you for this nice initiative.

Best wishes

Jean

グランプリを獲れたと分かった時どう思ったかですか？まず他の二名のグランプリインターナショナルの候補者の事を思いましたよ。

実際に彼らの作品はトップレベルだし、パルマレスの数時間前にももう一度見直したばかりでしたから。

でもヨーロッパの郵便史作品なのに、こんなにもアジアの切手展でよく理解していただけて嬉しかったですね。

大方の予想では井上和幸さんの作品の方が下馬評が高かったと思いますよ。

嬉しい祝福を受けていた3分間は、自分がコレクション作りを楽しんできたこの十年のことを思い出していました。この受賞で郵便史を更に頑張って収集していこうという気になりましたね。



Mr. Voruz with his daughter, Jeanne
(撮影者: ヨーナス・ヘルストローム氏)

Geneva Postal Services 1840-1862

"From Cantonal Post to Federal Post"



Background

In the early 1840s, Geneva is the most important city in Switzerland and, with Zurich, **the first postal administration in continental Europe to issue stamps**. Its currency does not match with the rest of Switzerland and a process of conversion to the new Swiss Franc is operated from 1849 to 1851. During the following 10 years, despite federal standards, Geneva keeps using a large number of specific cancellations. Some are very rare.

Purpose and Scope of the Exhibit

The purpose of this exhibit is to show how the Post of Geneva faced up to the most dramatic changes in its postal history.

The exhibit displays postal links of the city at local level and with its major neighbours such as France and Sardinia.

The exhibit does not display far destinations unless neighbour countries have a critical involvement in mail handling. Long distance mail from Geneva does not differ from another Swiss city.

Why starting in 1840: the Post of Geneva kicks off a modernisation process and launches its first circular dated postmarks.

Why ending in 1862: the postal district of Geneva opens 3 subsidiary offices in the city from 1863 and changes its organisation. Above all, transformation into federal office is at last completed.

Sources and references

A large part of information and statistic data come from studies and publications issued by Georges Fulpius, Louis Vuille, Henri Grand, Richard Schäfer and Michèle Chauvet. Otherwise information was gathered through personal research (official rules available at the Swiss Postal Archives, misc. literature in libraries, interviews with philatelists and experts, etc.).

Personal research gave rise to different outputs:

"*Manuel des oblitérations genevoises 1840-1907*" (ca. 1'500 postmarks or cancellations described on 300 pages) and "*Manuel d'histoire postale genevoise 1840-1907*" (Genevan postal history handbook) both still in progress.

Miscellaneous articles of which one in the *London Philatelist* No 1399: "**How the French Currency of Geneva became the Swiss Franc**" explaining the process related to the current exhibit.

Many specialised lectures and articles on Geneva postal history.

Rarity statements

They are based on surveys formed by L. Vuille (stampless period and mail without stamp), R. Schäfer (stamps period until 1851), the exhibitor (rest of mail) during the last 10 years.

Content

1. Switzerland - Local

- | | | |
|-----|-------------------|----------------|
| 1.1 | Cantonal Post | 1840-1849 |
| 1.2 | Transition Period | 1849-1851 |
| 1.3 | Federal Post | 1852 and later |

2. Switzerland - Distant

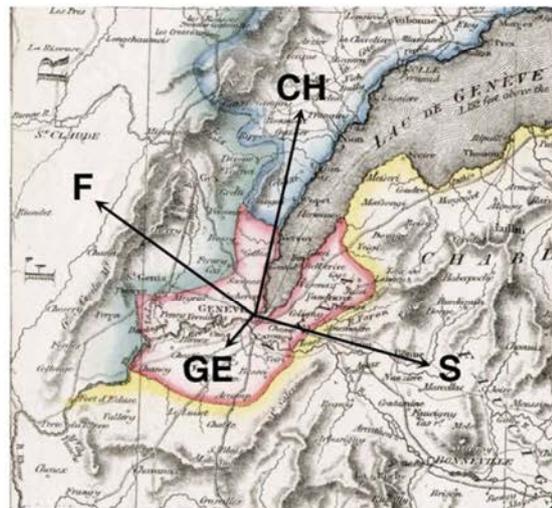
- | | | |
|-----|-------------------|----------------|
| 2.1 | Cantonal Post | 1840-1849 |
| 2.2 | Transition Period | 1849-1851 |
| 2.3 | Federal Post | 1852 and later |

3. Kingdom of Sardinia

- | | | |
|-----|-------------|-----------------|
| 3.1 | Distant | Rates 1836-1860 |
| 3.2 | Border Zone | Rates 1851-1860 |

4. France

- | | | |
|-----|-------------|-----------------|
| 4.1 | Border Zone | Rates 1831-1865 |
| 4.2 | Distant | Rates 1828-1865 |



Excerpt of the Map of Switzerland by Wyld, London, 1847

Outstanding pieces

When not obvious, outstanding pieces are highlighted by the rarity statement mentioned in red. Almost every page contains at least one outstanding piece.

Can the exhibit be duplicated ?

Due to the density of special or unique pieces, it is not possible to gather a similar collection of Genevan postal history on this period.

Colour conventions

Story line in **blue**;

Rarity statements in **red**;

All other descriptions in **black**.

Jean Voruz - PhilaKorea 2014

タイトルリーフ「Geneva Postal Services 1840-1862」

ジュネーブに特化した郷土郵便史作品。8フレームを以下テーマによりほぼ均等に分けている。

「州内便」 「州外便」 「サルディニア王国宛て外信便」 「フランス宛て外信便」

As from 1839, the Franc (100 cents) is the Genevan currency in parity with the French Franc. In 1843, as Zurich, the Genevan Post is the first one in continental Europe to issue stamps.

Rates of Cantonal Post until 30.09.1849:
 Letters < 1 ounce (31.2g) to Geneva:
 Within the city: 5c
 Within the canton: 10c until 31.03.1845
 5c since 01.04.1845
 As of 01.03.1844, 5c stamps are sold 4c



(AW 1A / 2)
 30.09.1843 - 13.06.1848

4 Feb. 1845 - To Vernier, canton, franked 10c with a Double (Zst. 3). The first « Rosette » cancels the stamp in red.

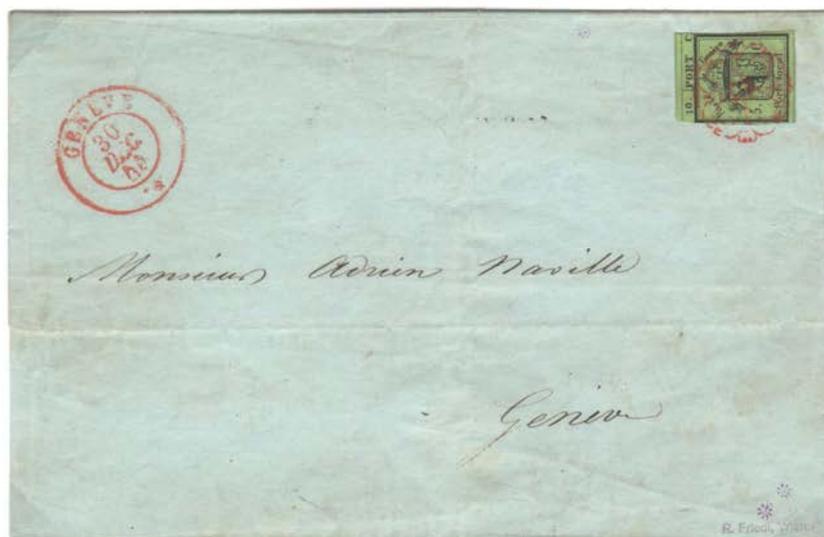
The stamp is sold 8c (e)

GENÈVE with rose
 (AW 122 / 2450)
 06.01.1845 - 11.07.1848

30 Dec. 1844 - Within the city. Franked 5c with a left Half-double (Zst. 4L).

[the frame of the stamp is intact]

(e)



2リーフ目「ジュネーブ州郵政による郵便開始」

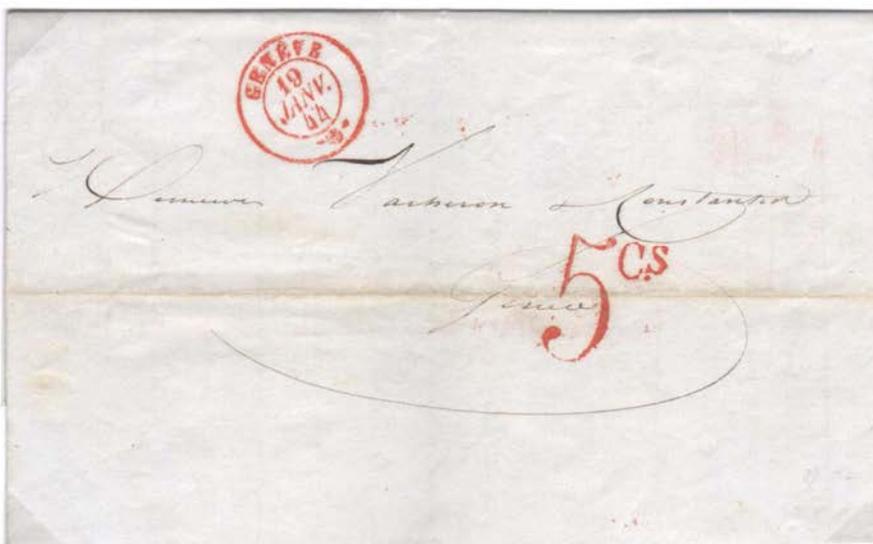
有名なダブルジュネーブのカバー、上がペア貼りの州内郵便、下が単貼りの市内便

Mail within the canton in 1844: franked 6.2%; postage due 93.8%.
 Red postage due handstamps exist in several sub-types.

21 June 1844 - To Grand-Lancy, canton, franked 10c with an inverted Double (Zst. 3/vw).

14 pieces recorded

Ex Kirchner (e)



5^{cs}
 (AW 17 / 552)
 03.03.1840 - 08.09.1849

GENÈVE two strokes
 (AW 122 / 2451)
 26.02.1841 - 03.01.1847

19 Jan 1844 - Within the city. 5c due from the recipient.

3リーフ目「ジュネーブ州郵政による郵便開始（その2）」

上段のカバーは、現存14点のダブルジュネーブのWrong Cut で世界的に有名な珍品カバー
 参りました・・・。

ジャパン・スタンプオークションニアレポート

ジャパンスタンプ商会 鯛 道治

2014年8月30-31日の第83回フロアセールの特撮です。最初はいつも通りに大人しく、後半はちょっと刺激的にやりましょう。

Lot179 0付14円、雉103円貼絵葉航空便スウェーデン宛 金属櫛YOKOHAMA

最低値300,000 応札4 スタート540,000 落札値1,000,000



ハンマープライスとすれば、ワンミリオンなので、ある意味高いな～になるのです。でも、冷静にアナライズすれば、大人しい値段で、意外性は有りません。ひとえに2番札のビッドが、落ちる値段を確定してしまっているのです。

14円0付の単貼は、ずいぶん増えて来ています。和文や、後期の三日月印、初日印なら、10万円行くか行かないかが相場です。単貼の欧文櫛型は別格で、青印KOBЕの宛名文字が強烈な、WASABURO UOTA差出でないものなら、50万は超えるでしょう。

今回のマテリアルは航空便、この時代の航空料金は、葉書も封書も同じなので、航空扱いの葉書は極めて少ないのです。宛先による料金は、59円も103円も評価に影響は有りません。ポイントは、14円が姫路城であることと、欧文櫛、しかも金属印なので条件とすれば完璧です。。

W.UOTAは、航空の葉書を出していないはずなので、ゴム印KOBЕのやたらと目立つ、金釘文字の葉書が出て、買うか止めるかの心配は要りません。今回の物でも、和文ならば、買わない理由が

出来るのですが、文字の汚さを我慢すれば、民間の実通だし、マテリアル的には文句無しなのです。

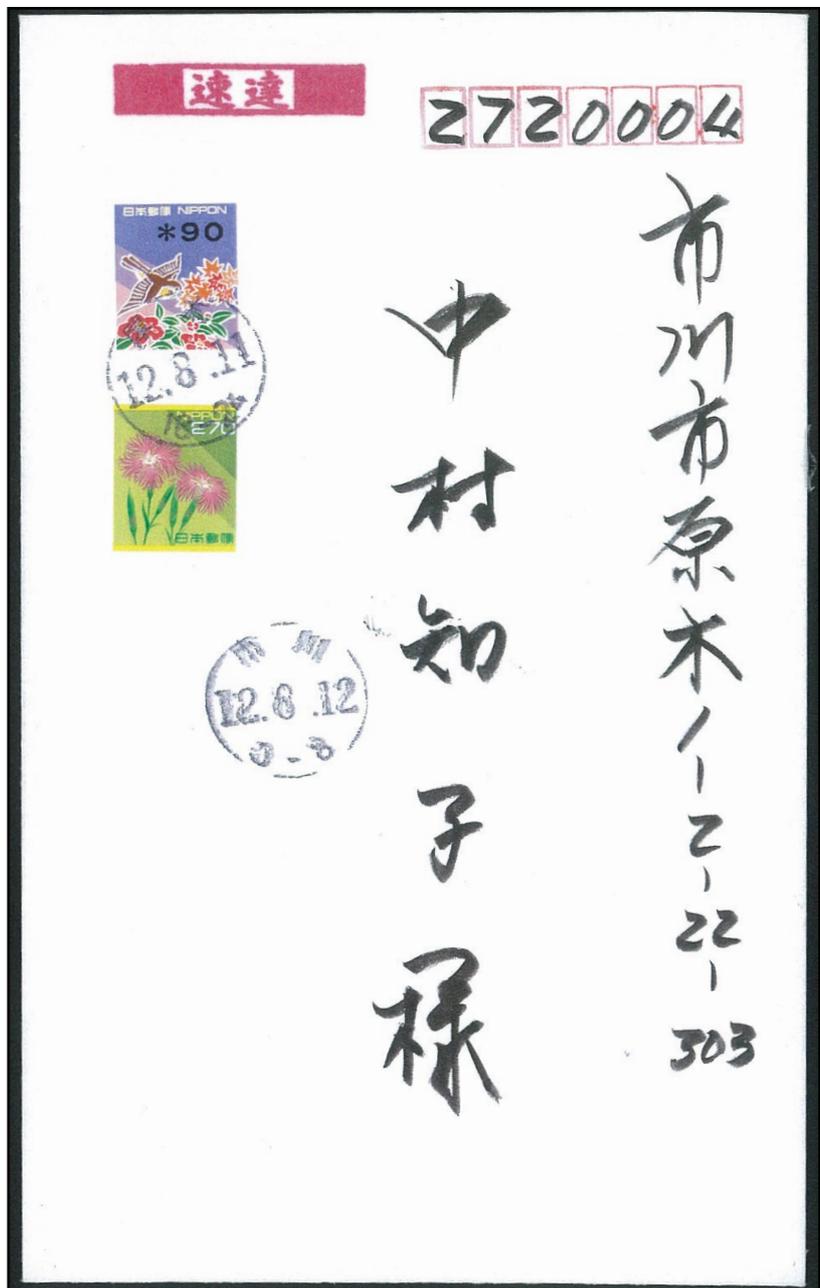
落とせる可能性があるならば、スタートの54万で、何人かがビッドするのですが、フロアでの落札者は、最初から落とし切る宣言をしていた人、200万超でもOKです。逆らう人は現れず、場で手が挙がったのはお一人でした。メールのトップの人も、落ちるなら、50~60万、でも9分9厘駄目だから、100万でなら買ってくださいのビッドでしょう。スタンプショウ・広島に来てくれて、新規にご入会の方の出品です。ディールとしては、綺麗に収まったと思います。

Lot843 印字コイル富士電機製高額用に90円誤印字、ナデシコ270円貼速達 ○厚木
最低値120,000 応札7 スタート280,000 落札値420,000

このエラーは未使用7枚、カバー3通が存在します。出現10枚で、カバーを3通作って、残る未使用が7枚、富士電機なので発売局も丸分かり。

だから近くの局で出したとかの記事を読んだ記憶が有るのです。情報源が確かなので、存在数はMax10なのでしょう。

意図的ではないのですがヒューマンエラーなので、郵趣的な面白味からは、少しステータスは下がります。でも、この最低値に、7人のビッド。場で競って、しかもメールに落ちている。カバー3 VS 未使用7という比較の値段ではないでしょうから、未使用が売りに出れば一体いくらになるのでしょうか。現代の「かつおつり」として、ヤフーでなら、素っ頓狂なディールが出来てしまうかもしれません。私の感性なら、最低値は10万円、あとは場で勝手に競ってくださいよ、なのですが。



Lot1774 新小15銭P12③銘付未使用田型 NH-OH 美品

最低値150,000 応札4 スタート310,000 落札値380,000

最低値は、一任なので、私が設定しています。一般的な評価で、銘付田型は、カタログの単片評価の10倍です。組合カタログのそれが15000円、ハンマーの38万に1.16を掛ければ、3000%になるのです。

今回の物は、上2枚がOH、銘版部分がNH、極論すれば、銘付横ペアがNHで生きるという見方もできるのです。

落とした人も、競った人も、未使用美品のコレクター、100%ではないにしろ、NHに強いこだわりをお持ちです。小判のトラディショナルコレクターは、理性が邪魔をするので付いてこられない数字です。未使用コレクターは、弊社のオークションでも最上級のお客さんの位置づけになるのです。



Lot2658 新楠公2銭に次高タロコ20銭貼航空便京都宛 櫛台北18.11.23台北州

最低値100,000 応札3 スタート900,000 落札値900,000

台湾国立の発行日は16年3月10日、限定発売だし、使用局は限られます。4種発行の戦前国立は、単貼の適正使用の完集が第一目標になるのです。圧倒的な最難関は、台湾の10銭貼の船便葉書、文句なしの状態ならワンミリオンの世界です。

台湾国立でも、20銭の単貼は、暫く前までは欧文櫛型TOKYOで、20~30万はしていましたが、今は10万ぐらいでしょうか。欧文機械か、ローラー、櫛のTAIHOKUならば、今でも昔の値段で欲しい人はいるでしょう。

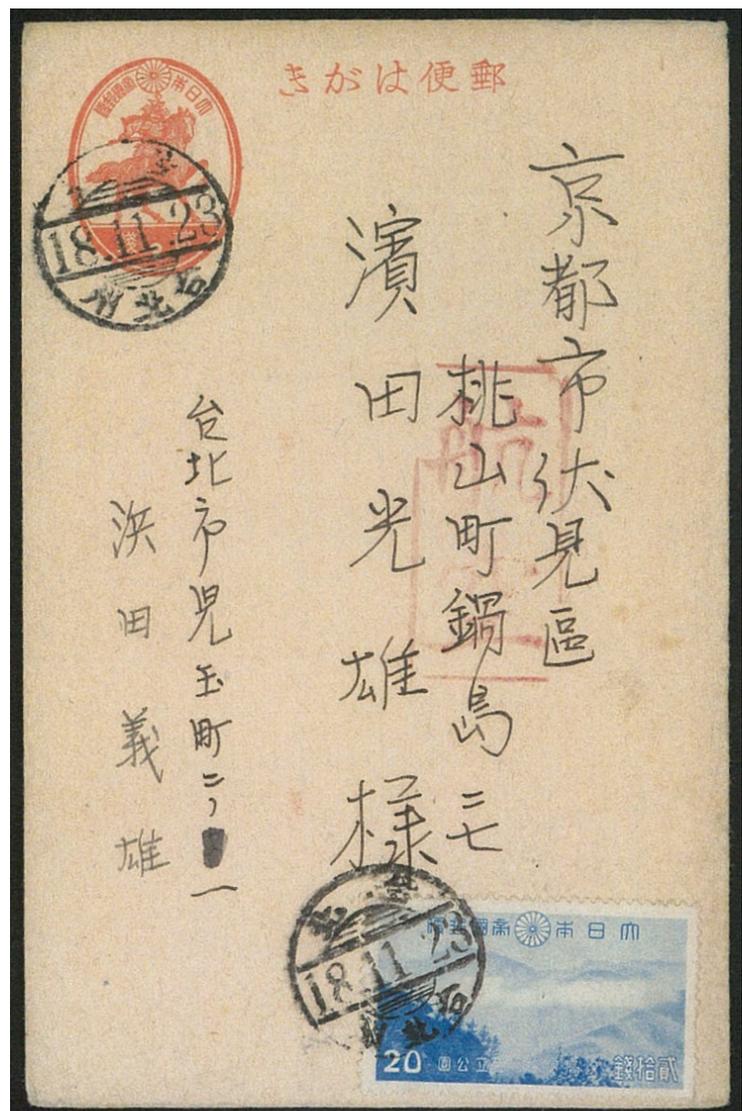
今回の物に戻ります。台湾から内地への第2種航空料金は、増料金で、17年3月末までが15銭、17年4月1日~19年3月末が20銭、それ以降が40銭です。

櫛型のC欄州名入りが18年6月1日からで、それ以前は時刻入りです。

極めて無理筋に限定すれば、葉書に20銭を適正料金で貼って、その消印が、台湾の州名入りになる期間は、18年6月1日から19年3月31日に限定されるのです。この条件なら、局は100%ご当地消の台湾です。

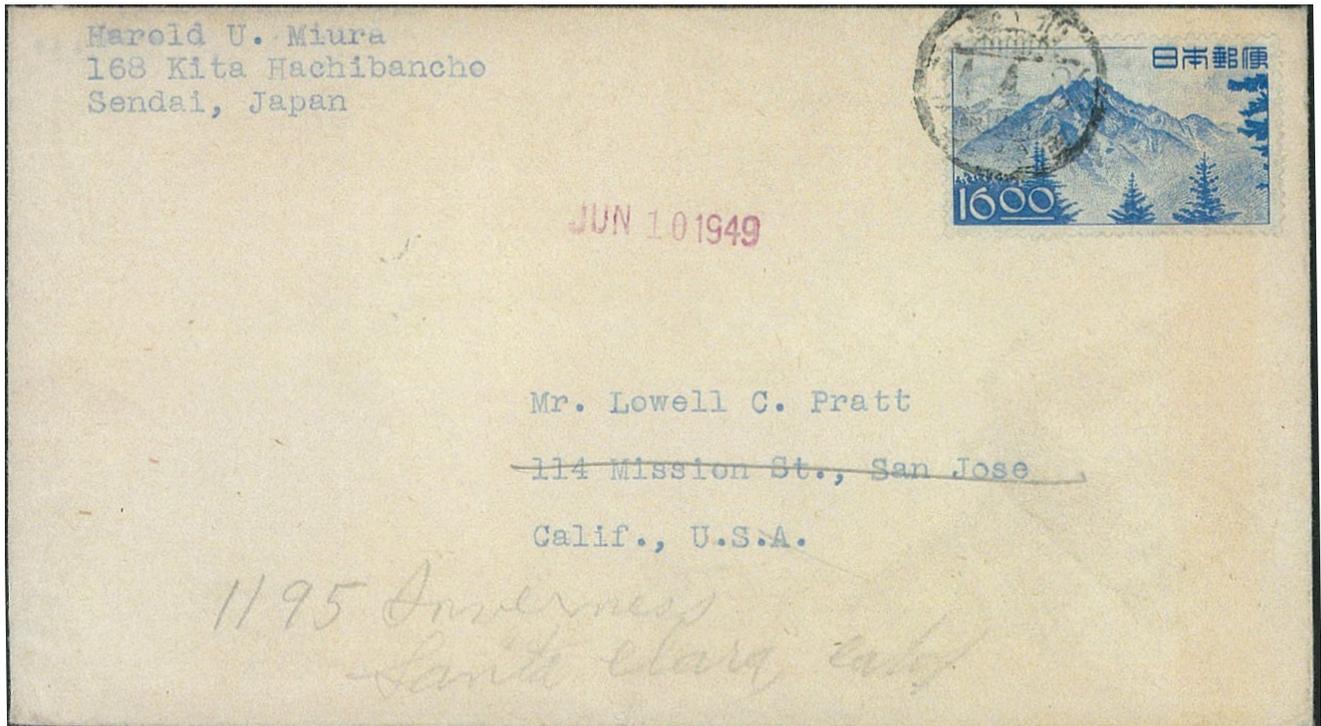
マテリアルを針の穴を通すコントロールで吟味して、立派な評価を与えた人がきっちり2人いたのです。ハンマーはメールの一声、3番札が36万、2番札が85万、1番札が90万、おつりがゼロのビッドでした。オークション的には、37万でフロアでスタートしてメールの1番札をクリアしての90万ハンマーが絵になるので有りがたいのですが、数字が来てしまえば、如何ともし難いのです。

今回のマテリアル、完全な民間便ですが、文面を読めば、まだまだ続くよ・・・と思えるのです。料金が変わらない連続便が出て、それが今回と同じタロコか、相方の新高なら、さあ、私はどう動けば良いのでしょうか。実はその悩みに直面したいと期待しているのです。あり得ない話ではないでしょうから。



Lot2901 長野平和博貼船便米宛 櫛仙台24.4.30宮城県 日本郵趣連合鑑定書付

最低値60,000 応札6 スタート390,000 落札値390,000



鑑定書の日付が2年前、はっきりとは覚えていませんが、弊社で売られたカバーらしいのです。値段ももう少し上だったやに聞きました。

この切手の単貼適正使用のベンチマークは、吉野熊野10円の葉書と、三博の船便葉書でしょう。三博のそれは文句なしの物は扱っていませんし、売られた記憶も有りません。もし出れば、これもミリオンの世界でしょう。

吉野は、10点は有るはずですが、頑張って複数買う人がいるので、良い値段で入れても、5回連続次点の人には未だに回ってこないのです。私とすれば、20年ぐらい前に欧文金属印の葉書を持っていて、珍しいという自覚があったので、ある業者に20万円でオファーしたら、婉曲話法で断られた経験が有るのです。手元にはないので、どこかで売ったと思うのですが、詳細は思い出せません。

話を戻せば、今回の長野博、写真で見れば、長野か産業か分かりません。ヤフーに出たりすれば大いに悩むことになるでしょう。但し、産業図案には、長野博と間違える色合いの物はなく、長野博には、産業に近い色の物が有ることは覚えておいてください。

今回の物も、現物を見れば産業でないことは分かるのですが、オークションで落として、念のための鑑定依頼だったのでしょうか。この切手も、FDCでない欧文消のカバーは本当に見ないのです。単貼の和文櫛長野消とかの際物でなく、本来の外信船便書状の適正貼の適正消＝欧文櫛TOKYOを扱ってみたいのです。

Lot3314 旧毛30銭C12x12 1/2田型 櫛 群馬万場10.2.9后0-8

最低値400,000 応札5 スタート500,000 落札値620,000

1981年4月25日のJPSフロアオークションに出品されて95万円で落札された物の兄弟品です。

落札値と落札者、2番値＝メールの1番札の人は、完全に予想できたのです。

何より楽しかったのが、スタンプショウ・広島での即売品を整理していて、OPPに入った状態で、100円か300円の山分けをしているタイミングで見つけたことなのです。

この切手の目打は、値付けの時点で、誰かが見るので、最終的にはスルーの可能性は薄いのですが、それでも一歩手前まで行っていました。

今回のセールの前日の広告を見た人が、JPSの出品物の現物？出何処は？と聞いてきたのですが、ごっちゃんのリットなので同一品の可能性は有りません。

雑談していたら、親切な人がJPSの小さいカタログを持って来てくれました。私も何処かのオークションに出て、当時は話題になった事が、おぼろげ記憶が有って、消印の感じからして、料金取立書だろう、まだ出るとみたいな話をした記憶が有るのです。

見つけたいきさつから、広島のドラフトの目玉として30～40万の値段で売ろうとしたのですが、田沢は売れないよ、の聲がかかったのでキャンセルになったのです。1981年の95万が、2014年では62万、安いとも思わないし、ビジネスとしては花丸の結果なのでよ。



ここからが本番です。残すテーマは2つなのでピッチを上げて書きましょう。

Lot1743 竜48文2版シート フレッシュな美品 (下図)

最低値1,000,000 応札4 スタート1,250,000 落札値1,250,000

Lot840 鳥12銭イ リコンストラクション完成品 使用済 (次ページ上図)

最低値350,000 応札3 スタート440,000 落札値440,000

Lot857 改桜20銭チ2版 リコンストラクション完成品 使用済

最低値90,000 応札3 スタート115,000 落札値115,000

Lot858 ネギ5銭 リコンストラクション完成品 1枚は未使用

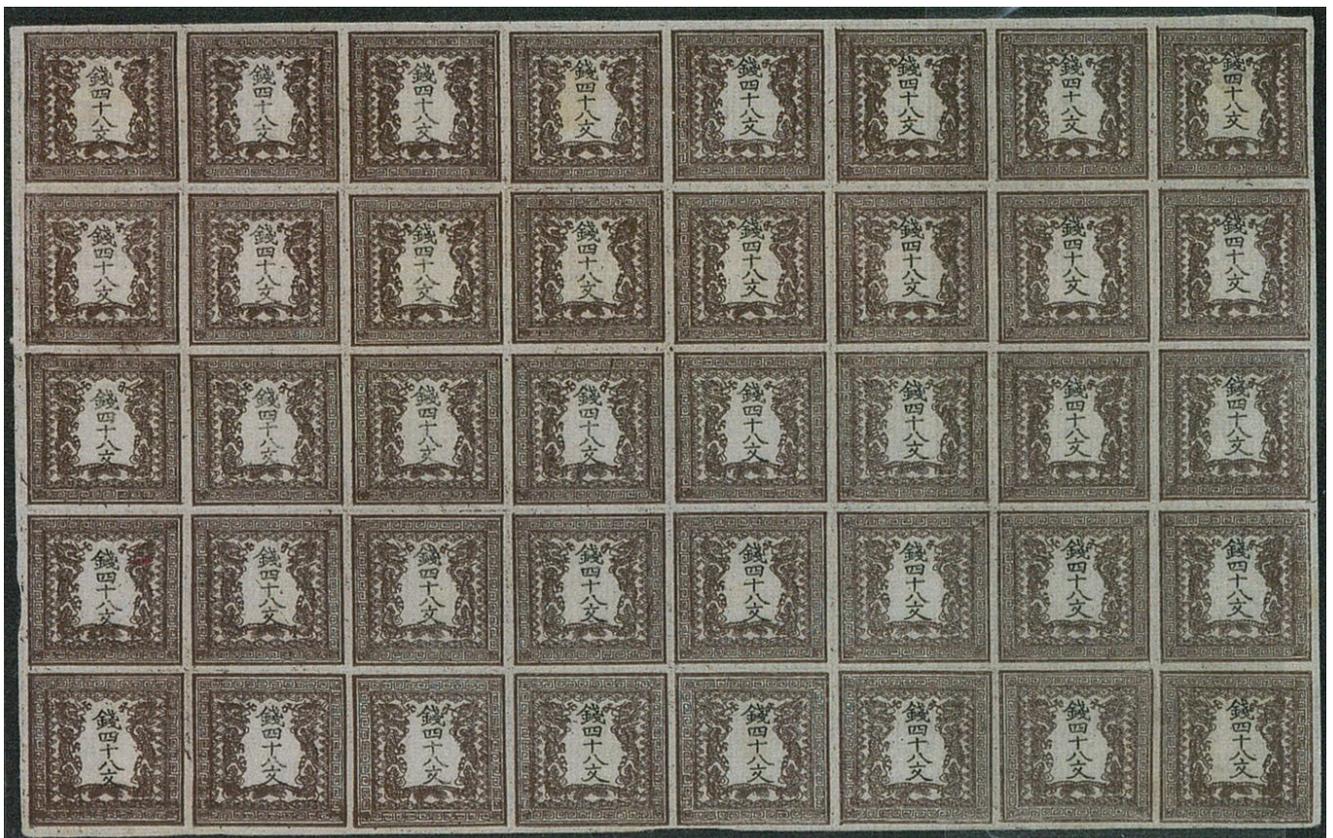
最低値400,000 応札3 スタート520,000 落札値520,000

Lot3123 和桜4銭1版 リコンストラクション完成品 3枚は未使用 (次ページ下図)

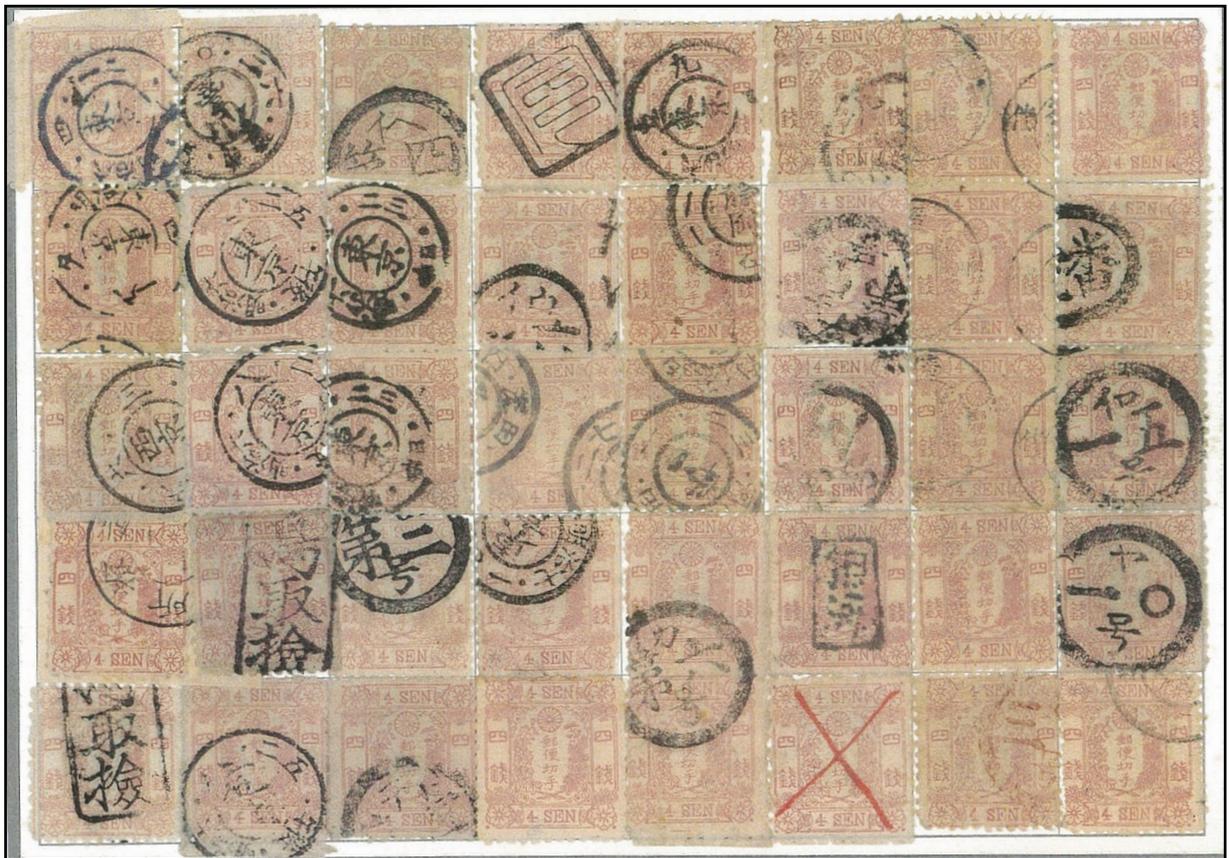
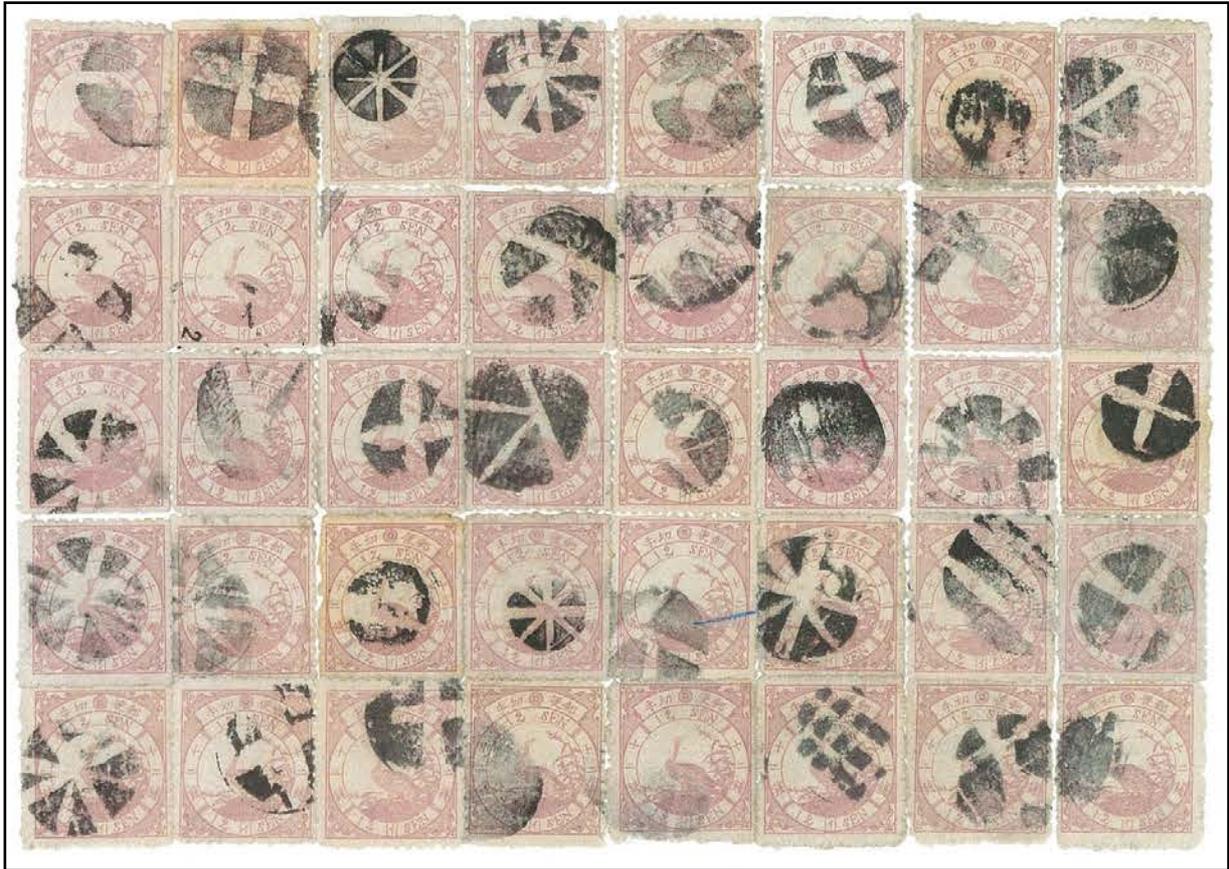
最低値150,000 応札5 スタート320,000 落札値320,000

この類が売れる、しかもビッド数が3以上ある。昨今の有りがたい傾向です。手彫のトラッドの収集家プラス、ゼネラルコレクターがビッドしてくれての応札数3+なのです。引き続いて出品が有っても同じ結果が望めます。

48文は日本切手のカタログ番号で、ナンバーワンとしてのステータス、本当は1版の初期印刷がベスト、但し希少性では2版が上、カタログ値に比しては安いのですが、100万+で4ビッドは、オークションア的にはうれしい傾向です。



リコンストラクションは、今回のコピー請求のNo1、資料として持っておきたいということでしょうか。因みに、弊社のそれは、慎重にチェックした上での出品なので、40Pos.正しいことを保証いたします。和桜4銭などは、完成が非常に困難、ビッド数と値段は見事に、希少性にリンクしています。皆さんよくご存じです。



手彫のセールといえば、今年の4月13日に、香港のDynasty Auctionで、Michael Eugene Ruggiero のコレクションが売り立てられました。昨今の私の直接出向いての海外仕入れは、殆どが香港です。当然このセールにも出席して、多分Japanの総売り上げの半分ぐらいは買ったと思います。

ホテルの会場に着いたら、よく来たよく来たの大歓迎でした。「トドの兄さん」体重140キロ超の、Sam Chiu=John Bull Stamp Auction の社長だとかは、にこにこして、何かと世話を焼いてしてくれます。

一杯買うのは毎度のことなので、オークションのDavid M. Coogleもよくわかっているし、フロアでは私は札を上げません。一番見易い真正面の最前列に座って集中します。オークションとしては、私一人 VS メール+他のフロアビッドという図式でやるのです。Japanロットの場合、ファーストコールの時点で、私にゴーかノーかを聞いてきます。目配せで合図してビッドする場合は、値段は踏まずにノンリミットで落とします。要らない場合は、×で知らせます。このやり方でミスは有りません。20ロットぐらい連続で落とすこともありますが、こちらとすれば下見をしてのビッドなので、無茶をしているのではないのです。でも、上から下まで、私がきっちり下支えのビッドをすれば、セール全体では実力以上に、目一杯に嵩上げされた状態になるのです。

弊社の優良なお客ですが、竜のコレクターが香港にいます。イタリア系のアメリカ人のビジネスマン、50歳ぐらいです。数回前のこのセールで、竜をビッドしているのを見て、もしかしてMr.V.P・・・?と聞いたら、ドンピシャでした。弊社でもいい感じでお付き合いできています。

彼は今回も、ともかく強気でした。48文1版ペア ラ14号⑩が、24万円（手数料込）、1銭3版未使用 フレッシュだけれど少しオフセンターが160万、200文2版貼のカバー 静岡検査済が、80万、更には、500文黄緑・1銭・2銭貼の大阪黒潰し消カバー（右図）が416万、竜の目玉で綺麗な物を完璧に買っていました。総額1000万ぐらいの落札で私に次ぐお買い上げです。



DynastyのマネジャーのKelvin Chenに、メールビッド入ってる？聞いたら、日本からは全部で5人だけ・・・弱いよ・・・とてもそんな雰囲気ではなかったのです。かなりのパートはWeb.で見られましたし、ミカン箱ぎっしりのエンタのロットにまで札は有りました。

ここでは、場に行っても安くは買えません。Mr.V.P・・・の落札品には、私はビッドをしていません。雰囲気としてメールと競っていたのでしょうか。ただ、500文黄緑のエンタは、メールが相手ではありません。でも場に出た私以外の2人の日本人や、オーストラリアの小川さん、ハルヨ・ベーカーさん、E-Bayのジン・リユー、イギリス人で今はシャムに住んでいるデーヴィド・ディグリーは絶対に手を上げていない。

後で、だれが競ったの？と聞いたら、おまえだよ！！いや、このカバーは私の好みではないし、最初から×の合図を出したのですが・・・。落札者はちょっとお気の毒。David と Larryのテクニクにやられたのでしょうか。

終わったばかりのJPSのオークションの、関東局10銭田型貼 SAPPORO消のカバーもこのセールに出ていたものです。私は、料金の合っていないカバーは買わないのでパス、落札値は45万ぐらいでした。JPSでの最低値は90万、結果は110万で売れました。飛び込んだ人お見事です。

私が落すつもりで負けたのが、連合葉書のロット、参考値の10倍ぐらいになりました。薄手小判連合の返信部使用済が入ったロットが有って、この1点を20万円+で踏みましたが、かすりもせず、60万以上の評価で落ちました。落札者はAnna Leeで、コレクションを作って展示するのだそうです。彼女は著名な中国人コレクターの娘で、元アメリカのオークショニアの妻だったとか。私にすれば、そこのオバハン何すんねんの気分でした。誰が見ても高すぎるのですが、自分が踏まずに、場に出た日本人の評価の上でなら買えるのです。連合葉書のみほんを売ってよと言ってきたので、今度はしっかりオファーしてやりましょう。

Ruggieroは、ISJPの鑑定をやっていた手彫切手の研究家です。私としては、買って売っての、商売以外の興味も有って、アキュムレーションは殆ど買いました。リコンストラクションも全部買うつもりでしたが、私の売値以上の物はさすがにパス、洋紙10銭口が41万、30銭イが38万、鳥45銭イが51万は売りたい値段以上です。Ruggieroは知識が有るし几帳面なのでかなりの信頼度は有るのですが、私が落したもので言えばプレーティングに1%はミスが有りました。落とされた方は盲目的に信じずに再検証が必要です。

スポールディング氏とエバンズ婆さん、ルジエロ氏の荷物が終わったら、スケジュール的には少し空くのかなと思っていたのです。突然のメールが届きました。私のこと覚えてる？20年程前の香港のセールで、随分良くしてもらっていた、Amy Yungからです。今やSpink Chinaの女社長のAnna Leeの優秀な秘書、いつも一緒に動いていた彼女です。私がおぼえているのは、20代後半の彼女なので、今は会っても分からないかもしれません。

要件は、DynastyがMichael Rogersを買収し、今後は彼のセールも香港でやる、オフィスも、引越して、灣仔の元のPhila Chinaの事務所でやる、SamとKelvinは退社して、マネージメントは彼女がやる。9月26-28日のセールにいらっしやいというお誘いでした。

彼女なら、かなりの無理が効くので、下見はいつでもOK、クレジットカードの手数料もネゴできる。キャセイの深夜便が取れば、1泊2日で行けるのです。私とすれば嬉しいお誘いでした。昨日カタログが届いたので真面目にチェックしてみましょう。

ハイライトに入ります。香港の次は中国です。かなり深刻な事態です。でも書かなければいけません。

Lot2535 日中コンビネーションカバー米宛 小龍3C貼 北京+U小2銭、新小3銭貼 2字 SHANGHAI 13, NOV.95

最低値300,000 応札5 スタート390,000 落札値900,000



場で台湾人のコレクターの代行と、中国人のブローカーが競り合ってこの値段、目途としては100万円なのでしょう。この品物を預かったときは迷いました。

一応タイドは有る、裏に CUSTOMS PEKING が押してある。但し差出し地が分からないし、小龍として少し遅いかなという印象でした。だから、中国人に本物？とメールで聞いて、OKを貰って掲載したのです。迷った場合、誰かに聞くことを恥だとは思いません。（下図はカバー裏面）



ところで右の画像は旧小判10銭と、大龍1C、5Cのコンビネーションカバーです。7月末の大阪の某老舗オークションのラストロット。フロアで競った末に520万円で、在日中国人のディーラーが落札、ご子息が現金を持参で買いに来て、その場で持ち帰りました。

越後新潟発北京宛の重量便 日中間は5銭なので日本切手はその2倍の10銭、北京は日本郵便局が無いので、国内料金として中国切手を貼らねばならない。中継局の天津で2倍重量分の6Cを貼ったという理屈です。

自称“中国関係の識者“によれば、天津の篆書印も、YOKOHAMAの星入りも他のデータと一致する、日本発の中国宛大龍貼コンビネーションも



複数あり、その相場は香港では500万円だということです。いろんなところで理路整然と捲し立てています。この人も多分、やすーくビッドしていたのです。

この説を信じたのでしょうか。ローカル雑誌にとんでもない記事が出てしまいました。事実の報告とはいえ、検証なしの記事は怖いし、読者の理解力は必ずしも筆者の想定通りではなく誤謬が独り歩きすることも有るのです。いくつもの要素で私には受け入れられないのです。私の人脈で検証すれば、このカバーはとんでもないボーガスだと確信を持ちました。

弊社のオークション当日とその後に5人に聞きました。中国人のブローカーが3人、中国の郵便史コレクターが2人です。

ブローカーの内、1人は自分で判断できます。2人はスマホで画像を本土に送って専門家の意見を仰ぎました。露骨に言えば、中国物でこのレベルの物がマーケットに出れば、誰もが見落として相場よりも安く変える可能性は無いのです。

大龍貼の日本発中国宛のコンビネーションカバーなら、最低でも100万元=邦貨1700万円以上とのこと。但し、コレクターは絶対にプライベートでは買わないので、然るべきオークションに出て、真偽のフィルターが掛かっての値段だそうです。3人の中国人は、OKなら喜んで1000万円は出すと言っていました。520万+16%は非常識に安すぎるのです。もし本物ならばですが。

5人の結論は見事に一致しています。偽物だから買うな！です。

このカバーは大龍のそれとしては初見です。日本発の中国宛の着便でのコンビネーションは極めてまれ、大龍は当然皆無、万寿あたりから、ごく少数見つかっているとのこと。

ここまでのデータのみでは偽物の判断は下せません。本物の可能性もごく薄くは残ります。でも、検証すれば決定的な瑕疵が目立つのです。

貼っている切手が薄紙の狭幅、天津の篆書印では見つからない組み合わせとか。

それ以上に決定的に駄目なのが、中継印で、日本局のSHANGHAI、更には海関SHANGHAIがないことです。

この時代を含めて、日本がらみの日中郵便物は100%上海日本局を通ります。新潟から横浜経由で直の天津はあり得ません。船のルートをもっと検証すれば、説得力が増すと思います。

然るべき知識が有る5人が、互いに連絡を取らずに同じ結論に達しているのです。事実認定とすれば強力です。因みに、このカバーは、又聞きですが、9月27日締め切りの中国のオークションの目玉として出品されるそうです。いずれ続報が入るでしょう。

このカバーの出品者は如何なる人物なのでしょう。

オークションには聞けませんから、推測するしかありません。私の経験と直感で言えば、一人の人物の顔が浮かんでしまいます。「日専2011-12戦前編」のコラムに書いた、「都の市の竜のカバー」の製造者です。

名古屋のオークションで、㊦の空欄に時刻を墨入れしたのが発端でした。有り得べからざる珍品を続々マーケットにだし、都の市では郵便創業90年のスーベニアを切り抜いてエンタにしたり、ヤフーでは親族を使ってリガムを売りまくり、非血縁の若い女性のIDで珍品カバーで数千万の売り上げを立てています。

私だけでも、奴の仕事を随分潰して来ています。リガムでは10点以上返金させ、竜48文の西京検査済の単貼は、インクの組成分析を使って、成立した取引をひっくり返しました。金銭の還付を伴わない検証では10点以上は駄目の証明が出来るのです。

売り場所が無くなってきているし、都の福丸の市の小賢しい悪戯は、参加者が皆知っている。日本切手の珍カバーは実入りが悪化しているのでしょうか。だから、中国に転じて何でも受けるオークションに出品しているのでしょうか。このオークションに忠告したのです。気を付けた方がいいですよ。答えは、その噂は知ってます。でも自分には彼の出品物の真偽は分からない。そのまま出して、落札者がエクステンションを掛ければ、真摯に対応いたしますが答えでした。付随して何が起ころうと、ご自分で責任を取るでしょう。

このオークションでの1月のフロアの最終ロットは日本宛の大龍のコンビネーションカバーでした。在仏のコレクターから、テレフォンビッドの代行を頼まれたのです。正直迷いました。出品者の顔が浮かびます。自分の意思が通せるなら、買わせたくありません。本来ならRoyalの鑑定ですが、半年かかるので、このオークションが受けるか否か分かりません。だから、日本郵趣連合の関係者に聞きました。鑑定に出すけど受ける？答えはイエス。怖いもの見たさで、やってみたかったのですが、予想外に高く、210万のスタートなのでビッドに至りませんでした。意見なしには出来ないのですが、果たしてどういう結果になったのかな。この項目はかなりの私の思い込みと推測が入っているのです。でも、情報を積み重ねれば考えたくない事実が浮かんできてしまいます。多くの識者での検証を是非お願いしたいのです。マーケットを壊すことだけは防ぎたいと思いますから。

第3号,号外 アンケート分析

新しい時代の総合郵趣雑誌を目指している、The Philatelist Magazineは、購読者との双方向のやりとりをオンライン・アンケートを通じて実現し、改善につなげていきたいと考えております。3号と号外の回答はそれぞれ124名、63名の方より頂きました。厚く御礼申し上げます。

PDFを読めないトラブルはほぼ収束

創刊号で多発したPDFを「読めない」「文字化けする」等のトラブルは、第2号発行時の技術改善により現在は基本的に解決しており、2号以降のトラブル数は以下の通り推移しています。

第2号	143回答中 1件
第3号	124回答中 2件
号外	63回答中 1件

上記においては、推奨ソフトである Ver.7以上のAdobe Readerを使用して頂くと解決するケースがほとんどですので、今後はより一層推奨ソフトの使用について説明をして参りたいと思います。ちなみに推奨ソフトをご利用頂くと、しおり等の機能が使え、読む上での利便性も向上します。

圧倒的に支持される「一段組み」

第3号より段組みを二段から一段に変更しましたので、反響が気になりましたが、圧倒的に一段組みが支持されており、二段組みでないと困るという意見は2件にとどまりました。

どちらでも良い	87件 (70%)
一段組みでないと困る	32件 (26%)
二段組みでないと困る	2件 (2%)

このように一段組みが強く支持される背景は、八割強の回答者がパソコンで当誌を読んでいることにあると予測していました。

しかし自由コメントには「一段組の方がiPadで読みやすい。PCではどちらも同じ。」(匿名)「一段組みで、格段に読みやすくなりました。」(古家美和さん)の様に、iPadとパソコンの両ユーザーから支持があることがわかりました。

だとすると本結果は、必ずしも郵趣の世界へのタブレットの普及の少なさと関連づけられません。当社はiPhoneからiPadにいたる様々な大きさのタブレット端末を試用していますが、iPhone6の前バージョンに比べたディスプレイの拡大の方向性を見ても、雑誌コンテンツは今後画面の大きいタブレットの使用が前提になっていくと推測しています。

従いまして、The Philatelist Magazine はiPhone5の様な小さいディスプレイ端末への対応の開発は一旦中止し、その分大きな画面への対応の優先順位を上げるべきだと現在は考えるにいたしました。

その他もろもろのご意見

「ページ数表示を単純明快にして欲しい。特に英語がくどくどついでいることで、とりわけ分かりづらい。」（馬淵 直人さん）

少数ですがこのような意見がありました。当雑誌はページ単位で印刷されることもあるため、各ページに、いつ発行の何号かの情報を掲載する必要があります。それとページ番号を別々にレイアウトすることに今回挑戦してみたのですが結論から言いますと、よいデザインができませんでした。馬淵さんに限らず、「このようなレイアウトはどうか？」というアイデアを募集します。

「字の大きさはもう少しポイントを下げてもよいのではないかと、印刷してみて感じました。」
（小唄 俊雄さん）

P.2の「当誌の読み方・使い方」での記載をより目立つようにしましたが、視力の弱い方にも十分楽しんで頂ける様に当誌は文字サイズや図版が大きくなるように編集しています。

今の家庭用プリンターでしたら、「2in1」印刷を行えるものが大多数だと思いますので、視力に問題のない方は是非そのような方法もご活用頂ければと思います。

「今回の全体のなかで、普段なじみのないフィリピン・ミンダナオゲリラ切手の論文は大変興味があり、内容も白眉である。PDF版でなければこれだけの論文は掲載不可能であると思われ、今後もこのような論文の掲載は期待する。」（長田 伊玖雄）

鎬木さんのミンダナオゲリラ切手は、なじみのない切手でかつ長編となりましたが、不満は一点も出ず、また全体の中でもリーフ作り特集と一、二を争う人気記事となりました。

そもそも郵趣文献を入手後すべて目を通す人は稀だと私は思っています。実際、私は薄い文献であっても目次だけ見て中身はほとんど見ずに本棚に直行させています。

それで全然よくて、あとで収集したり、調べたい時に、情報にアクセスできることこそが大事で、その場合には、その情報の完成度が高ければ高いほどよいということになると思います。

鎬木さんのゲリラ切手の記事は、まさにあの一本で全体像をつかむことのできる記事であり、それをまとめて一本掲載できたことは当誌にとってもよかったと思っています。

「外国ゼネラルについて」「（30年前の郵趣にあったような）外国普通切手の記事」（匿名）

外国切手に関する記事への要望がまた増えてきているように感じます。今号からクラシックは最低一本書くことになりましたが、あわせてセミクラシック～モダンを定常的でないにせよ、取り上げることを検討したいと思います。また専門収集でなくゼネラル収集に関心を持つ人が実は昨今増えてきているのではないかと感じています。12月号ではゼネラル収集についても記事を書くことができたらと思います。

以上が第3号に対するご意見をとりまとめたものです。

今回はあわせて号外へのご意見も次ページ以降をご覧ください。全日展ほど大掛かりではありませんが、今後も切手展を見に行こう！号外は発行することがあると思いますので、ご期待ください。

号外を見て全日展に行くという人が続出！

号外の編集は時間との戦いでした。競争展示や企画展示の準備もあったため7月下旬は寝不足の毎日でしたが、皆様からの温かい感想を頂き、やってよかったなと思う今日このごろです。

「事前に各出品者の自分の作品についてのアピールを知りことができるのは、参観者にとって大変有益だと思います。」（岡藤 政人さん）

「出品者の個人的な思い入れなどが分かると展示作品が主観的に見えてより楽しくなります。」
（佐藤 浩一さん）

「『出品予定コレクションの解説』はありがたいです。J A P E X等、収集の苦労話などは出品申込に書くな、となっていますが、興味深い内容ですし。」（中野健司さん）

「作品を見る上で出品作品の解説、概要が予備知識として頭に入れておくことができ非常によかったです。その他切手展関連した種々の情報が得られ見に行こうという気になりますね。特に作品の一部が画像で見れるのいいですね。動画もよいアイデアだったと思います。」（人見 敦さん）

「今回は行けませんでした。出品者による解説はとても魅力的でした。行きたくなる内容です。」
（麻生勝彦さん）

「今回の直前特集はとても良いアイデアだ。実際に作品を見て、もっと、まじめに、この特集を読んでおけば、良かったと反省しきり。この特集がなかったら、全日展に行かなかったと思っています。」（山口 純一さん）

「今回、初めて切手展の為に東京に行きました。少年時代には憧れでしたが、The Philatelist Magazine や、内藤さんの影響で、今回は思い切って行って見ようと思いました。結果的に行って良かったと思いました。同時に、実行委員会の方々や、スタンペディアの組織の方々の大変な御苦労が感じられました。今回は有難うございました。」（北野 雅利さん）

「私は、これまで切手展に行っても、自分が収集している分野の作品しか観ることができませんでした。理由は、ほかの分野は、観てもよくわからないからでした。今回のように、あらかじめ出品者様のコメントを読ませていただいたうえで作品を観ると、自分の収集対象以外の作品も、何となくですが理解できましたし、実際に収集するかどうかは別にしても、収集のおもしろさを感じる事ができました。特に、日本切手でありながらこれまで一度も作品を観ることができなかった手彫切手の作品をすこしだけ理解できたのは、御誌のおかげであったと思います。」
（Takayuki SUZUKIさん）

「今回の企画はベリーグッド、今までこんな企画はなかった。記事のおかげで作品を見ようという興味が大きくなりました。ご苦労様でした。」（町田敏郎さん）

「全日展をわざわざ見に行くべきかと毎年ためらってましたが、今年は断然行くべしとその気になりました。明日、奈良から駆けつけます。」（野々下厚司さん）

号外の改善に向けて

今回の号外「全日本切手展に行こう！」は購読者の方に好評だけでなく、同実行委員会からもプロモーション上大きな効果があったと喜びの声を頂いております。

既に全日展2015で同様の号外を発行する事が決まっておりますが、当社はどの郵趣団体にも所属しないインディペンデントな立場のメディアですので「30年後の郵趣人口の確保」に役立つ切手展であれば、競争展・非競争展を問わず、プロモーション上のお力になくわることを検討したいと思いますので、各切手展の実行委員会の皆様からのお声かけをお待ちしております。

切手展直前特集に必要な内容をアンケートできいた結果

なお、今回掲載した内容に加えて

「切手展直前特集」にあつたらよと思う内容を調べる為にとつたアンケートでは、切手商による販売予定内容の案内が最も要望の強かったです。これは広告になるのか編集になるのかちょっと分からない点もありますが過半数の方が欲する情報ですので、前向きに捉えて参ります。

切手展直前特集に必要な内容は？	回答数	%
主催者へのインタビュー	19	30%
企画展の案内	39	62%
競争展出品者個人による出品予定コレクションの解説	56	89%
切手商による販売予定内容の案内	35	56%
会場の案内・交通案内	17	27%
動画による会場の案内	14	22%
その他	3	5%

またその他で参考になったのは「会場のレイアウト図」。これは目録にも掲載がなかったものなので、準備できるか分からないのですが、確かに必要だと思いますので、実行委員会と交渉してみたいと思います。

第4号もオンラインアンケートを実施いたします。

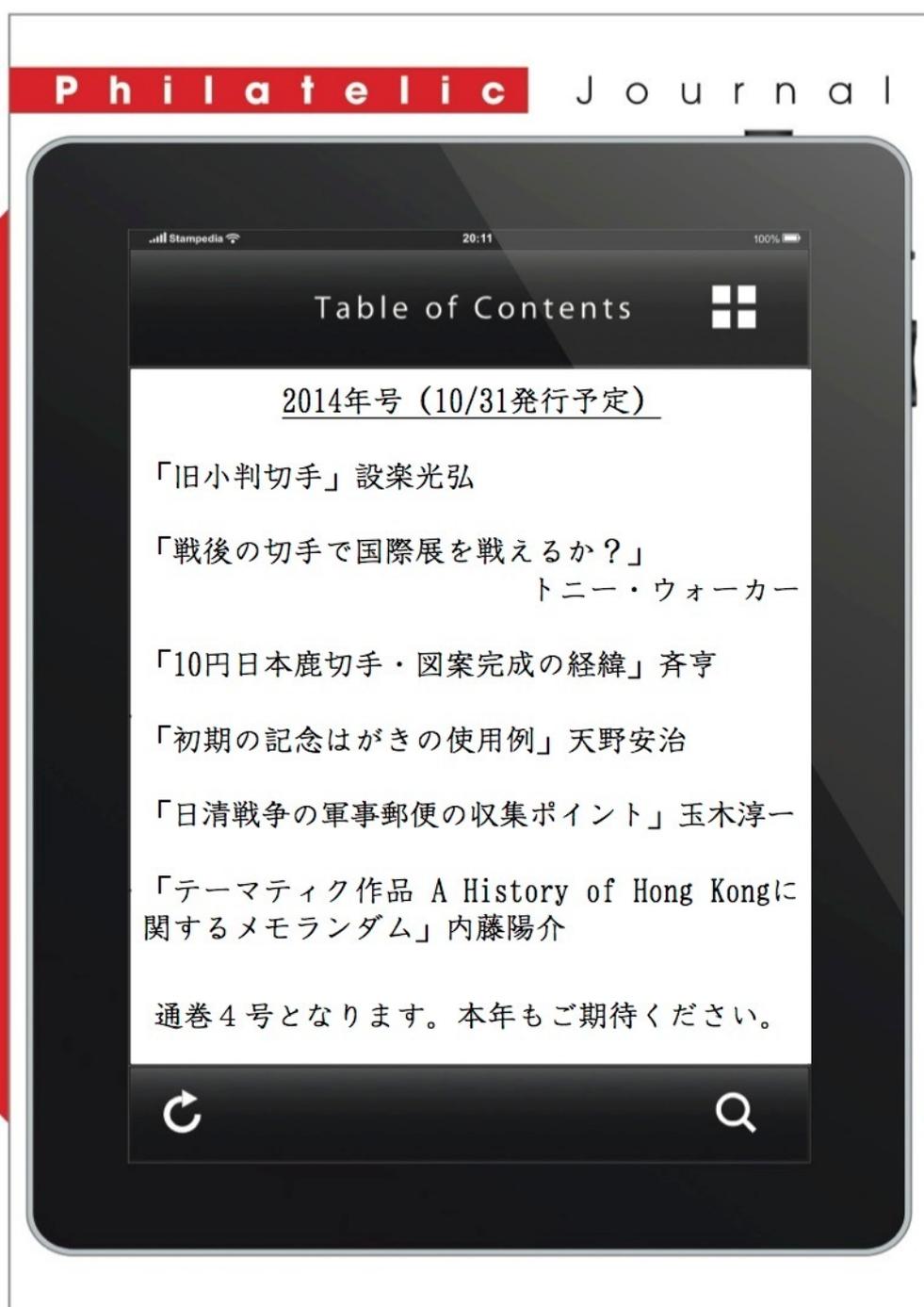
9月20日前後に電子メールでオンラインアンケートご協力をお願いをさせていただきますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

全日展・PHILAKOREAと続いた上に、Philatelic Journalの編集も始まり、第4号の発行はこれまでで最も大変でしたが、多くのご寄稿を頂き、またまた100ページを越える紙面をお届けできました。（第5号は100ページに戻るとは思いますが。。）

発行人の一方通行にならないような郵趣雑誌を作りたいと考えておりますので、是非皆様のご意見をオンラインアンケートでお寄せ下さいますよう、お願い申し上げます。

Philatelic magazine from Japan

with several specialized articles
Japanese-English bilingual
Annual publication since 2011



Look inside of this magazine and order at
<http://www.stampedia.net/>